

平成19年度
県立体育センター研究報告書

学校体育に関する生徒の意識調査

～ 高校生の意識～

(3年継続研究の3年次)

神奈川県立体育センター
指導研究部 スポーツ科学研究室

目 次

【テーマ設定の理由】	・・・	1
【目的】	・・・	1
【内容及び方法】	・・・	1
【調査結果】		
1 調査結果の概要	・・・	3
2 単純集計結果	・・・	4
3 「体育の学習の好き、嫌い」と他の質問との関連	・・・	61
【考察】	・・・	137
【まとめ】	・・・	142
【参考文献】	・・・	143

学校体育に関する生徒の意識調査

～ 高校生の意識～

スポーツ科学研究室 重本英生・水野昌享・小峰譲二・中村徳男・藤川未来・大場瑞穂
研究アドバイザー 横浜国立大学 落合優

【テーマ設定の理由】

体育センターでは、学習指導要領の改訂に伴い、昭和47年・昭和58年・平成6年と過去3回、およそ10年ごとに小・中・高校生（小学生は平成6年より）を対象に学校体育に関する意識を明らかにしてきた。

そこで、現行の学習指導要領導入後3年が経過した平成17年度から、3年継続研究として1年次小学生、2年次中学生、3年次高校生を対象にした調査を実施することとした。

そして平成19年度は、研究の3年次として高校生を対象に調査を実施し、学校体育に関する意識等の現状と学年進行に伴う変化や男女の違いに加え、小学生の意識（平成17年度調査）や中学生の意識（平成18年度調査）、また高校生の意識（平成8年度調査）と比較分析することにより、小学校から高等学校までの児童・生徒に対する今後の学習指導の参考資料を得ることとした。

【目的】

学校体育に関する生徒の意識の現状を把握するとともに、過去の調査と比較分析することにより意識の変化を明らかにし、これからの高等学校体育の方向性を探るための参考資料とする。

【内容及び方法】

1 研究の期間

平成19年4月1日～平成20年3月31日

2 研究の内容

生徒の学校体育に関する意識調査及び学習状況等に関する実態の調査・分析

3 研究の方法

(1) 文献研究

(2) 質問紙法による調査

ア 調査期間

平成19年6月上旬～6月中旬

イ 調査の方法

各対象校での調査による

ウ 調査対象者

県立高等学校20校の生徒

エ 抽出方法

県内を10地区に分け、各地区の生徒数に基

づいて比例配分し、無作為抽出する
オ 抽出校（調査協力校）

表 - 1 抽出校（調査協力校）一覧

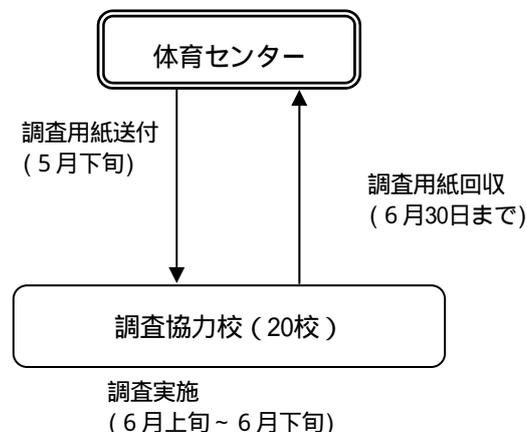
学 校 名	
横浜翠嵐高等学校	七里ガ浜高等学校
岸根高等学校	湘南台高等学校
霧が丘高等学校	大磯高等学校
瀬谷高等学校	伊勢原高等学校
舞岡高等学校	足柄高等学校
柏陽高等学校	厚木東高等学校
磯子高等学校	厚木西高等学校
新城高等学校	綾瀬高等学校
百合丘高等学校	上鶴間高等学校
逗子高等学校	相模大野高等学校

カ 標本構成

表 - 2 標本の学年別男女別構成人数

学 年	男 子	女 子	計
1 年生	736名	725名	1,461名
2 年生	694名	723名	1,417名
3 年生	713名	718名	1,431名
計	2,143名	2,166名	4,309名

4 調査の手順



5 調査の内容

- (1) 運動やスポーツの好き、嫌いについて
- (2) 体育の学習について
- (3) 体育の学習以外の運動への取り組みについて
- (4) 好きな、または行いたい運動やスポーツについて
- (5) 体育を指導してくれる理想的な教師像について

6 研究アドバイザー

横浜国立大学教育人間科学部教授 落合優
(集計は、横浜国立大学教育人間科学部体育心理学研究室で行った)

7 集計方法等

- (1) 百分率の計算等について
 - ア 各グラフに示したnは回答者数である。また、単数回答及び複数回答の質問についてもこのnを母数として算出した百分率を示した。
 - イ 各グラフに示した百分率は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、数値の合計が100%にならない場合がある。
- (2) 集計について
 - ア 本調査報告書は、単純集計とクロス集計の結果とした。
 - イ 単純集計については、各学年別に結果を示すとともに、特徴を見るため男女別の集計を行った。
 - ウ クロス集計については、体育の学習が「好き群」「どちらでもない」「嫌い群」の3群と他の項目との結果を示した。
- (3) 統計的有意差について
本調査報告書におけるクロス集計の結果は、すべての項目で²検定による検定を行った。
- (4) その他
前回調査(平成8年)との比較調査も行っているが、学習指導要領の改訂に伴い単純に比較できないものや質問方法の違い等もあり、そのような質問については可能な範囲での調査とした。

回答を「とても好き」「どちらかという好き」「どちらでもない」「どちらかという嫌い」「とても嫌い」の5段階の評価尺度で求めたものの内で、「とても好き」「どちらかという好き」を「好き群」、「どちらかという嫌い」「とても嫌い」を「嫌い群」としている。

²検定とは、本調査のように対象者を抽出して行った場合に、得られた結果に妥当性があるか否かを統計的に確かめる方法である。

今回、²検定を行った結果、有意差が見られたものについては、以下のように示した。

0.1%水準で有意	...	***	P<0.001
1%水準で有意	...	**	P<0.01
5%水準で有意	...	*	P<0.05
有意差無し	...	ns	

例えば、0.1%水準で有意とは、同様の調査を1,000回異なる抽出者で行った場合においても、999回は同じ傾向の調査結果を得られることを示している。

2 単純集計結果

調査内容については、2ページの「5調査の内容」で示した通りである。

「平成8年度高校生の意識調査」および「平成17年度小学生の意識調査」・「平成18年度中学生の意識調査」との比較については、特徴的なものについてのみコラムで記述した。

(1) 運動やスポーツの好き、嫌いについて

ア 運動やスポーツをすることが好きか嫌いか (図2-1・2)

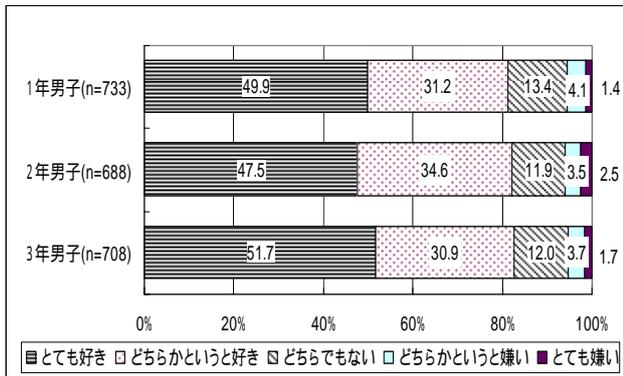


図2-1 (男子)

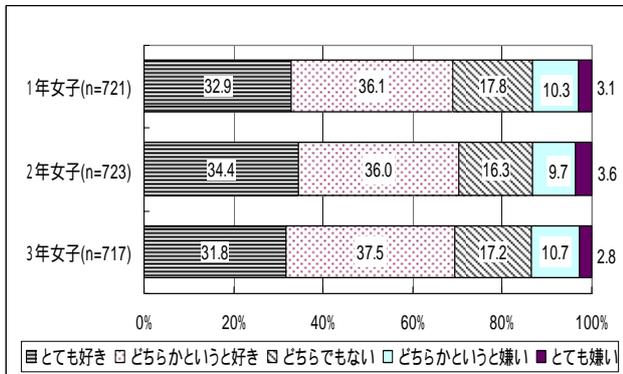


図2-2 (女子)

「とても好き」と「どちらかという好き」を合わせた(以下「好き群」と言う。)男子は、1年生81.1%、2年生82.1%、3年生82.6%で、女子は、1年生69.0%、2年生70.4%、3年生69.3%であった。

コラム1 「運動やスポーツをすることが好きか嫌いか」 平成18年度中学生調査との比較【図-(1)】

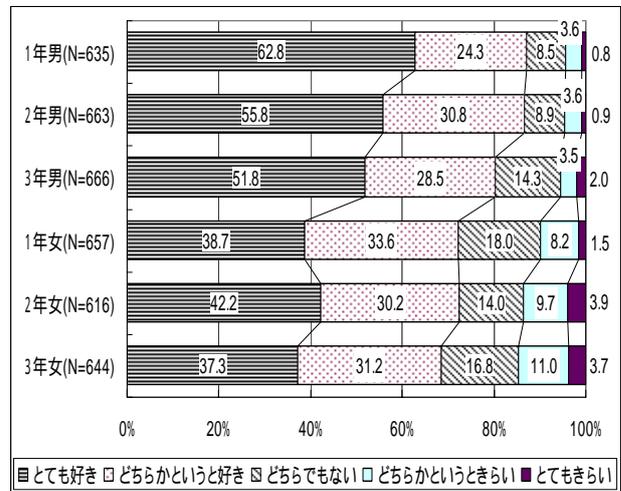


図-(1) 平成18年度中学生調査

平成18年度中学生調査の「好き群」の男子は、1年生87.1%、2年生86.6%、3年生80.3%、女子は、1年生72.3%、2年生72.4%、3年生68.5%で、学年進行とともに男子は減少、女子も減少傾向である。この傾向は、平成19年度高校生調査の高校1年生まで続くが、そこを境にして、男子は高校3年生にかけて、1.5ptとわずかながらも上昇している。

平成18年度中学生調査の「嫌い群」を見ると、男子は5%前後で、学年進行に伴う変化は見られないが、女子は、増えていることがわかった。平成19年度高校生調査では、男子5.4~6.0%、女子13.3~13.5%と、男女ともに学年進行に伴う変化は見られない。

(2) 体育の学習について

ア 体育の学習が好きか嫌いか

(図2 - 3・4)

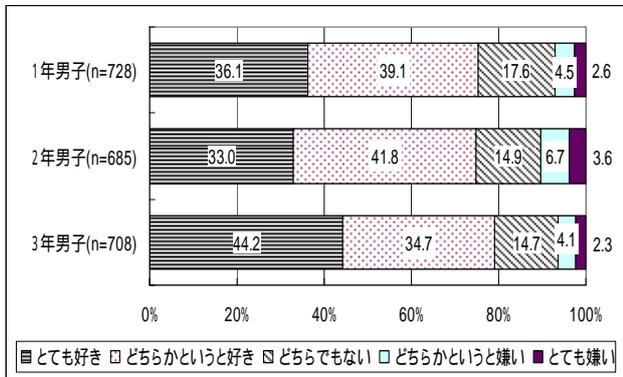


図2 - 3 (男子)

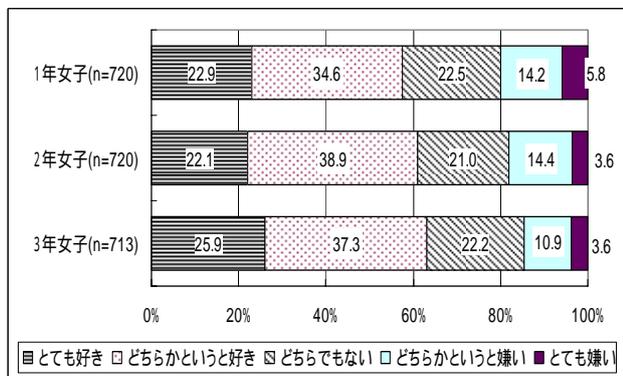


図2 - 4 (女子)

体育の学習が「好き」かたずねたところ、「好き群」の男子は、1年生75.2%、2年生74.8%、3年生78.9%で、女子は、1年生57.5%、2年生61.0%、3年生63.2%であった。

コラム2
「体育の学習が好きか嫌いか」
平成18年度中学生調査・平成8年度高校生調査
との比較【図 - (2)・(3)】

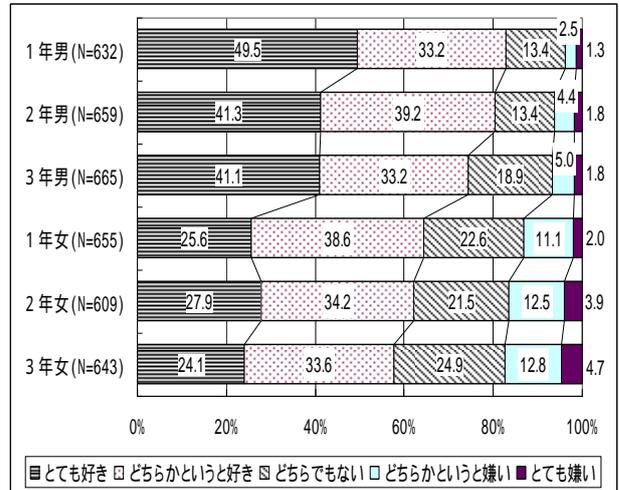


図 - (2) 平成18年度中学生調査

平成18年度中学生調査の「好き群」の男子は、1年生82.7%、2年生80.5%、3年生74.3%で、女子は、1年生64.2%、2年生62.1%、3年生57.7%で、男女ともに学年進行とともに減少している。この傾向は、平成19年度高校生調査の男子は高校2年生まで、女子は高校1年生まで続くが、そこを境に上昇に転じている。

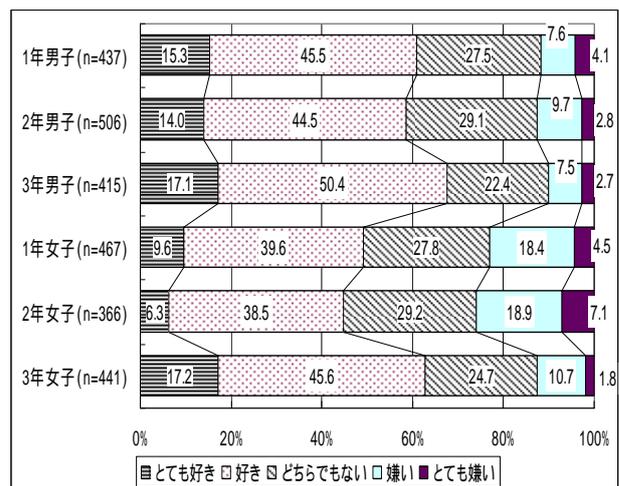


図 - (3) 平成8年度高校生調査

平成8年度高校生調査の「好き群」の男子は、1年生60.8%、2年生58.5%、3年生67.5%で、女子は、1年生49.2%、2年生44.8%、3年生62.8%であったのが、平成19年度高校生調査では、3学年の男女ともに高くなっている。

イ 体育の学習が好きな理由

(図2 - 5 ~ 10)

n=548

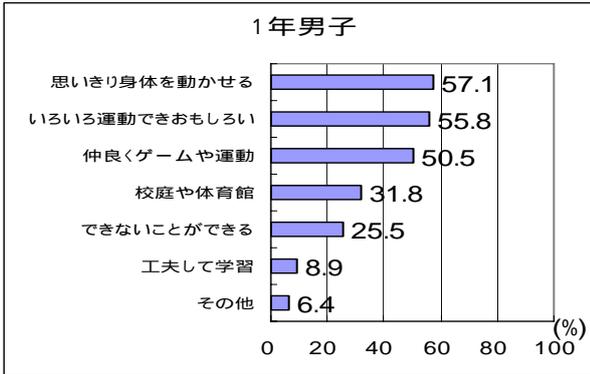


図2 - 5 (1年男子)

n=414

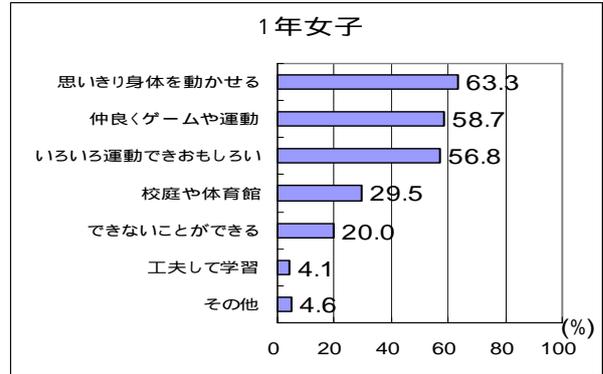


図2 - 6 (1年女子)

n=512

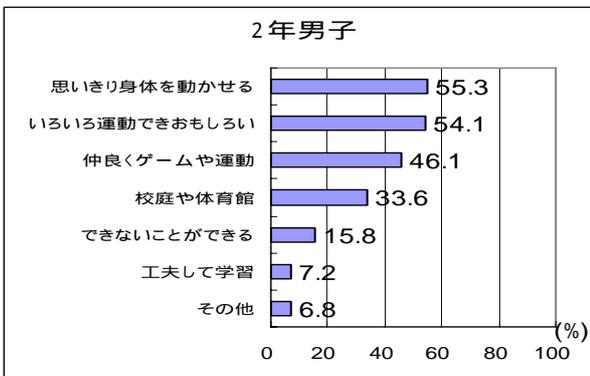


図2 - 7 (2年男子)

n=439

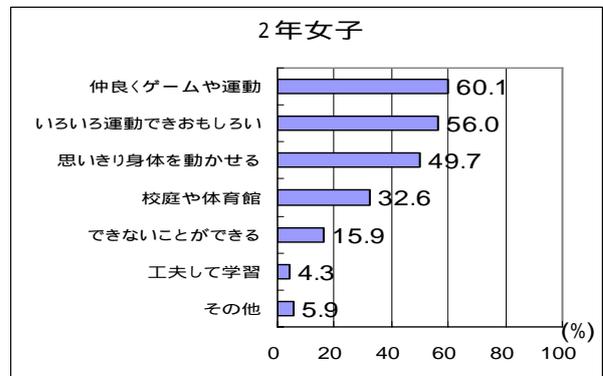


図2 - 8 (2年女子)

n=559

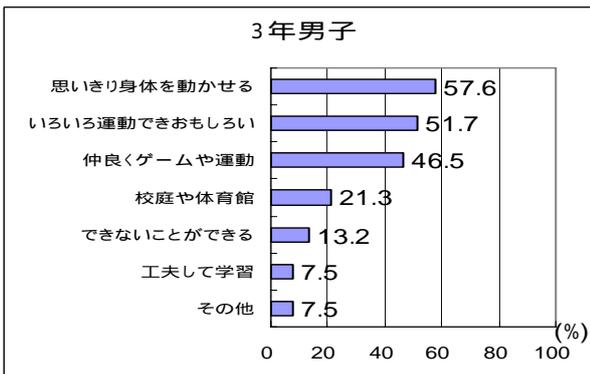


図2 - 9 (3年男子)

n=451

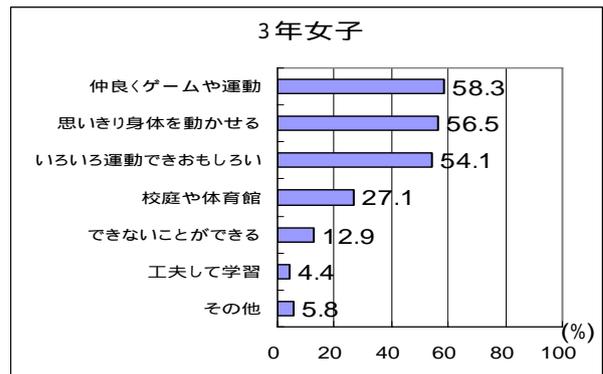


図2 - 10 (3年女子)

(2) - アで「好き群」を選んだ生徒に「体育の学習が好きな理由」をたずねたところ、男子の1位は、3学年とも「思いきり身体を動かすことができるから」(以下「思いきり身体」と言う。)で、「いろいろな運動ができておもしろいから」(以下「いろいろな運動」と言う。)とつづいている。女子は、「友だちと一緒に仲よくゲームや運動ができるか

ら」(以下「友達と仲よく」と言う。)が2・3年生で1位に、また1年生でも2位に入っており、「思いきり身体」(1年生1位)「いろいろな運動」が上位にある。

コラム3

「体育の学習が好きな理由」
平成18年度中学生調査・平成8年度高校生調査
との比較【図 - (4)～(7)】

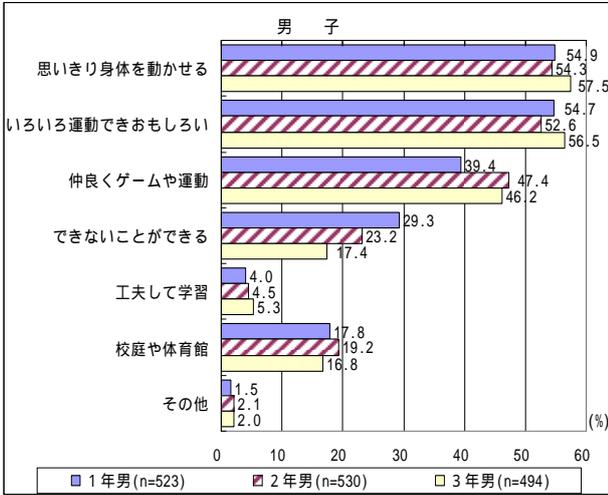


図 - (4) 平成18年度中学生調査 (男子)

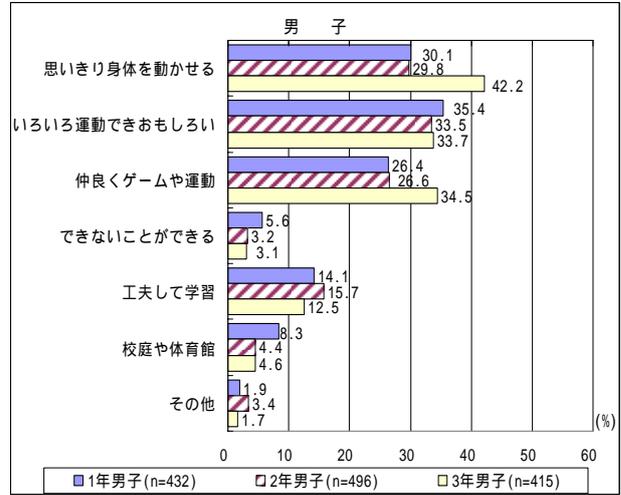


図 - (6) 平成8年度高校生調査 (男子)

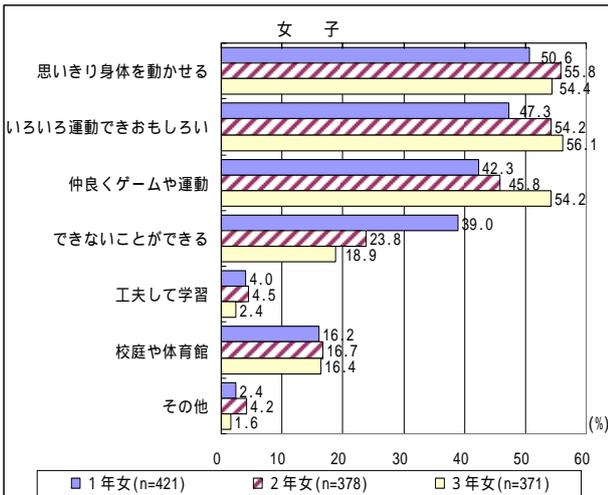


図 - (5) 平成18年度中学生調査 (女子)

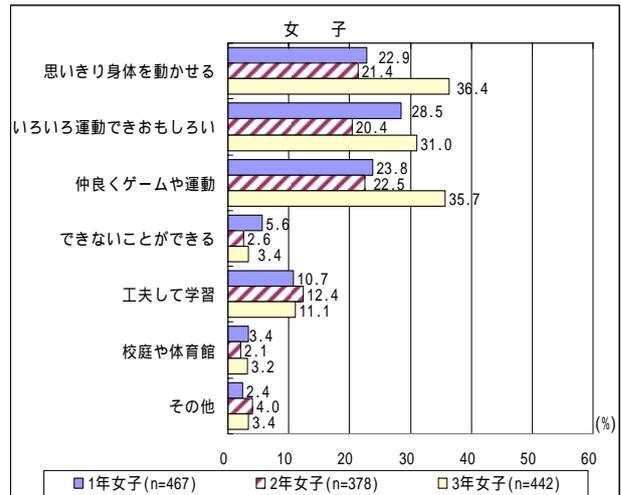


図 - (7) 平成8年度高校生調査 (女子)

平成18年度中学生調査では、3年女子を除いて、「思いきり身体」が1位であった。(3年女子は2位)

平成8年度高校生調査では「いろいろ運動」(1年男女・2年男子)「思いきり身体」(3年男女)「友達と仲よく」(2年女子)が1位であった。

平成19年度高校生調査、平成18年度中学生調査、平成8年度高校生調査ともに、「思いきり身体」「いろいろ運動」を上位にあげている。

ウ 体育の学習が嫌いな理由

(図2 - 11 ~ 16)

n=52

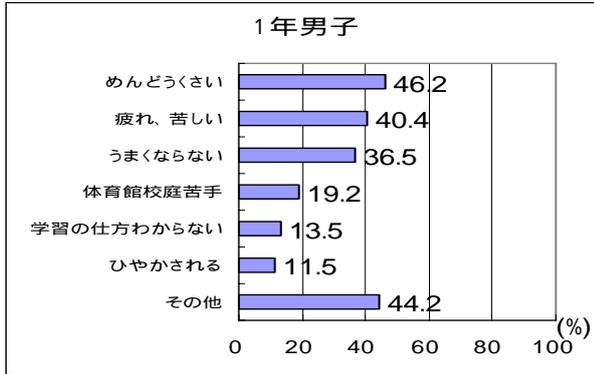


図2 - 11 (1年男子)

n=144

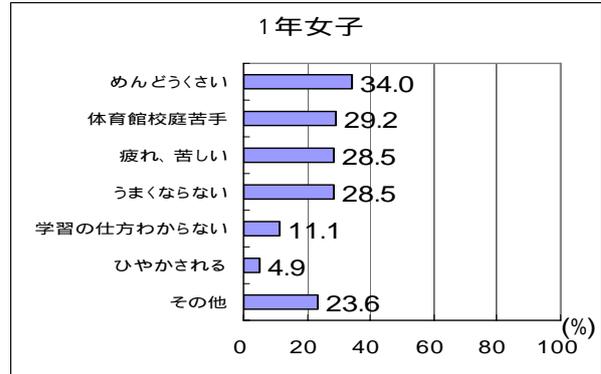


図2 - 12 (1年女子)

n=71

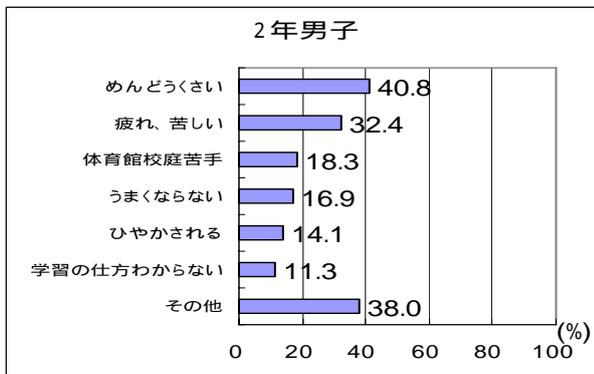


図2 - 13 (2年男子)

n=130

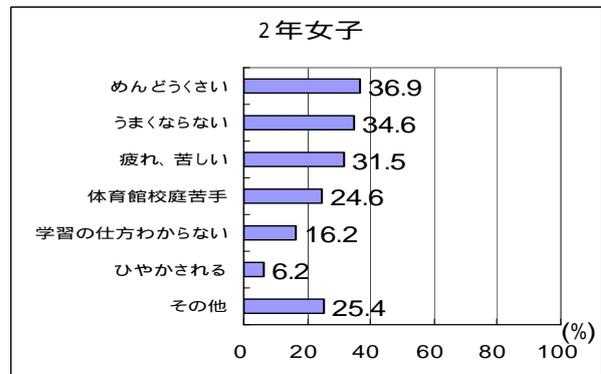


図2 - 14 (2年女子)

n=45

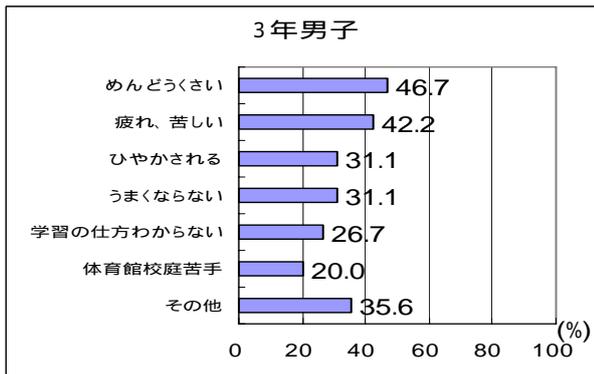


図2 - 15 (3年男子)

n=104

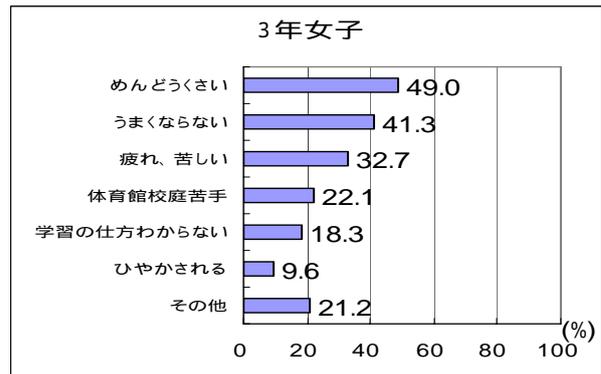


図2 - 16 (3年女子)

(2) - アで「嫌い群」を選んだ生徒に「体育の学習が嫌いな理由」をたずねたところ、3学年男女ともに1位は、「身体を動かすことが好きでなく、めんどくさいから」(以下「めんどくさい」と言う。)であった。男子の2位は、3学年とも「運動をすると疲れたり、苦しくなったりするから」(以下「疲れ苦しい」と言う。)で、女子は、1年生が

「体育館や校庭での学習が苦手だから」(以下「体育館校庭苦手」と言う。)で、2・3年生は「いくら練習してもうまくならないから」(以下「うまくならない」と言う。)であった。

コラム4
 「体育の学習が嫌いな理由」
 平成18年度中学生調査・平成8年度高校生調査との比較【図-(8)~(11)】

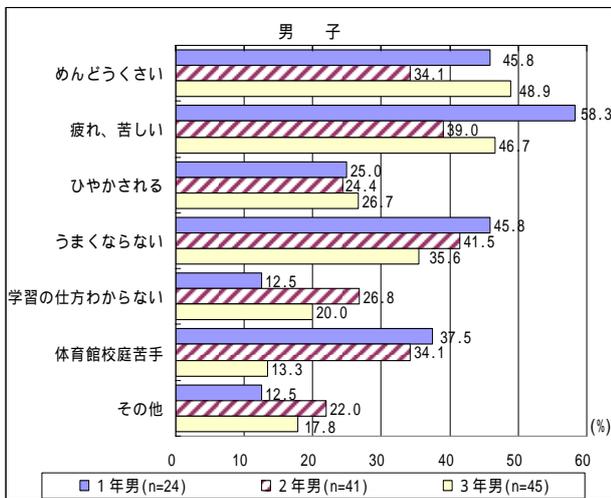


図-(8) 平成18年度中学生調査(男子)

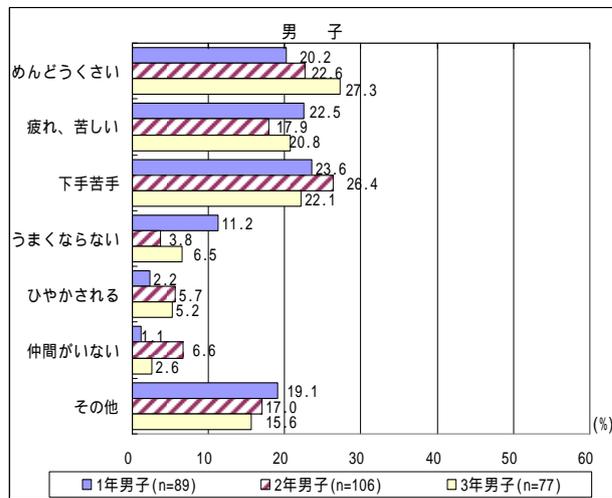


図-(10) 平成8年度高校生調査(男子)

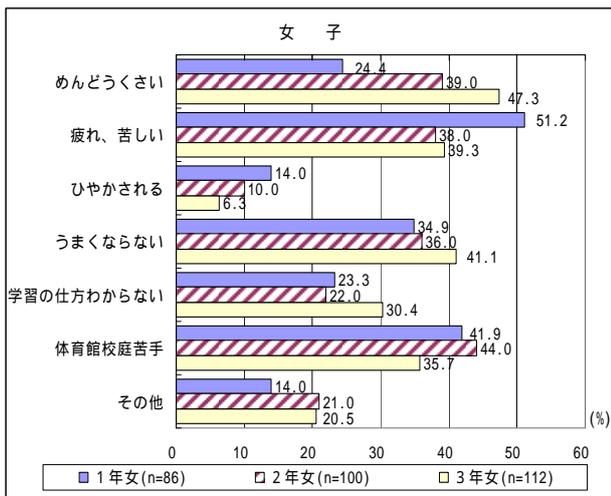


図-(9) 平成18年度中学生調査(女子)

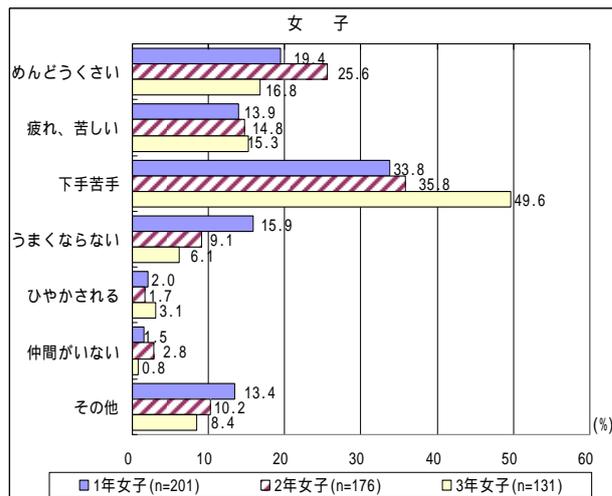


図-(11) 平成8年度高校生調査(女子)

平成18年度調査では、「疲れ苦しい」(1年男女で1位)「めんどくさい」(3年男女で1位)「うまくならない」(2年男子で1位)「体育館校庭苦手」(2年女子で1位)が上位を占めており、平成19年度調査と同様に、気力・体力の低下傾向を象徴しているような回答があげられている。

平成8年度高校生調査では、平成19年度調査と選択肢が若干違っているので、正確な比較はできないが、3年男子を除いて「運動が下手で苦手だから」が1位(3年男子は2位)で、「めんどくさい」(3年男子で1位)「疲れ苦しい」が続いている。

エ～コは体育の時間の取り組みについての質問である。

エ うまくなったり記録を伸ばしたりするために、
自分なりの目標や課題をもって活動しているか
(図2 - 17・18)

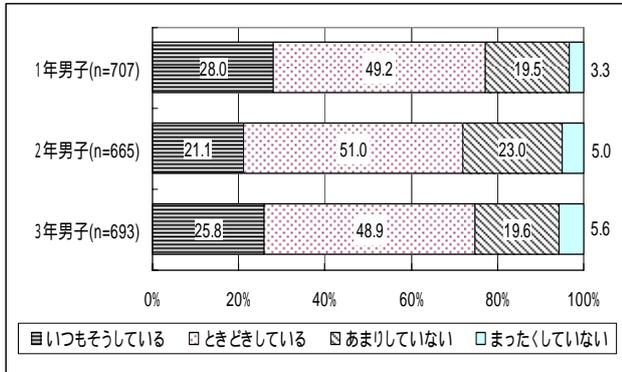


図2 - 17 (男子)

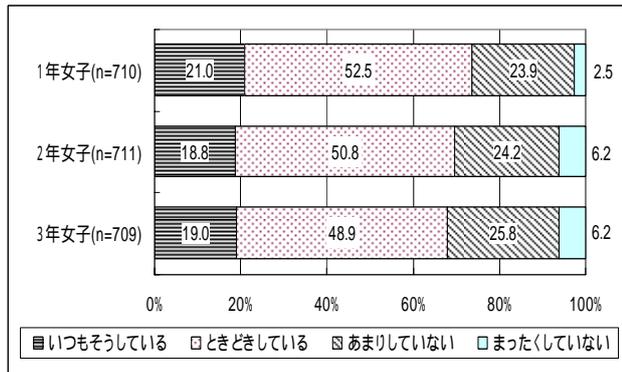


図2 - 18 (女子)

「いつもそうしている」と「ときどきしている」の回答を合わせた割合(以下「している群」という。)は、男子は、1年生77.2%、2年生72.1%、3年生74.7%が、女子は、1年生73.5%、2年生69.6%、3年生67.9%であった。

各学年男子の取り組みが高い。

コラム5
「うまくなったり記録を伸ばしたりするために、自分なりの目標や課題をもって活動しているか」
平成18年度中学生調査・平成8年度高校生調査との比較【図 - (12)・(13)】

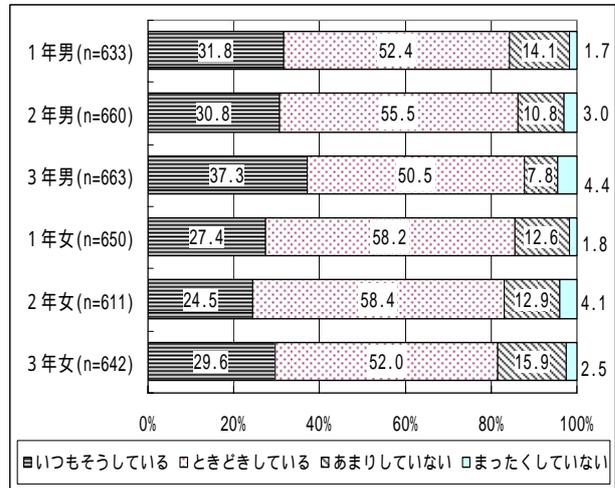


図 - (12) 平成18年度中学生調査

平成18年度中学生調査の「している群」の男子は、1年生84.2%、2年生86.3%、3年生87.8%、女子は、1年生85.6%、2年生82.9%、3年生81.6%で、平成19年度高校生調査のほうが、取り組みが低いことがわかった。

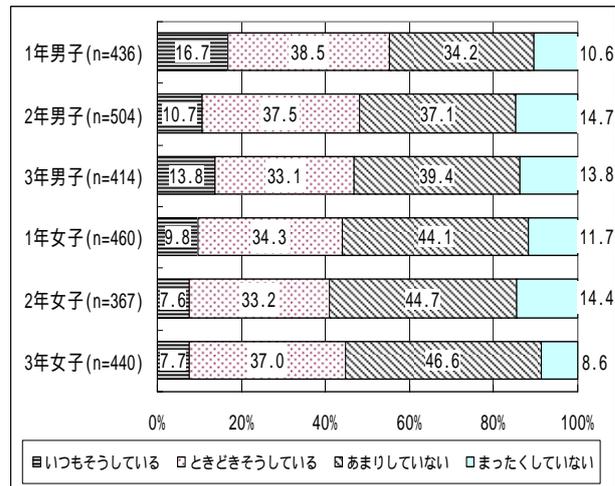


図 - (13) 平成8年度高校生調査

平成8年度高校生調査の「している群」の男子は、1年生55.2%、2年生48.2%、3年生46.9%、女子は、1年生44.1%、2年生40.8%、3年生44.7%で、平成19年度高校生調査までの間に、取り組み状況が大きく伸びてきていることがわかった。

オ 課題が自分に合っているか考えながら活動しているか
(図2 - 19・20)

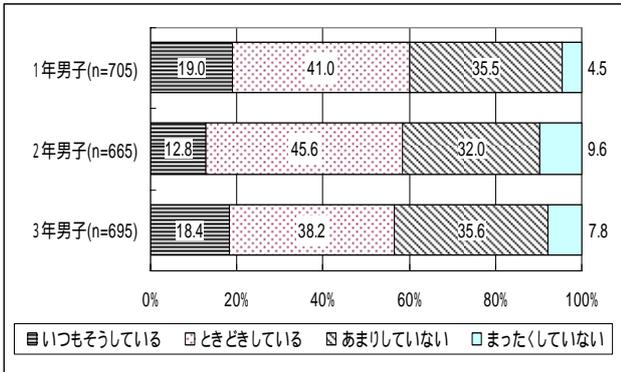


図2 - 19 (男子)

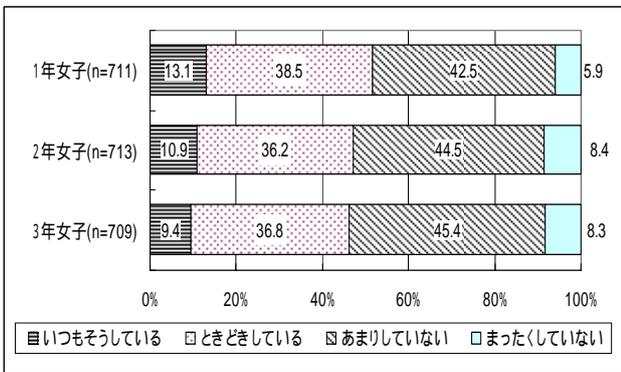


図2 - 20 (女子)

「している群」の男子は、1年生60.0%、2年生58.4%、3年生56.6%で、女子は、1年生51.6%、2年生47.1%、3年生46.2%であった。
各学年男子の取り組みが高い。

コラム6
「課題が自分に合っているか考えながら活動しているか」
平成18年度中学生調査との比較【図 - (14)】

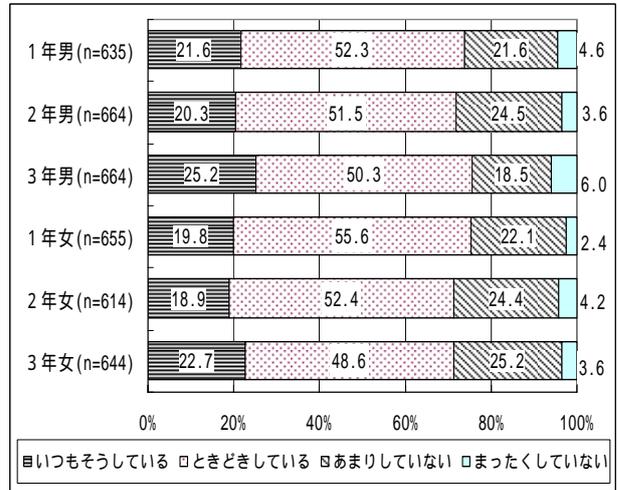


図 - (14) 平成18年度中学生調査

「している群」の男子は、1年生73.9%、2年生71.8%、3年生75.5%で、女子は、1年生75.4%、2年生71.3%、3年生71.3%で、平成19年度高校生調査のほうが、取り組みが低いことがわかった。

カ 練習の場所や仕方などいろいろ工夫して活動しているか
(図2 - 21・22)

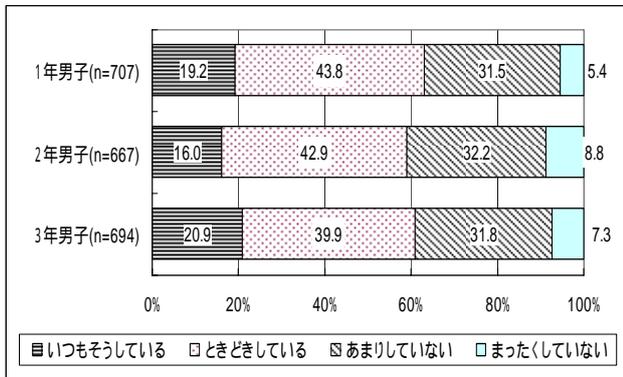


図2 - 21 (男子)

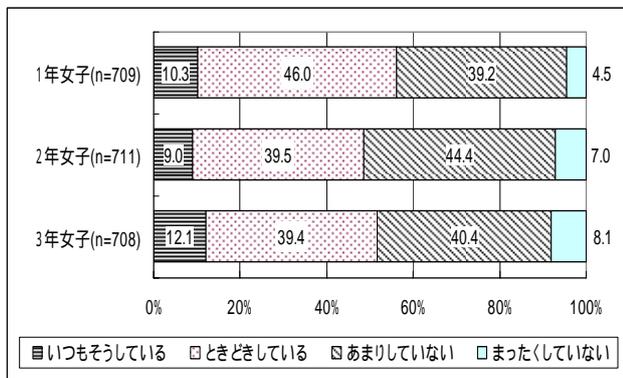


図2 - 22 (女子)

「している群」の男子は、1年生63.0%、2年生58.9%、3年生60.8%で、女子は、1年生56.3%、2年生48.5%、3年生51.5%であった。
各学年男子の取り組みが高い。

コラム7
「練習の場所や仕方などいろいろ工夫して活動しているか」
平成18年度中学生調査との比較【図 - (15)】

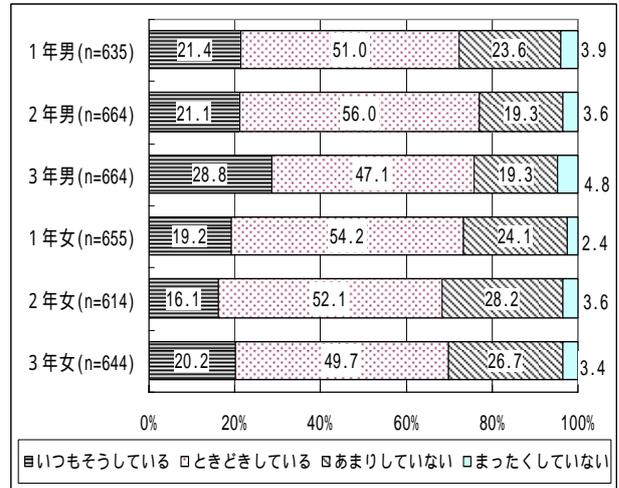


図 - (15) 平成18年度中学生調査

「している群」の男子は、1年生72.4%、2年生77.1%、3年生75.9%で、女子は、1年生73.4%、2年生68.2%、3年生69.9%で、平成19年度高校生調査のほうが、取り組みが低いことがわかった。

キ 友だちとお互いに教えあったり協力しあったりして活動しているか
(図2 - 23・24)

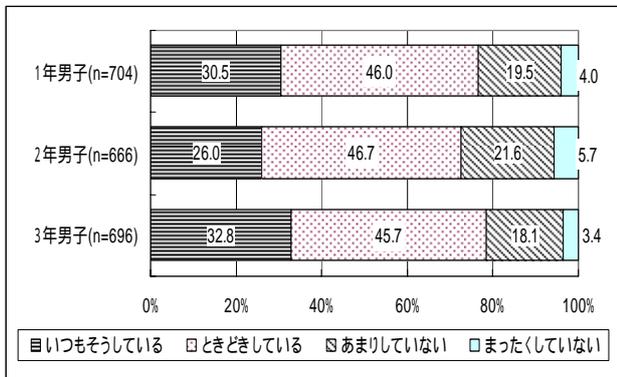


図2 - 23 (男子)

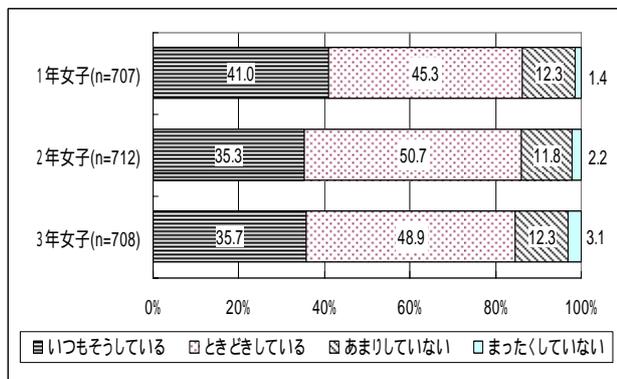


図2 - 24 (女子)

「している群」の男子は、1年生76.5%、2年生72.7%、3年生78.5%で、女子は、1年生86.3%、2年生86.0%、3年生84.6%であった。
各学年女子の取り組みが高い。

コラム8
「友だちとお互いに教えあったり協力しあったりして活動しているか」
平成18年度中学生調査・平成8年度高校生調査との比較【図 - (16)・(17)】

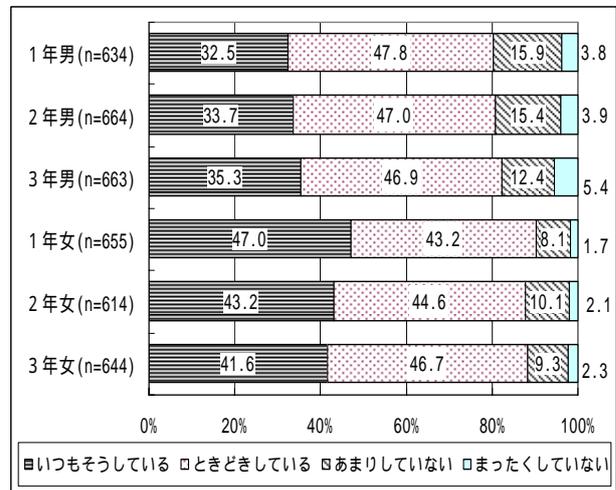


図 - (16) 平成18年度中学生調査

「している群」の男子は、1年生80.3%、2年生80.7%、3年生82.2%で、女子は、1年生90.2%、2年生87.8%、3年生88.3%で、平成19年度高校生調査のほうが、取り組みが低いことがわかった。
両調査とも女子の取り組みが高い。

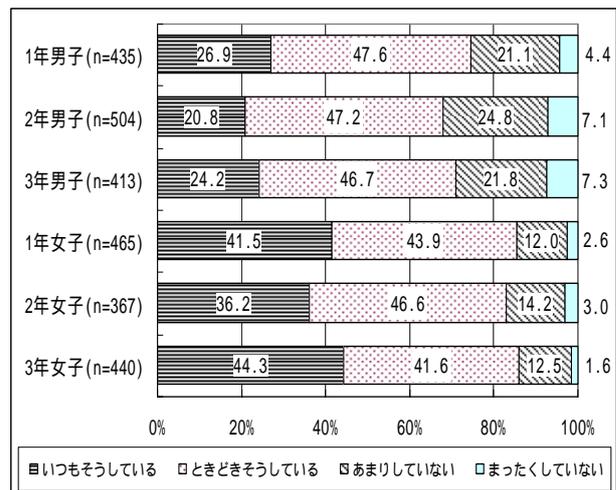


図 - (17) 平成8年度高校生調査

「している群」の男子は、1年生74.5%、2年生68.0%、3年生70.9%で、女子は、1年生85.4%、2年生82.8%、3年生85.9%であった。平成19年度高校生調査でも、同様な高い数値を示していた。

ク 学習を反省したりできたかどうか確かめたりしながら活動しているか
(図2 - 25・26)

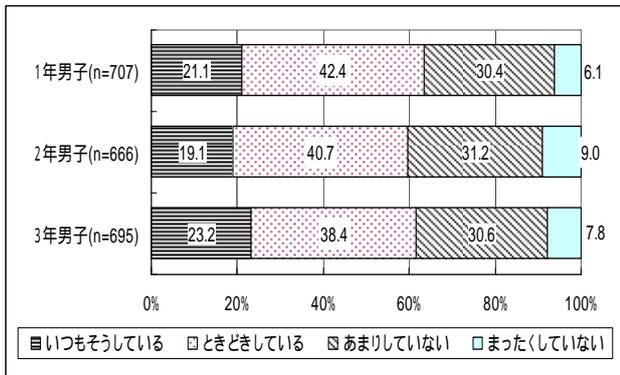


図2 - 25 (男子)

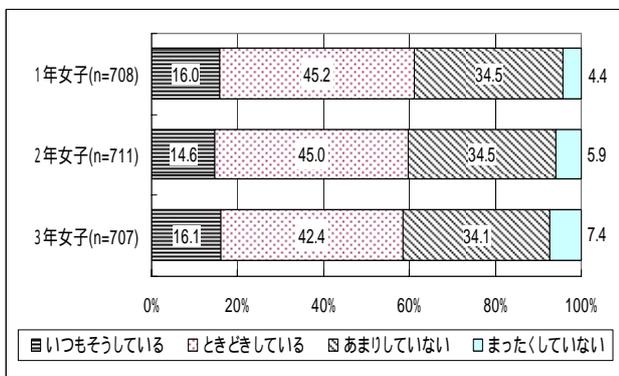


図2 - 26 (女子)

「している群」の男子は、1年生63.5%、2年生59.8%、3年生61.6%で、女子は、1年生61.2%、2年生59.6%、3年生58.5%であった。
各学年男子の取り組みが高い。

コラム9
「学習を反省したりできたかどうか確かめたりしながら活動しているか」
平成18年度中学生調査との比較【図 - (18)】

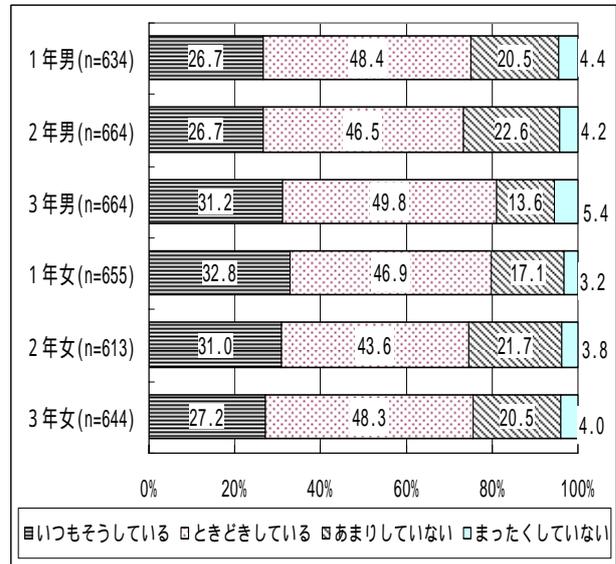


図 - (18)平成18年度中学生調査

「している群」の男子は、1年生75.1%、2年生73.2%、3年生81.0%で、女子は、1年生79.7%、2年生74.6%、3年生75.5%で、平成19年度高校生調査のほうが、取り組みが低いことがわかった。

ケ 精一杯最後まで全力をつくして活動しているか
(図2 - 27・28)

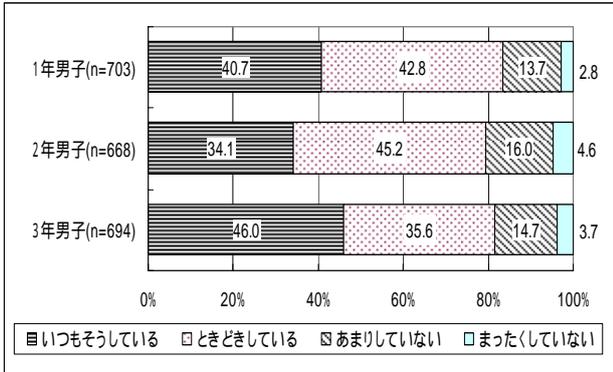


図2 - 27 (男子)

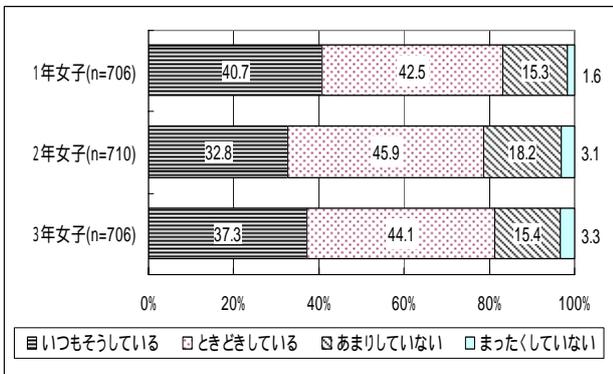


図2 - 28 (女子)

「している群」の男子は、1年生83.5%、2年生79.3%、3年生81.6%で、女子は、1年生83.2%、2年生78.7%、3年生81.4%であった。

コラム10
「精一杯最後まで全力をつくして活動しているのか」
平成18年度中学生調査との比較【図 - (19)】

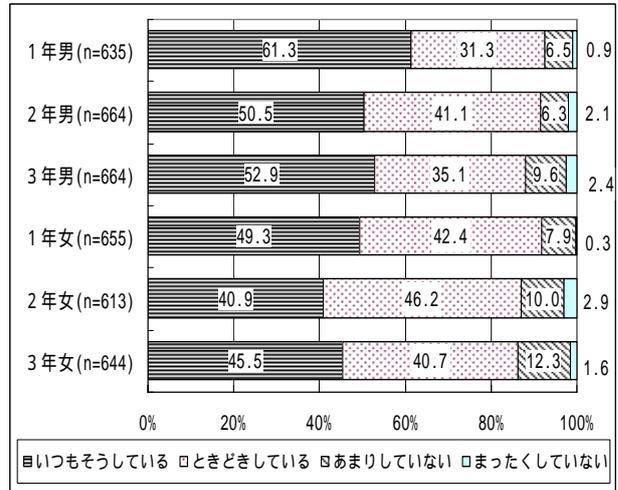


図 - (19)平成18年度中学生調査

「している群」の男子は、1年生92.6%、2年生91.6%、3年生88.0%で、女子は、1年生91.7%、2年生87.1%、3年生86.2%で、平成19年度高校生調査のほうが、取り組みが低いことがわかった。

コ 準備や片付けに進んで取り組んだり、自分の役割を果たそうとしたりして活動しているか
(図2 - 29・30)

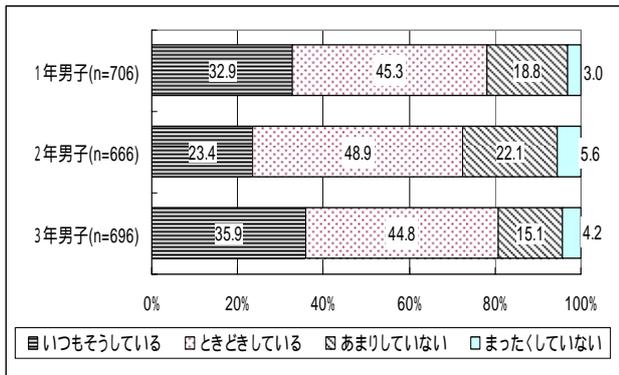


図2 - 29 (男子)

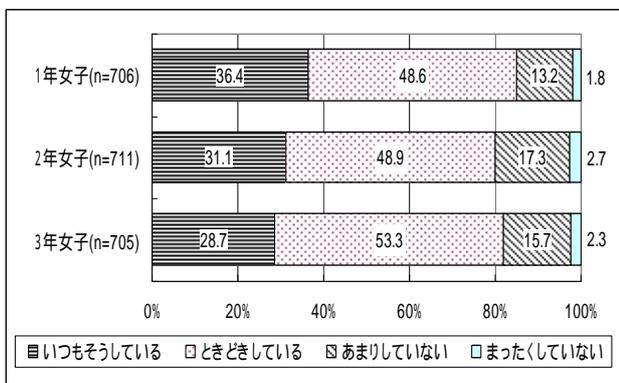


図2 - 30 (女子)

「している群」の男子は、1年生78.2%、2年生72.3%、3年生80.7%で、女子は、1年生85.0%、2年生80.0%、3年生82.0%であった。
各学年女子の取り組みが高い。

コラム11
「準備や片付けに進んで取り組んだり、自分の役割を果たそうとしたりして活動しているか」
平成18年度中学生調査との比較【図 - (20)】

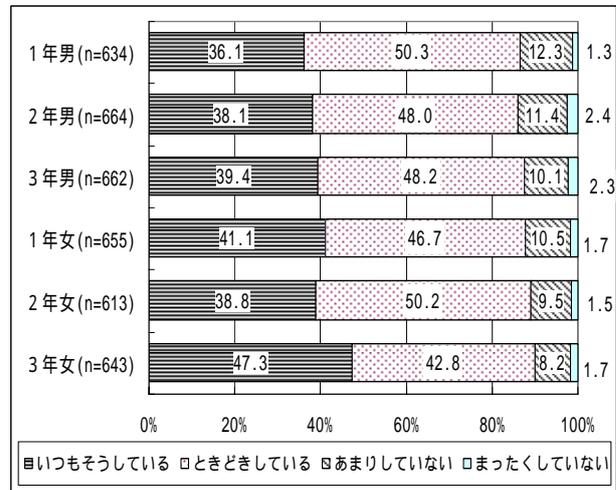


図 - (20)平成18年度中学生調査

「している群」の男子は、1年生86.4%、2年生86.1%、3年生87.6%で、女子は、1年生87.8%、2年生89.0%、3年生90.1%で、平成19年度高校生調査のほうが、取り組みが低いことがわかった。
両調査とも女子の取り組みが高い。

サ 体育の学習で自分の課題をどのように決めるのか
(図2 - 31 ~ 36)

n=733

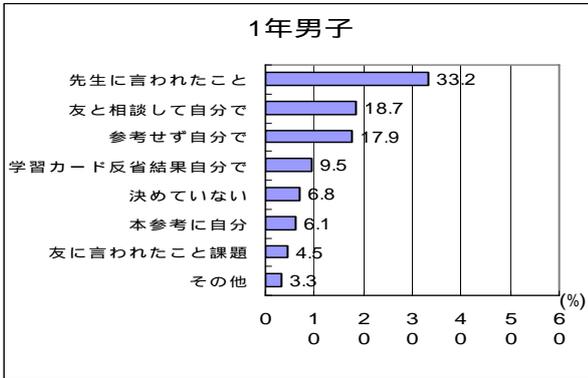


図2 - 31 (1年男子)

n=723

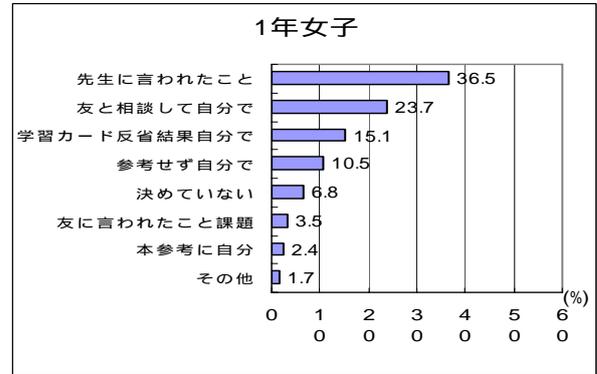


図2 - 32 (1年女子)

n=691

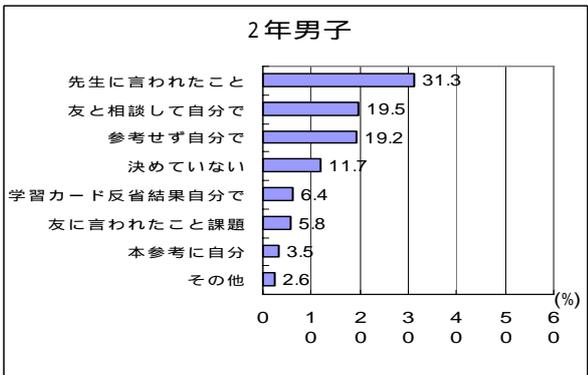


図2 - 33 (2年男子)

n=722

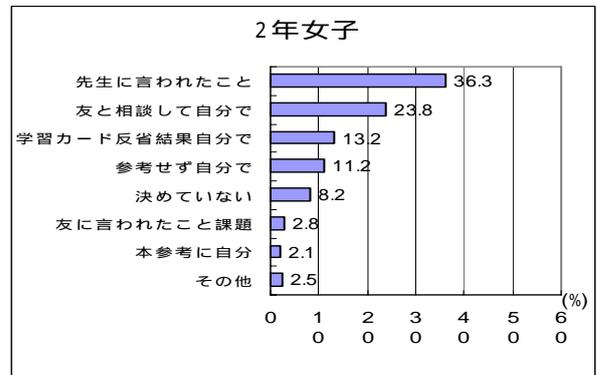


図2 - 34 (2年女子)

n=705

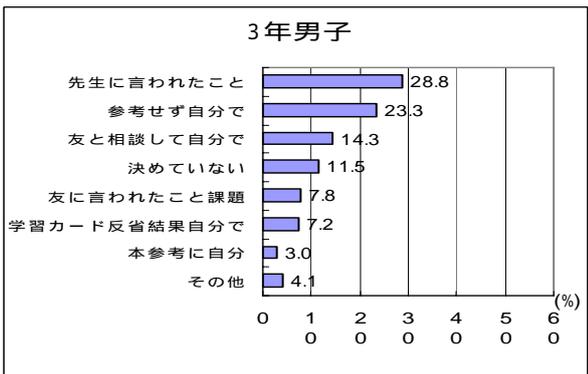


図2 - 35 (3年男子)

n=716

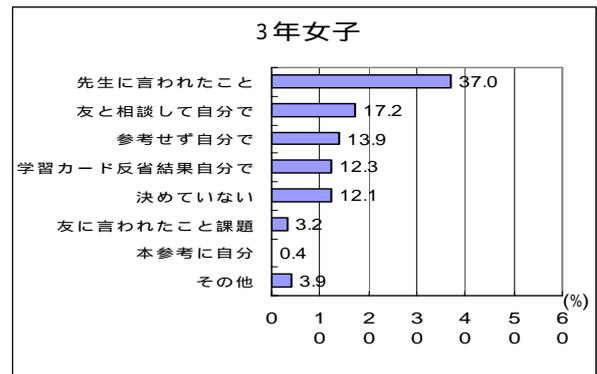


図2 - 36 (3年女子)

3学年男女とも1位は「先生に言われたことを課題にしている(以下「先生に言われたこと」と言う。)」であった。2位は、3年男子を除いて「友達と相談して、自分で決める(以下「友達と相談自分で」と言う。)」であった。

コラム12

「体育の学習で自分の課題をどのように決めるのか」

平成18年度中学生調査・平成8年度高校生調査との比較【図 - (21)~(24)】

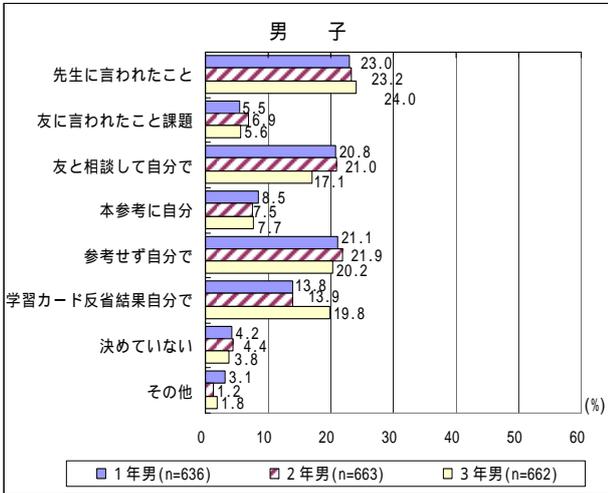


図 - (21) 平成18年度中学生調査 (男子)

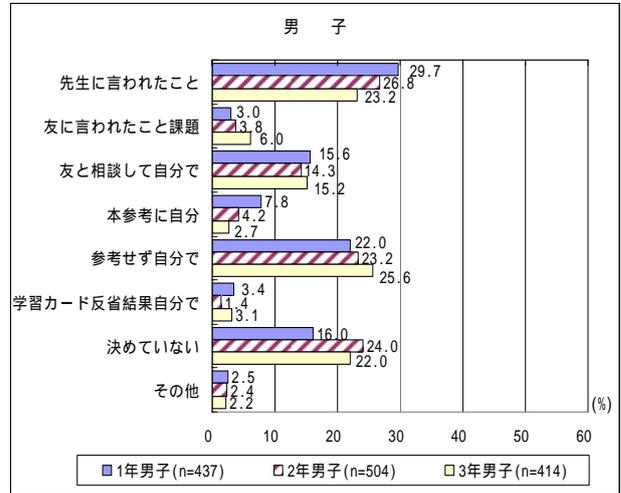


図 - (23) 平成8年度高校生調査 (男子)

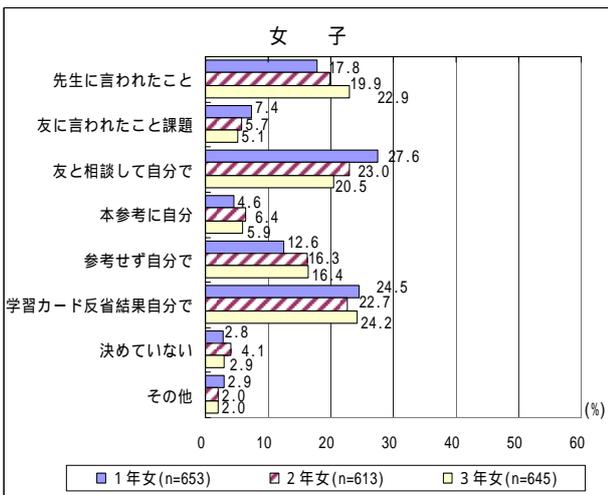


図 - (22) 平成18年度中学生調査 (女子)

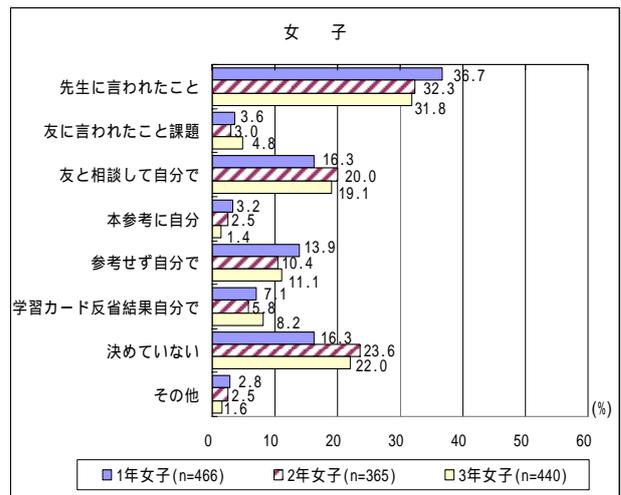


図 - (24) 平成8年度高校生調査 (女子)

平成18年度中学生調査男子の1位は「先生に言われたこと」で次に「何も参考にせず、相談しないで自分で決める」(以下「何も相談せず自分で」と言う。)であり、先生への依存が高い。女子は、1・2年が「友達と相談自分で」で、3年は「学習カードで学習を振り返り、その反省や結果分析をもとに自分で決める」で、平成19年度高校生調査よりも、学び方が身についている。

平成8年度高校生調査では、3年男子を除いて「先生に言われたこと」が1位(3年男子は2位)で、男子の2位は「何も相談せず自分で」で、女子は「わからないので決めていない」であり、平成19年度高校生調査と同様に先生への依存が高い。

シ 体育の学習でグループやチームの課題をどの
ように決めるのか
(図2 - 37~42)

n=732

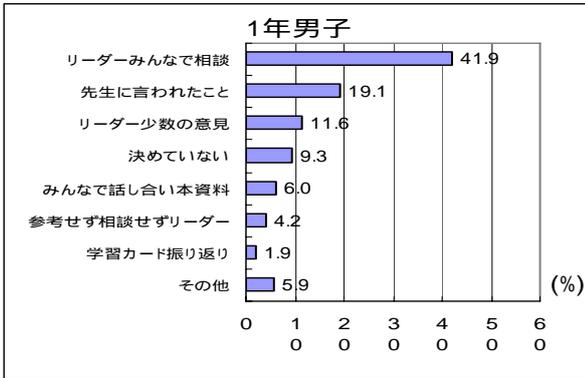


図2 - 37 (1年男子)

n=716

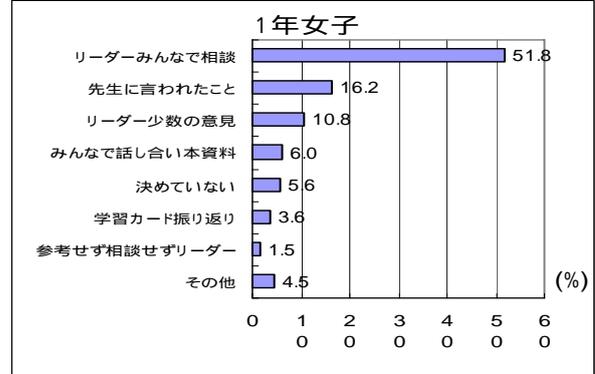


図2 - 38 (1年女子)

n=688

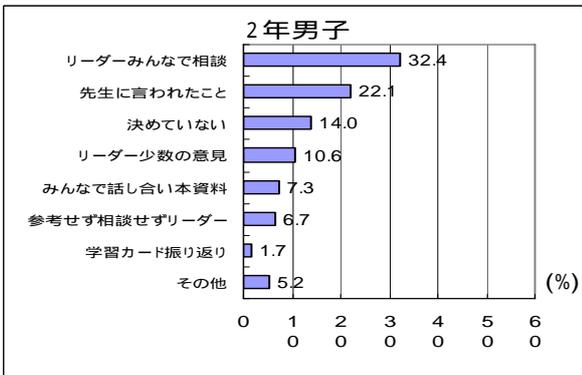


図2 - 39 (2年男子)

n=719

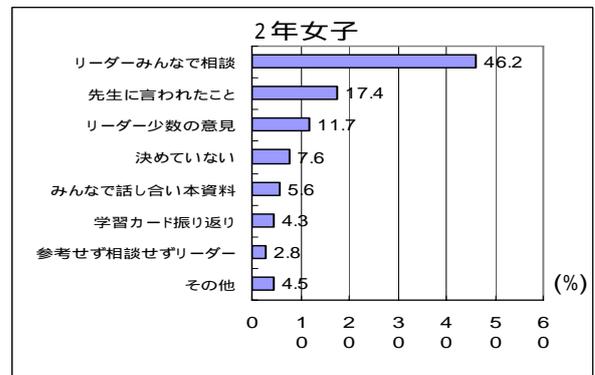


図2 - 40 (2年女子)

n=707

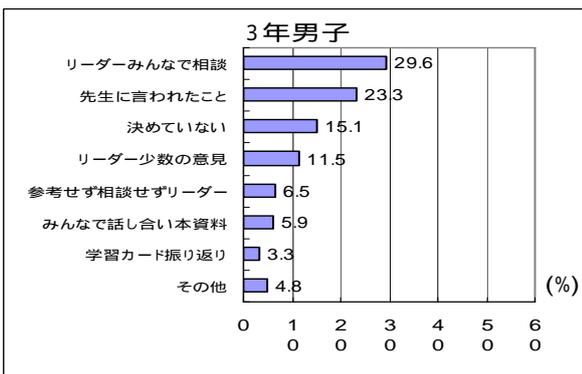


図2 - 41 (3年男子)

n=716

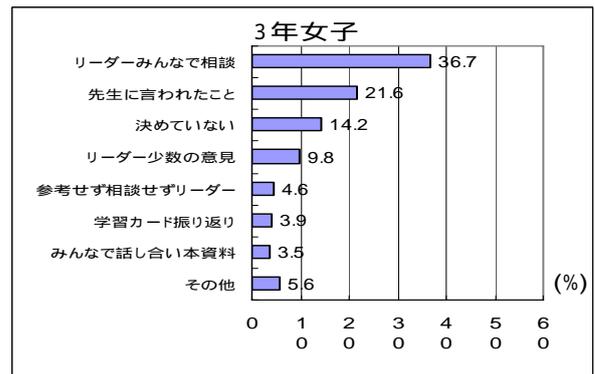


図2 - 42 (3年女子) 図2 - 42 (3年女子)

3学年男女とも1位は「リーダーを中心にして話し合い、みんなで相談して決める(以下「リーダーみんなで相談」と言う。)」で、2位は「先生に言われたこと」であった。

コラム13
 「体育の学習でグループやチームの課題をどのように決めるのか」
 平成18年度中学生調査・平成8年度高校生調査との比較【図 - (25)～(28)】

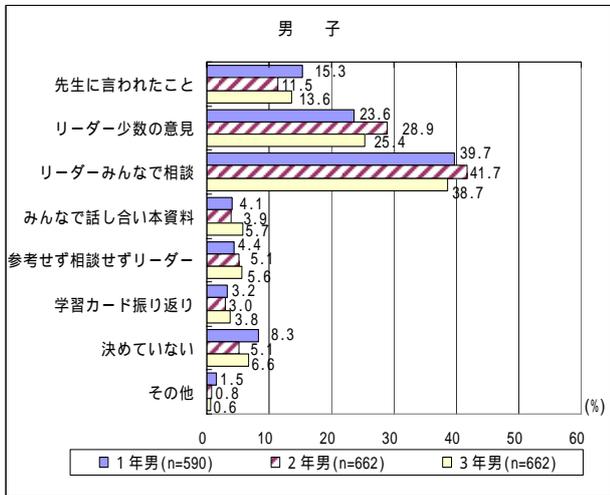


図 - (25) 平成18年度中学生調査 (男子)

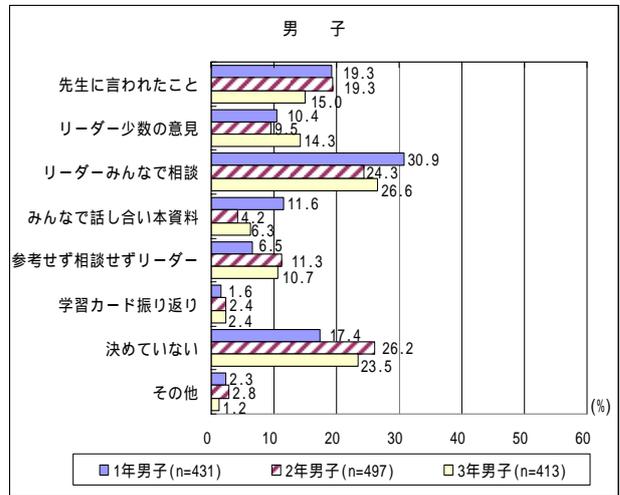


図 - (27) 平成8年度高校生調査 (男子)

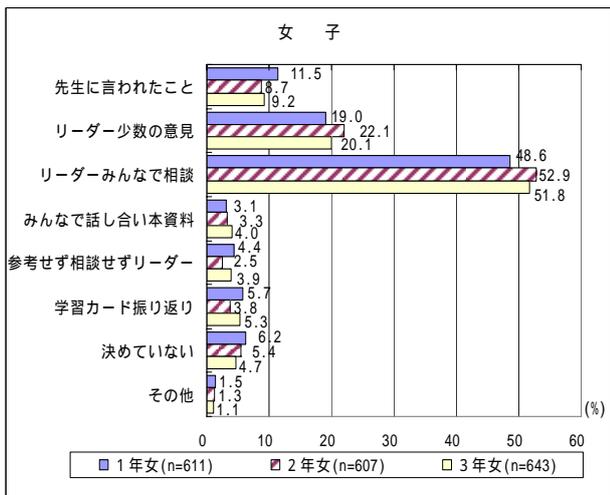


図 - (26) 平成18年度中学生調査 (女子)

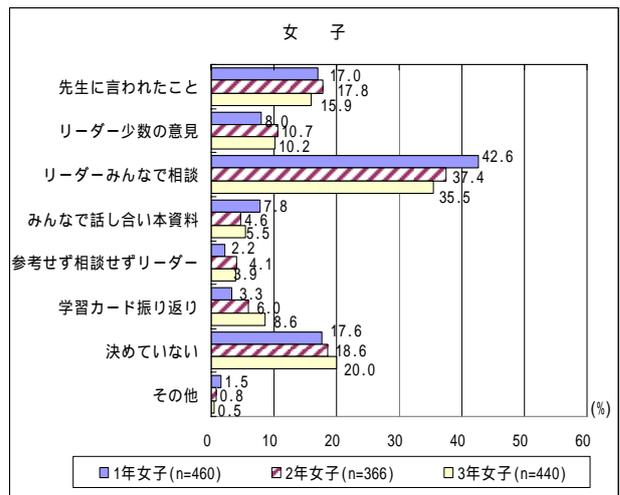


図 - (28) 平成8年度高校生調査 (女子)

平成18年度中学生調査、平成19年度高校生調査とともに、「リーダーみんなで相談」が1位であった。

平成8年度調査、平成19年度調査とともに、「リーダーみんなで相談」が上位であった。

ス 体育の学習で課題がうまく達成できないとき
 どうするのか
 (図2 - 43~48)

n=734

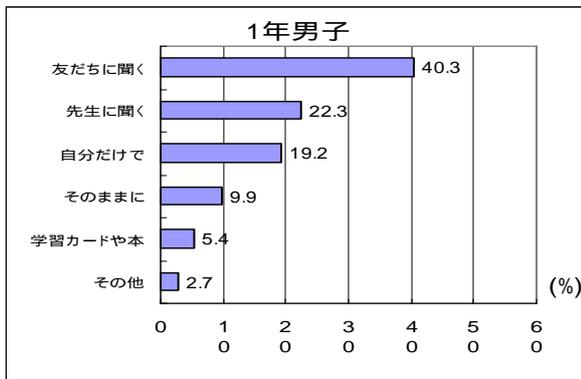


図2 - 43 (1年男子)

n=723

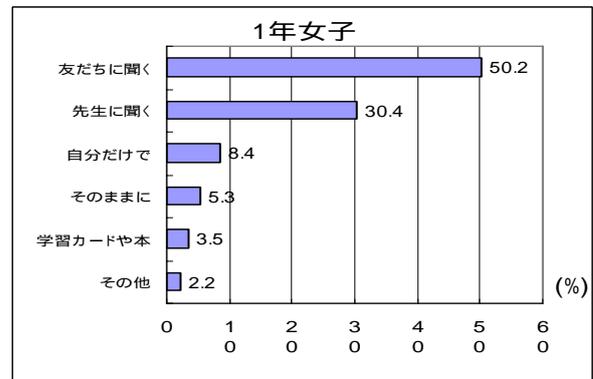


図2 - 44 (1年女子)

n=690

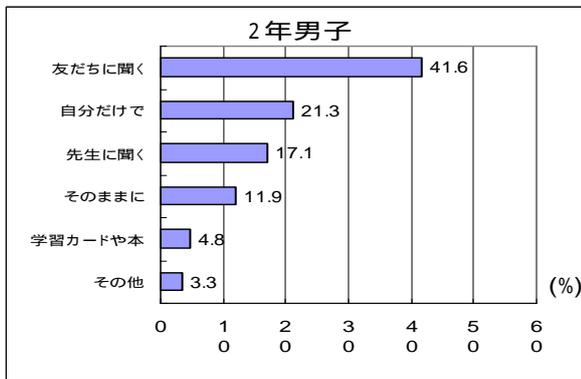


図2 - 45 (2年男子)

n=721

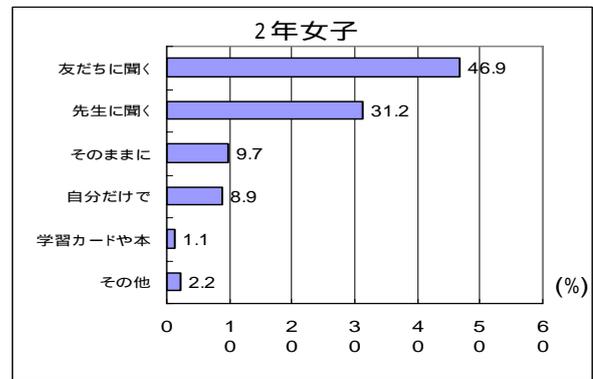


図2 - 46 (2年女子)

n=710

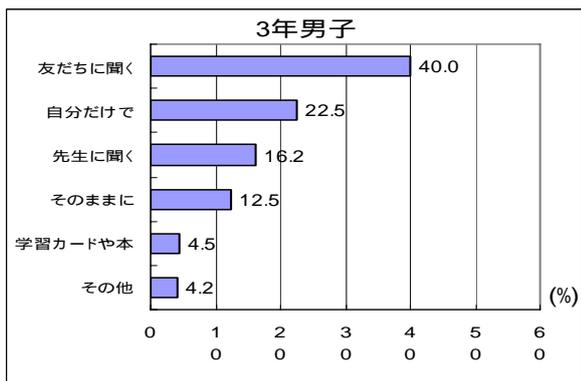


図2 - 47 (3年男子)

n=717

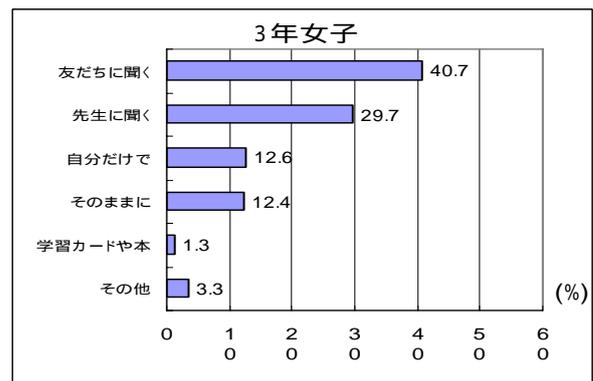


図2 - 48 (3年女子)

3学年男女とも1位は「友達に聞く」で、2位は、
 女子と男子の1年生が「先生に直接聞いたり、学習
 カードで質問したりする」で、2・3年の男子が
 「自分だけでがんばる」であった。

	コラム14	
	「体育の学習で課題がうまく達成できないときど	
	うするか」	
	平成18年度中学生調査との比較	
	【図 - (29)・(30)】	

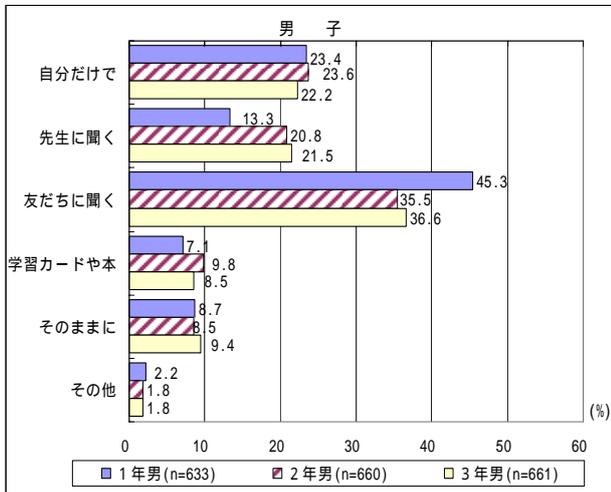


図 - (29) 平成18年度中学生調査 (男子)

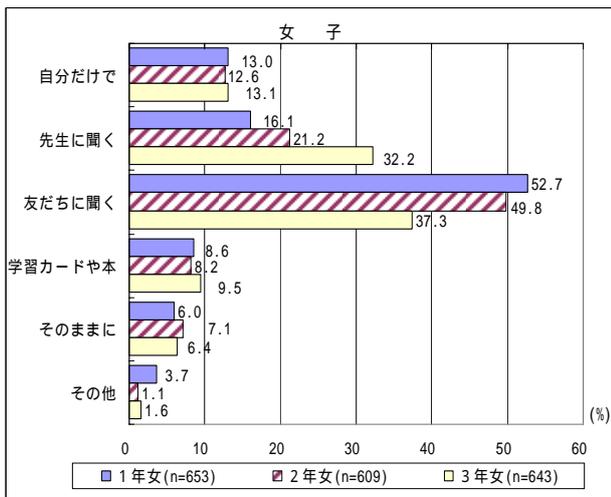


図 - (30) 平成18年度中学生調査 (女子)

3学年男女ともに「友達に聞く」が1位で、平成19年度高校生調査と同じであった。

セ 体育の学習が楽しいと感じたことがあるか
(図2-49・50)

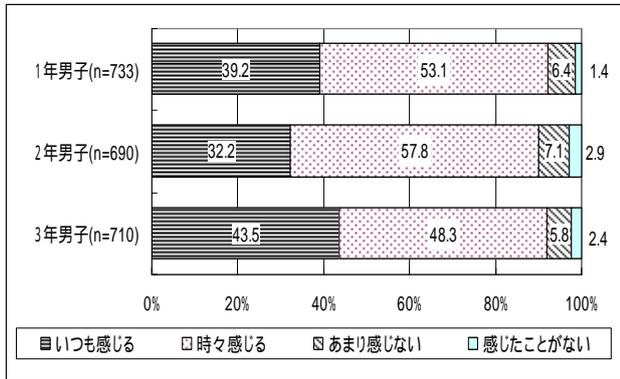


図2-49 (男子)

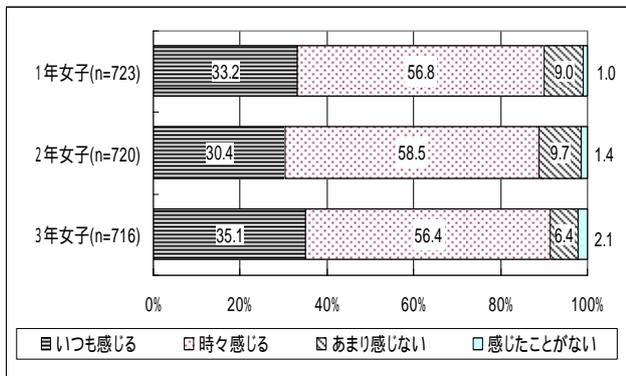


図2-50 (女子)

「いつも感じる」と「ときどき感じる」の回答を合わせると(以下「感じる群」という。)、男子は、1年生92.3%、2年生90.0%、3年生91.8%が、女子は、1年生90.0%、2年生88.9%、3年生91.5%であった。

コラム15
「体育の学習が楽しいと感じたことがあるか」
平成18年度中学生調査との比較【図-(31)】

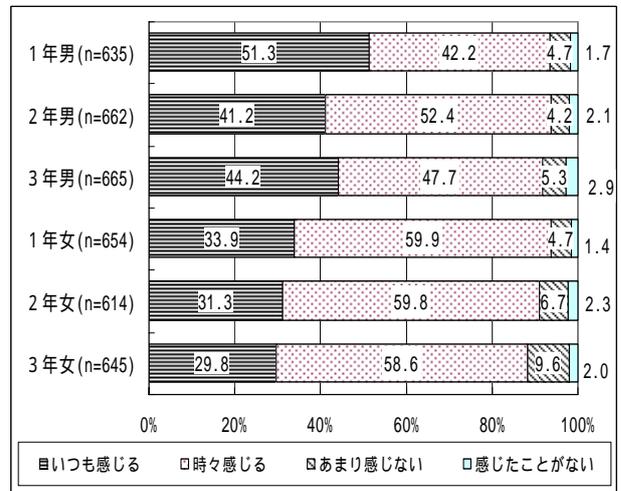


図-(31)平成18年度中学生調査

「感じる群」の男子は、1年生93.5%、2年生93.6%、3年生91.9%で、女子は、1年生93.8%、2年生91.1%、3年生88.4%であった。平成18年度中学生調査、平成19年度高校生調査ともに、多くの生徒が楽しいと感じたことがあることがわかった。

ソ 体育の学習で楽しいと感じたのはどんなときか

(図2 - 51 ~ 56)

n=736

n=725

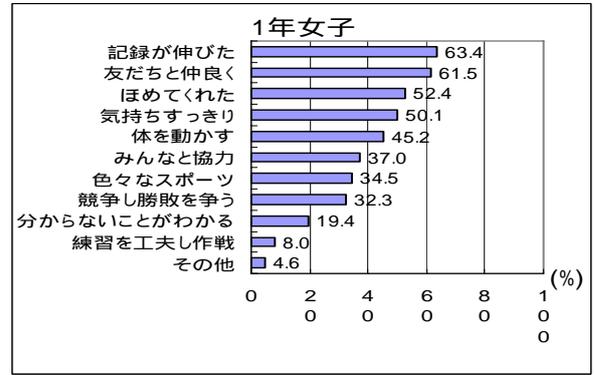
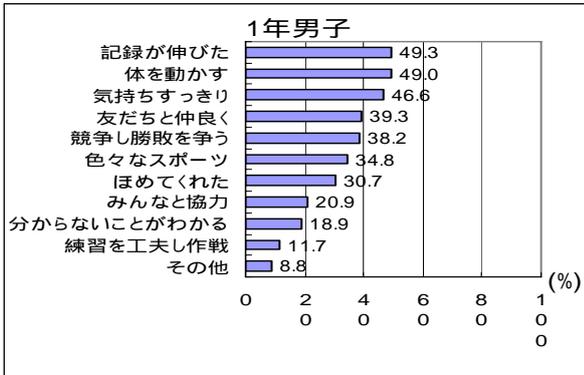


図2 - 51 (1年男子)

図2 - 52 (1年女子)

n=694

n=723

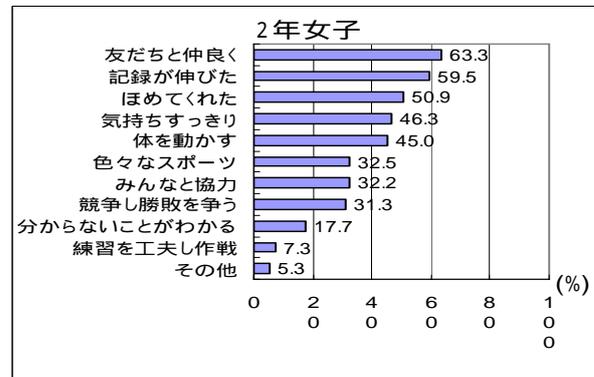
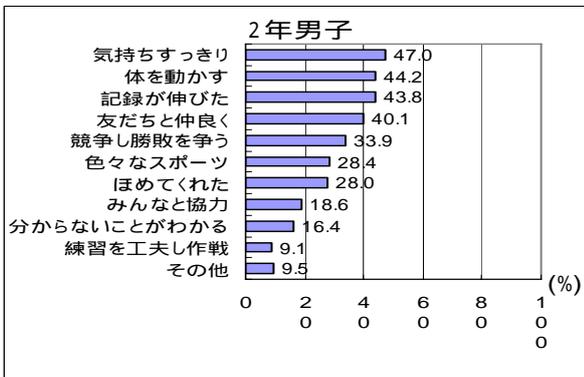


図2 - 53 (2年男子)

図2 - 54 (2年女子)

n=713

n=718

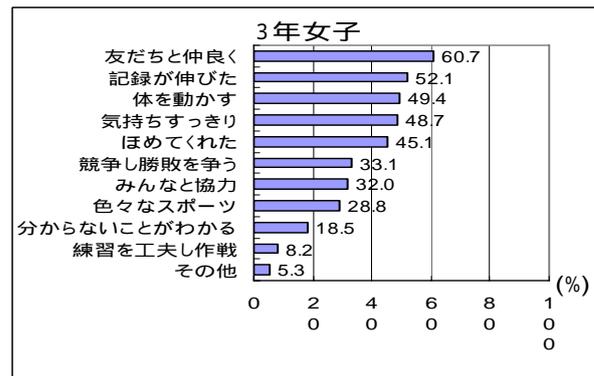
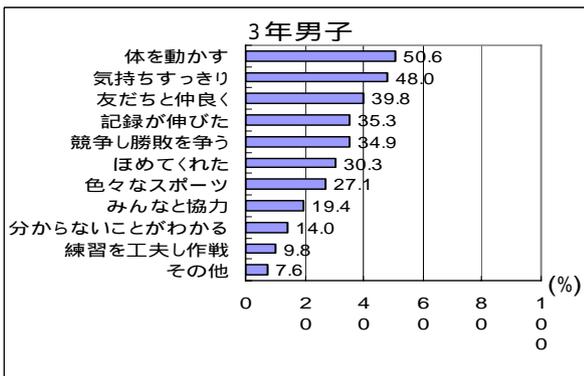


図2 - 55 (3年男子)

図2 - 56 (3年女子)

1学年は男女ともに1位は「記録が伸びたり、できなかったことができるようになったりしたとき」(以下「記録が伸びた」と言う。)で、2・3年生の男子は、1・2位を「気持ちがすっきりしたとき」(以下「気持ちすっきり」と言う。)と「思いきり体を動かすことができたとき」(以下「体を

動かす」と言う。)が占め、女子は1位が「友だちと仲よく一緒に学習できたとき」(以下「友達と一緒に」と言う。)で、2位は「記録が伸びた」であった。

コラム16

「体育の学習で楽しいと感じたのはどんなときか」
 平成18年度中学生調査・平成8年度高校生調査と
 の比較【図 - (32)～(35)】

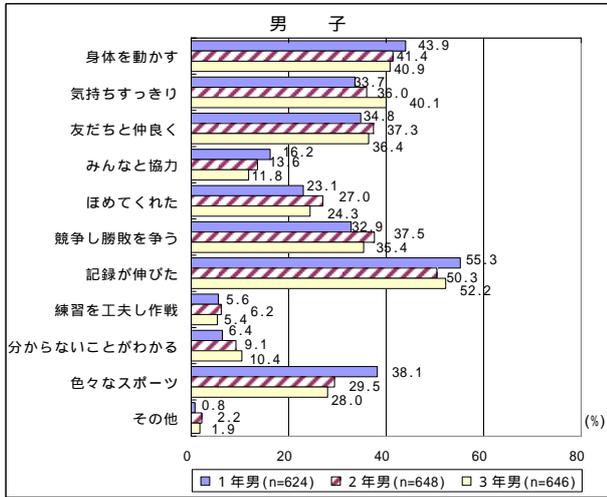


図 - (32) 平成18年度中学生調査 (男子)

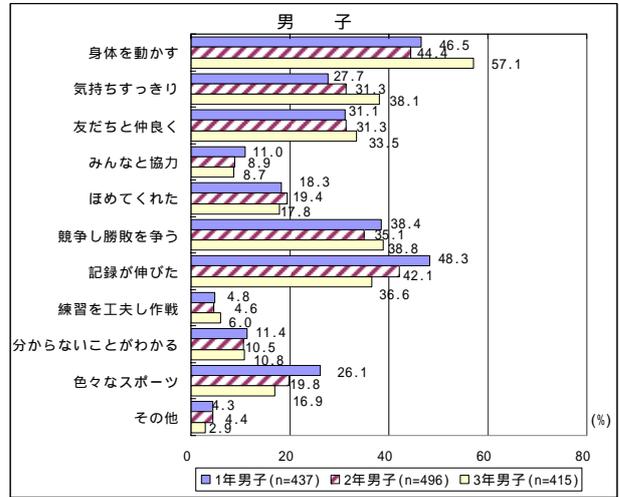


図 - (34) 平成8年度高校生調査 (男子)

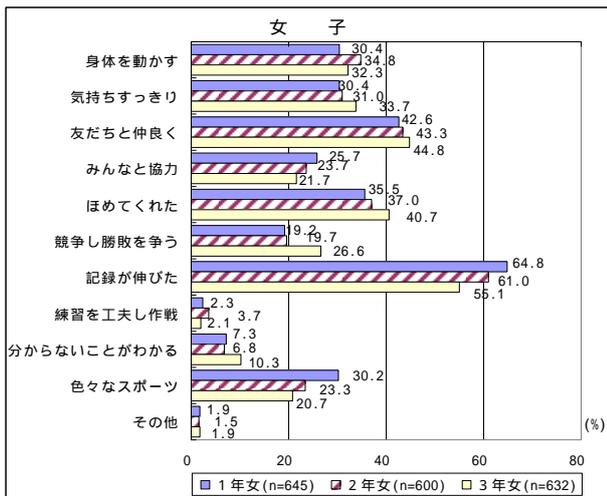


図 - (33) 平成18年度中学生調査 (女子)

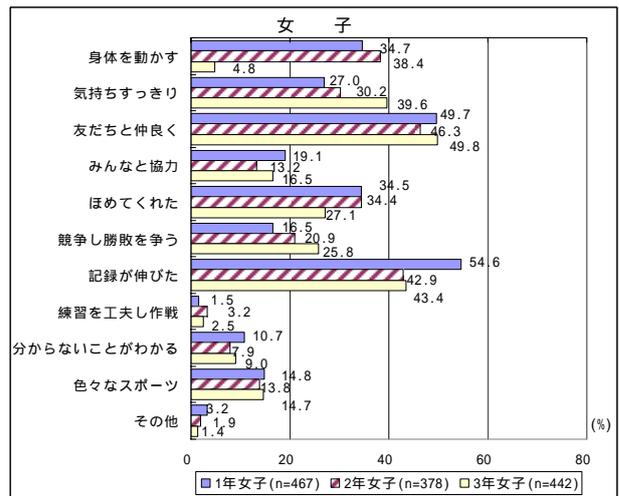


図 - (35) 平成8年度高校生調査 (女子)

平成18年度中学生調査では、3学年男女ともに「記録が伸びた」が1位であったが、平成19年度高校生調査では、1年生は男女ともに「記録が伸びた」であるが、2・3年生の男子は「気持ちすっきり」と「身体動かす」が、女子は「友達と一緒に」となっており、変化が見られる。

平成8年度高校生調査の男子1位は「身体を動かす」と「記録が伸びた」で、女子は「友達と仲よく」と「記録が伸びた」で、平成19年度高校生調査と同じであった。

タ 体育の学習がつまらないと感じたことがあるか
 (図2 - 57・58)

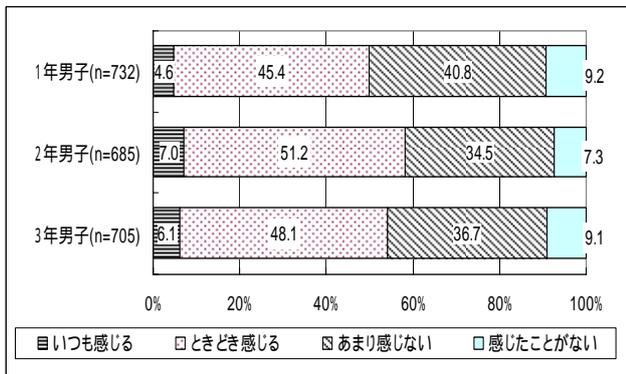


図2 - 57 (男子)

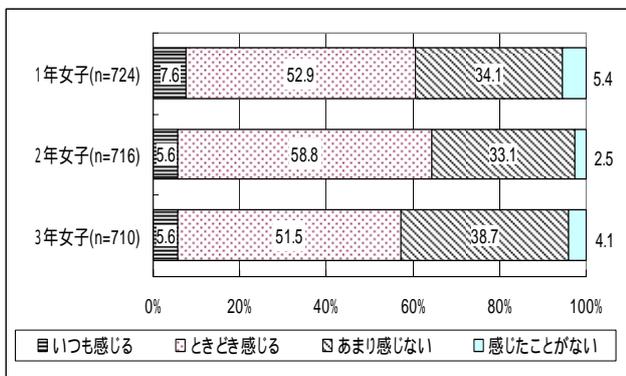


図2 - 58 (女子)

「感じる群」の男子は、1年生50.0%、2年生58.2%、3年生54.2%が、女子は、1年生60.5%、2年生64.4%、3年生57.1%であった

コラム17
 「体育の学習がつまらないと感じたことがあるか」
 平成18年度中学生調査との比較【図 - (36)】

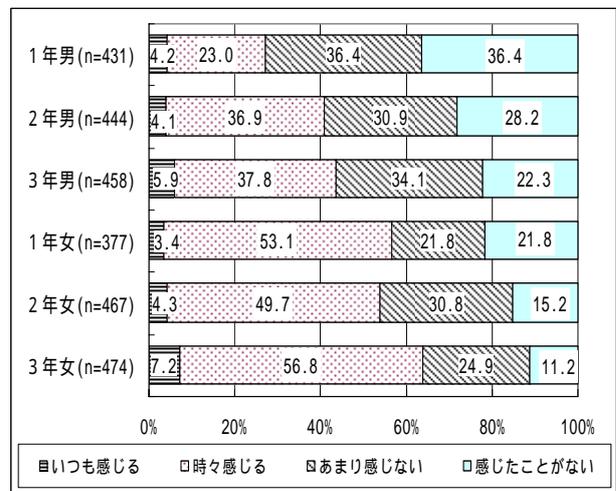


図 - (36)平成18年度中学生調査

平成18年度中学生調査の「感じる群」男子は、1年生27.2%、2年生41.0%、3年生43.7%、女子は、1年生56.5%、2年生54.0%、3年生64.0%で、学年の進行とともに増え、平成19年度高校生調査の2年生までその傾向が続き、3年生で減少している。両調査とも男子よりも女子のほうが高い。

チ 体育の学習でつまらないと感じたのはどんなときか

(図2 - 59~64)

n=736

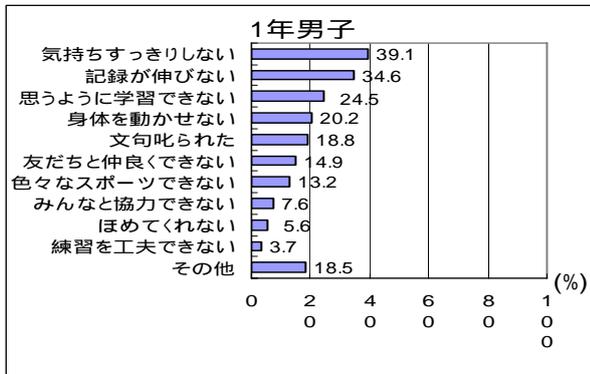


図2 - 59 (1年男子)

n=725

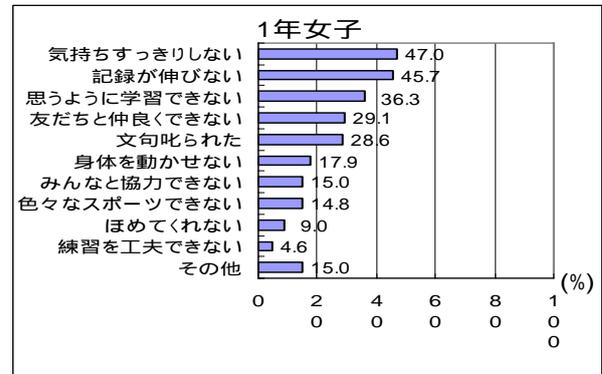


図2 - 60 (1年女子)

n=694

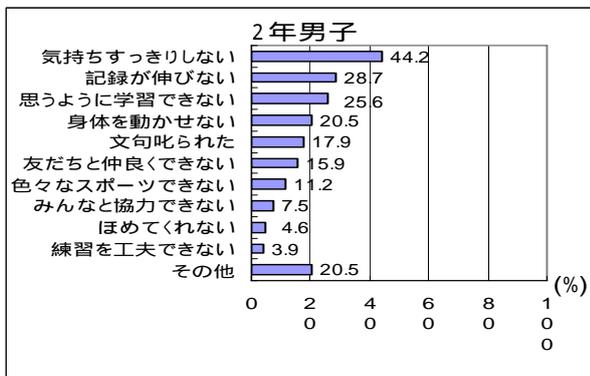


図2 - 61 (2年男子)

n=723

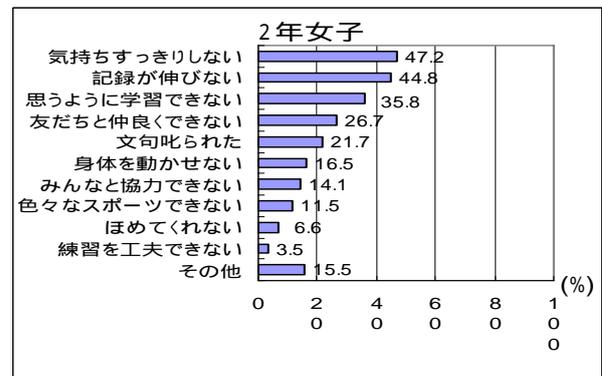


図2 - 62 (2年女子)

n=713

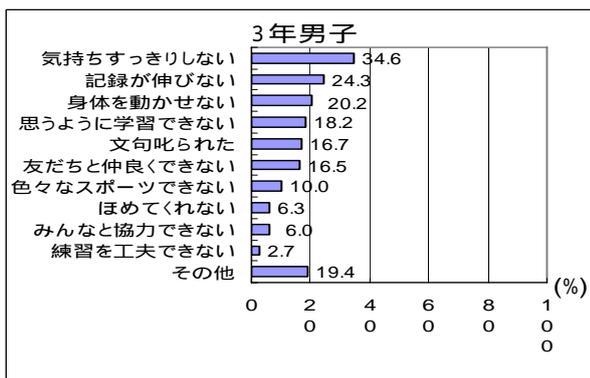


図2 - 63 (3年男子)

n=718

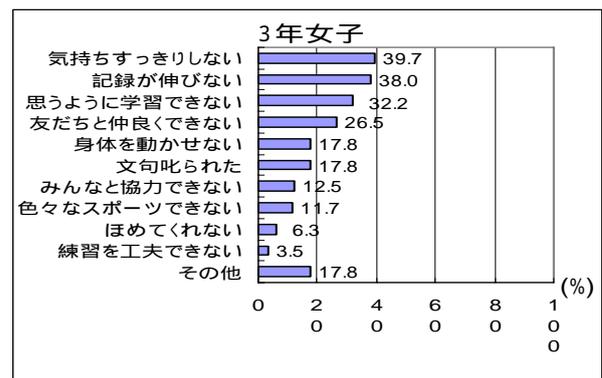


図2 - 64 (3年女子)

3学年男女とも1位は「気持ちがすっきりせず、疲れたとき」(以下「気持ちすっきりしない」と言う。)で、2位は「練習しても記録が伸びなかったり、練習してもうまくならなかったりしたとき」(以下「記録が伸びない」と言う。)で、3位には3年生男子を除いて、「運動の仕方がわからなかつ

たり、思うように学習できなかったりしたとき」(以下「思うように学習できない」と言う。)となった。

コラム18

「体育の学習でつまらないと感じたのはどんなときか」

平成18年度中学生調査・平成8年度高校生調査との比較【図 - (37)~(40)】

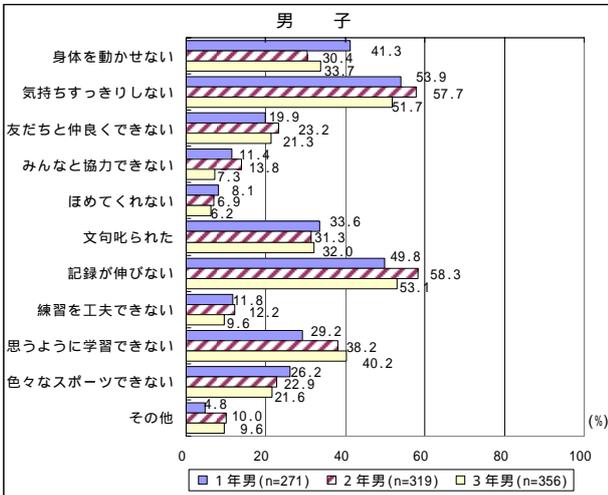


図 - (37) 平成18年度中学生調査 (男子)

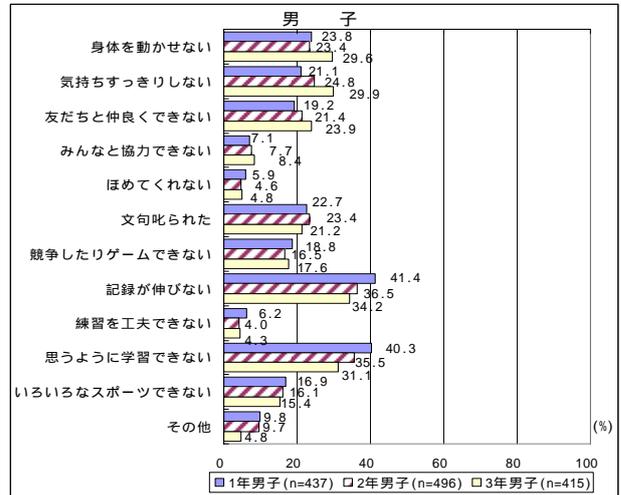


図 - (39) 平成8年度高校生調査 (男子)

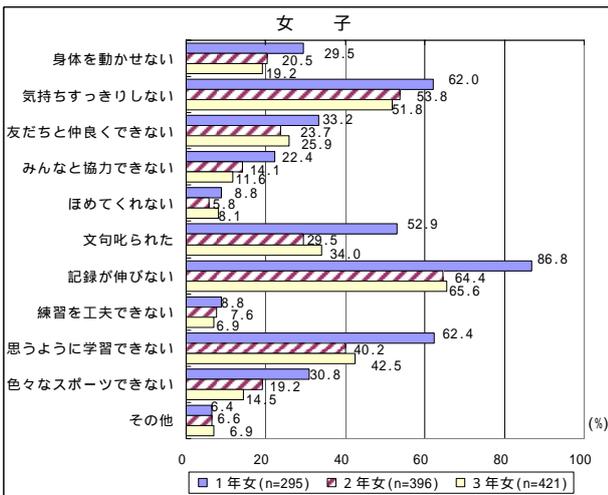


図 - (38) 平成18年度中学生調査 (女子)

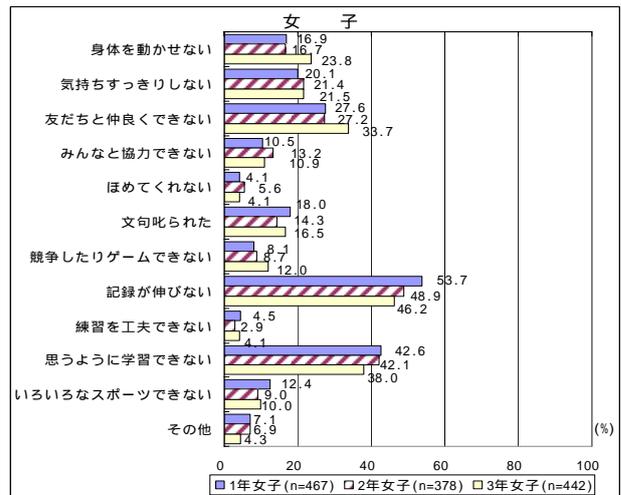


図 - (40) 平成8年度高校生調査 (女子)

平成18年度中学生調査では、1年男子を除き「記録が伸びない」が1位(1年男子は2位)で、「気持ちすっきりしない」(1年男子は1位)と続いており、平成19年度高校生調査では、1・2位が逆転している。

平成8年度高校生調査では、3学年男女ともに、「記録が伸びない」が1位で、「思うように学習できない」が続いており、平成19年度高校生調査の2・3位が上位となっている。

ツ 高校の体育で行っている運動の中で好きなものは何か
(図2 - 65 ~ 70)

n=736

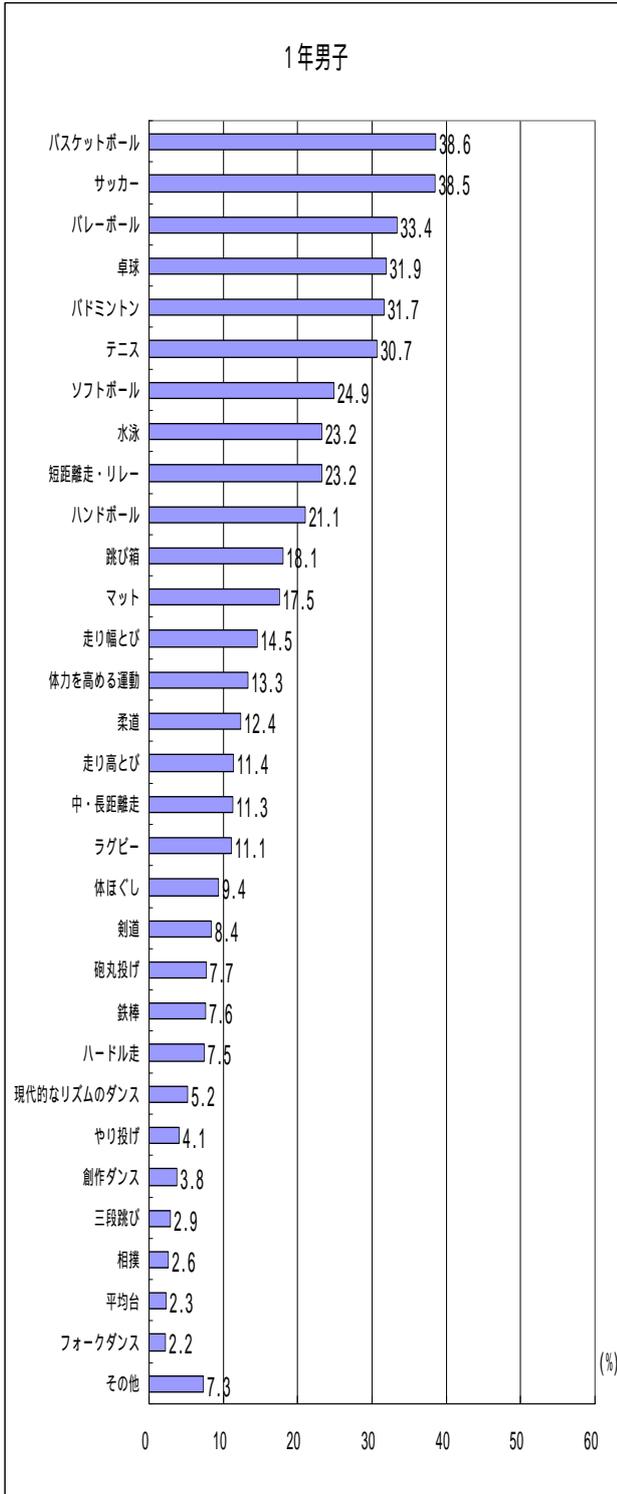


図2 - 65 (1年男子)

n=725

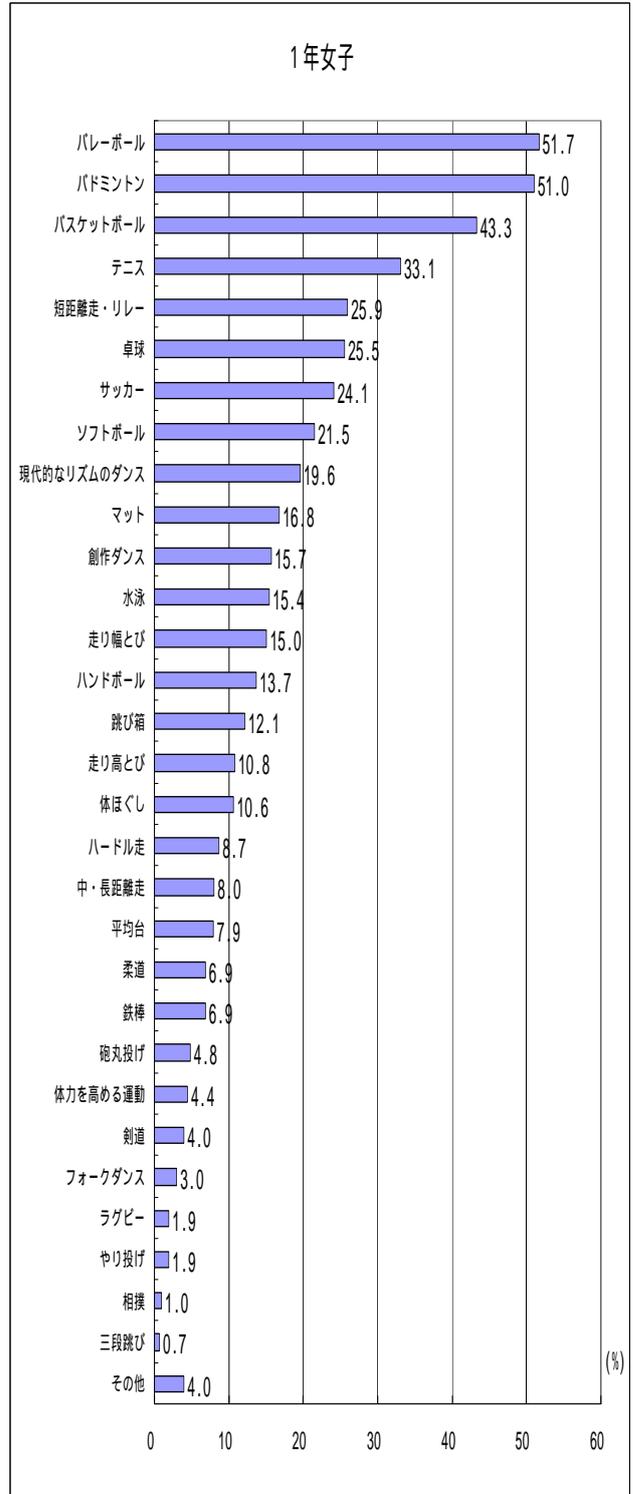


図2 - 66 (1年女子)

n=694

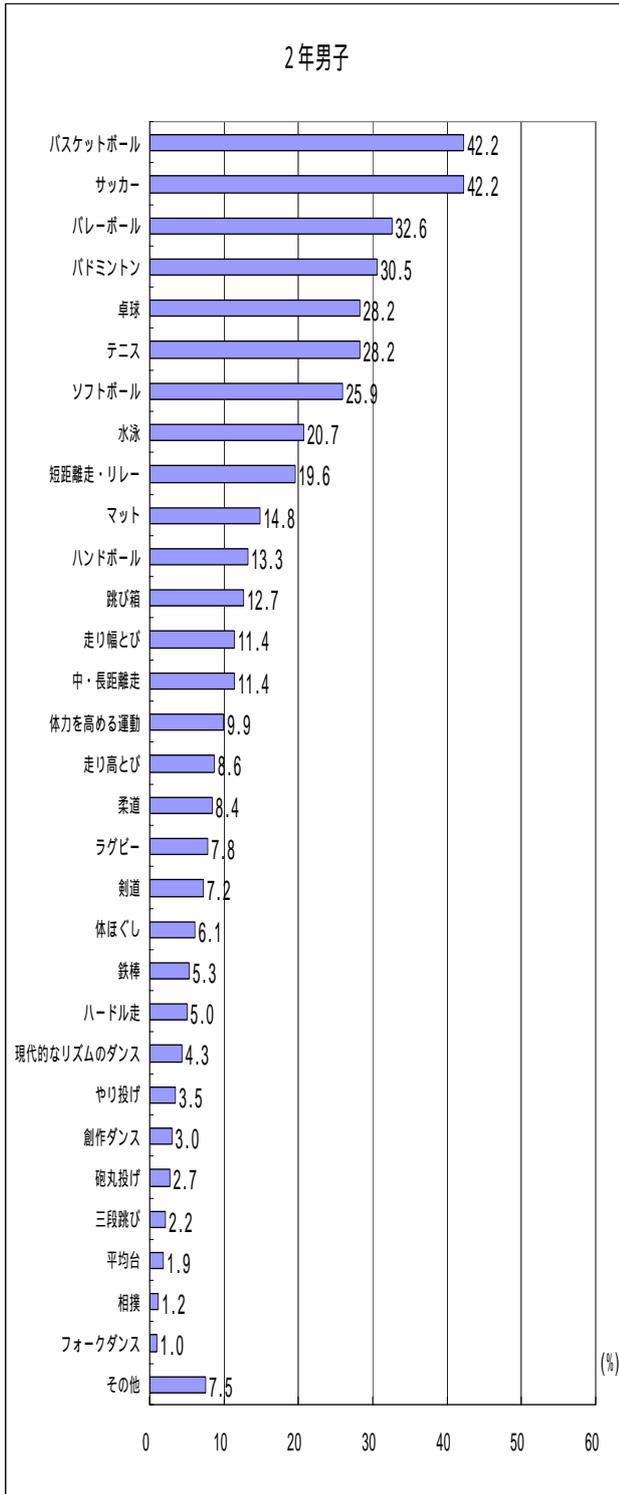


図 2 - 67 (2年男子)

n=723

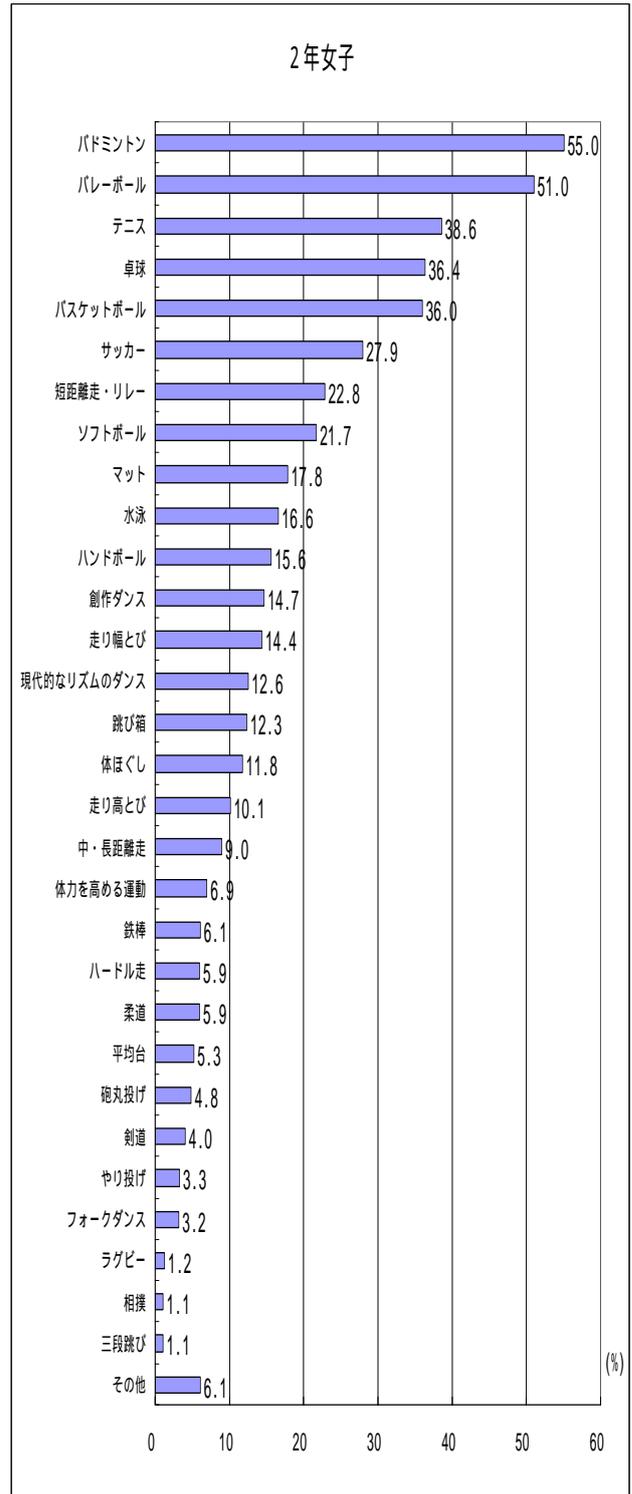


図 2 - 68 (2年女子)

n=713

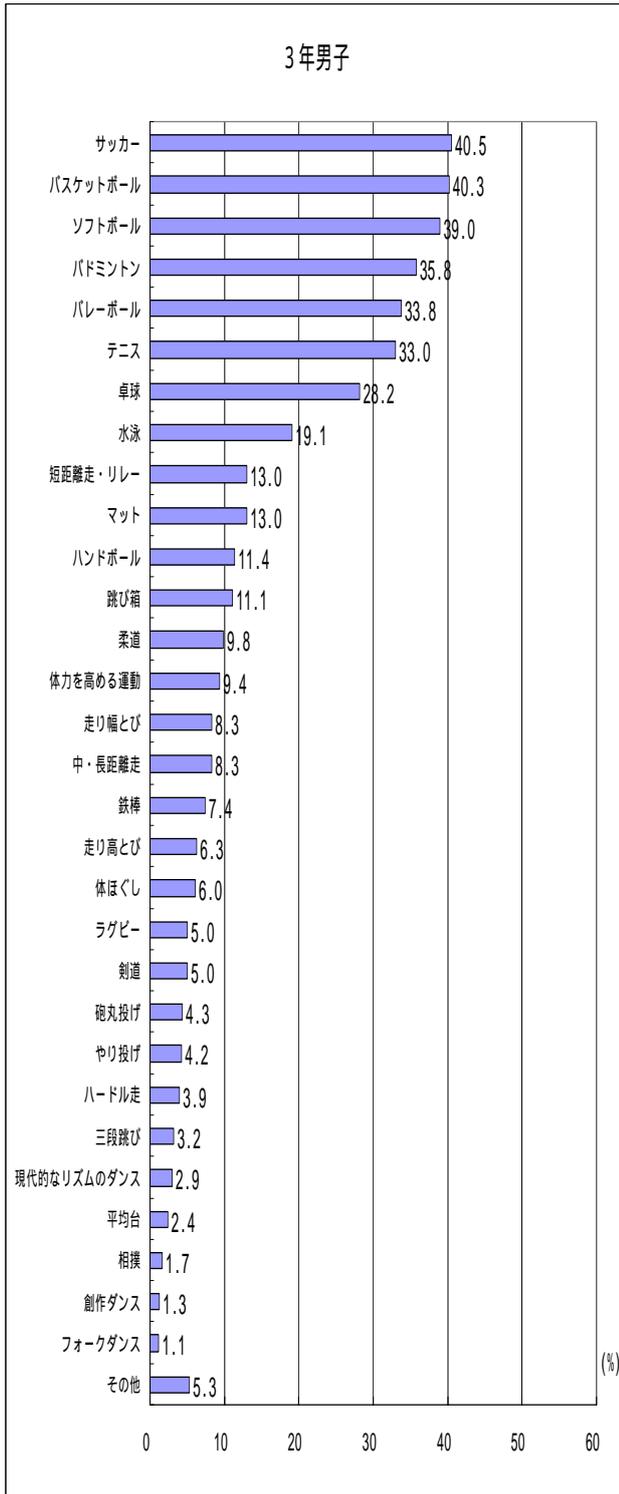


図2 - 69 (3年男子)

男子は、1年生が「バスケットボール」(以下「バスケ」と言う。) 「サッカー」 「バレーボール」 (以下「バレー」と言う。) で、2年生は「バスケ・サッカー (同率) 」 「バレー」、3年生は「サッカー」 「バスケ」 「ソフトボール」 (以下「ソフト」と言う。) の順となった。女子は、1年

n=718

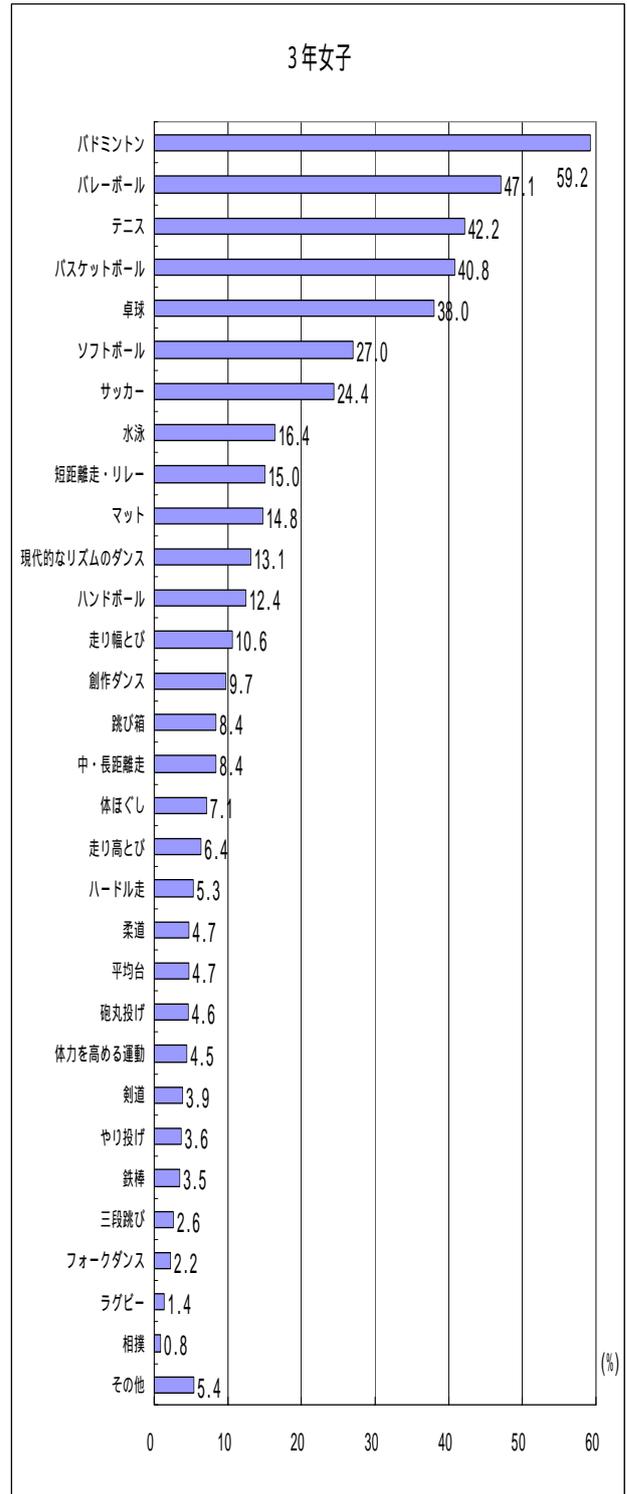


図2 - 70 (3年女子)

生が「バレー」 「バドミントン」 「バスケ」 の順で、2・3年生は「バドミントン」 「バレー」 「テニス」となった。球技が圧倒的に上位を占めている。

コラム19
「中学の体育で行っている運動の中で好きなものは何か」平成18年度中学生調査との比較（上位10種目を表示）
【図 - (41)～(46)】

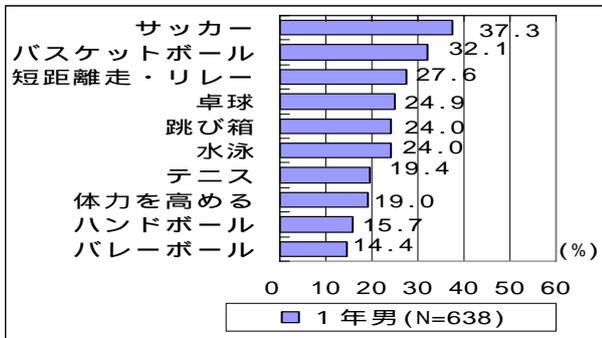


図 - (41) 平成18年度中学生調査（1年男子）

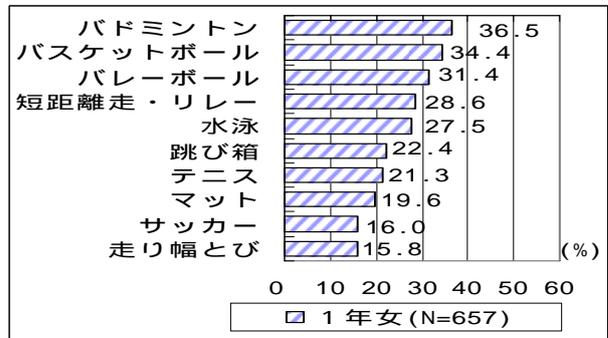


図 - (42) 平成18年度中学生調査（1年女子）

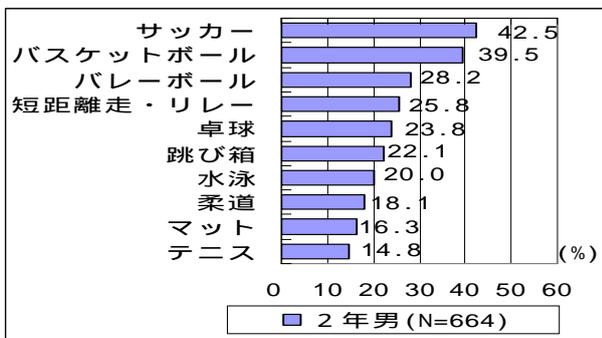


図 - (43) 平成18年度中学生調査（2年男子）

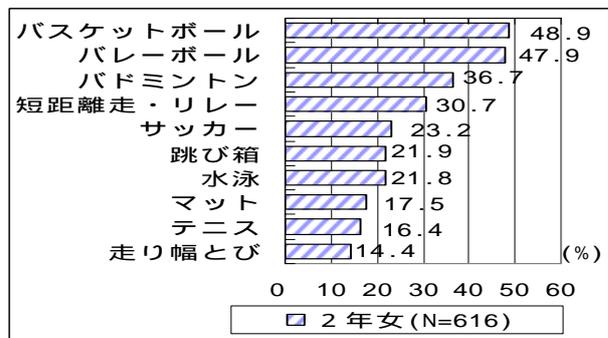


図 - (44) 平成18年度中学生調査（2年女子）

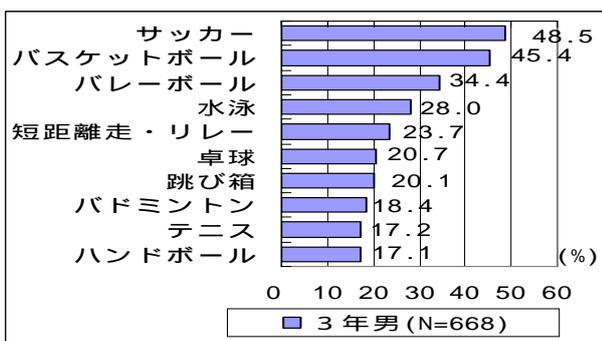


図 - (45) 平成18年度中学生調査（3年男子）

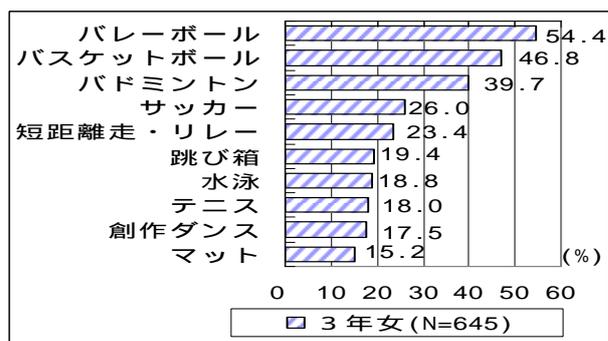


図 - (46) 平成18年度中学生調査（3年女子）

平成18年度中学生調査男子の1位は「サッカー」、2位は「バスケ」、3位は「短距離走・リレー」（1年）と「バレー」（2・3年）であった。女子の上位は、「バドミントン」「バスケ」「バレー」が占めていた。「短距離走・リレー」「跳び箱」「水泳」などの種目が、平成19年度高校生調査では、下位となっている。

テ 高校生になってから男女共習を行ったことがあるか
(図2 - 71・72)

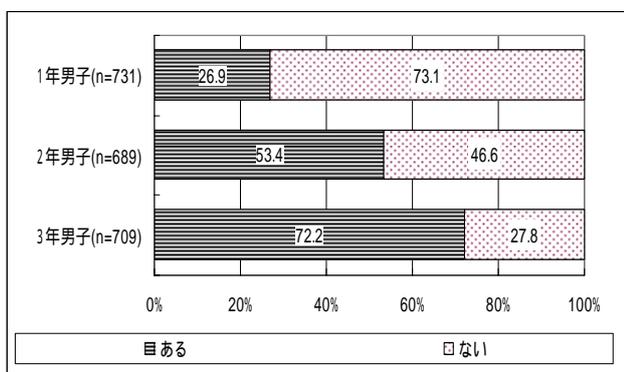


図2 - 71 (男子)

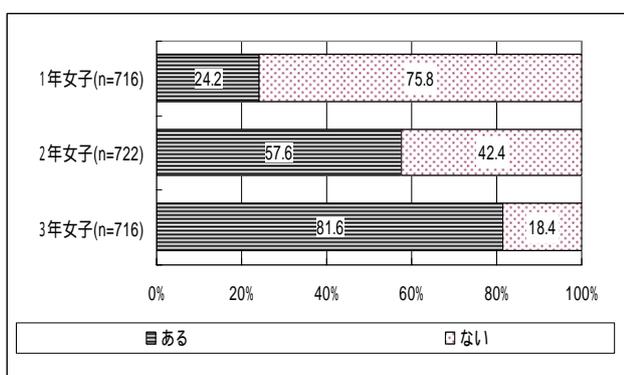


図2 - 72 (女子)

「はい」と回答した男子は、1年生26.9%、2年生53.4%、3年生72.2%で、女子は、1年生24.2%、2年生57.6%、3年生81.6%であった。

コラム20
「中学生・高校生になってから男女共習を行ったことがあるか」
平成18年度中学生調査・平成8年度高校生調査との比較【図 - (47)・(48)】

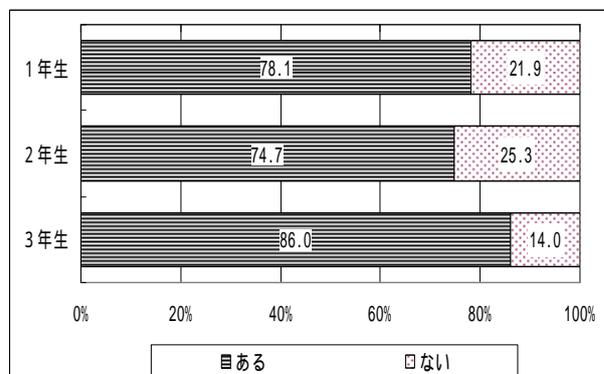


図 - (47)平成18年度中学生調査

「ある」と回答した生徒は、1年生78.1%、2年生74.7%、3年生86.0%であった。平成18年度中学生調査の中学3年生から平成19年度高校生調査の高校1年生にかけて、大きく低下している。

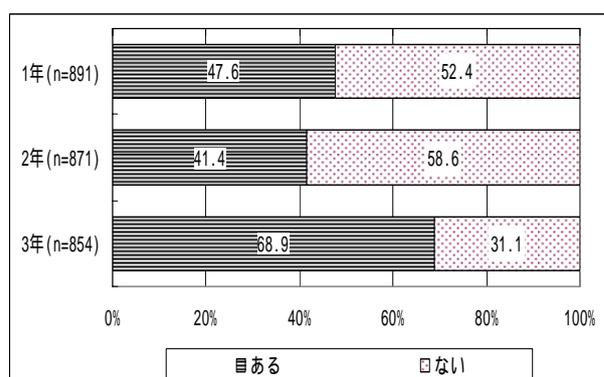


図 - (48)平成8年度高校生調査

「ある」と回答した生徒は、1年生47.6%、2年生41.4%、3年生68.9%であった。1年生の割合は、平成8年度高校生調査のほうが、平成19年度高校生調査よりも高い。

ト 男女共習についてどのように思ったか
(図2 - 73・74)

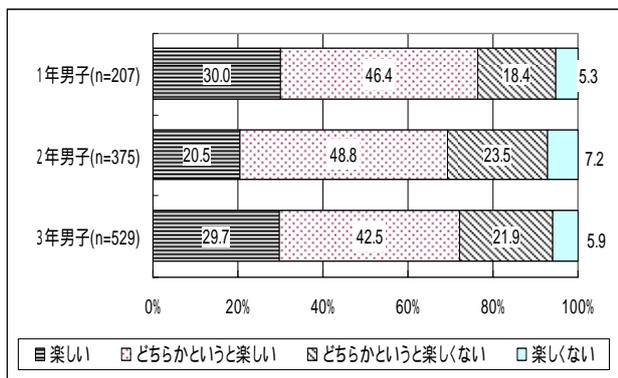


図2 - 73 (男子)

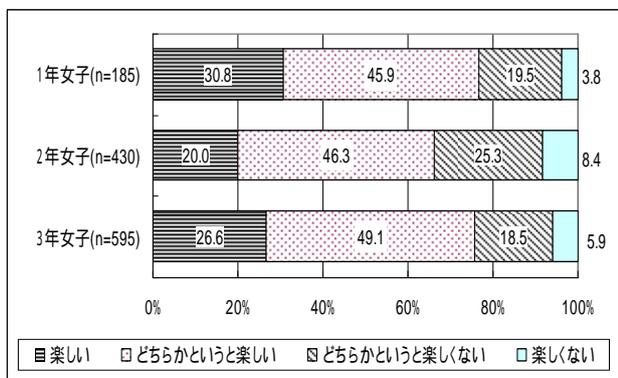


図2 - 74 (女子)

(2) - テで「はい」と回答した生徒に、男女共習についてどのように思うかたずねたところ、「楽しい」と「どちらかという楽しい」の回答を合わせると(以下「楽しい群」という。)、男子は、1年生76.4%、2年生69.3%、3年生72.2%で、女子は、1年生76.7%、2年生66.3%、3年生75.7%であった。

コラム21
「男女共習についてどのように思ったか」
平成18年度中学生調査・平成8年度高校生調査との比較【図 - (49)・(50)】

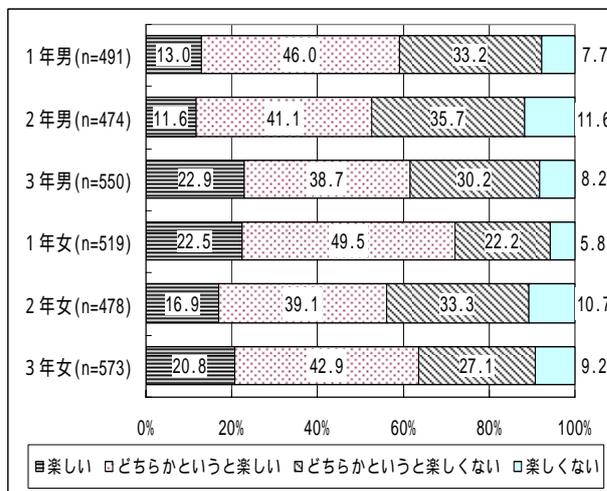


図 - (49)平成18年度中学生調査

平成18年度中学生調査の「楽しい群」男子は、1年生59.0%、2年生52.7%、3年生61.6%、女子は、1年生72.0%、2年生56.0%、3年生63.7%で、3学年とも女子のほうが高かった。

平成19年度高校生調査の方が「楽しい群」が高かった。

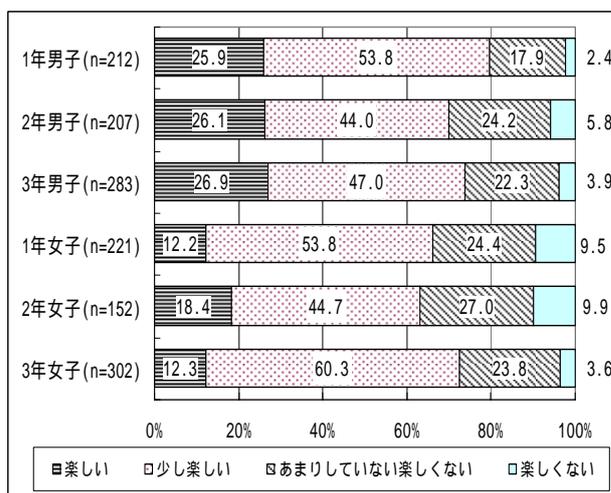


図 - (50)平成8年度高校生調査

平成8年度調査の「楽しい群」男子は、1年生79.7%、2年生70.1%、3年生73.9%、女子は、1年生66.0%、2年生63.1%、3年生72.6%で、3学年とも男子の方が高かった。

平成19年度高校生調査と比較すると、女子の「楽しい群」が低い。

ナ 男女共習が楽しいと思う理由は何か

(図2 - 75~80)

n=198

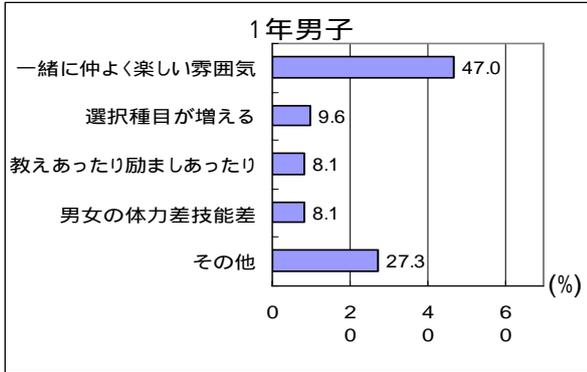


図2 - 75 (1年男子)

n=174

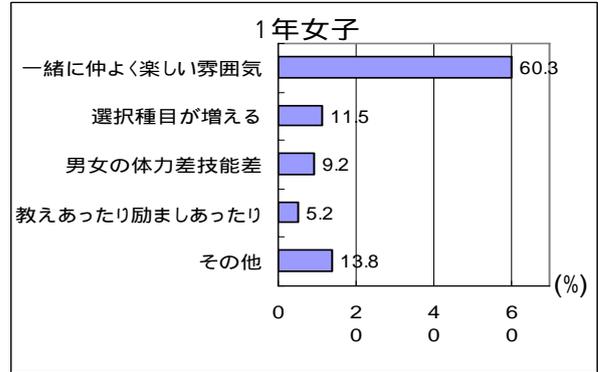


図2 - 76 (1年女子)

n=344

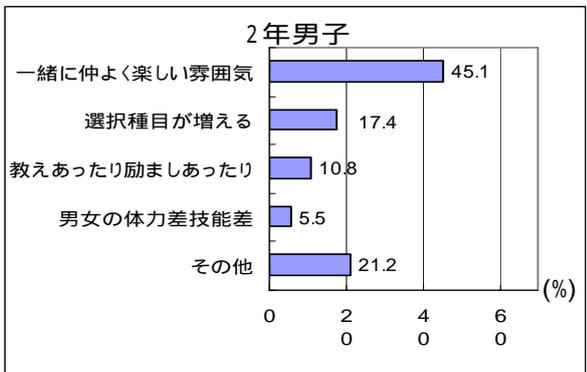


図2 - 77 (2年男子)

n=384

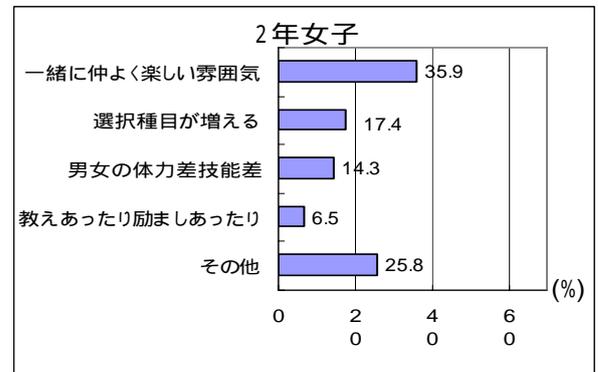


図2 - 78 (2年女子)

n=477

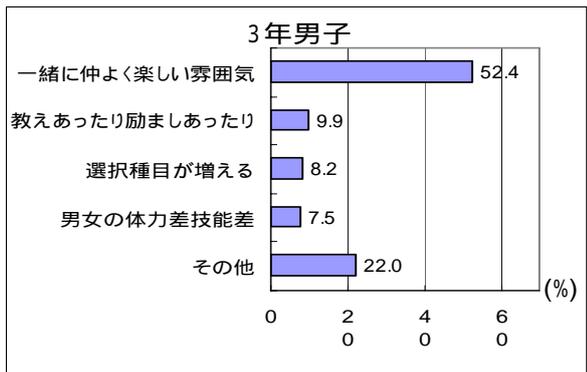


図2 - 79 (3年男子)

n=535

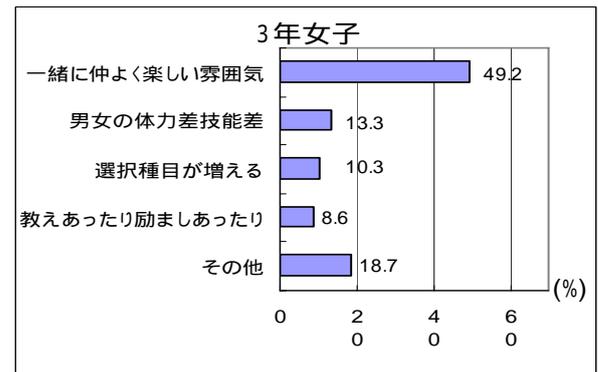


図2 - 80 (3年女子)

3学年男女とも1位は、「男女一緒に仲よく、楽しい雰囲気」で活動できるから(以下「男女一緒に楽しい」と言う。)で、男子の2位には、1・2年生で「男女共習の場合、選択できる種目が増えるから」(以下「選択種目」と言う。)が、3年生では、「男女がお互いに教えあったり、励ましあったりできるから」となった。女子の2位には、1・2年生

で「選択種目」が、3年生では「男女の体力差、技能差などを克服する工夫が協力してできるから」(以下「体力・技能差克服」と言う。)となった。「体力・技能差克服」は、女子の1・2年の3位にもあがっている。

コラム22

「男女共習が楽しいと思う理由は何か」平成18年度中学生調査・平成8年度高校生調査との比較

【図 - (51) ~ (54)】

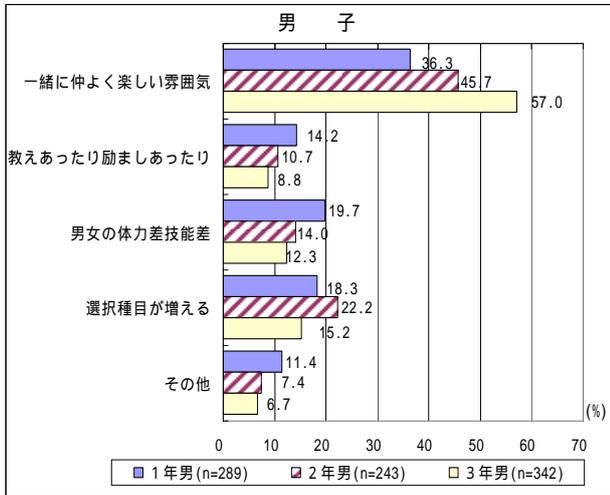


図 - (51) 平成18年度中学生調査 (男子)

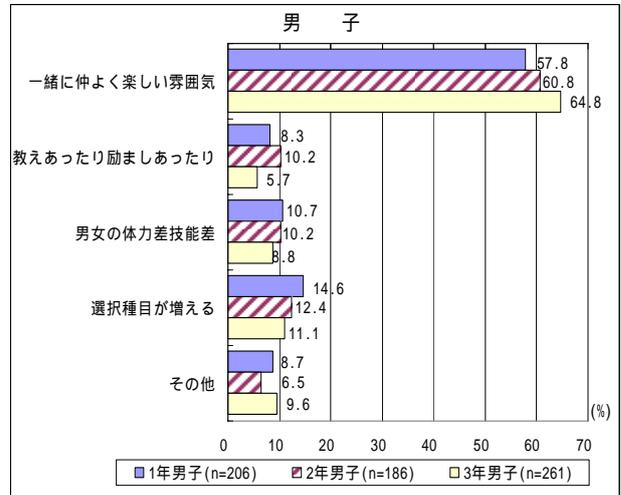


図 - (53) 平成8年度高校生調査 (男子)

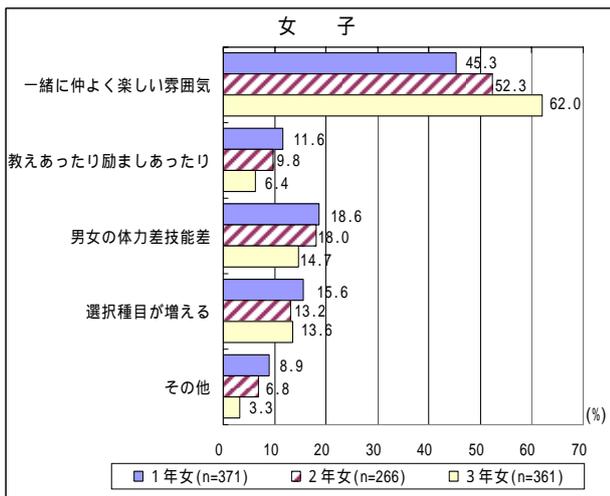


図 - (52) 平成18年度中学生調査 (女子)

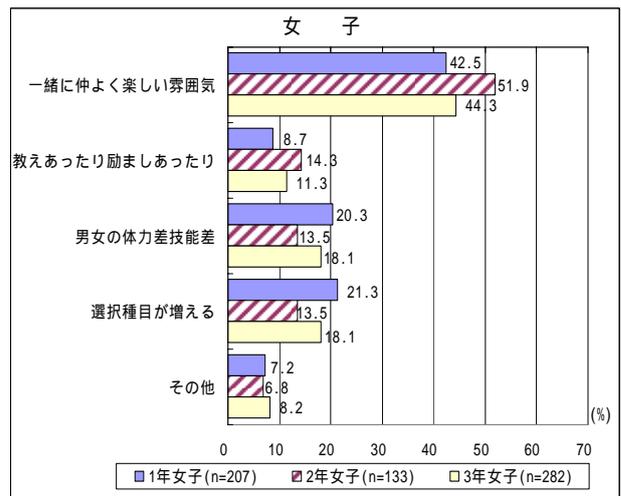


図 - (54) 平成8年度高校生調査 (女子)

平成18年度中学生調査と平成8年度高校生調査の3学年男女ともに、「男女一緒に楽しい」が1位で、「選択種目」「体力・技能差克服」が上位を占めており、平成19年度高校生調査でも変わっていませんでした。

二 男女共習が楽しくないと思う理由は何か
(図2 - 81 ~ 86)

n=162

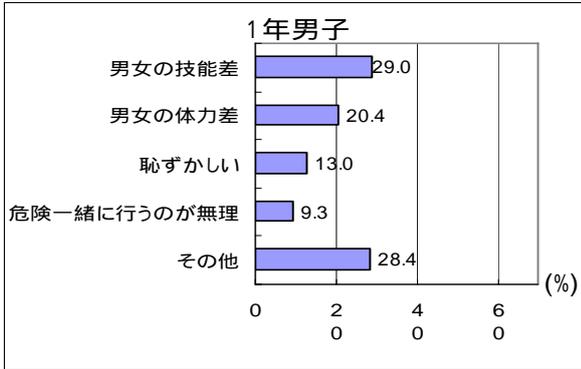


図2 - 81 (1年男子)

n=146

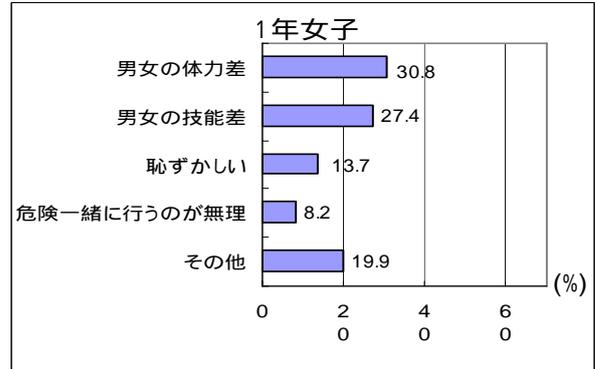


図2 - 82 (1年女子)

n=312

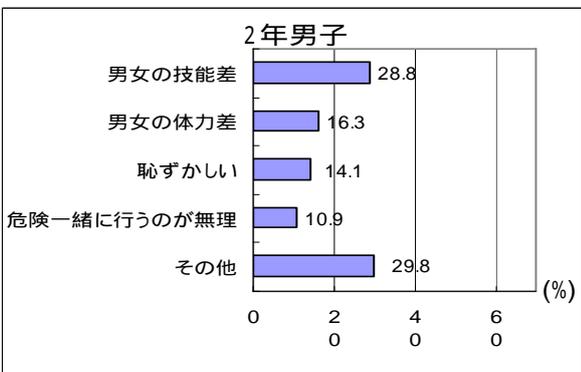


図2 - 83 (2年男子)

n=343

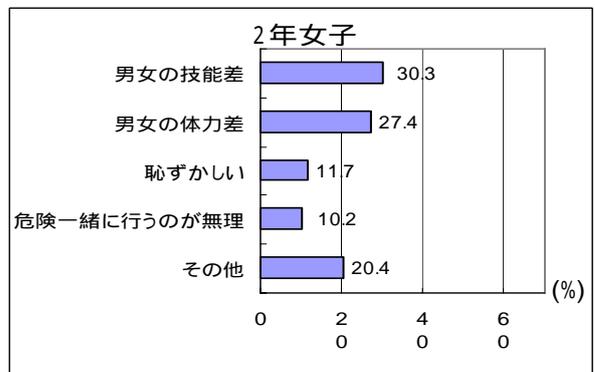


図2 - 84 (2年女子)

n=449

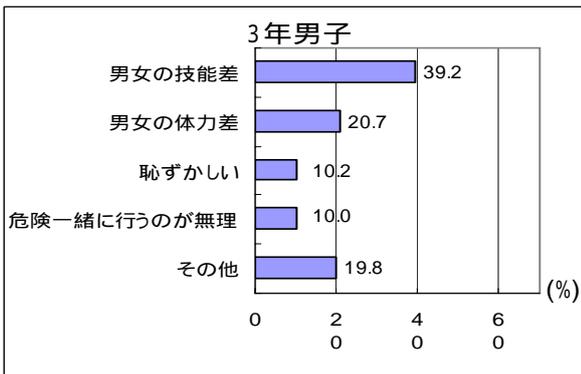


図2 - 85 (3年男子)

n=467

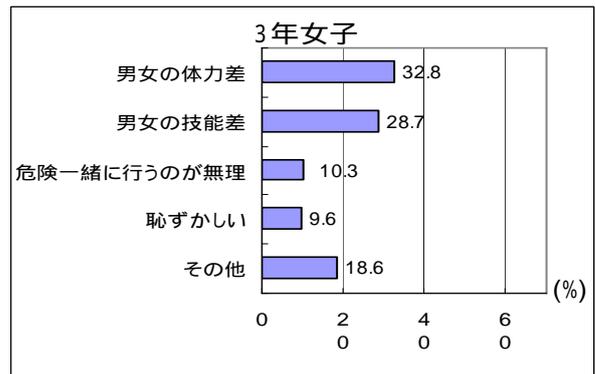


図2 - 86 (3年女子)

各学年男女とも「男女の技能差などがあり、思いきり活動(運動)できないから」(以下「男女の技能差」と言う。)と「男女の体力差がはっきりしてしまうから」(以下「男女の体力差」と言う。)が上位にあげられている。

コラム23

「男女共習が楽しくないと思う理由は何か」平成18年度中学生調査との比較【図 - (55)・(56)】

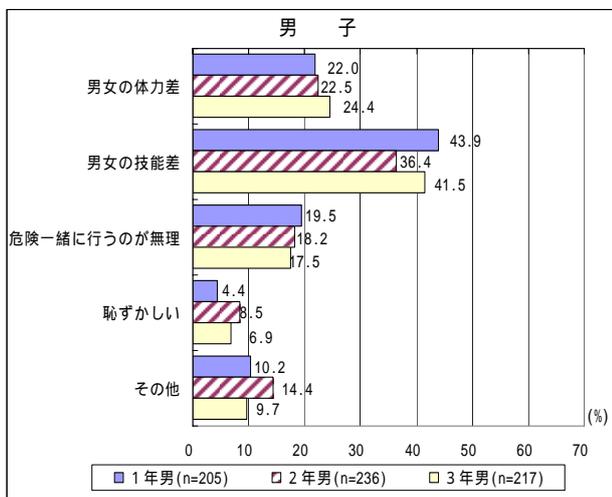


図 - (55) 平成18年度中学生調査 (男子)

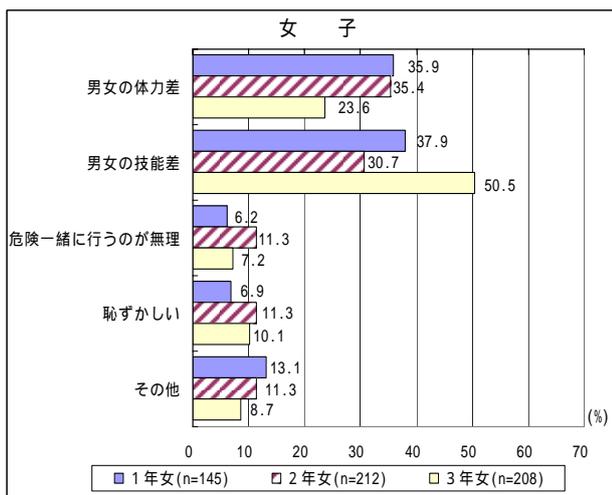


図 - (56) 平成18年度中学生調査 (女子)

平成18年度中学生調査では、「男女の技能差」「男女の体力差」が1位・2位を占めており、平成19年度高校生調査でも変わっていない。

又 男女共習を行ってみたいと思いますか
 (図 2 - 87・88)

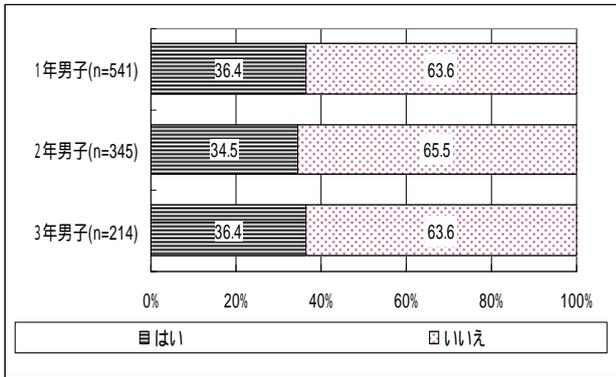


図 2 - 87 (男子)

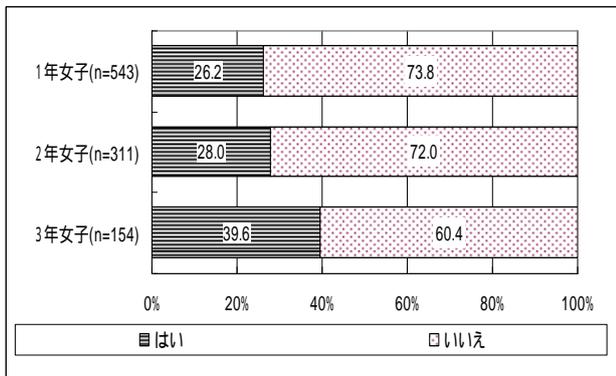


図 2 - 88 (女子)

(2) - テで「いいえ」と回答した生徒に、男女共習を行ってみたいと思うかたずねたところ、「はい」と回答した男子は、1年生36.4%、2年生34.5%、3年生36.4%が、女子は、1年生26.2%、2年生28.0%、3年生39.6%であった。

	コラム24	
	「男女共習を行ってみたいと思いますか」平成18	
	年度中学生調査との比較【図 - (57)】	

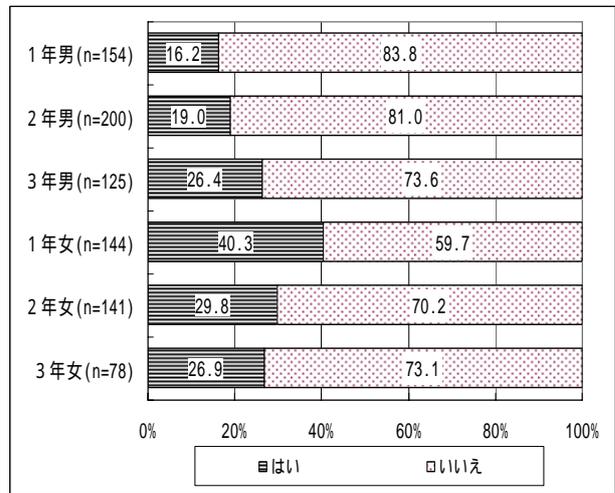


図 - (57)平成18年度中学生調査

平成18年度中学生調査では、「はい」と回答した男子は、1年生16.2%、2年生19.0%、3年生26.4%で、女子は、1年生40.3%、2年生29.8%、3年生26.9%と全学年女子のほうがやや多かったが、平成19年度高校生調査では、1・2年生で男子の方が多かった。

ネ 体育の学習でけがをしないためにどんなことを心がけているか
(図2 - 89~94)

n=736

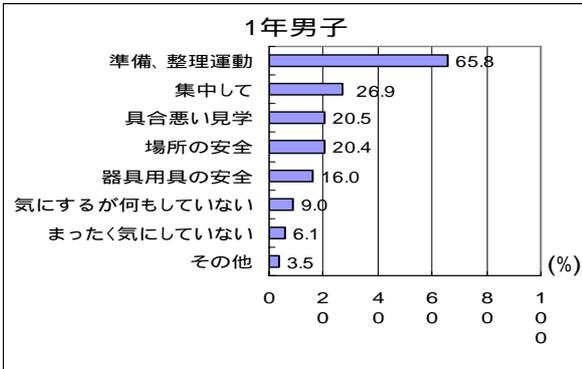


図2 - 89 (1年男子)

n=725

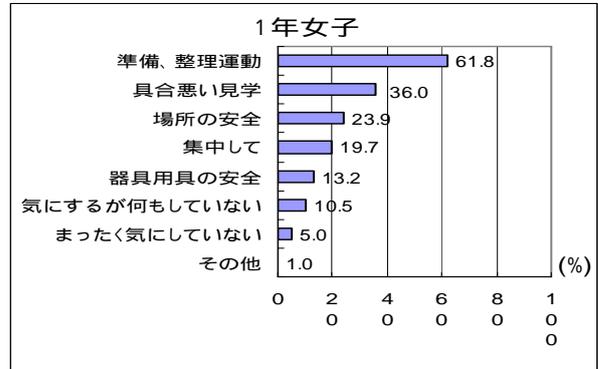


図2 - 90 (1年女子)

n=694

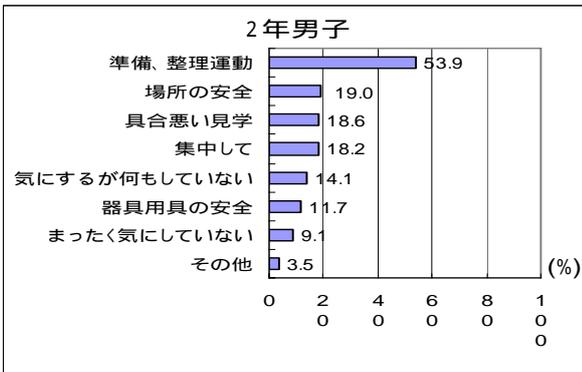


図2 - 91 (2年男子)

n=723

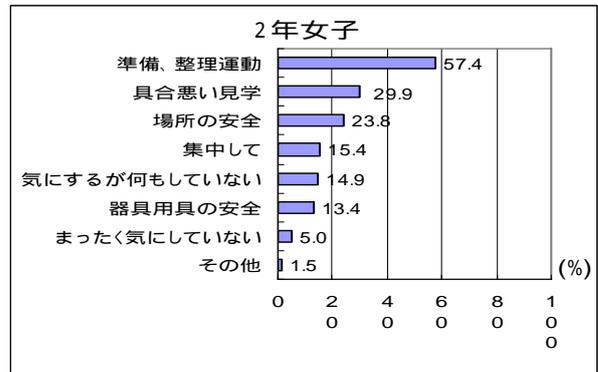


図2 - 92 (2年女子)

n=713

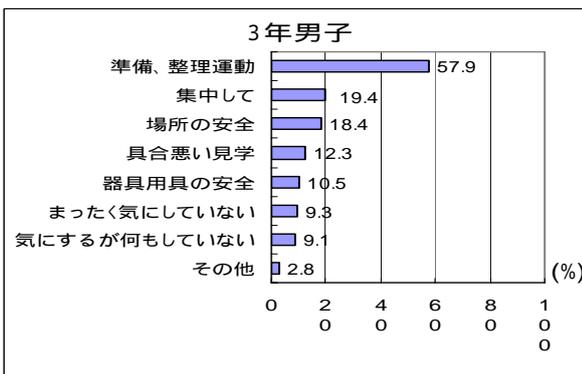


図2 - 93 (3年男子)

n=718

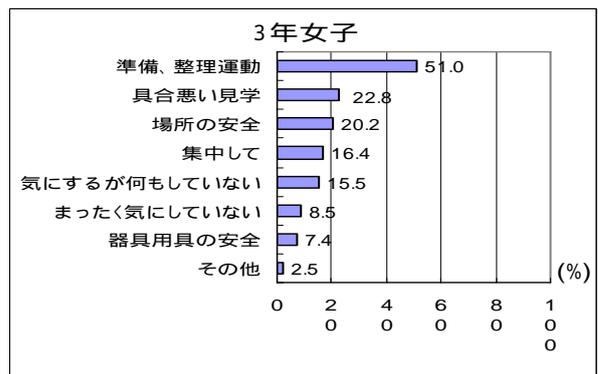


図2 - 94 (3年女子)

各学年男女とも1位は、「準備運動や整理運動を十分している」(以下「準備、整理運動」と言う。)で、男子の2位には、「気を抜かないで、集中して取り組むようにしている」と「周りの人や活動する場所の安全を確かめている」が、女子の2位には、「具合が悪かったり、病気やけがのときは見

学したりしている」(以下「具合悪い見学」と言う。)となった。

コラム25

「体育の学習でけがをしないためにどんなことを心がけているか」平成18年度中学生調査・平成8年度高校生調査との比較【図 - (58)～(61)】

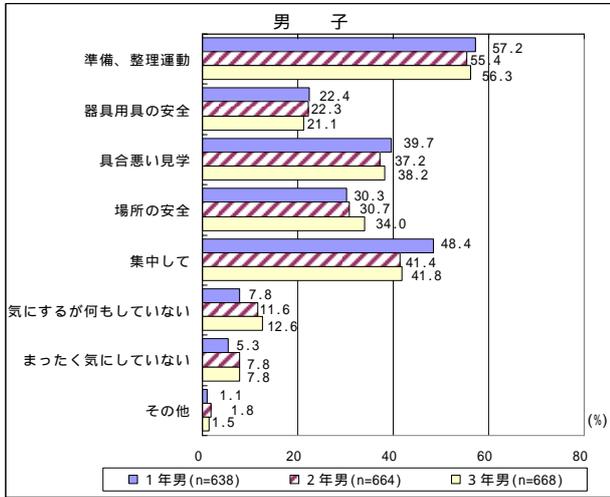


図 - (58) 平成18年度中学生調査 (男子)

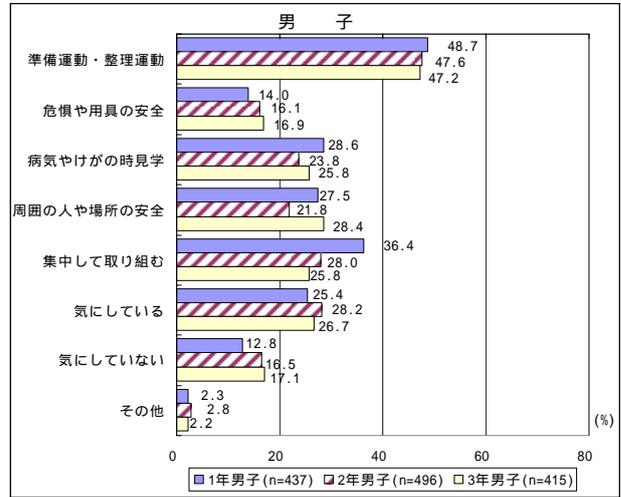


図 - (60) 平成8年度高校生調査

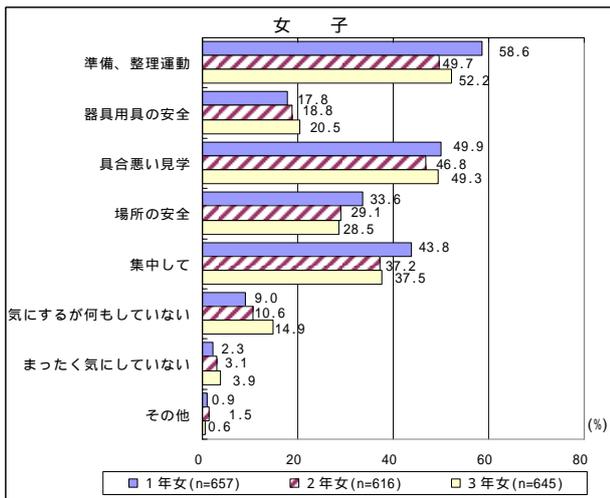


図 - (59) 平成18年度中学生調査 (女子)

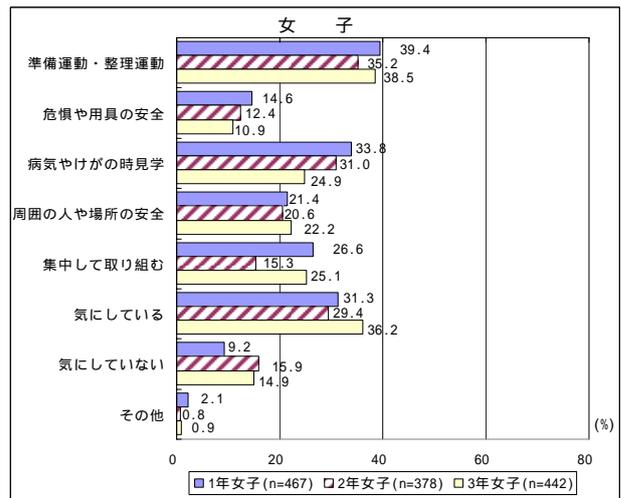


図 - (61) 平成8年度高校生調査

平成18年度中学生調査では、3学年男女ともに「準備、整理運動」が1位で、「具合悪い見学」「集中して」が続いており、平成19年度高校生調査と同じであった。

平成8年度高校生調査では、3学年男女ともに「準備、整理運動」が1位で、平成19年度高校生調査と同じであったが、「気にはしているが、何もしていない」が平成19年度高校生調査よりも上位にある。

(3) 体育の学習以外の運動への取り組みについて
 ア 学校で休み時間や放課後に運動をしているか
 (図2 - 95・96)

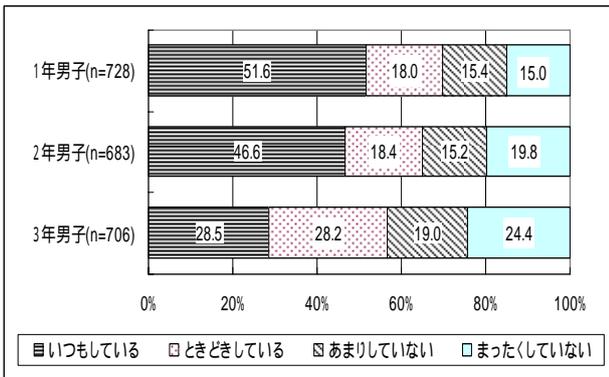


図2 - 95 (男子)

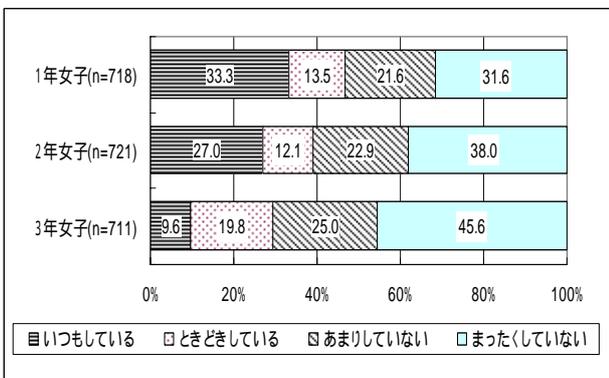


図2 - 96 (女子)

「いつもしている」と「ときどきしている」の回答を合わせると(以下「している群」という。)、男子は、1年生69.6%、2年生65.0%、3年生56.7%で、女子は、1年生46.8%、2年生39.1%、3年生29.4%であった。

コラム26
 「学校で休み時間や放課後に運動をしているか」
 平成18年度中学生調査との比較【図 - (62)】

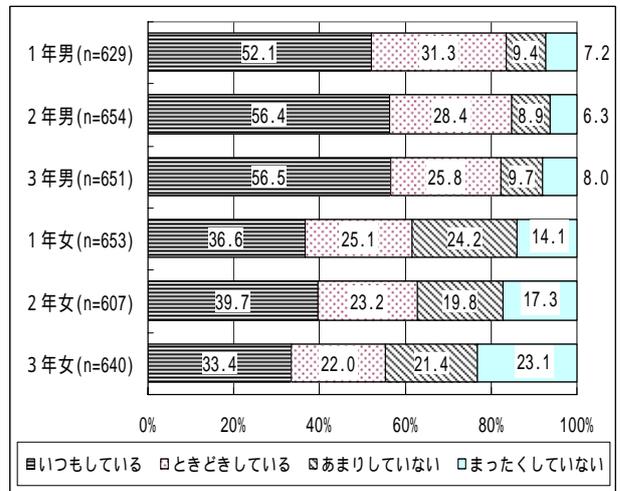


図 - (62) 平成18年度中学生調査

平成18年度中学生調査の「している群」の男子は、1年生83.4%、2年生84.8%、3年生82.3%、女子は、1年生61.7%、2年生62.9%、3年生55.4%で、平成19年度高校生調査よりも高かった。また両調査とも男子のほうが女子よりも高かった。

イ なぜ休み時間や放課後に運動をしているのか
(図2 - 97 ~ 102)

n=507

n=336

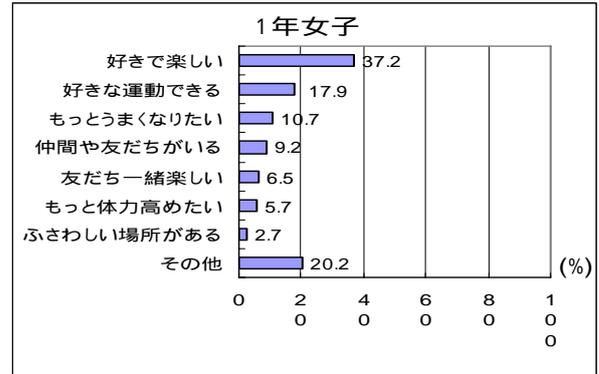
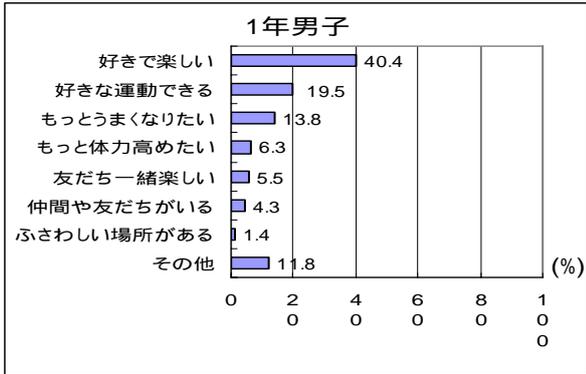


図2 - 97 (1年男子)

図2 - 98 (1年女子)

n=444

n=282

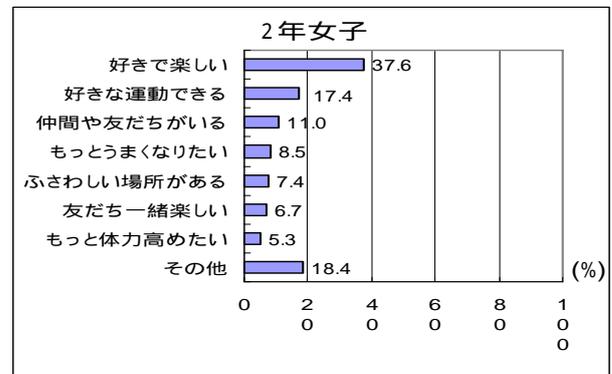
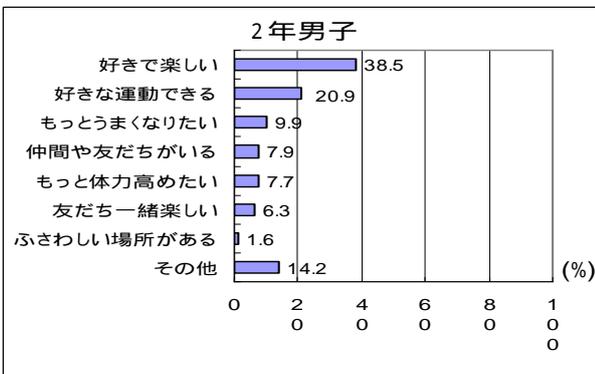


図2 - 99 (2年男子)

図2 - 100 (2年女子)

n=400

n=209

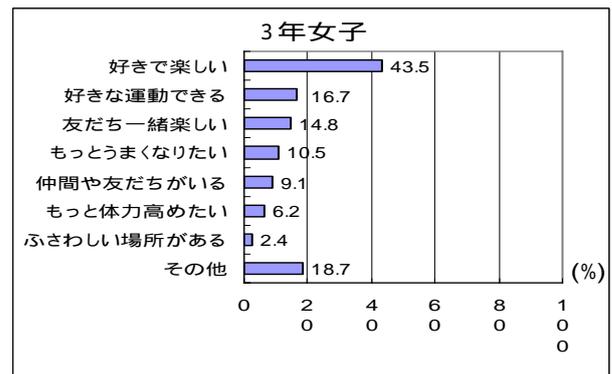
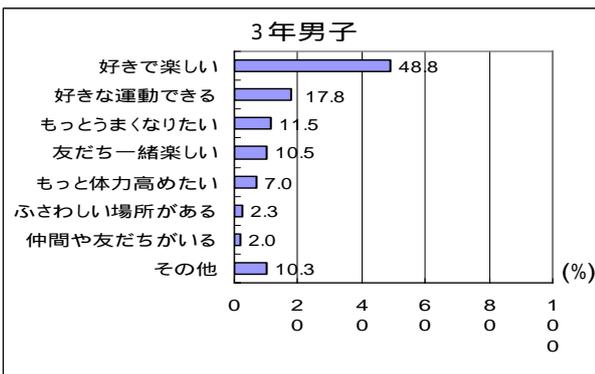


図2 - 101 (3年男子)

図2 - 102 (3年女子)

(3) - アで「している群」と回答した生徒に、なぜ休み時間や放課後に運動をしているかたずねたところ、男子は、各学年男女とも1位は「運動することが好きで楽しいから」で、2位は「好きな運動ができるから」となった。

コラム27

「なぜ休み時間や放課後に運動をしているのか」
平成18年度中学生調査との比較

【図 - (63)・(64)】

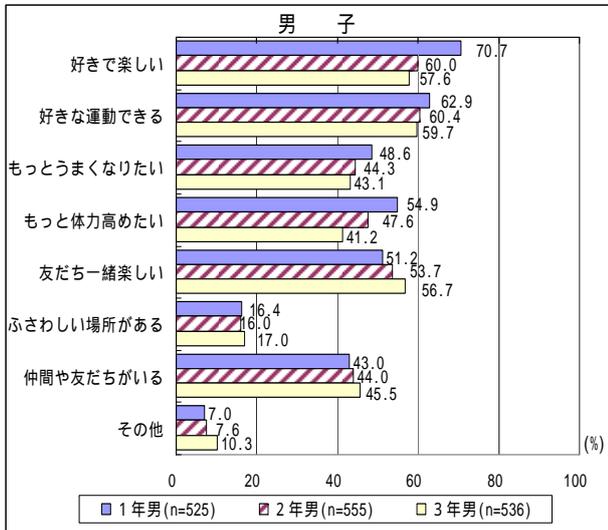


図 - (63) 平成18年度中学生調査 (男子)

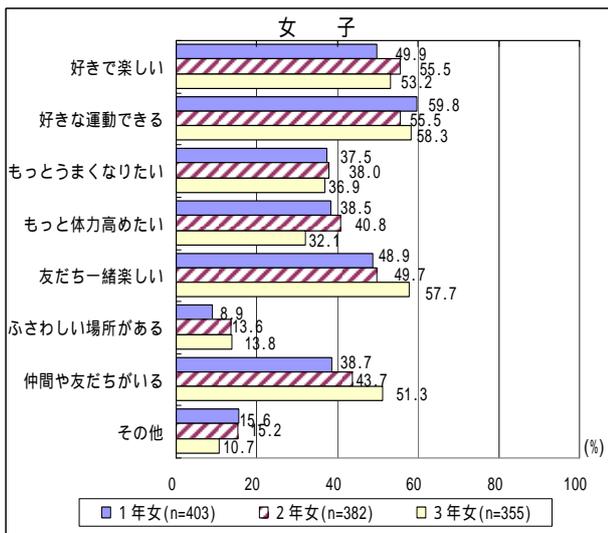


図 - (64) 平成18年度中学生調査 (女子)

両調査とも、「好きな運動ができるから」と「運動することが好きで楽しいから」が上位2位となった。次には、「友達と一緒にゲームや運動をすると楽しい」が多いが、高校男子は、「運動がもっとうまくなりたいから」となっている。

ウ なぜ休み時間や放課後に運動をしていないのか
(図2 - 103 ~ 108)

n=221

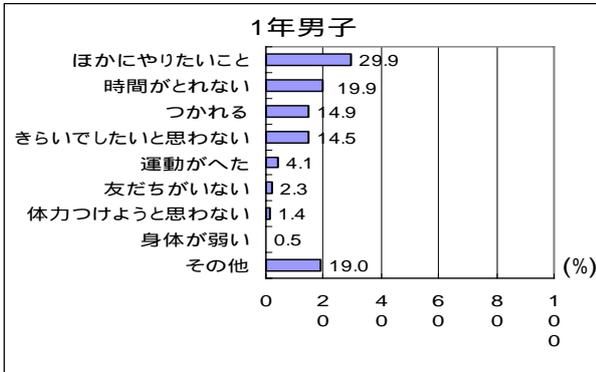


図2 - 103 (1年男子)

n=382

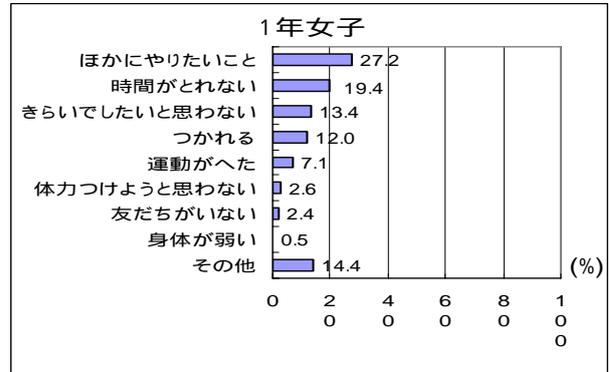


図2 - 104 (1年女子)

n=239

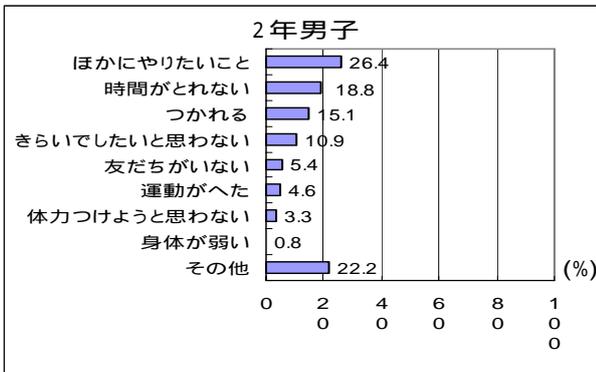


図2 - 105 (2年男子)

n=439

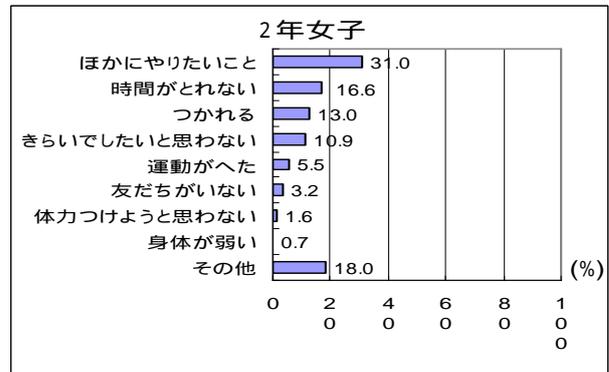


図2 - 106 (2年女子)

n=306

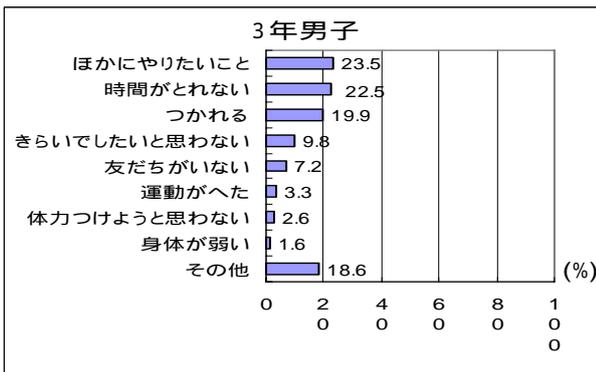


図2 - 107 (3年男子)

n=502

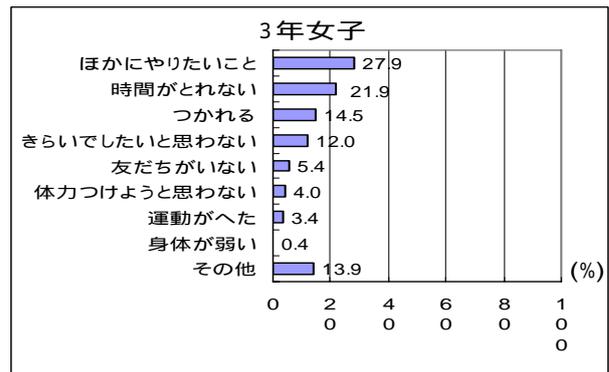


図2 - 108 (3年女子)

(3) - アで「あまりしていない」と「まったくしていない」と回答した生徒(以下「していない群」という。)に、なぜ休み時間や放課後に運動をしていないかたずねたところ、各学年男女とも1位は、「他にやりたいことがあるから」(以下「他にやりたいこと」という。)で、2位は、「勉強や次の準備

で時間がとれないから」(以下「時間がとれない」という。)が、3位は、1年生女子を除いて「運動をすると疲れるから」(以下「疲れる」という。)となった。

コラム28

「なぜ休み時間や放課後に運動をしていないのか」
平成18年度中学生調査との比較

【図 - (65)・(66)】

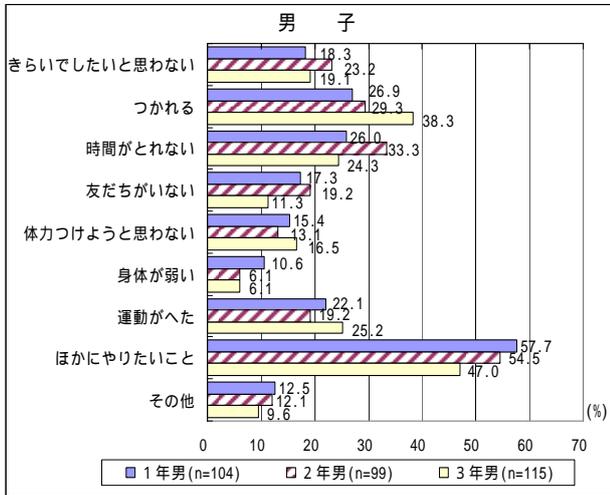


図 - (65)平成18年度中学生調査（男子）

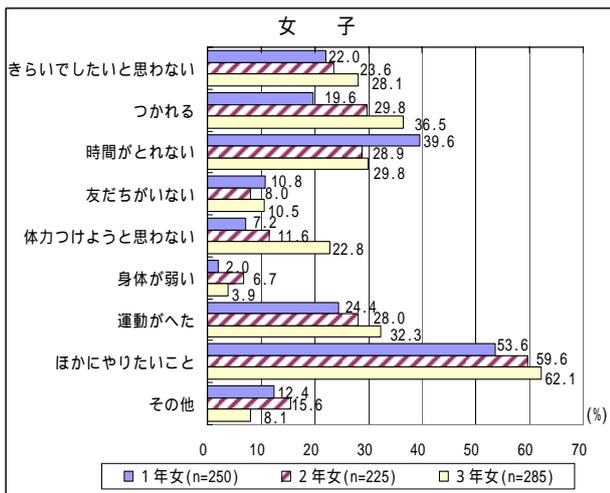


図 - (66)平成18年度中学生調査（女子）

両調査とも1位は、「他にやりたいこと」で、「時間がとれない」「疲れる」と続いている。

エ 運動部活動に入っているか

(図2 - 109・110)

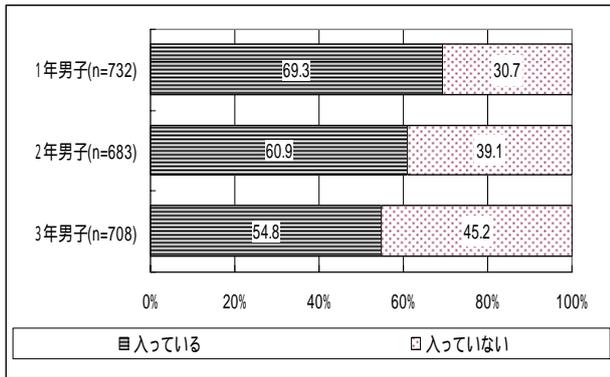


図2 - 109 (男子)

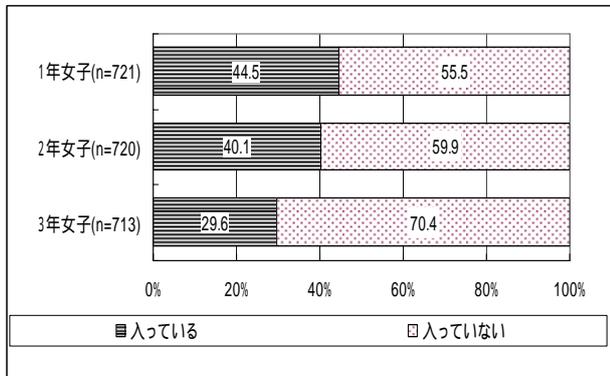


図2 - 110 (女子)

「はい」と回答した生徒の男子は、1年生69.3%、2年生60.9%、3年生54.8%で、女子は、1年生44.5%、2年生40.1%、3年生29.6%であった。男女ともに、高い入部率を示している。

男子の方が女子よりも入部率が高く、男女とも学年の進行とともに減少している。

参考

表 - 1 平成19年度県立高校全日制過程部活動入部率 (保健体育課調べ)

男子	女子	全体
54.1%	32.6%	43.3%

コラム29 「運動部活動に入っているか」 平成18年度中学生調査・平成8年度高校生調査との比較【図 - (67)・(68)】

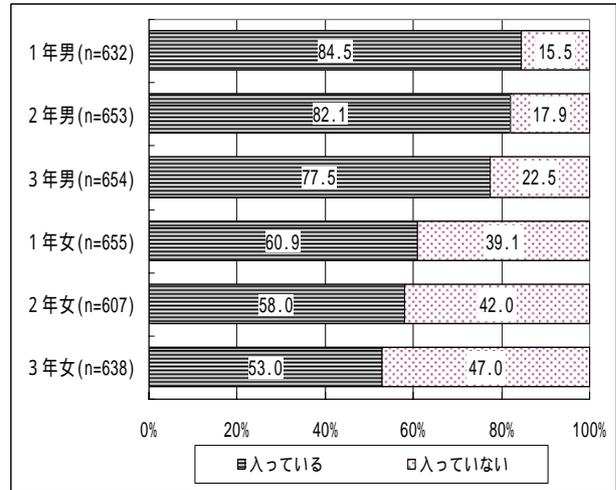


図 - (67)平成18年度中学生調査

平成18年度中学生調査の男子の入部率は、1年生84.5%、2年生82.1%、3年生77.5%で、女子は、1年生60.9%、2年生58.0%、3年生53.0%で、平成19年度高校生調査と同様に、入部率は男子の方が高く、学年の進行とともに減少している。

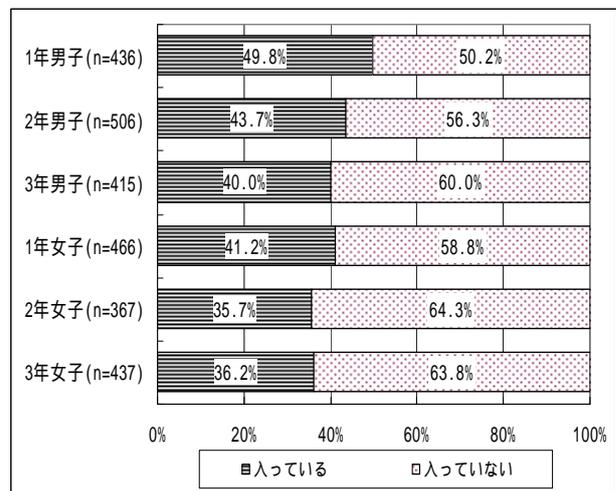


図 - (68)平成8年度高校生調査

平成8年度高校生調査の男子の入部率は、1年生49.8%、2年生43.7%、3年生40.0%で、女子は、1年生41.2%、2年生35.7%、3年生36.2%で、平成19年度高校生調査よりも低い。

オ 学校外のスポーツクラブに入っているか
(図2 - 111・112)

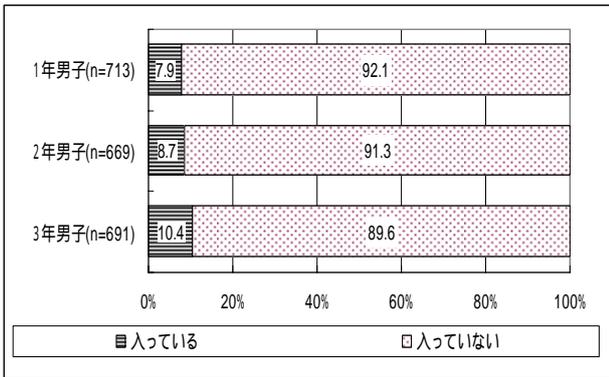


図2 - 111 (男子)

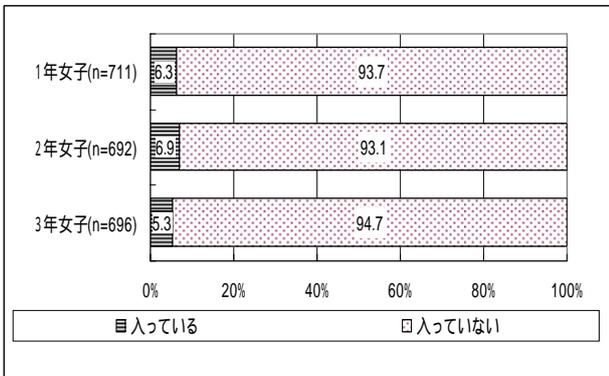


図2 - 112 (女子)

「はい」と回答した生徒の男子は、1年生7.9%、2年生8.7%、3年生10.4%で、女子は、1年生6.3%、2年生6.9%、3年生5.3%で、男子の方が女子よりも高かった。

コラム30
「学校外のスポーツクラブに入っているか」
平成18年度中学生調査との比較【図 - (69)】

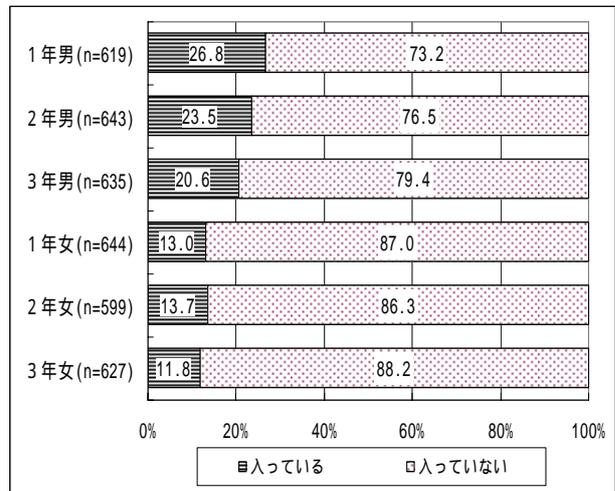


図 - (69)

「学校外のスポーツクラブに入っているか」平成18年度中学生調査

平成18年度中学生調査の男子加入率は、1年生26.8%、2年生23.5%、3年生20.6%で、女子は、1年生13.0%、2年生13.7%、3年生11.8%であり、平成19年度高校生調査の加入率よりも高かった。両調査とも、男子の方が女子よりも高かった。

カ 放課後や帰宅後また休みの日に運動やスポーツをしていますか
(図2 - 113 ~ 114)

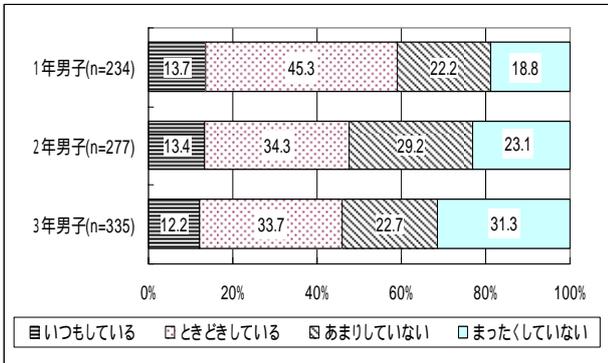


図2 - 113 (男子)

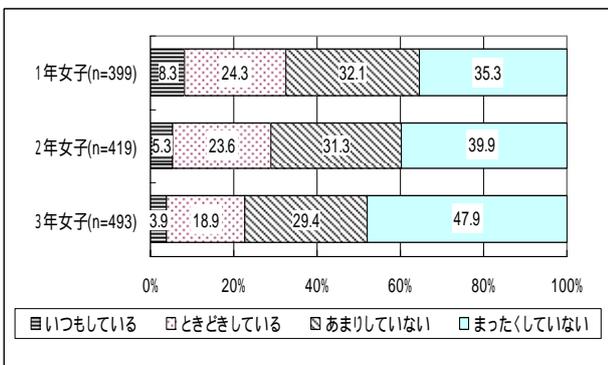


図2 - 114 (女子)

(3) - エ・オで両方とも「いいえ」と回答(運動部にもスポーツクラブにも属していない)した男子は、1年生31.8%(n=234)、2年生40.0%(n=277)、3年生47.0%(n=335)、女子は、1年生55.0%(n=399)、2年生58.0%(n=419)、3年生68.7%(n=493)であった。この生徒たちに、放課後や帰宅後、また、休みの日に運動やスポーツをしているかたずねたところ、「している群」の男子は、1年生59.0%、2年生47.7%、3年生45.9%で、女子は、1年生32.6%、2年生28.9%、3年生22.8%であった。また、「まったくしていない」と回答した生徒の男子は、1年生18.8%(44人)、2年生23.1%(64人)、3年生31.3%(105人)で、女子は、1年生35.3%(141人)、2年生39.9%(167人)、3年生47.9%(236人)であった。これを学年の男女別人数に対する割合で見ると、男子は、1年生6.0%、2年生9.2%、3年生14.7%で、女子は、1年生19.4%、2年生23.1%、3年生32.9%であった。

コラム31

「放課後や帰宅後また休みの日に運動やスポーツをしていますか」

平成18年度中学生調査・平成8年度高校生調査との比較【図 - (70)・(71)】

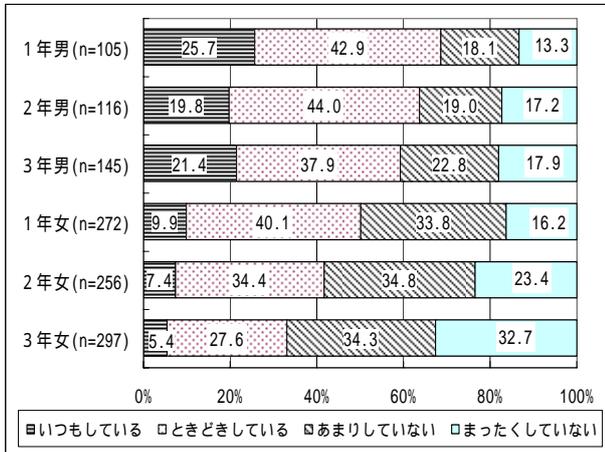


図 - (70)平成18年度中学生調査

「している群」の男子は、1年生68.6%、2年生63.8%、3年生59.3%で、女子は、1年生50.0%、2年生41.8%、3年生33.0%であった。

男子の方が、女子よりも高く、学年進行とともに、低下していることがわかる。

まったく運動をしていない生徒（注1）を学年の男女別人数に対する割合で見ると、男子1年生0.3%、2年生0.3%、3年生0.4%、女子1年生1.0%、2年生1.2%、3年生2.1%平成19年度高校生調査で大きく増加している。

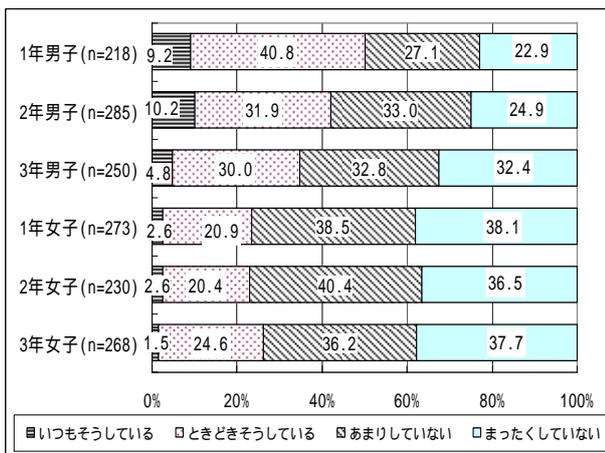


図 - (71)平成8年度高校生調査

「している群」の男子は、1年生50.0%、2年生42.1%、3年生34.8%で、女子は、1年生23.5%、2年生23.0%、3年生26.1%であった。

まったく運動をしていない生徒（注2）を学年の

男女別人数に対する割合で見ると、男子1年生11.4%、2年生14.3%、3年生19.5%、女子1年生22.3%、2年生22.2%、3年生22.9%で、男子は、平成19年度高校生調査のほうが低く、女子は、高校1年生では低かったが、2年生で逆転し、3年生でさらにその差が大きくなっている。

（注1）（注2）の「まったく運動していない生徒」とは、運動部・スポーツクラブのどちらにも属さず、放課後や帰宅後、また休日にもまったく運動をしていない生徒のこと。

キ なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをしているのか
(図2 - 115 ~ 120)

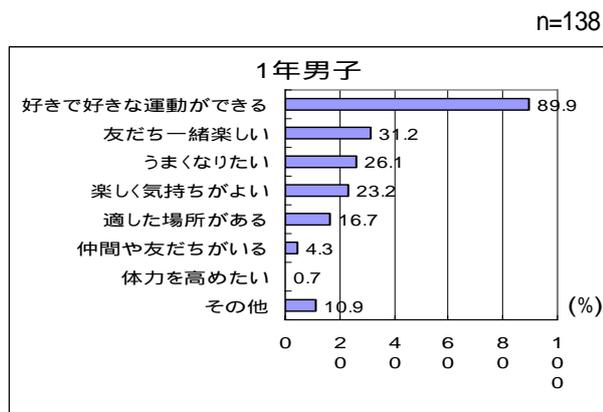


図2 - 115 (1年男子)

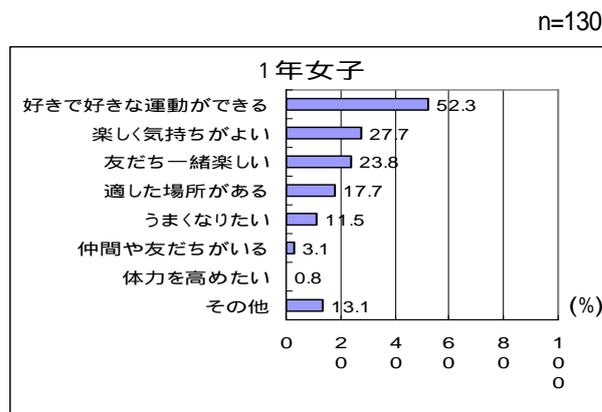


図2 - 116 (1年女子)

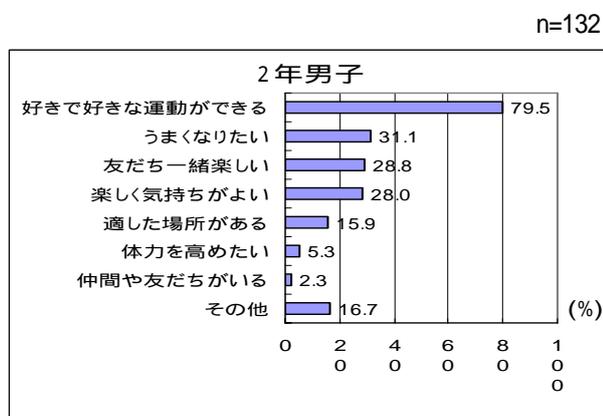


図2 - 117 (2年男子)

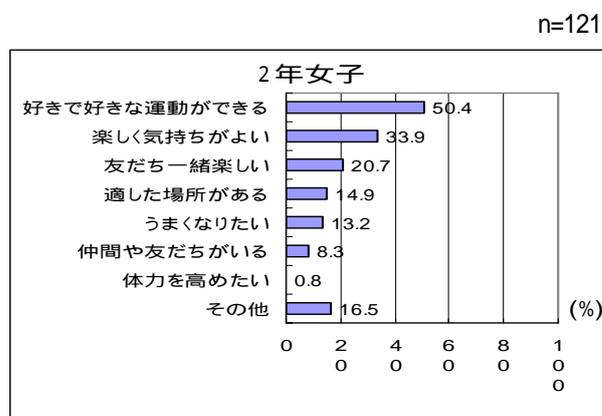


図2 - 118 (2年女子)

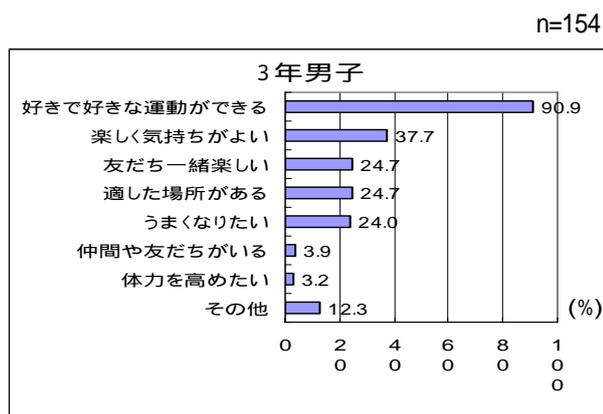


図2 - 119 (3年男子)

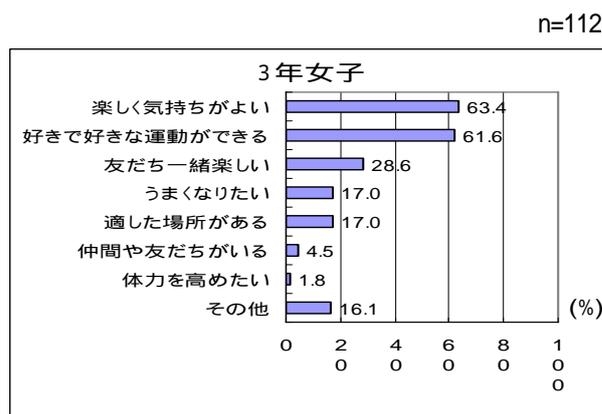


図2 - 120 (3年女子)

(3) - カで「している群」の生徒に、なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをするのかたずねたところ、各学年の男子と1・2年の女子で「運動することが好きで、好きな運動ができるから」(以下「好きで好きな運動」と言う。)が1位(3年女子は2位)に、「友達と一緒にゲームや運動をすると楽し

いから」(以下「友達と一緒に」と言う。)が2・3位となった。また男子は、「運動がもっとうまくなりたいから」(以下「うまくなりたい」と言う。)が、女子は、「運動すると楽しく気持ちがいいから」(以下「楽しく気持ちがいい」と言う。)が上位にあげられている。

コラム32

「なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをしているのか」平成18年度中学生調査・平成8年度高校生調査との比較【図 - (72)～(75)】

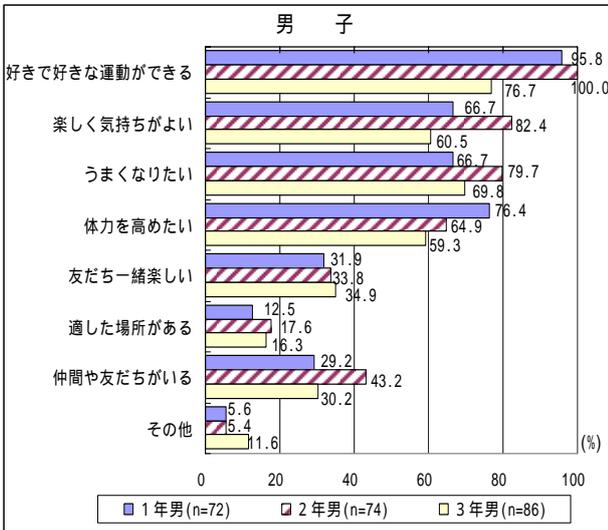


図 - (72) 平成18年度中学生調査 (男子)

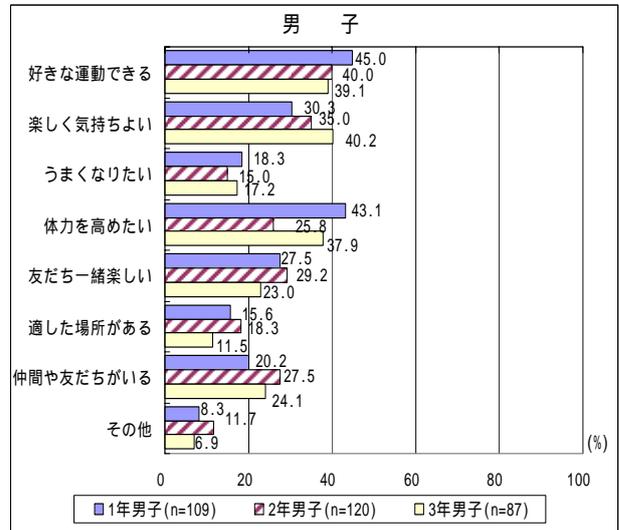


図 - (74) 平成8年度高校生調査 (男子)

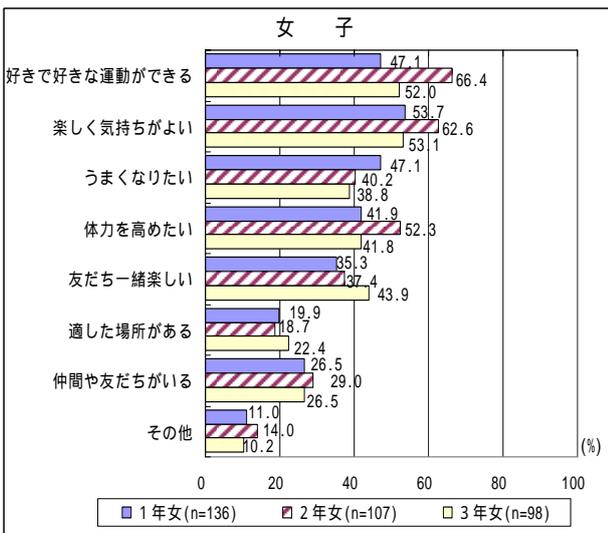


図 - (73) 平成18年度中学生調査 (女子)

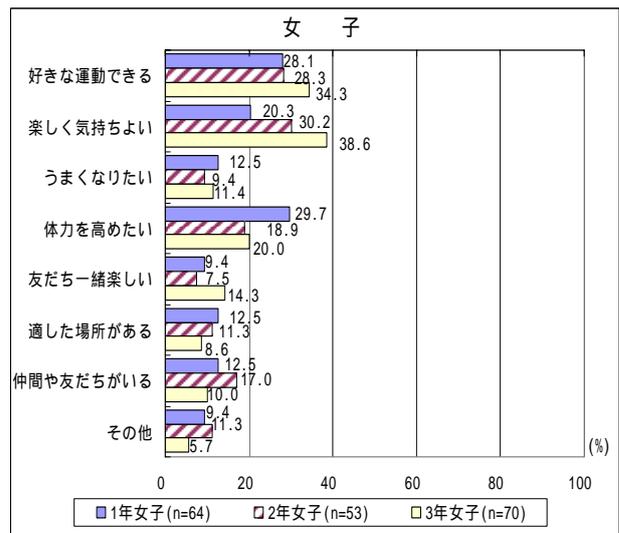


図 - (75) 平成8年度高校生調査 (女子)

平成18年度中学生調査は、男女ともに「好きで好きな運動」と「楽しく気持ちが良い」が1位で、以下、「体力を高めたい」「うまくなりたい」「友達一緒に」があげられている。

平成19年度高校生調査では、男女ともに平成18年度中学生調査で上位にあった「体力を高めたい」が下位に落ち、「友達一緒に」「運動するのに適した場所がある」が上位にあがっている。

平成8年度高校生調査は、「好きで好きな運動」「楽しく気持ちが良い」「体力を高めたい」が上位にあげられている。

ク なぜ放課後や帰宅後に運動をしていないのか
(図2 - 121 ~ 126)

n=96

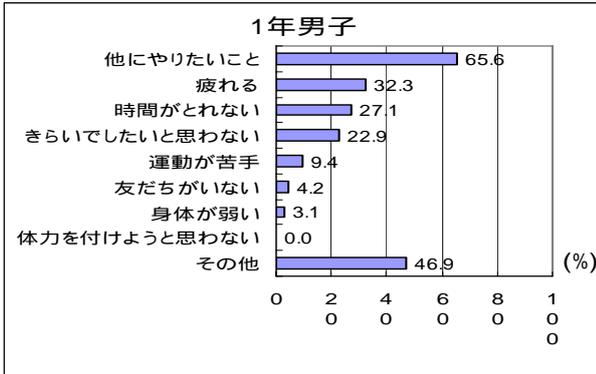


図2 - 121 (1年男子)

n=269

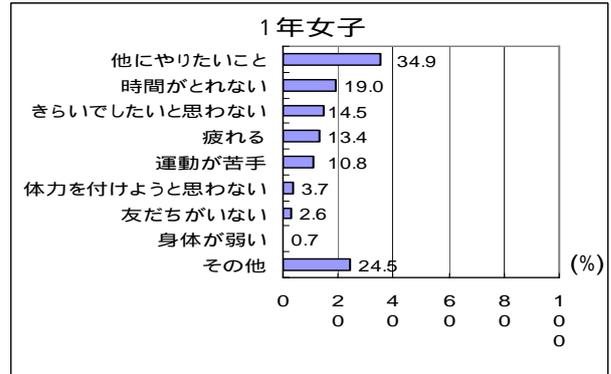


図2 - 122 (1年女子)

n=145

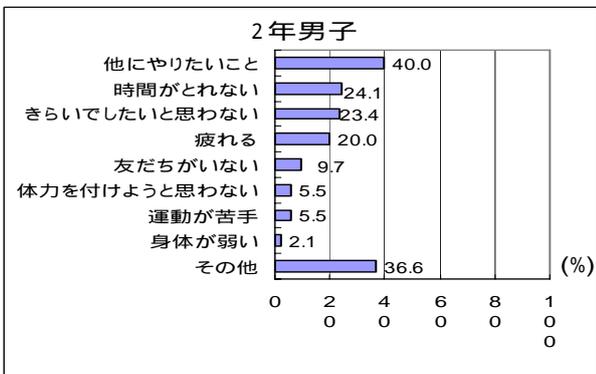


図2 - 123 (2年男子)

n=298

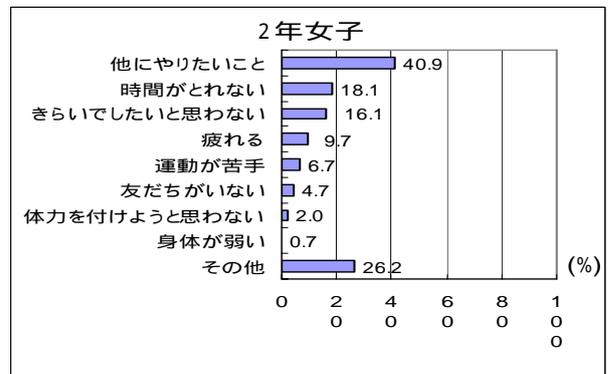


図2 - 124 (2年女子)

n=181

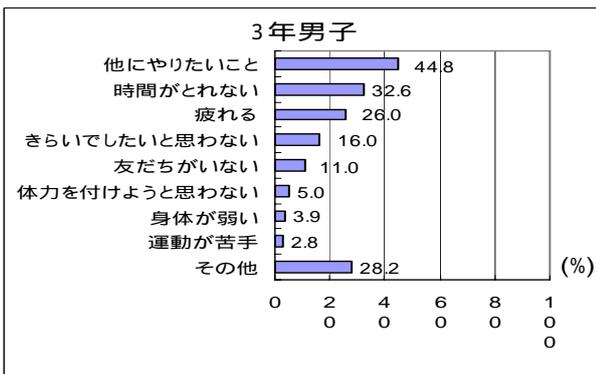


図2 - 125 (3年男子)

n=381

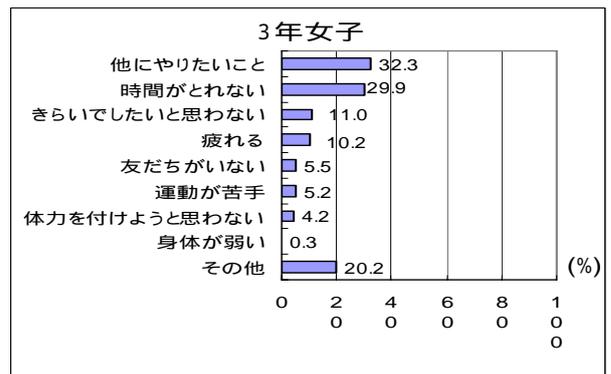


図2 - 126 (3年女子)

(3) - カで「していない群」の生徒に、なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをしないのかたずねたところ、各学年男女とも、「他にやりたいことがあるから」(以下「他にやりたいこと」と言う。)が1位に、「塾や勉強、習い事で時間が取れないから」(以下「時間がとれない」と言う。)が1年男子を除いて2位(1年男子は3位)となった。また、

「運動が嫌いで、したいと思わないから」(以下「嫌いでしたいと思わない」と言う。)や「運動をすると疲れるから」(以下「疲れる」と言う。)が上位にあげられている。

「なぜ放課後や帰宅後に運動をしていないのか」
 平成18年度中学生調査・平成8年度高校生調査と
 の比較【図 - (76)～(79)】

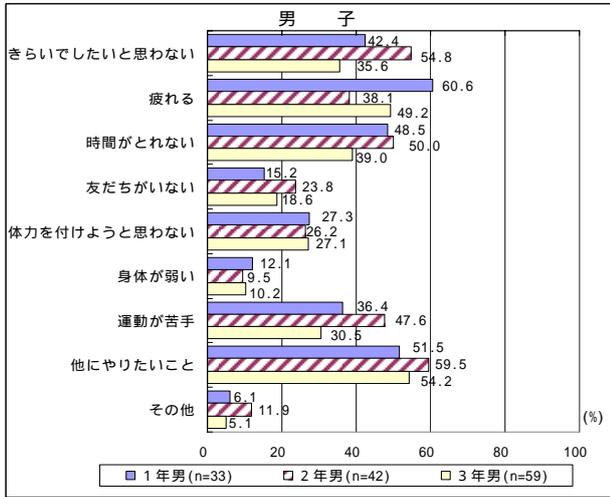


図 - (76) 平成18年度中学生調査 (男子)

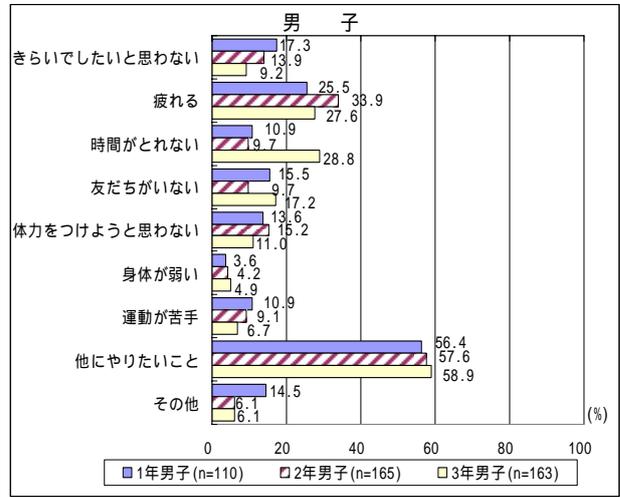


図 - (78) 8年度高校生調査 (男子)

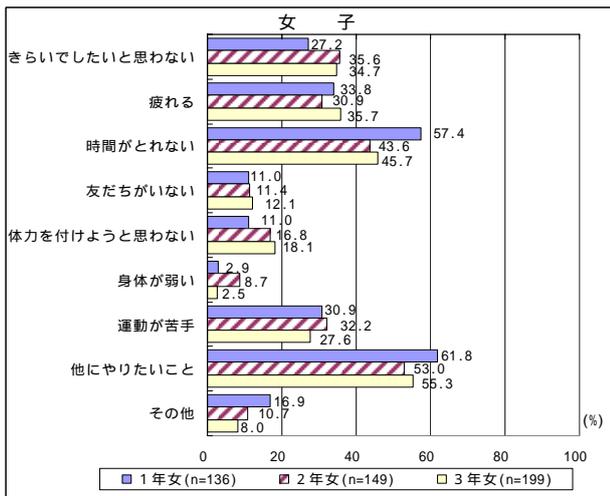


図 - (77) 平成18年度中学生調査 (女子)

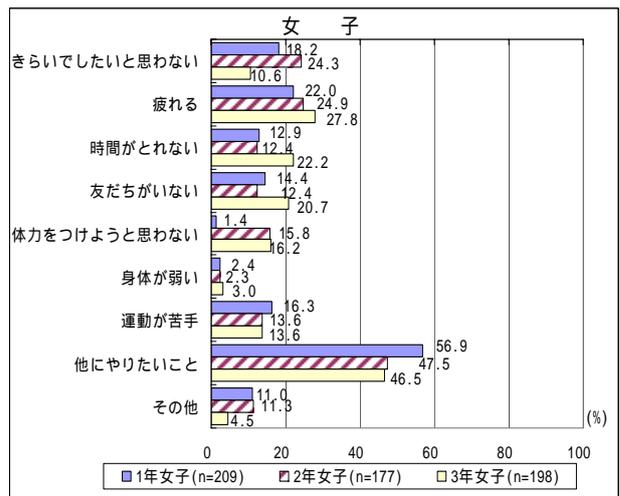


図 - (79) 8年度高校生調査 (女子)

平成18年度中学生調査では、「他にやりたいこと」「時間がとれない」「疲れる」が上位で、平成19年度高校生調査と同じであった。

平成8年度高校生調査では、「他にやりたいこと」「時間がとれない」「疲れる」が上位で、平成19年度高校生調査と同じであった。

(4) 好きな、または行きたい運動やスポーツについて

ア 特に好きな、または行かないたい運動やスポーツは何か

(図2 - 127 ~ 132)

n=736



図2 - 127 (1年男子)

n=725

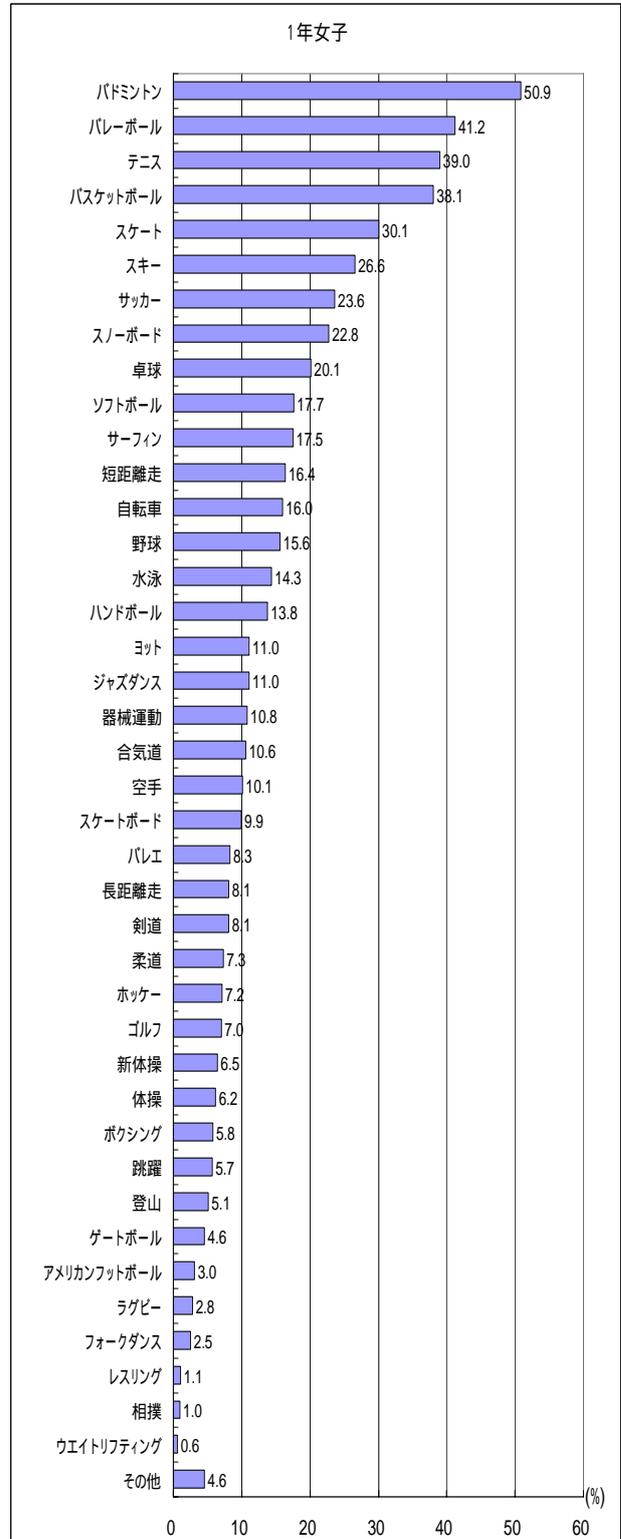


図2 - 128 (1年女子)

n=694



図 2 - 129 (2年男子)

n=723



図 2 - 130 (2年女子)

n=713

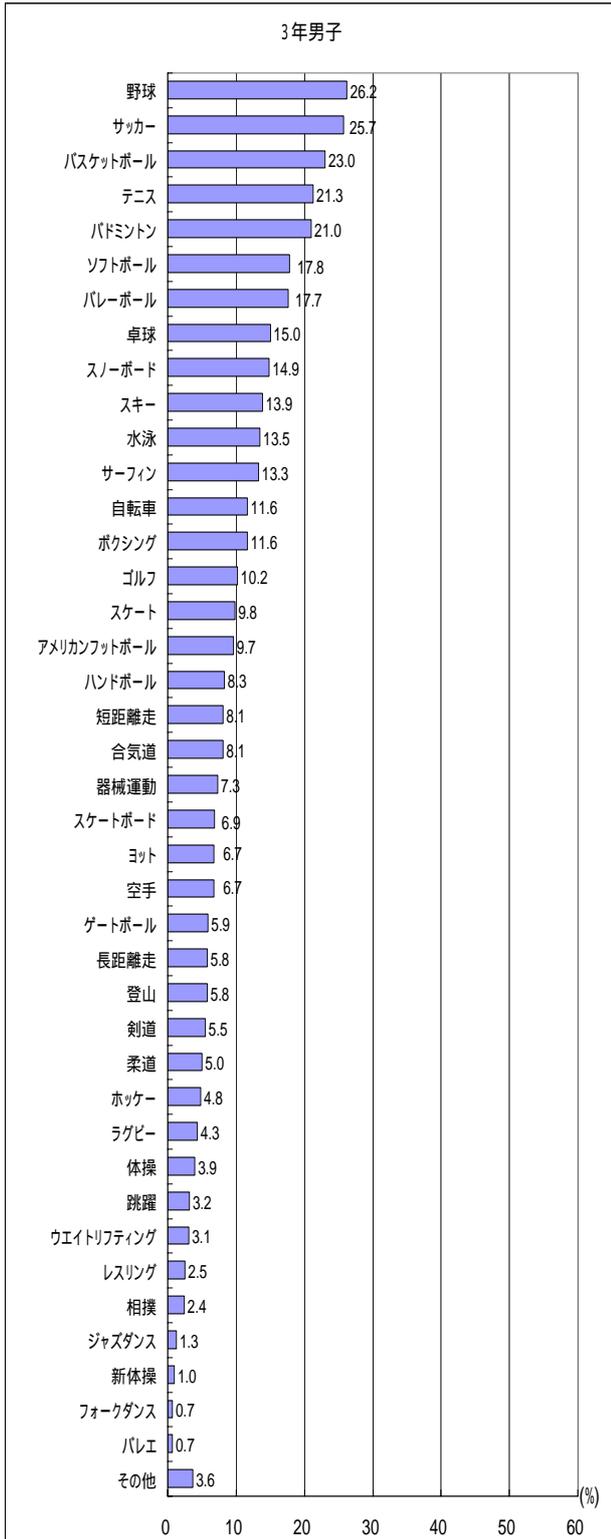


図2 - 131 (3年男子)

n=718



図2 - 132 (3年女子)

男子は、「サッカー」「バスケ」「野球」と「テニス」が上位にあり、女子は、全学年「バドミントン」が1位で、以下「バレー」「テニス」「スケート」「バスケ」があげられている。

コラム34
 「特に好きな、または行ないたい運動やスポーツは何か」
 平成18年度中学生調査との比較（上位10種目を表示）【図 - (80) ~ (85)】

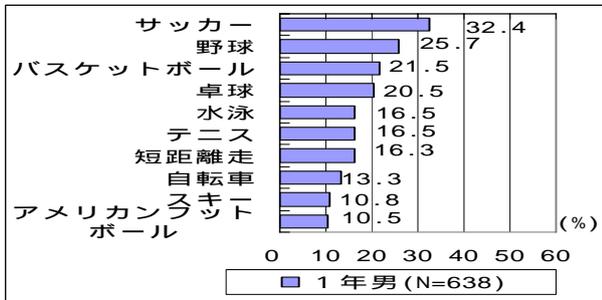


図 - (80) 平成18年度中学生調査（1年男子）

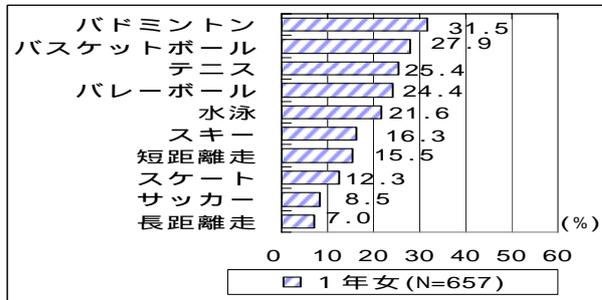


図 - (81) 平成18年度中学生調査（1年女子）

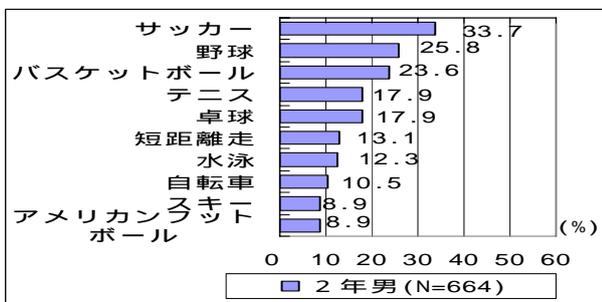


図 - (82) 平成18年度中学生調査（2年男子）

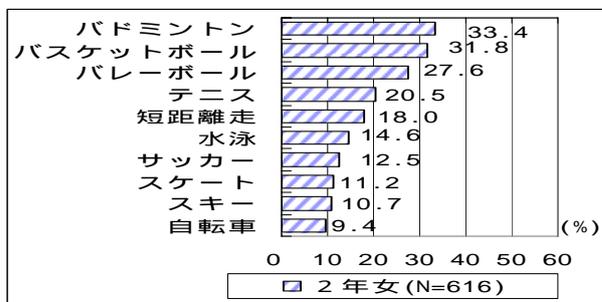


図 - (83) 平成18年度中学生調査（2年女子）

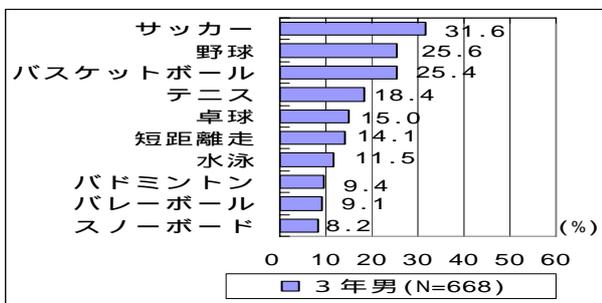


図 - (84) 平成18年度中学生調査（3年男子）

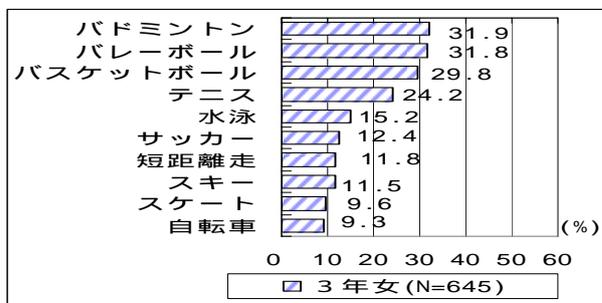


図 - (85) 平成18年度中学生調査（3年女子）

平成18年度中学生調査の男子は、3学年とも1位は「サッカー」、2位「野球」、3位「バスケ」で、以下「テニス」「卓球」があげられている。上位の種目は、平成19年度高校生調査とほぼ同じである。

平成18年度中学生調査の女子は、3学年とも1位は「バドミン」で、以下「バスケ」「バレー」「テニス」があげられている。平成19年度高校生調査で上位の「スケート」は下位にある。

(5) 体育を指導してくれる理想的な教師像について
ア 体育の学習をどんな先生に教えてもらいたい
か

(図2 - 133 ~ 138)

n=736

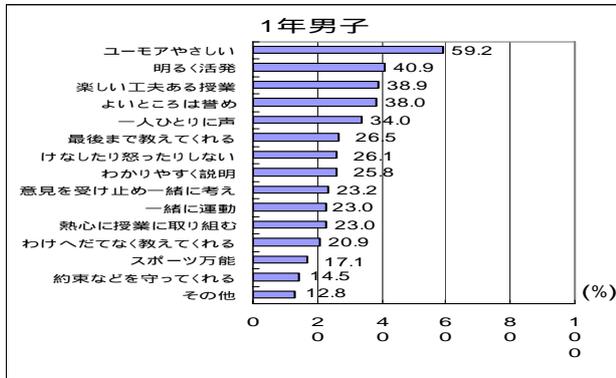


図2 - 133 (1年男子)

n=725

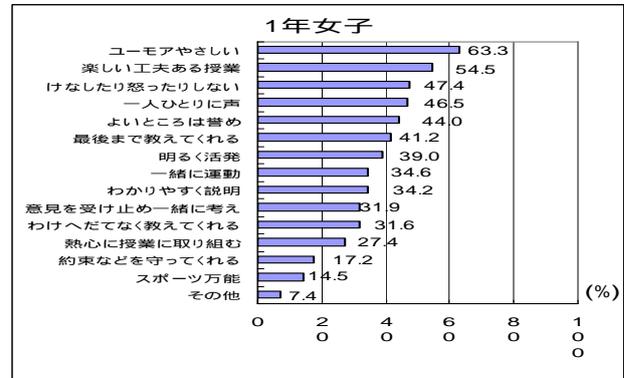


図2 - 134 (1年女子)

n=694

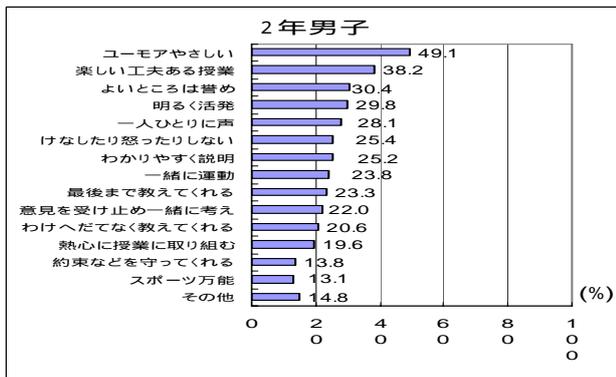


図2 - 135 (2年男子)

n=723

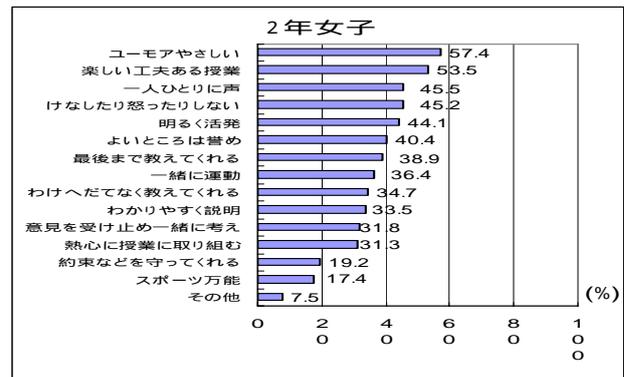


図2 - 136 (2年女子)

n=713

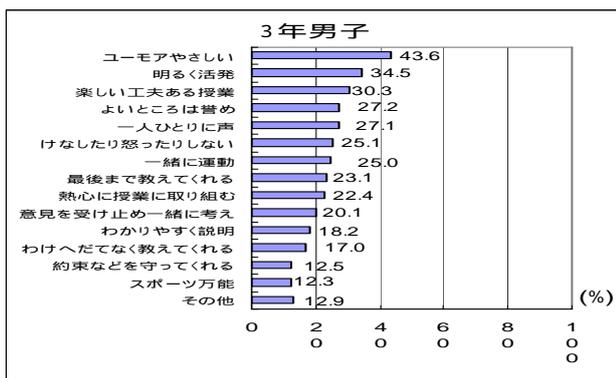


図2 - 137 (3年男子)

n=718

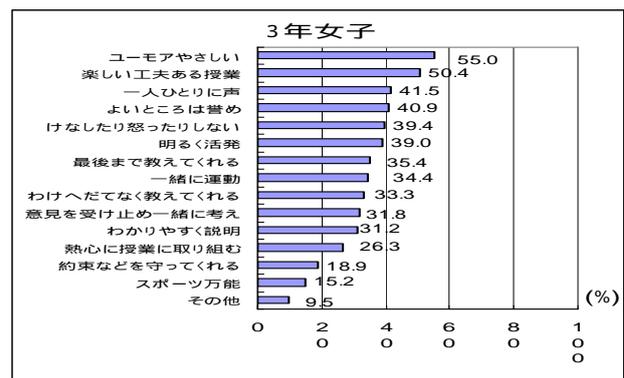


図2 - 138 (3年女子)

各学年男女ともに、「ユーモアのあるやさしい先生」(以下「ユーモアやさしい」と言う。)が1位で、男子は「明るく活発できびきびした先生」(以下「明るく活発」と言う。)や「楽しい工夫のある授業をしてくれる先生」(以下「工夫ある授

業」と言う。)などが上位で、女子は全学年「工夫ある授業」が2位、「一人ひとりによく声をかけてくれる先生」や「できない人をけなしたり、怒ったりしない先生」が上位にきている。

コラム35

「体育の学習をどんな先生に教えてもらいたいか」
 平成18年度中学生調査・平成8年度高校生調査との
 比較【図 - (86) ~ (89)】

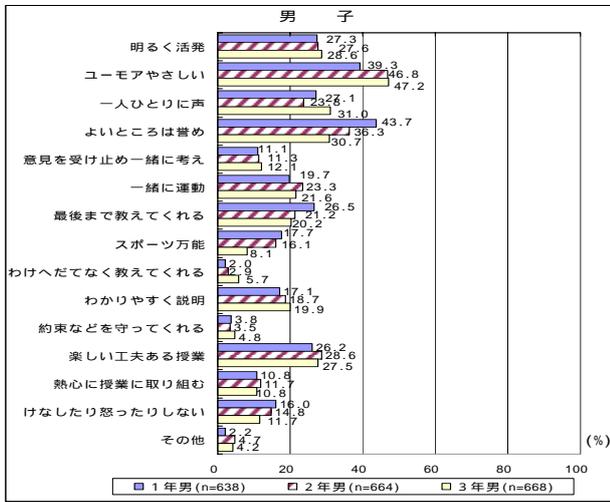


図 - (86) 平成18年度中学生調査 (男子)

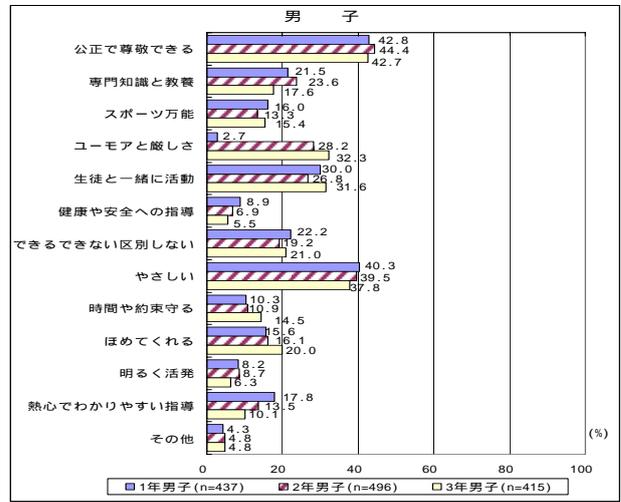


図 - (88) 平成8年度高校生調査 (男子)

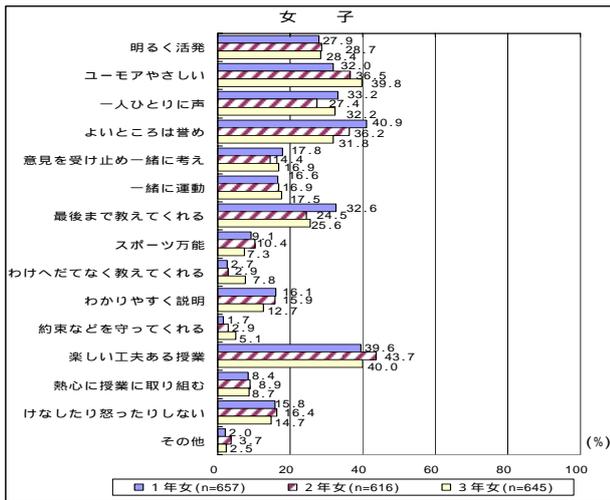


図 - (87) 平成18年度中学生調査 (女子)

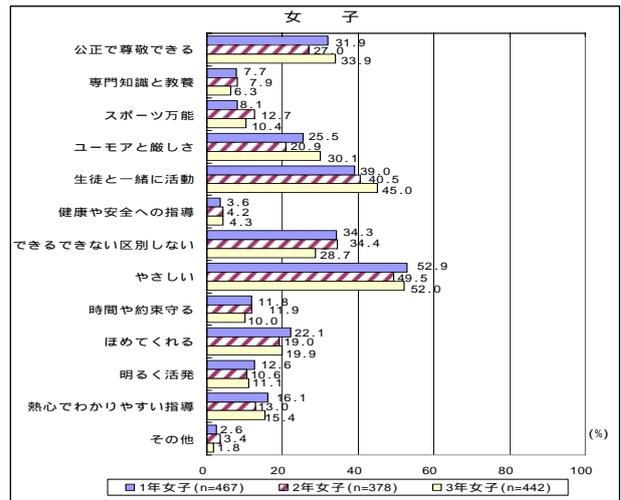


図 - (89) 平成8年度高校生調査 (女子)

平成18年度中学生調査の1年生は、「よいところは誉め、悪いところは注意してくれる先生」が男女とも1位に、2・3年生は、男子が「ユーモアやさしい」で、女子が「工夫ある授業」がそれぞれ1位で男女の差が出ている。女子のほうが楽しく工夫のある授業を求めているところは、平成19年度高校生調査でも同じであった。

平成8年度高校生調査は、選択肢が違うため、正確な比較はできないが、男女ともに上位に「生徒の心をよく理解してくれる優しい先生」が入っており、やさしさを求めている点では、共通している。

3 「体育の学習の好き、嫌い」と他の質問との関連について

「体育の学習が好きですか」と聞いた設問の回答は、「とても好き」「どちらかという好き」「どちらでもない」「どちらかという嫌い」「とても嫌い」の5段階の評価尺度で求めているが、その内「とても好き」と「どちらかという好き」を合わせたものを「好き群」、「どちらかという嫌い」と「とても嫌い」を合わせたものを「嫌い群」としてあらわすと下の表 - 1・2となる。

この「好き群」「どちらでもない」「嫌い群」の3群と、その他の設問とのクロス集計を行い、結果を図にあらわすとともに、有意差の見られたものについて、特徴的な点を記述した。

なお、各図の表示は、上から〔体育の学習が「好き群」「どちらでもない」「嫌い群」〕の順となっている。

表 - 1 「体育の学習が好きか嫌いか」
男子学年別回答結果（3群表示）

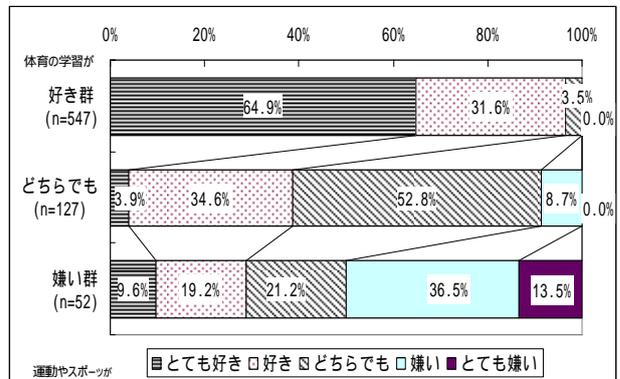
	人数(人)				比率(%)		
	1年生	2年生	3年生	合計	1年生	2年生	3年生
好き群	548	512	559	1619	75.3	74.7	79.0
どちらでもない	128	102	104	334	17.6	14.9	14.7
嫌い群	52	71	45	168	7.1	10.4	6.4
計	728	685	708	2121	100.0	100.0	100.0

表 - 2 「体育の学習が好きか嫌いか」
女子学年別回答結果（3群表示）

	人数(人)				比率(%)		
	1年生	2年生	3年生	合計	1年生	2年生	3年生
好き群	414	439	451	1304	57.5	61.0	63.3
どちらでもない	162	151	158	471	22.5	21.0	22.2
嫌い群	144	130	104	378	20.0	18.1	14.6
計	720	720	713	2153	100.0	100.0	100.0

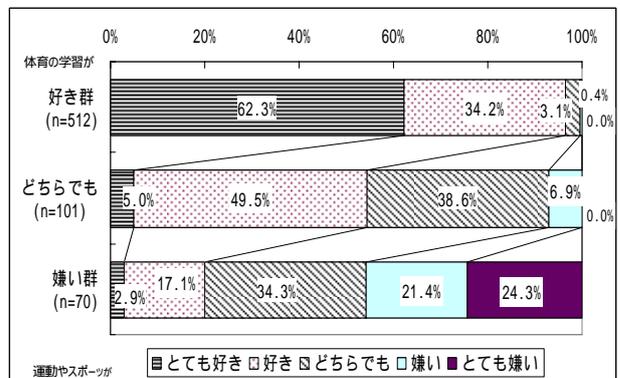
(1) 運動やスポーツの好き、嫌いについて

ア 3群×問3 運動やスポーツをすることが好きか嫌い【図3-1~6】



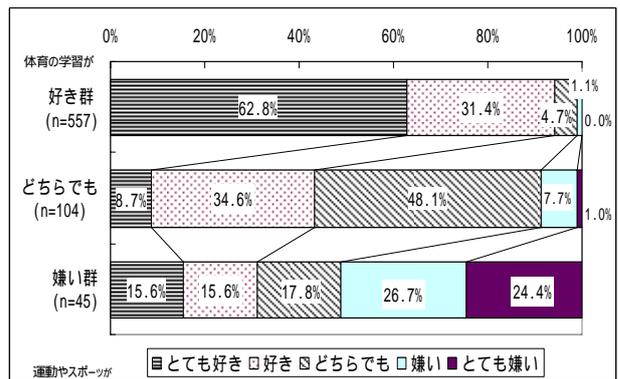
*** p<0.001

図3-1 (1年男子)



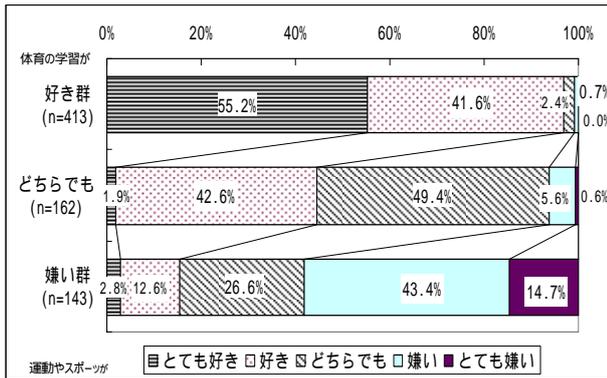
*** p<0.001

図3-2 (2年男子)



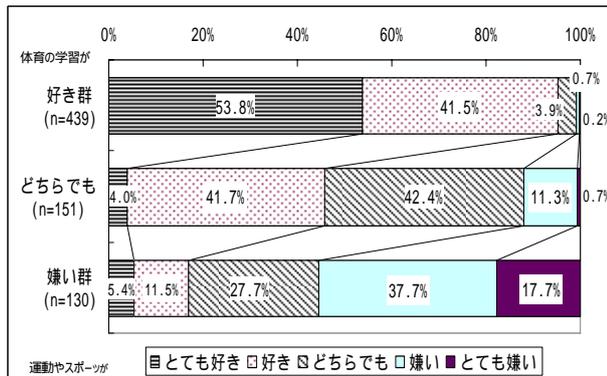
*** p<0.001

図3-3 (3年男子)



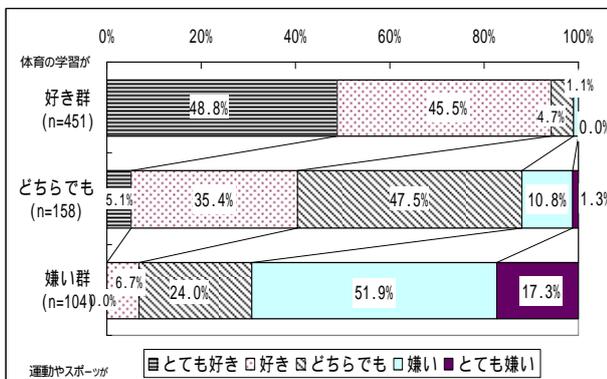
*** p<0.001

図3 - 4 (1年女子)



*** p<0.001

図3 - 5 (2年女子)



*** p<0.001

図3 - 6 (3年女子)

体育の学習が「好き群」(男子1年n=547、2年n=512、3年n=557、女子1年n=413、2年n=439、3年n=451)の中で、運動やスポーツをすることが「好き群」の男子は、1年生96.5%、2年生96.5%、3年生94.2%で、女子は、1年生96.8%、2年生95.3%、3年生94.3%であり、体育が好きな生徒は、運動やスポーツも好きであることがわかった。

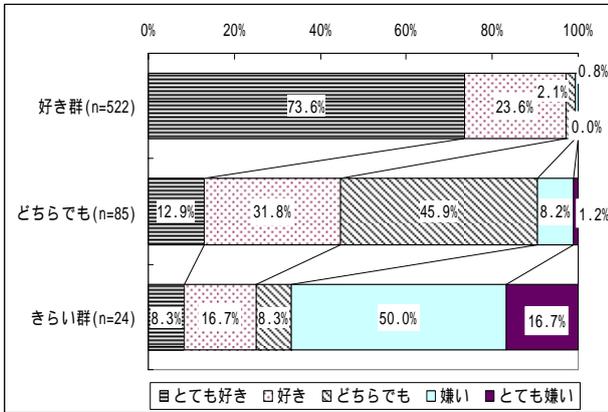
体育の学習が「嫌い群」(男子1年n=52、2年n=70、3年n=45、女子1年n=143、2年n=130、3年

n=104)の中で、運動やスポーツをすることが「嫌い群」の男子は、1年生50.0%、2年生45.7%、3年生51.1%で、女子は、1年生58.1%、2年生55.4%、3年生69.2%であり、体育が嫌いな生徒は、男子よりも女子のほうが運動やスポーツも嫌いであることがわかった。

コラム36

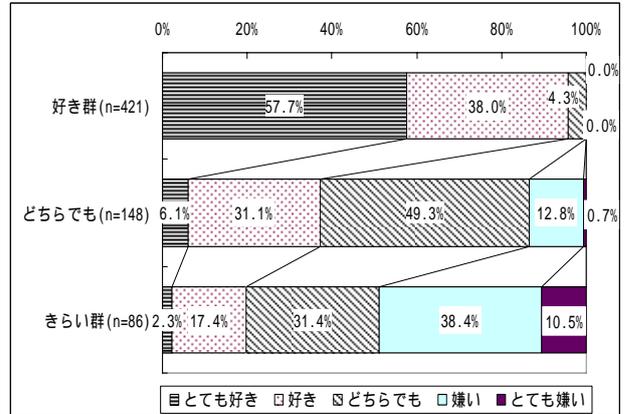
「3群×運動やスポーツをすることが好きか嫌い
か」

平成18年度中学生調査との比較【図 - 1 ~ 6】



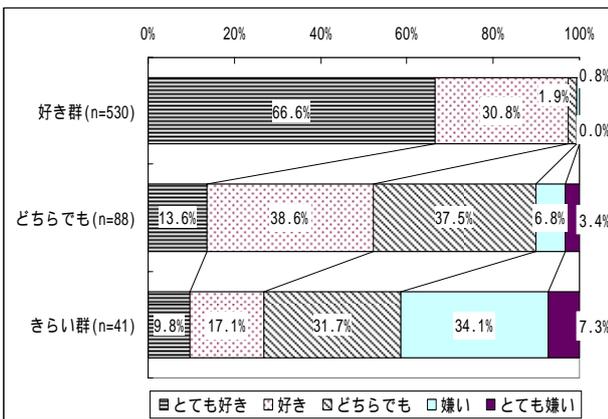
*** p<0.001

図 - 1 (1年男子)



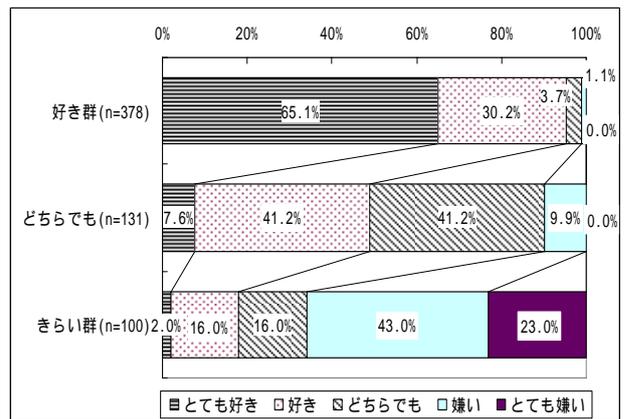
*** p<0.001

図 - 2 (1年女子)



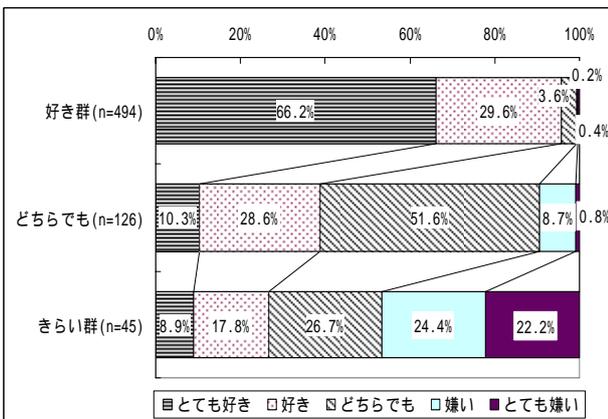
*** p<0.001

図 - 3 (2年男子)



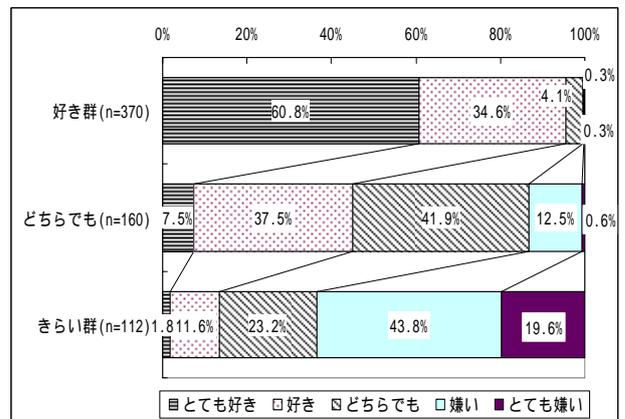
*** p<0.001

図 - 4 (2年女子)



*** p<0.001

図 - 5 (3年男子)



*** p<0.001

図 - 6 (3年女子)

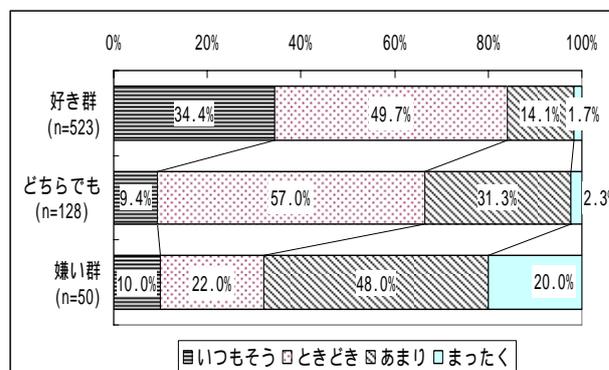
平成18年度中学生調査で、体育の学習が「好き群」(男子1年n=523、2年n=530、3年n=494、女子1年n=421、2年n=378、3年n=371)の中で、運動やスポーツをすることが「好き群」の男子は、1年生96.9%、2年生97.4%、3年生95.8%で、女子は、1年生95.7%、2年生95.3%、3年生95.1%であり、体育が好きな生徒は、平成19年度高校生調査と同様に運動やスポーツも好きであることがわかった。

「嫌い群」(男子1年n=24、2年n=41、3年n=45、女子1年n=86、2年n=100、3年n=112)の中で、運動やスポーツをすることが「嫌い群」の男子は、1年生66.7%、2年生41.4%、3年生46.6%で、女子は、1年生48.9%、2年生66.0%、3年生63.4%であり、平成19年度高校生調査と同様に、体育が嫌いな生徒は、男子よりも女子のほうが運動やスポーツも嫌いであることがわかった。

(2) 体育の学習について

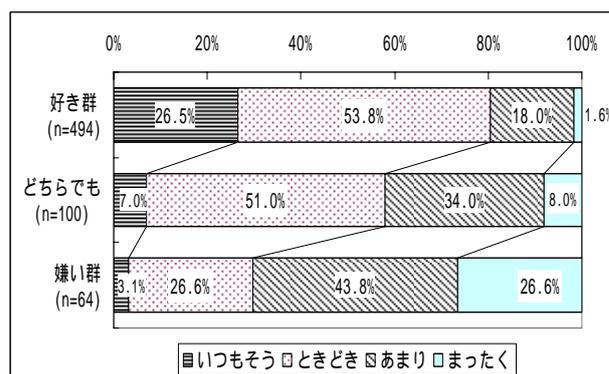
ア～キは体育の時間の活動状況についての質問である。

ア 3群×問7-(1)うまくなったり記録を伸ばしたりするために、自分なりの目標や課題をもって活動しているか【図3-7～12】



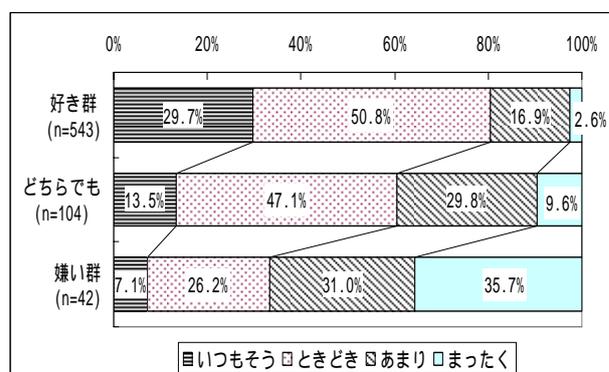
*** p<0.001

図3-7 (1年男子)



*** p<0.001

図3-9 (2年男子)

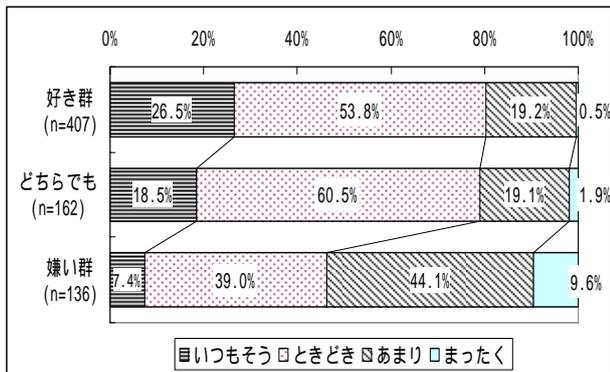


*** p<0.001

図3-11 (3年男子)

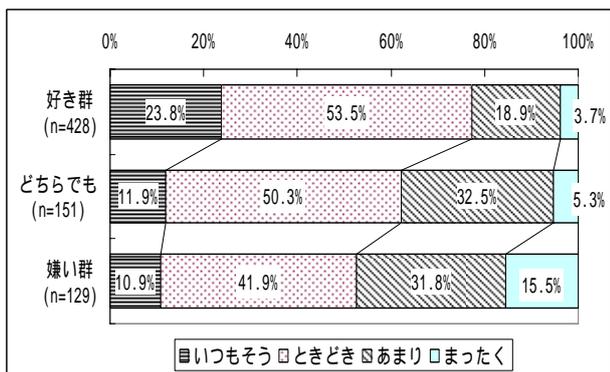
になるにしたがって低下している。

「好き群」は男子の方が高く、「嫌い群」では女子のほうが高い。



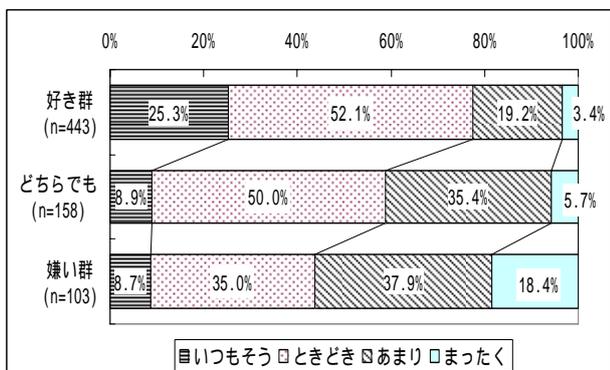
*** p<0.001

図3 - 8 (1年女子)



*** p<0.001

図3 - 10 (2年女子)



*** p<0.001

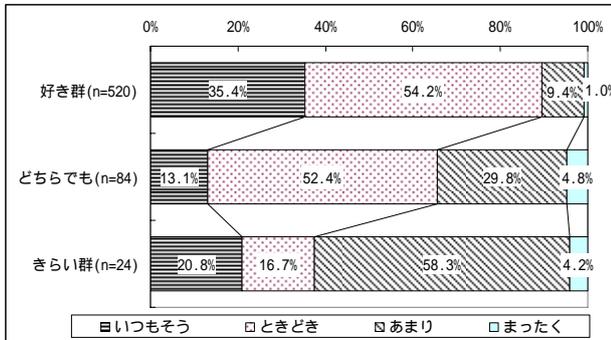
図3 - 12 (3年女子)

「好き群」の方が、自分の目標や課題をもって取り組む割合が高く、「どちらでもない」「嫌い群」

コラム37

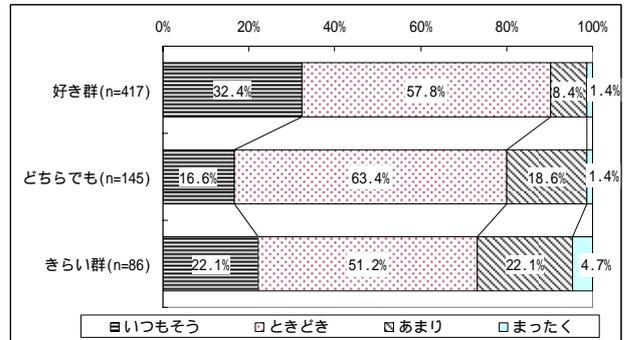
「3群×うまくなったり記録を伸ばしたりするために、自分なりの目標や課題をもって活動しているか」

平成18年度中学生調査との比較【図 - 7～12】



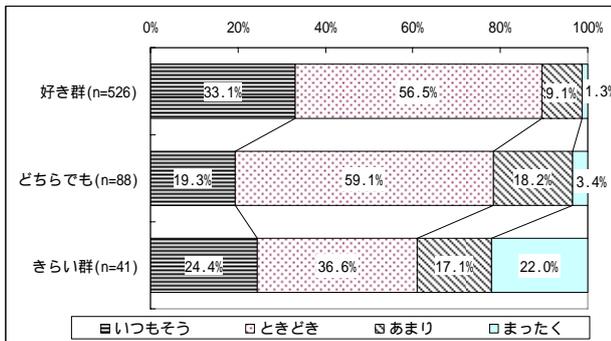
*** p<0.001

図 - 7 (1年男子)



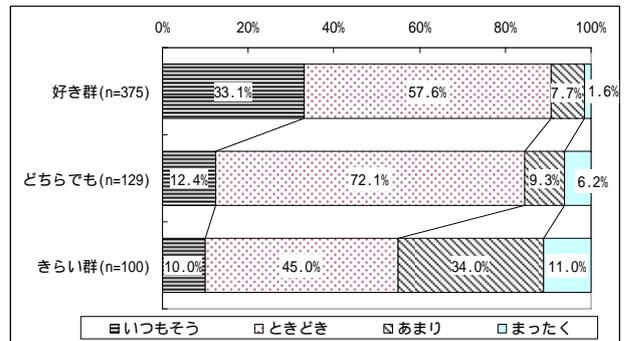
*** p<0.001

図 - 8 (1年女子)



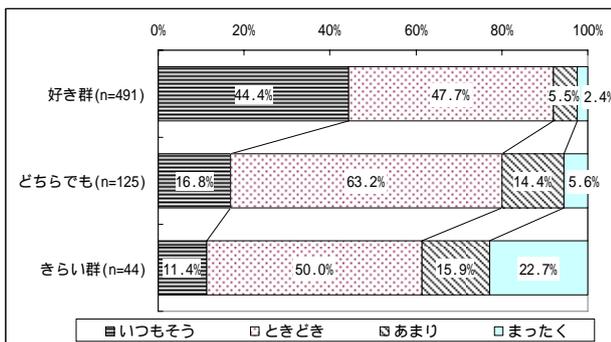
*** p<0.001

図 - 9 (2年男子)



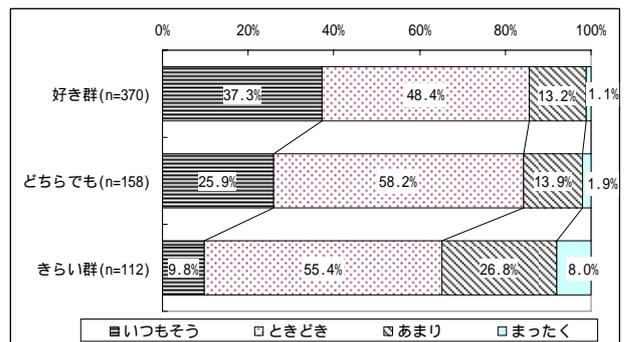
*** p<0.001

図 - 10 (2年女子)



*** p<0.001

図 - 11 (3年男子)



*** p<0.001

図 - 12 (3年女子)

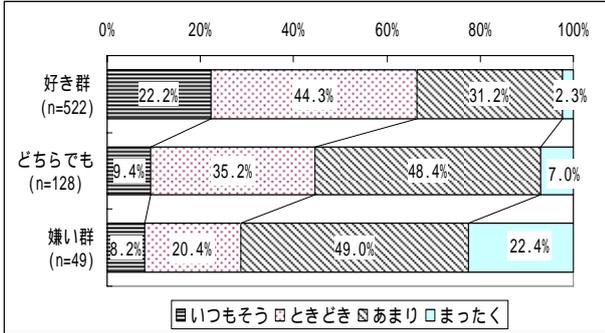
両調査とも「好き群」の方が、自分の目標や課題をもって取り組む割合が高く、「どちらでもない」「嫌い群」になるにしたがって低下している。

「好き群」「嫌い群」ともに、平成19年度高校生調査のほうが、平成18年度中学生調査よりも取り組みが低下している。

「好き群」は、中学3年生から男子の方が高くなっている。

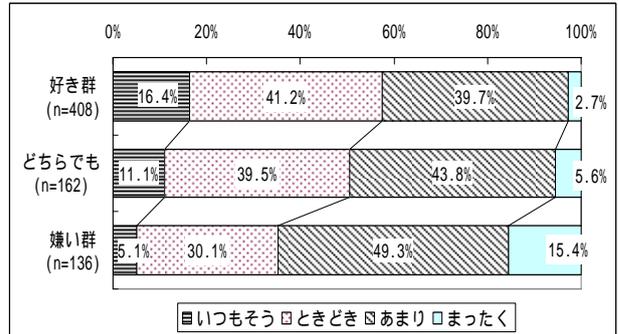
「嫌い群」は、中学2年生を除いて女子のほうが高い。

イ 3群×問7 - (2)課題が自分に合っているか
考えながら活動しているか【図3 - 13~18】



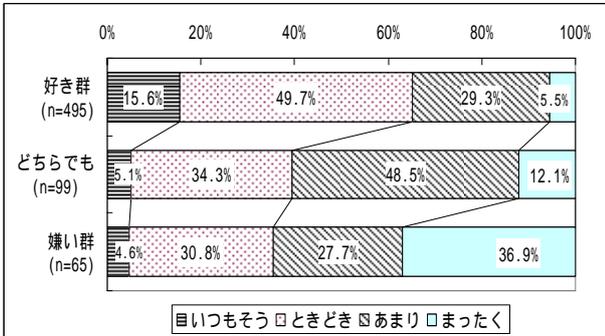
*** p<0.001

図3 - 13 (1年男子)



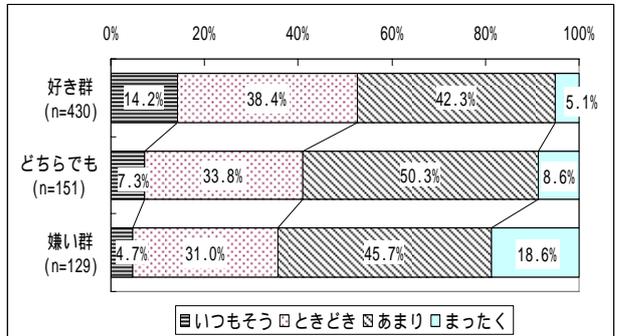
*** p<0.001

図3 - 14 (1年女子)



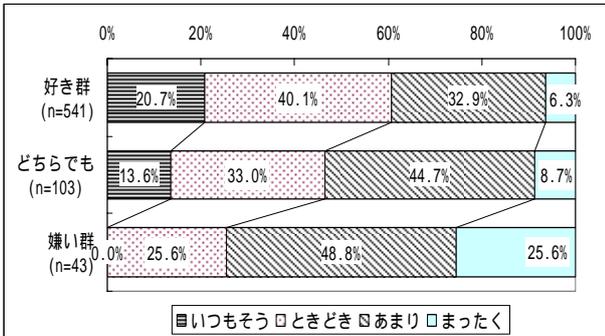
*** p<0.001

図3 - 15 (2年男子)



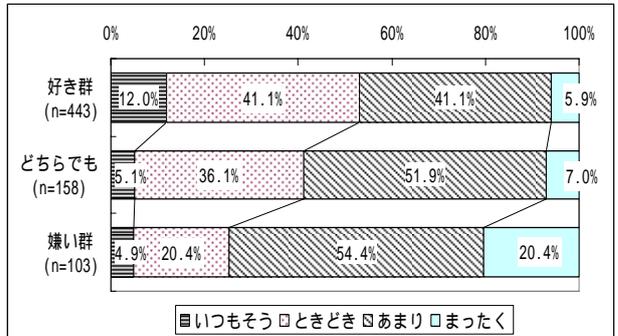
*** p<0.001

図3 - 16 (2年女子)



*** p<0.001

図3 - 17 (3年男子)



*** p<0.001

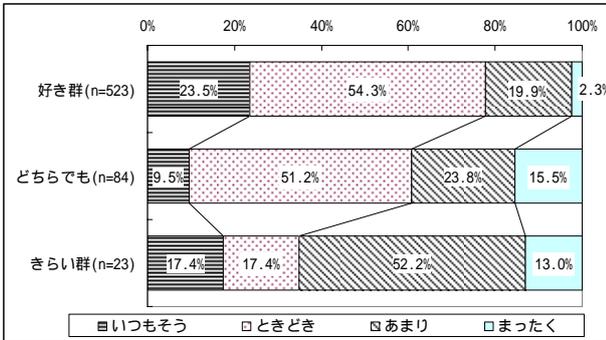
図3 - 18 (3年女子)

「好き群」の方が、課題が自分に合っているか考えながら活動する割合が高く、「どちらでもない」「嫌い群」になるにしたがって低下している。「好き群」は男子の方が高く、「嫌い群」は女子のほうが高い傾向にある。

コラム38

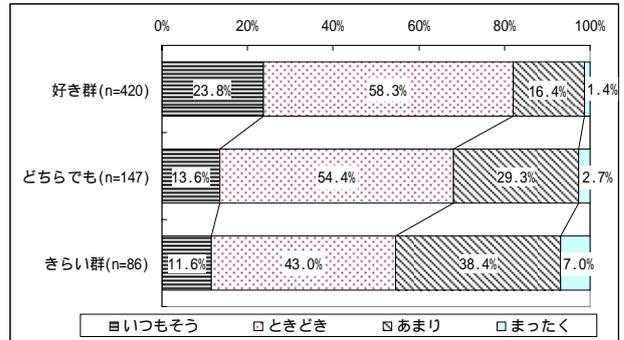
「3群×課題が自分に合っているか考えながら活動しているか」

平成18年度中学生調査との比較【図 - 13~18】



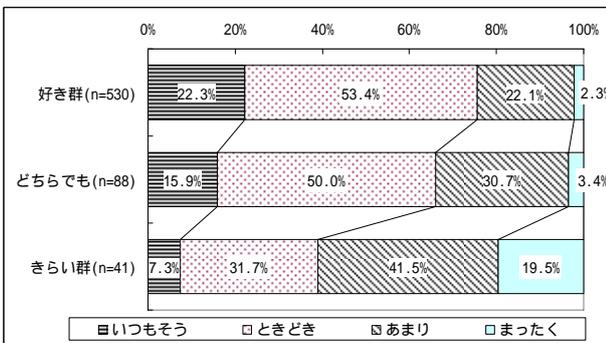
*** p<0.001

図 - 13 (1年男子)



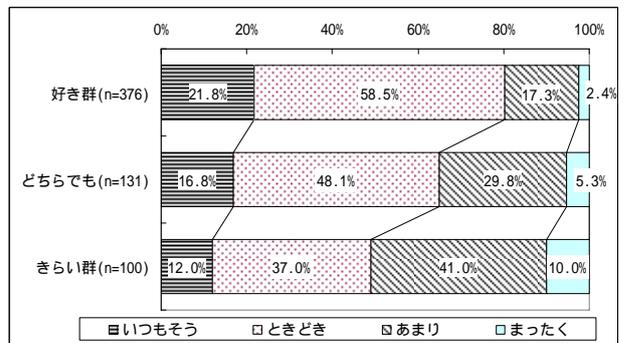
*** p<0.001

図 - 14 (1年女子)



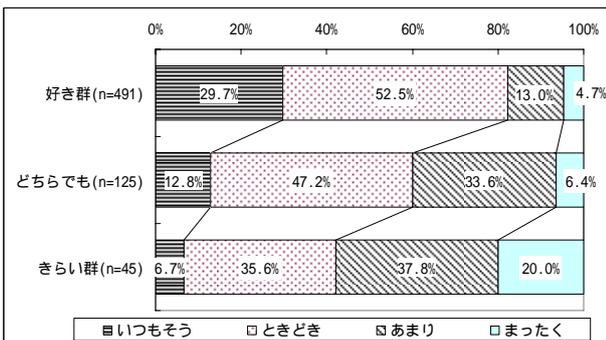
*** p<0.001

図 - 15 (2年男子)



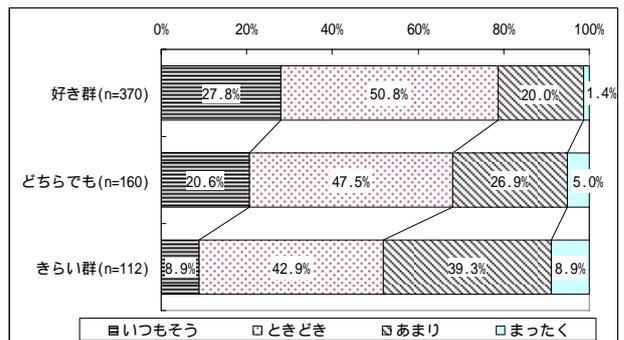
*** p<0.001

図 - 16 (2年女子)



*** p<0.001

図 - 17 (3年男子)



*** p<0.001

図 - 18 (3年女子)

両調査とも「好き群」の方が、課題が自分に合っているか考えながら活動する割合が高く、「どちらでもない」「嫌い群」になるにしたがって低下している。

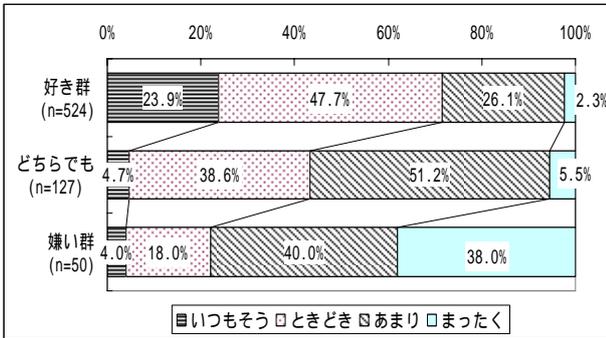
「好き群」「嫌い群」ともに、平成19年度高校生調査のほうが、平成18年度中学生調査よりも取り組みが低下している。

「好き群」は、中学3年生から男子の方が高くなっている。

「嫌い群」は、中学3年生を除いて女子のほうが高い。

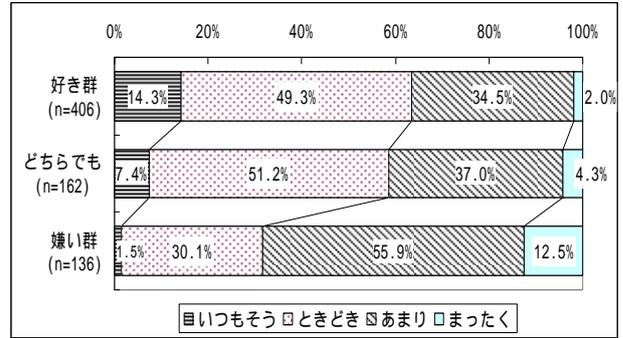
ウ 3群×問7 - (3)練習場所や仕方などいろいろ工夫して活動しているか

【図3 - 19~24】



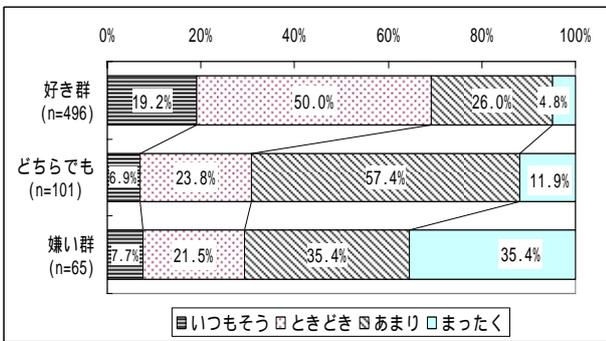
*** p<0.001

図3 - 19 (1年男子)



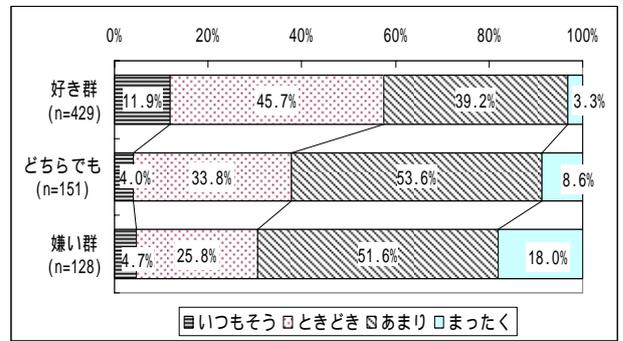
*** p<0.001

図3 - 20 (1年女子)



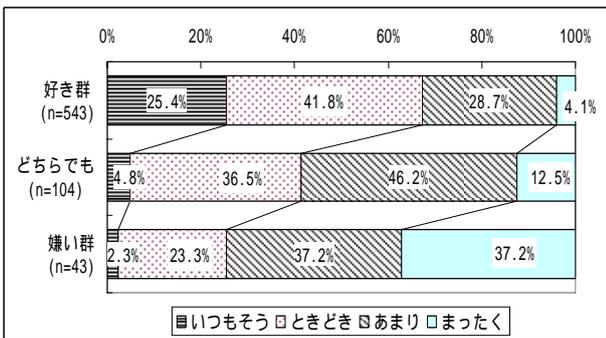
*** p<0.001

図3 - 21 (2年男子)



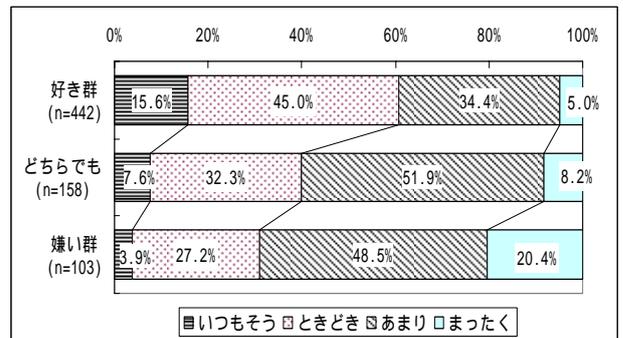
*** p<0.001

図3 - 22 (2年女子)



*** p<0.001

図3 - 23 (3年男子)



*** p<0.001

図3 - 24 (3年女子)

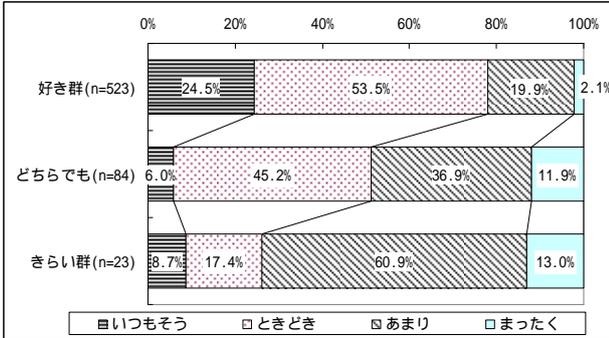
「好き群」の方が、練習場所や仕方などいろいろ工夫して活動している割合が高く、「どちらでもない」「嫌い群」になるにしたがって低下している。

「好き群」は男子の方が高く、「嫌い群」は女子のほうが高い。

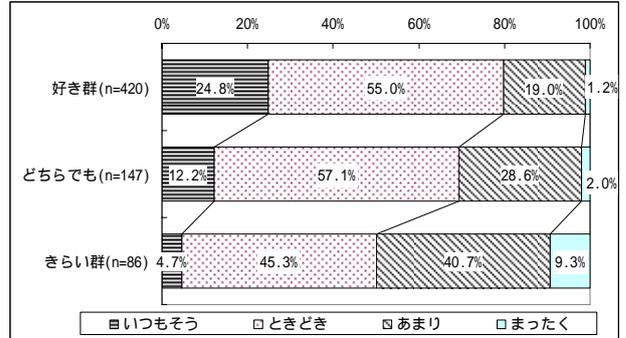
コラム39

「3群×練習場所や仕方などいろいろ工夫して活動しているか」

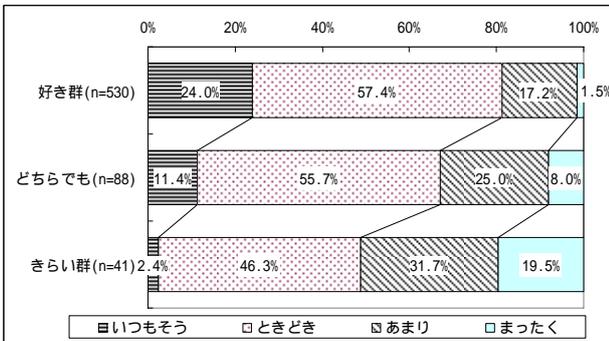
平成18年度中学生調査との比較【図 - 19~24】



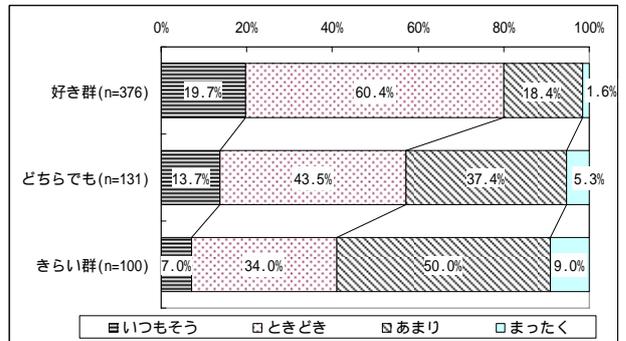
*** p<0.001
図 - 19 (1年男子)



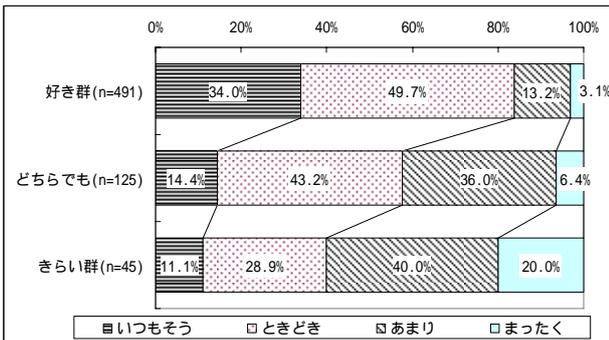
*** p<0.001
図 - 20 (1年女子)



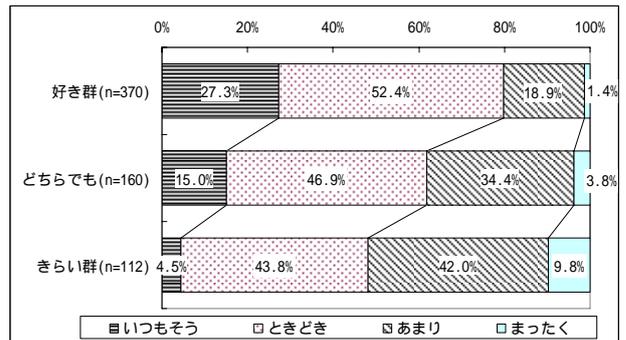
*** p<0.001
図 - 21 (2年男子)



*** p<0.001
図 - 22 (2年女子)



*** p<0.001
図 - 23 (3年男子)



*** p<0.001
図 - 24 (3年女子)

両調査とも「好き群」の方が、練習場所や仕方などいろいろ工夫して活動している割合が高く、「どちらでもない」「嫌い群」になるにしたがって低下している。

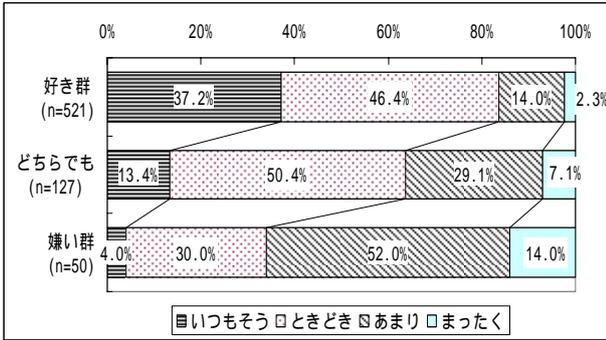
「好き群」「嫌い群」ともに、平成19年度高校生調査のほうが、平成18年度中学生調査よりも取り組みが低下している。

「好き群」は、中学2年生から男子の方が高くなっている。

「嫌い群」は、中学2年生を除いて、女子のほうが高い。

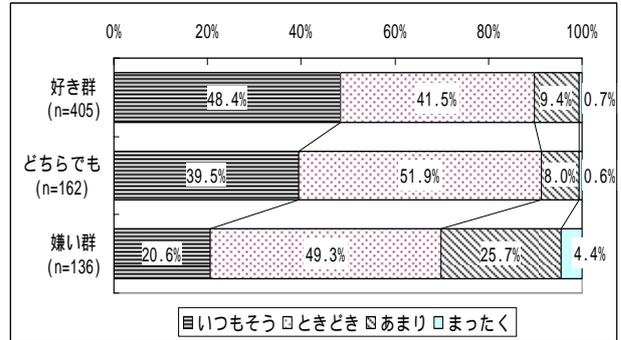
エ 3群×問7 - (4)友達とお互いに教えあったり協力し合ったりして活動しているか

【図3 - 25~30】



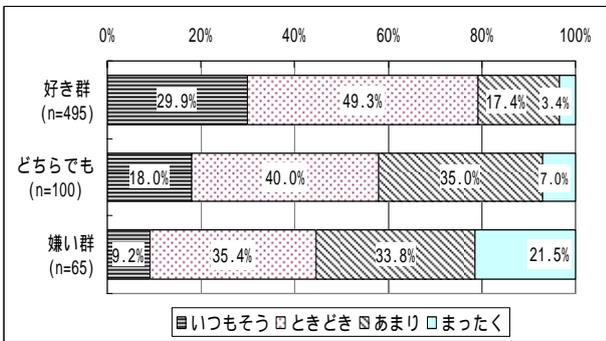
*** p<0.001

図3 - 25 (1年男子)



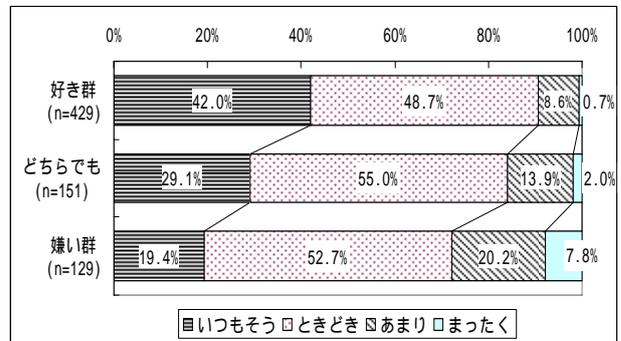
*** p<0.001

図3 - 26 (1年女子)



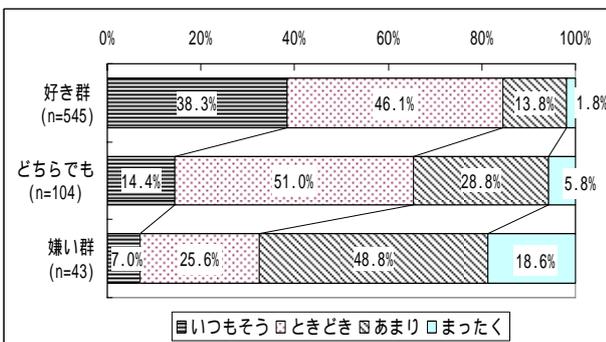
*** p<0.001

図3 - 27 (2年男子)



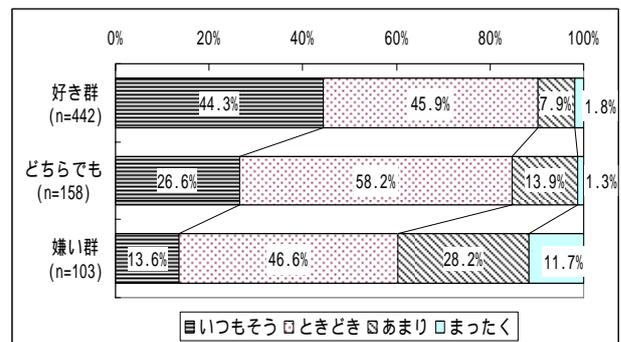
*** p<0.001

図3 - 28 (2年女子)



*** p<0.001

図3 - 29 (3年男子)



*** p<0.001

図3 - 30 (3年女子)

「好き群」の方が、友達とお互いに教えあったり協力し合ったりして活動している割合が高く、「どちらでもない」「嫌い群」になるにしたがって低下している。

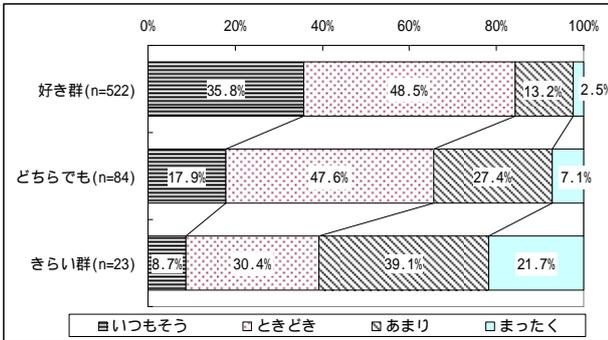
各群とも女子のほうが高い。

女子は「嫌い群」の生徒でも60%以上の生徒が、高い取り組みをしている。

コラム40

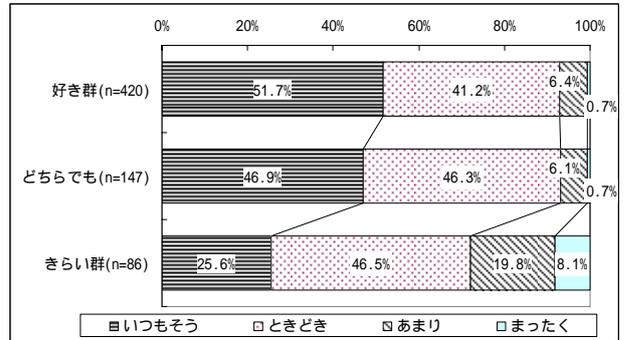
「3群×友達とお互いに教えあったり協力し合ったりして活動しているか」

平成18年度中学生調査との比較【図 - 25~30】



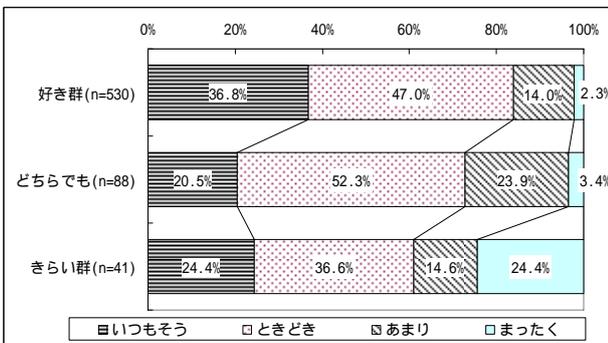
*** p<0.001

図 - 25 (1年男子)



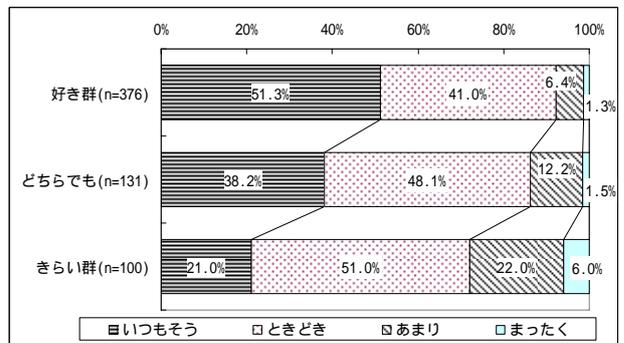
*** p<0.001

図 - 26 (1年女子)



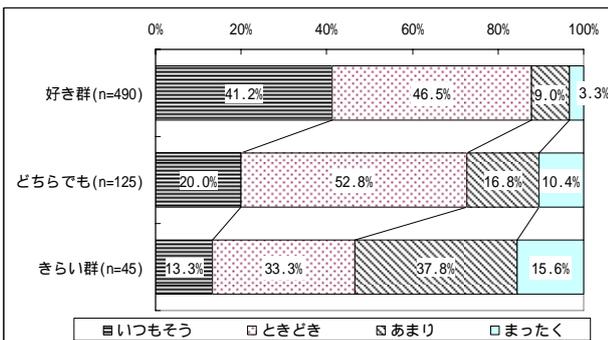
*** p<0.001

図 - 27 (2年男子)



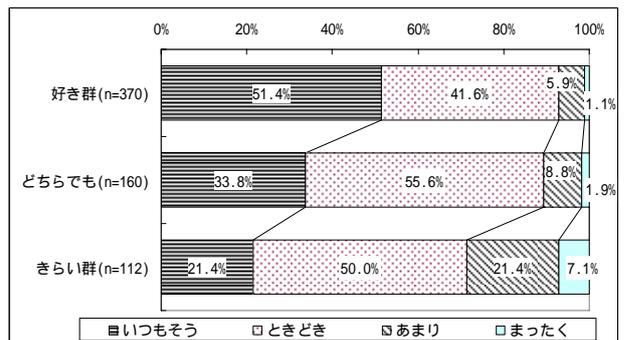
*** p<0.001

図 - 28 (2年女子)



*** p<0.001

図 - 29 (3年男子)



*** p<0.001

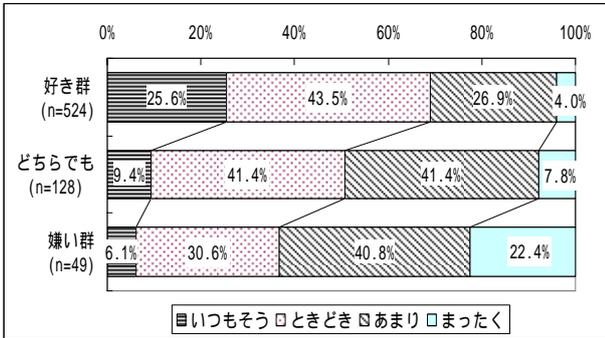
図 - 30 (3年女子)

両調査とも「好き群」の方が、友達とお互いに教えあったり協力し合ったりして活動している割合が高く、「どちらでもない」「嫌い群」になるにしたがって低下している。

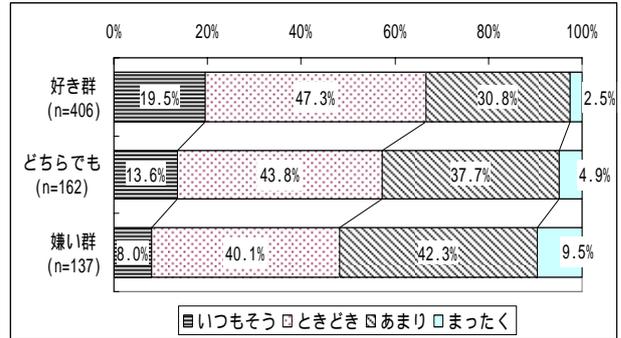
両調査とも、各群女子のほうが高い。

両調査とも、女子は「嫌い群」の生徒でも高い取り組みをしている。

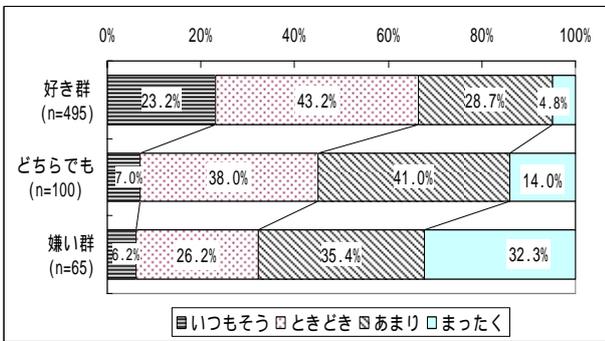
オ 3群×問7 - (5)学習を反省したりできたか
 どうか確かめたりしながら活動しているか
 【図3 - 31 ~ 36】



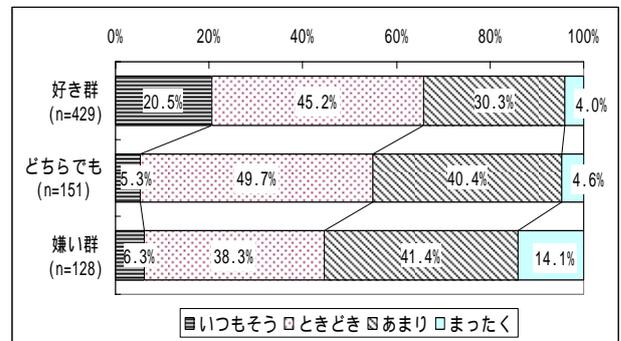
*** p<0.001
 図3 - 31 (1年男子)



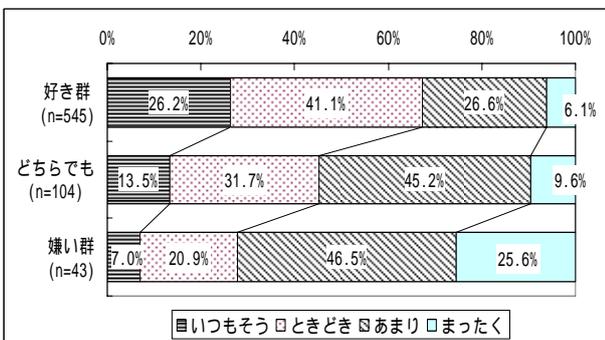
*** p<0.001
 図3 - 32 (1年女子)



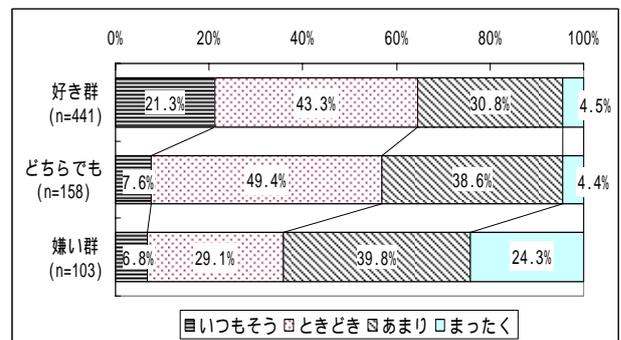
*** p<0.001
 図3 - 33 (2年男子)



*** p<0.001
 図3 - 34 (2年女子)



*** p<0.001
 図3 - 35 (3年男子)



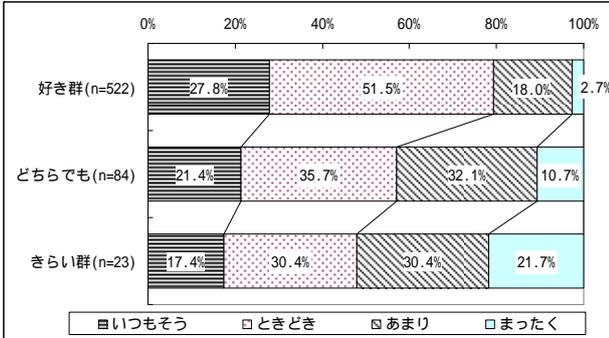
*** p<0.001
 図3 - 36 (3年女子)

「好き群」の方が、学習を反省したりできたかどうか確かめたりしながら活動している割合が高く、「どちらでもない」「嫌い群」になるにしたがって低下している。
 「好き群」は男子の方が高く、「嫌い群」は、女子のほうが高い。

コラム41

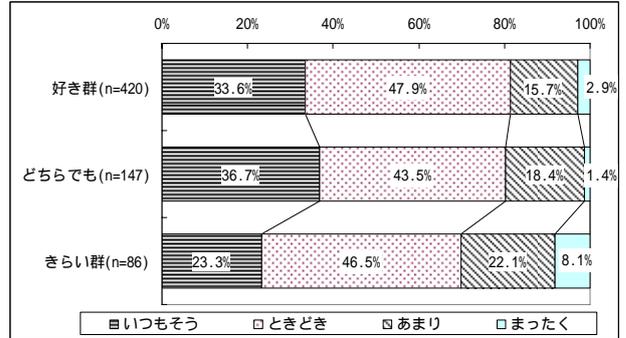
「3群×学習を反省したりできたかどうか確かめたりしながら活動しているか」

平成18年度中学生調査との比較【図 - 31～36】



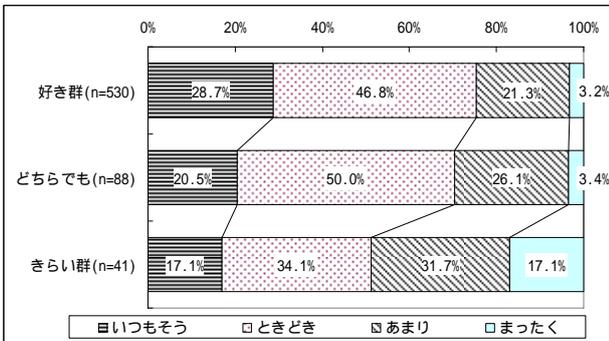
*** p<0.001

図 - 31 (1年男子)



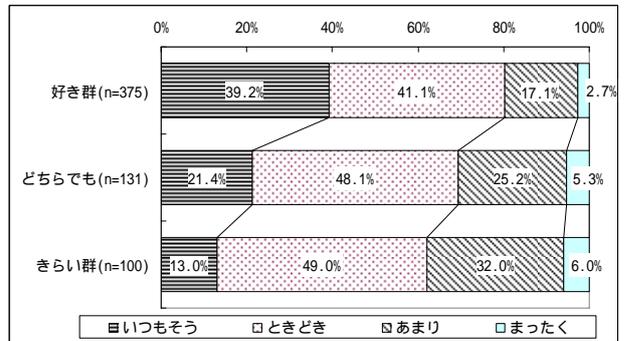
*** p<0.001

図 - 32 (1年女子)



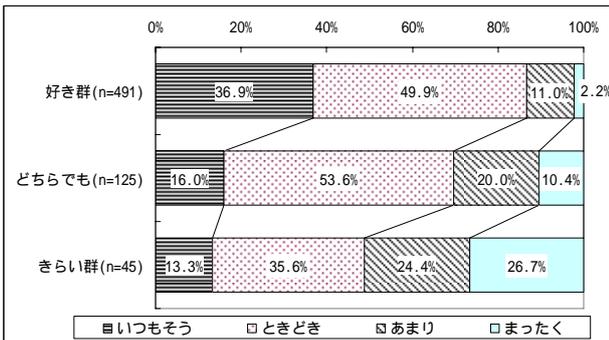
*** p<0.001

図 - 33 (2年男子)



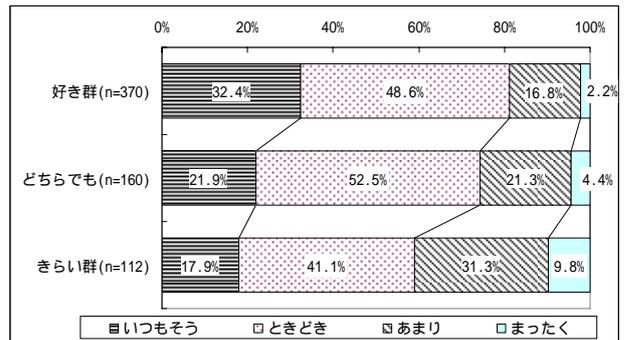
*** p<0.001

図 - 34 (2年女子)



*** p<0.001

図 - 35 (3年男子)



*** p<0.001

図 - 36 (3年女子)

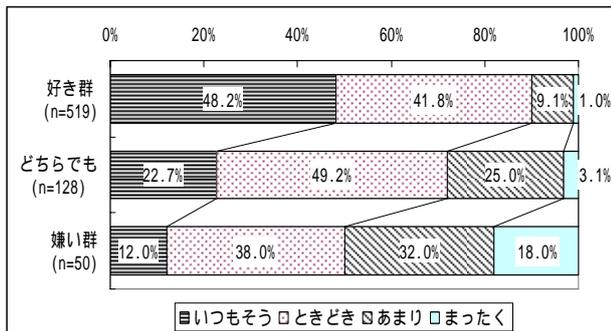
両調査とも「好き群」の方が、学習を反省したりできたかどうか確かめたりしながら活動している割合が高く、「どちらでもない」「嫌い群」になるにしたがって低下している。

「好き群」「嫌い群」ともに、平成19年度高校生調査のほうが、平成18年度中学生調査よりも、取り組みが低下している。

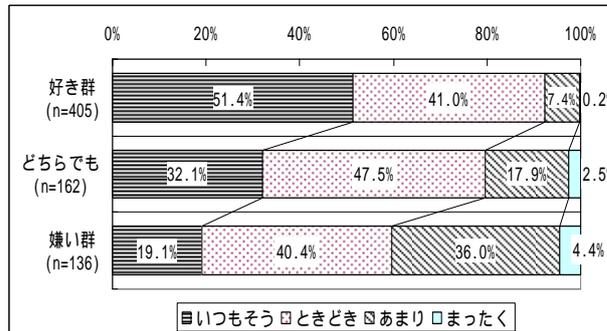
「好き群」は、中学3年生から男子の方が高くなっている。

両調査とも「嫌い群」は、女子のほうが高い。

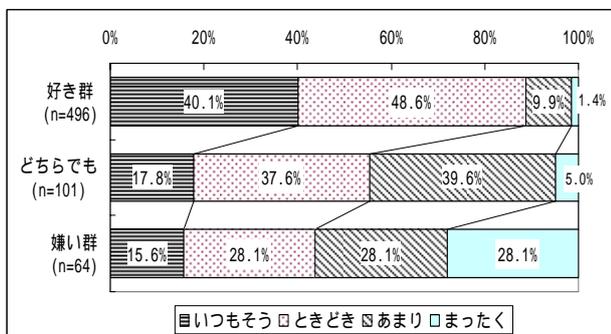
カ 3群×問7 - (6)精一杯最後まで全力をつくして活動しているか【図3 - 37~42】



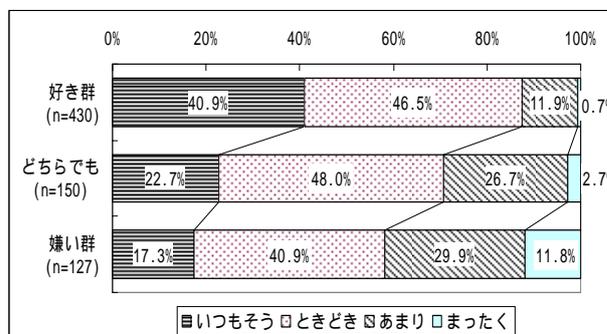
*** p<0.001
図3 - 37 (1年男子)



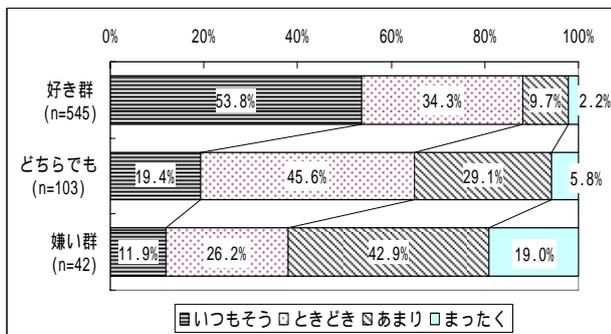
*** p<0.001
図3 - 38 (1年女子)



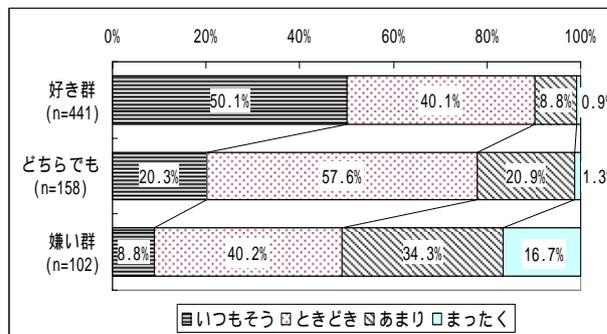
*** p<0.001
図3 - 39 (2年男子)



*** p<0.001
図3 - 40 (2年女子)



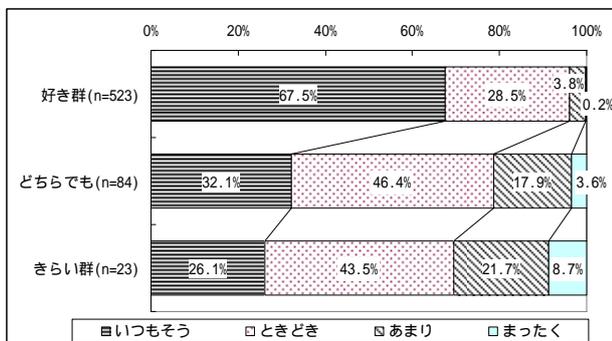
*** p<0.001
図3 - 41 (3年男子)



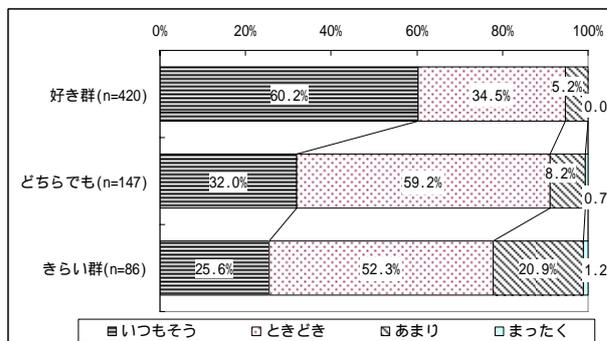
*** p<0.001
図3 - 42 (3年女子)

「好き群」の方が、精一杯最後まで全力をつくして活動している割合が高く、「どちらでもない」「嫌い群」になるにしたがって低下している。「嫌い群」は、女子のほうが高い。

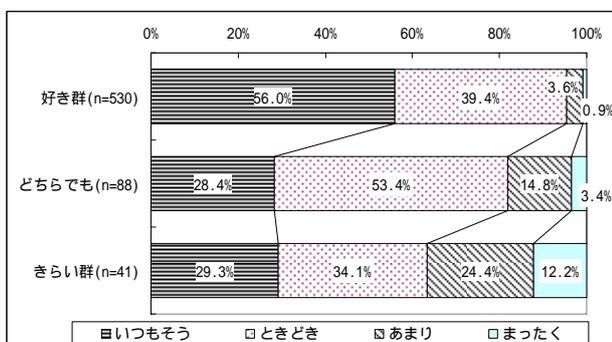
コラム42
 「3群×精一杯最後まで全力をつくして活動しているか」
 平成18年度中学生調査との比較【図 - 37～42】



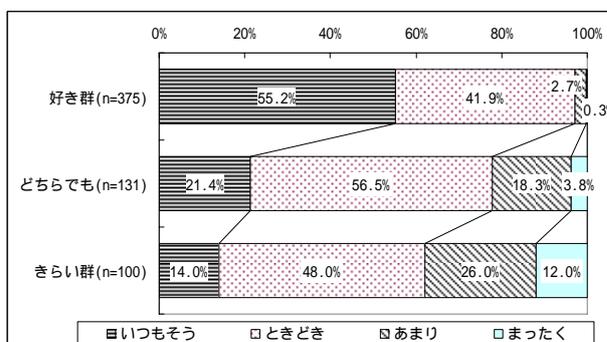
*** p<0.001
 図 - 37 (1年男子)



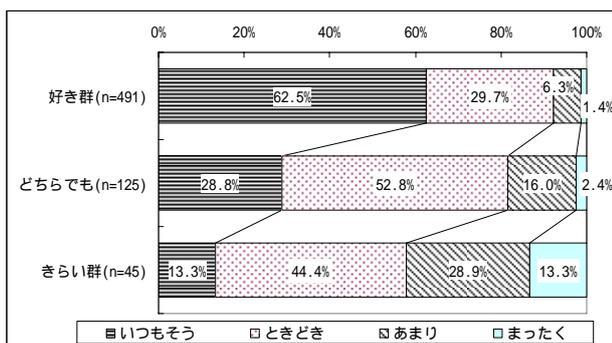
*** p<0.001
 図 - 38 (1年女子)



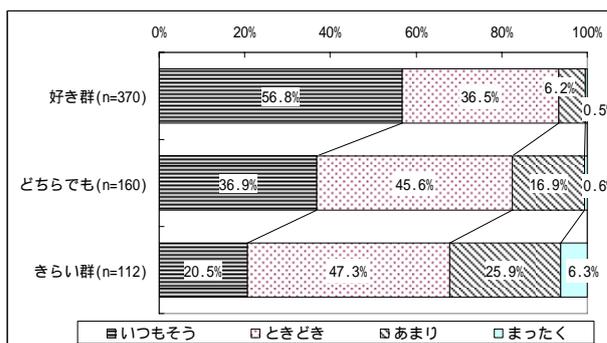
*** p<0.001
 図 - 39 (2年男子)



*** p<0.001
 図 - 40 (2年女子)



*** p<0.001
 図 - 41 (3年男子)



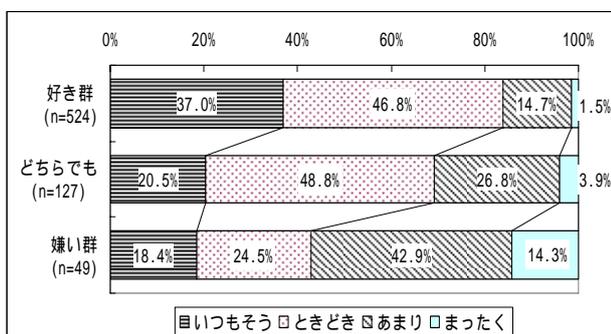
*** p<0.001
 図 - 42 (3年女子)

両調査ともに、「好き群」の方が、精一杯最後まで全力をつくして活動している割合が高く「どちらでもない」「嫌い群」になるにしたがって低下している。

「好き群」「嫌い群」ともに、平成19年度高校生調査のほうが、平成18年度中学生調査よりも取り組みが低下している。

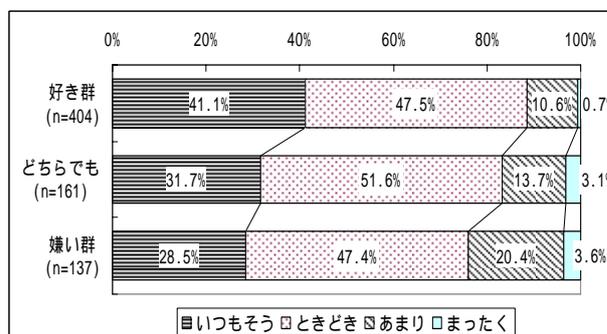
両調査とも、「嫌い群」は、女子のほうが高い。

キ 3群×問7 - (7)準備や片付けに進んで取り組んだり、自分の役割を果たそうとしたりして活動しているか【図3 - 43~48】



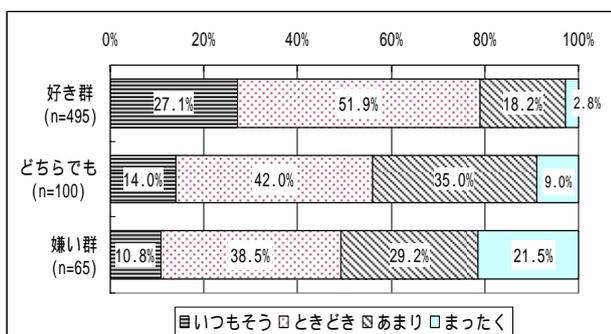
*** p<0.001

図3 - 43 (1年男子)



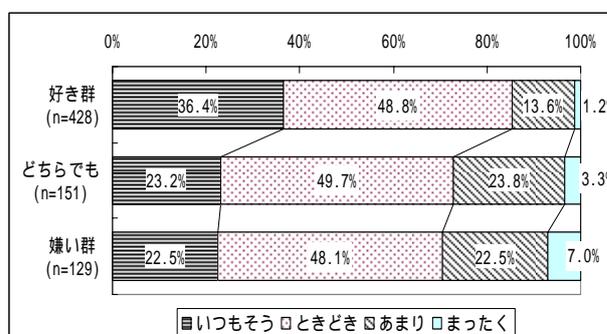
** p<0.01

図3 - 44 (1年女子)



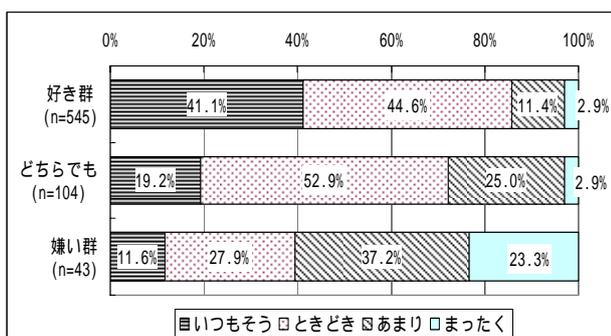
*** p<0.001

図3 - 45 (2年男子)



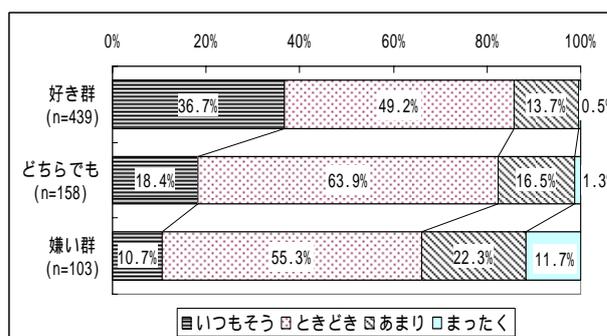
*** p<0.001

図3 - 46 (2年女子)



*** p<0.001

図3 - 47 (3年男子)



*** p<0.001

図3 - 48 (3年女子)

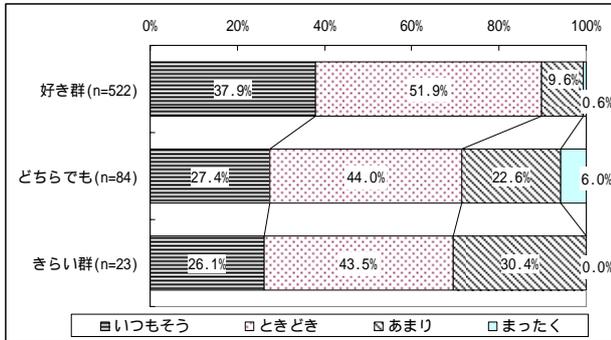
「好き群」の方が、準備や片付けに進んで取り組んだり、自分の役割を果たそうとしたりして活動している割合が高く、「どちらでもない」「嫌い群」になるにしたがって低下している。

「好き群」「嫌い群」ともに、女子のほうが高い傾向にある。

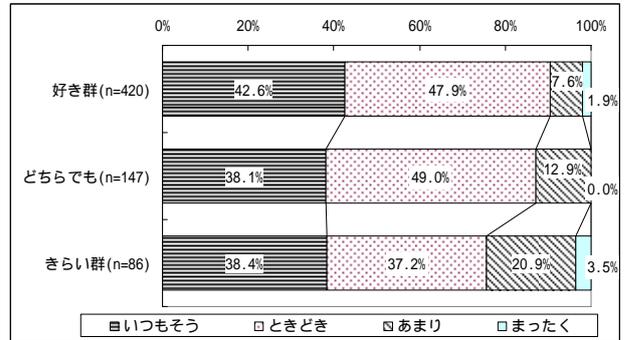
女子は「嫌い群」の生徒でも66.0%以上の生徒が、高い取り組みをしている。

コラム43

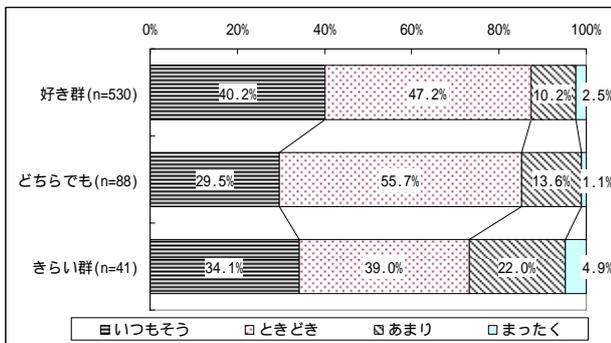
「3群×準備や片付けに進んで取り組んだり、自分の役割を果たそうとしたりして活動しているか」
 平成18年度中学生調査との比較【図 - 43～48】



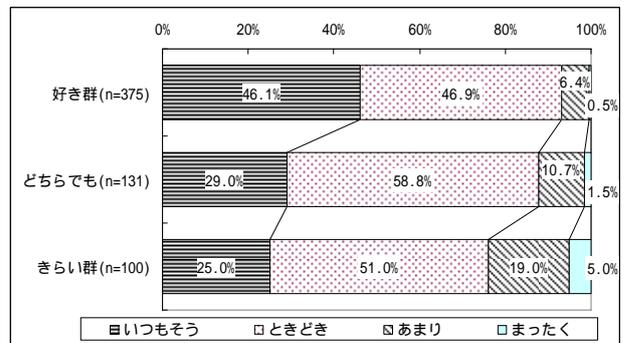
*** p<0.001
 図 - 43 (1年男子)



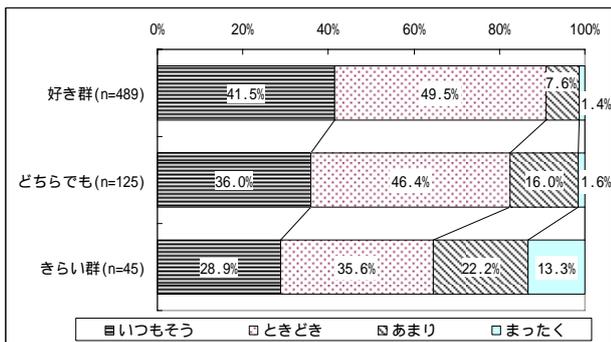
** p<0.01
 図 - 44 (1年女子)



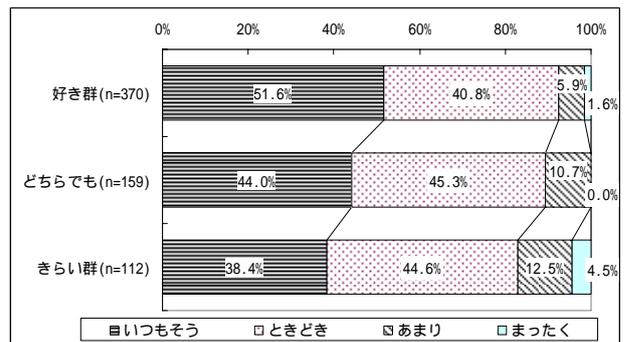
ns
 図 - 45 (2年男子)



*** p<0.001
 図 - 46 (2年女子)



*** p<0.001
 図 - 47 (3年男子)



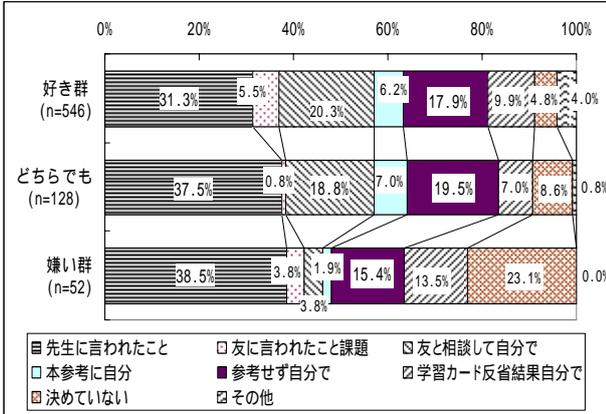
** p<0.01
 図 - 48 (3年女子)

「好き群」の方が、準備や片付けに進んで取り組んだり、自分の役割を果たそうとしたりして活動している割合が最も高く、「どちらでもない」「嫌い群」になるにしたがって低下している。

「好き群」「嫌い群」ともに、平成19年度高校生調査のほうが、平成18年度中学生調査よりも取り組みが低下している。

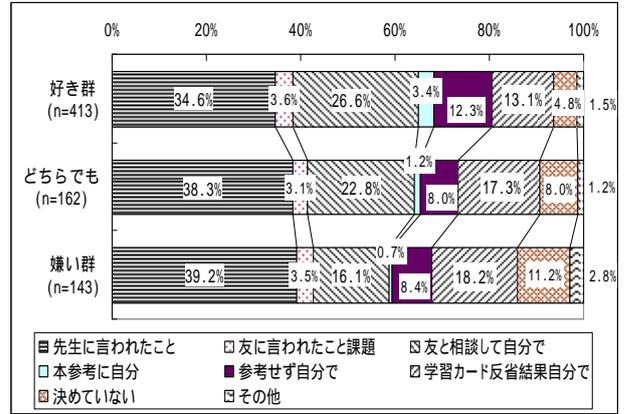
女子は「嫌い群」の生徒でも高い取り組みをしている。

ク 3群×問8 体育の学習で自分の課題をどのよ
うに決めるのか【図3 - 49~54】



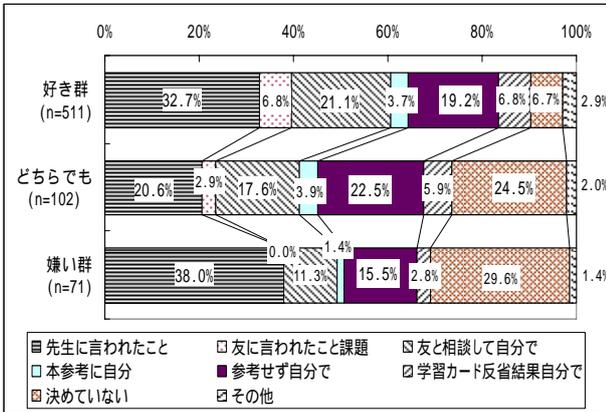
*** p<0.001

図3 - 49 (1年男子)



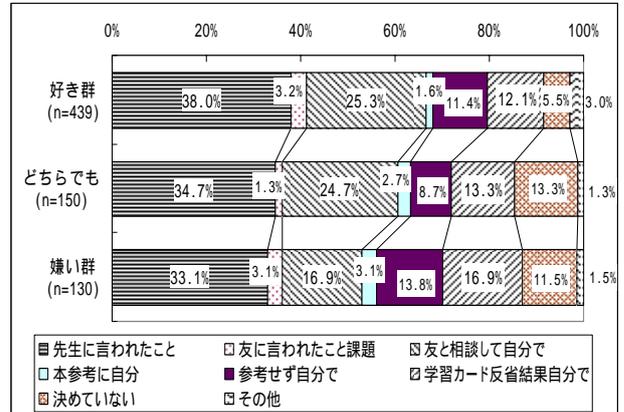
* p< 0.05

図3 - 50 (1年女子)



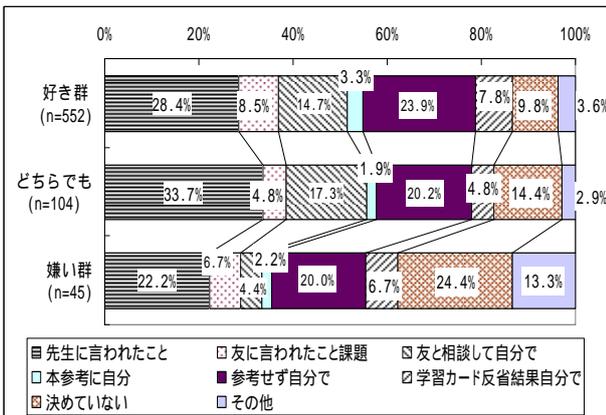
*** p<0.001

図3 - 51 (2年男子)



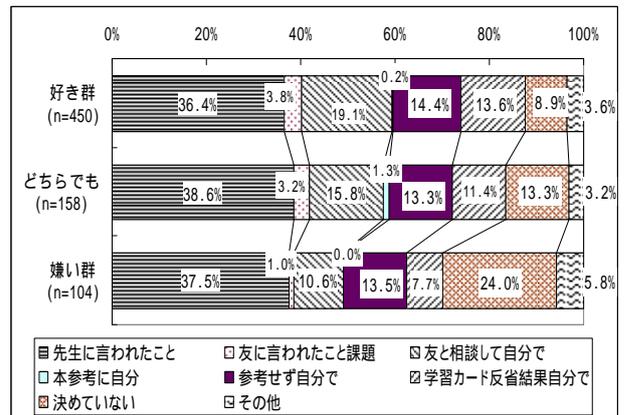
ns

図3 - 52 (2年女子)



* p< 0.05

図3 - 53 (3年男子)



** p<0.01

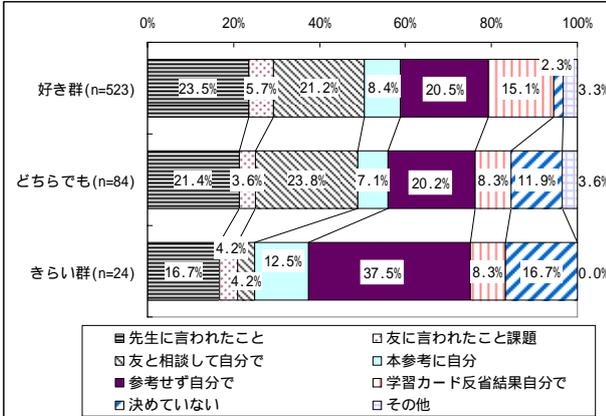
図3 - 54 (3年女子)

「好き群」の割合が最も高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している項目は、「友達と相談して、自分で決める」（以下「友と相談自分で」と言う。）「友達と相談して、友達から言われたことを課題にしている」「学習カードで学習を振り返り、その反省や結果分析をもとに自分で決める」であった。

コラム44

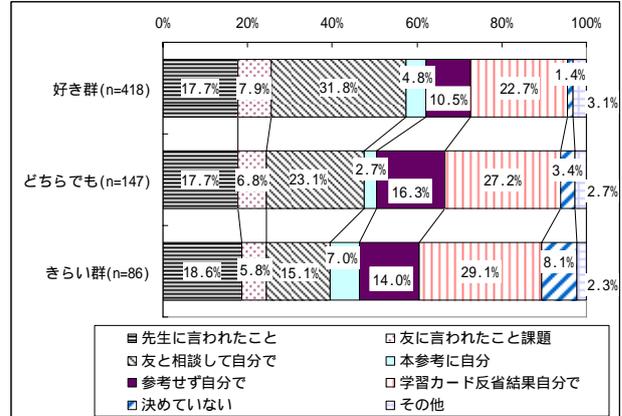
「3群×体育の学習で自分の課題をどのように決めるのか」

平成18年度中学生調査との比較【図 - 49～54】



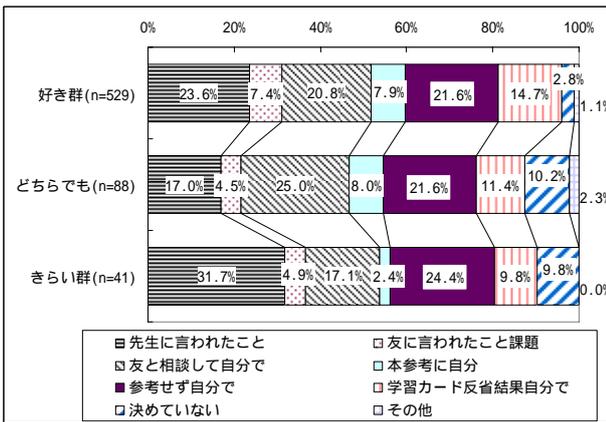
*** p<0.001

図 - 49 (1年男子)



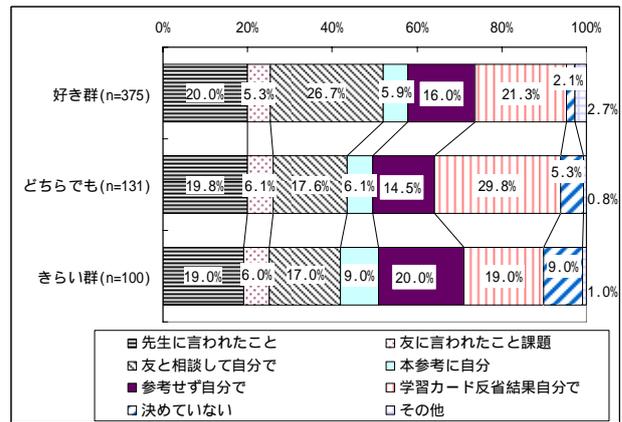
* p< 0.05

図 - 50 (1年女子)



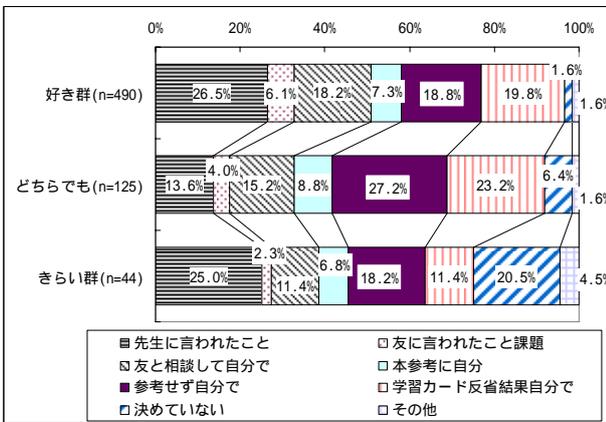
ns

図 - 51 (2年男子)



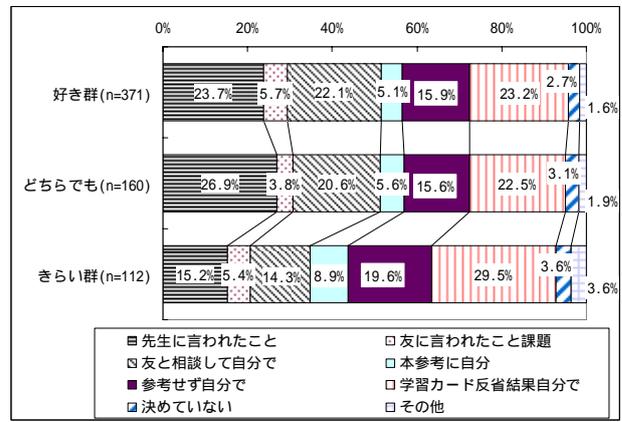
* p< 0.05

図 - 52 (2年女子)



*** p<0.001

図 - 53 (3年男子)



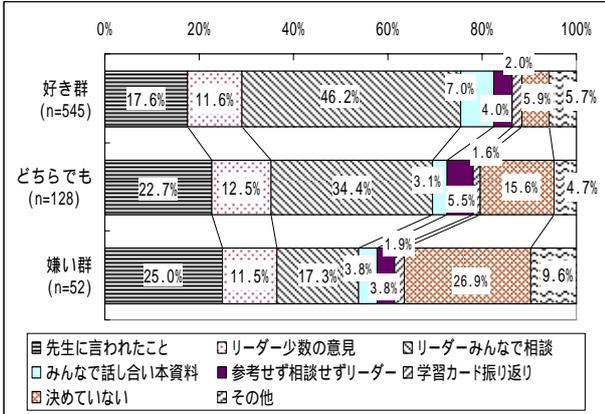
ns

図 - 54 (3年女子)

「好き群」の割合が最も高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している項目は、「友達と相談自分で」「先生に言われたこと」であった。

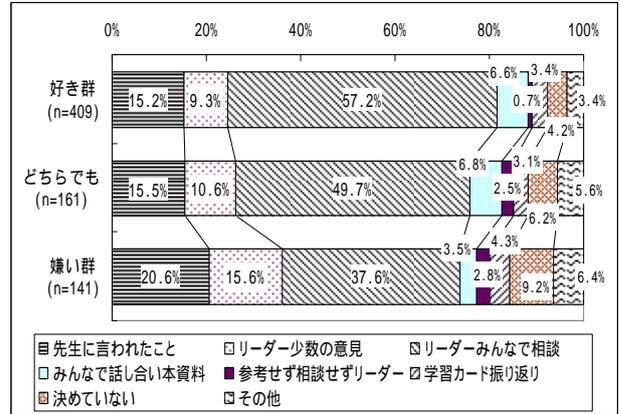
「好き群」の割合が最も低く、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっている項目は、「わからないので決めていない」であった。

ケ 3群×問9 体育の学習でグループやチームの課題をどのように決めるのか【図3 - 55 ~ 60】



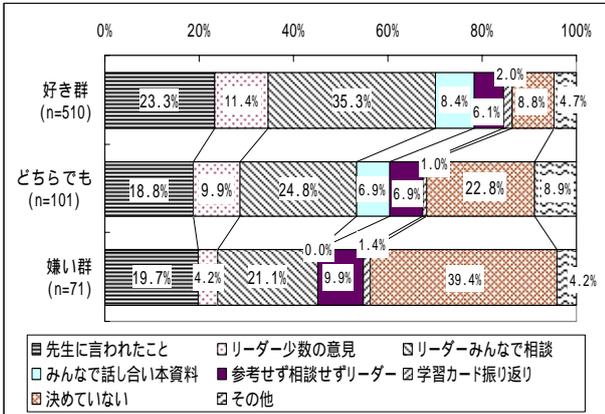
*** p<0.001

図3 - 55 (1年男子)



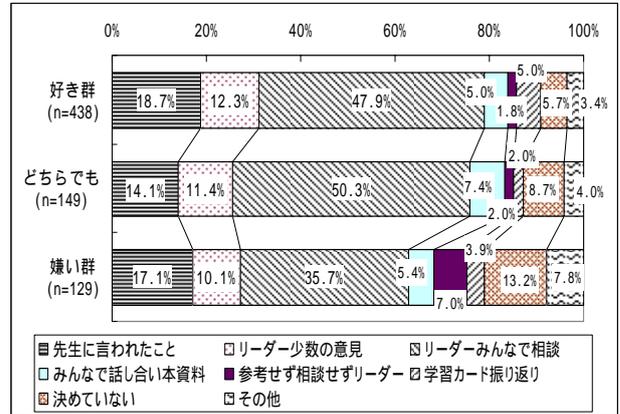
* p< 0.05

図3 - 56 (1年女子)



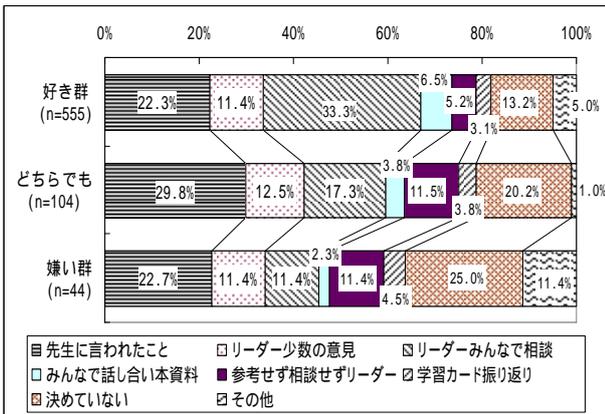
*** p<0.001

図3 - 57 (2年男子)



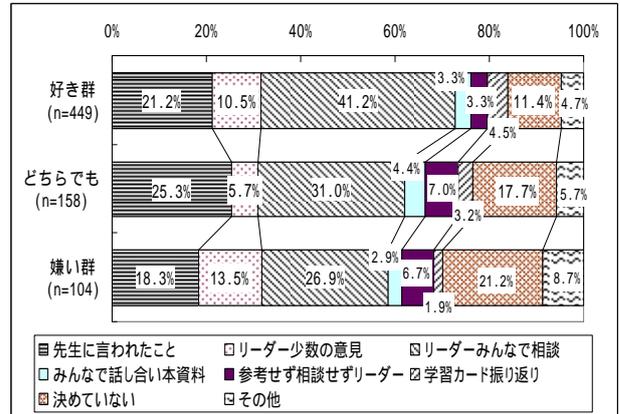
** p<0.01

図3 - 58 (2年女子)



*** p<0.001

図3 - 59 (3年男子)



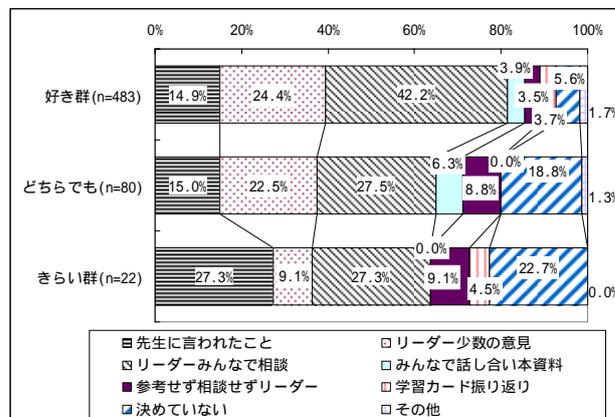
* p< 0.05

図3 - 60 (3年女子)

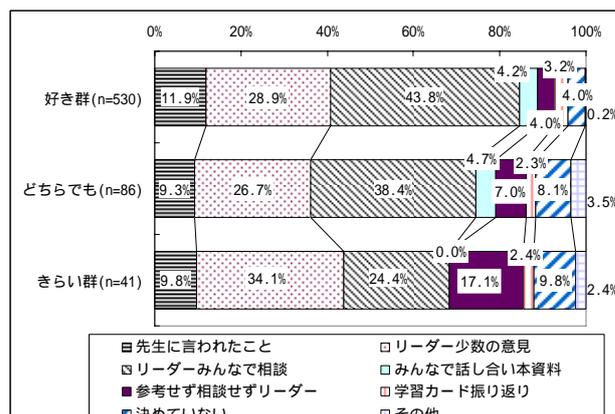
「好き群」の割合が最も高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している項目は、「リーダーを中心に話し合い、みんなで相談してみんなで決めている」（以下「リーダーみんなで相談」と言う。）「リーダーを中心に話し合い、リーダーや少数の意見を中心に課題を決めている」（以下「リーダー少数意見」と言う。）「みんなで話し合い、本や資料などを参考にして、その中から決めている」であった。

「好き群」の割合が最も低く、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっている項目は、「わからないので決めていない」（以下「決めていない」と言う。）「何にも参考にせず、相談もしないでリーダーが決めている」（以下「参考相談せずリーダー」と言う。）であった。

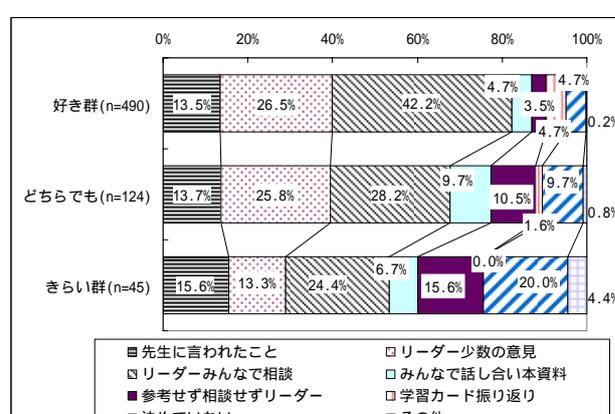
コラム45
 「3群×体育の学習でグループやチームの課題をどのように決めるのか」
 平成18年度中学生調査との比較【図 - 55～60】



*** p<0.001
 図 - 55 (1年男子)



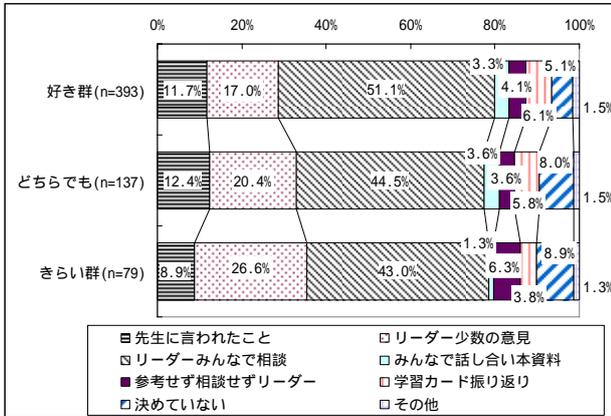
*** p<0.001
 図 - 57 (2年男子)



*** p<0.001
 図 - 59 (3年男子)

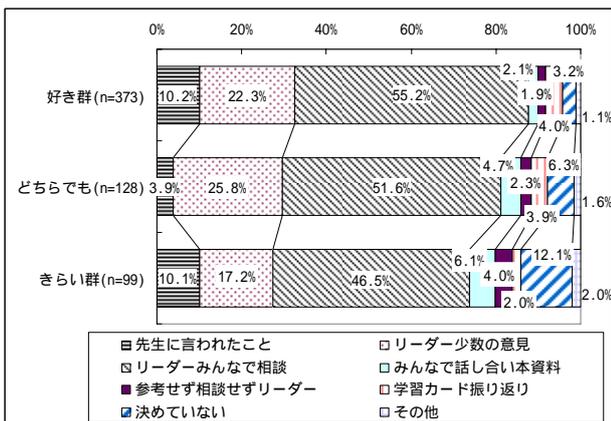
「好き群」の割合が最も高く、「どちらでもない」「どちらでもなく」と低下している項目は、「リーダーみんなで相談」「リーダー少数意見」「学習カードで学習を振り返り、その反省や結果分析をもとにみんなで決めている」であった。

「好き群」の割合が最も低く、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっている項目は、「参考相談せずリーダー」「決めていない」であった。



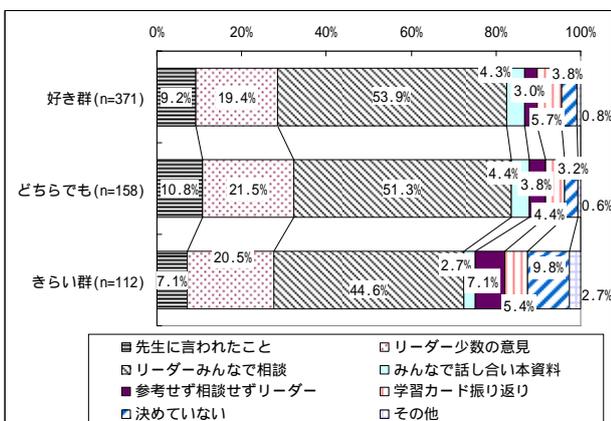
ns

図 - 56 (1年女子)



* $p < 0.05$

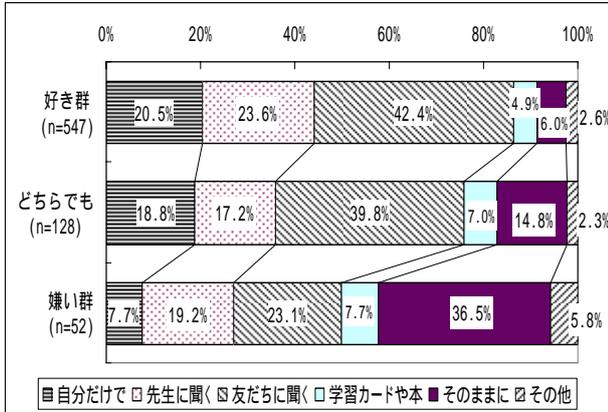
図 - 58 (2年女子)



ns

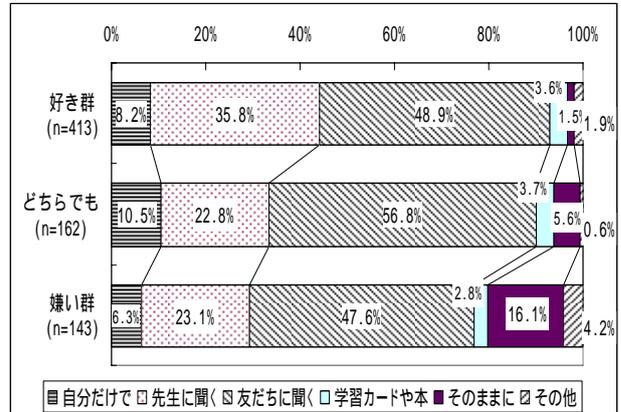
図 - 60 (3年女子)

コ 3群×問10体育の学習で課題をうまく達成できないときどうするか【図3 - 61~66】



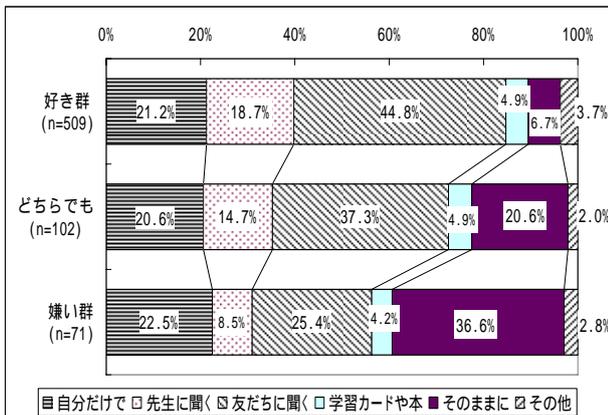
*** p<0.001

図3 - 61 (1年男子)



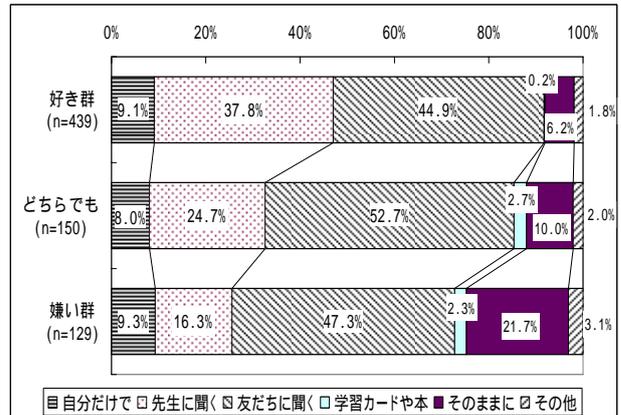
*** p<0.001

図3 - 62 (1年女子)



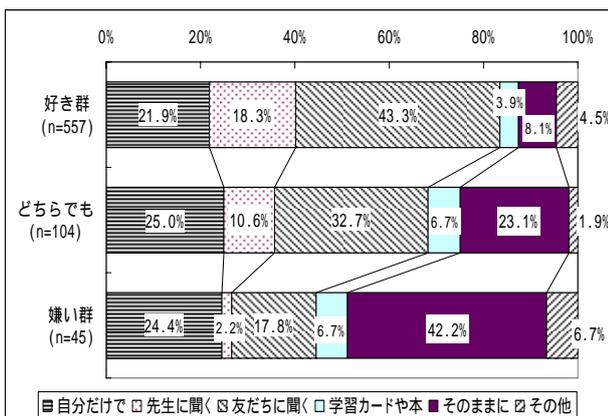
*** p<0.001

図3 - 63 (2年男子)



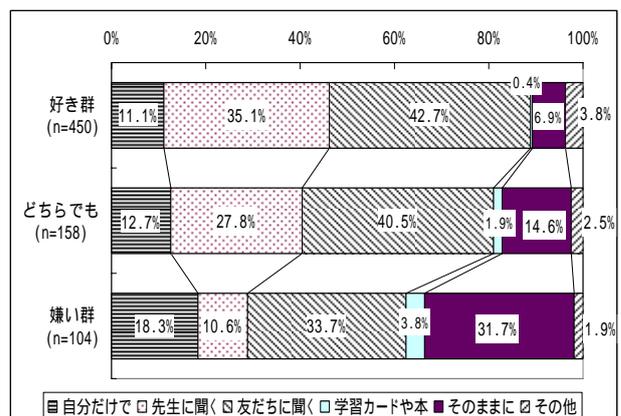
*** p<0.001

図3 - 64 (2年女子)



*** p<0.001

図3 - 65 (3年男子)



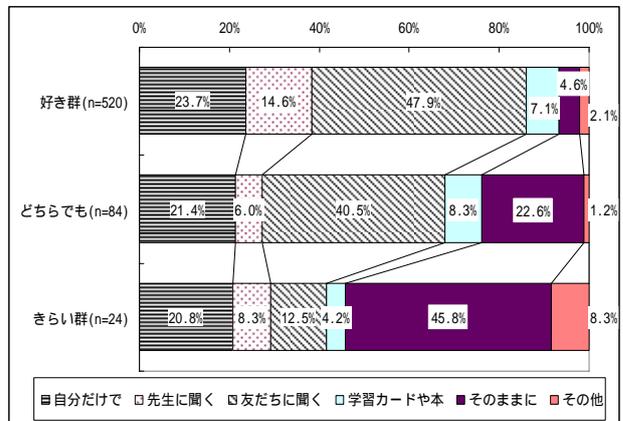
*** p<0.001

図3 - 66 (3年女子)

「好き群」の割合が最も高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している項目は、「先生に直接聞いたり、学習カードで質問したりする」（以下「先生に聞く」と言う。）「友達に聞く」であった。

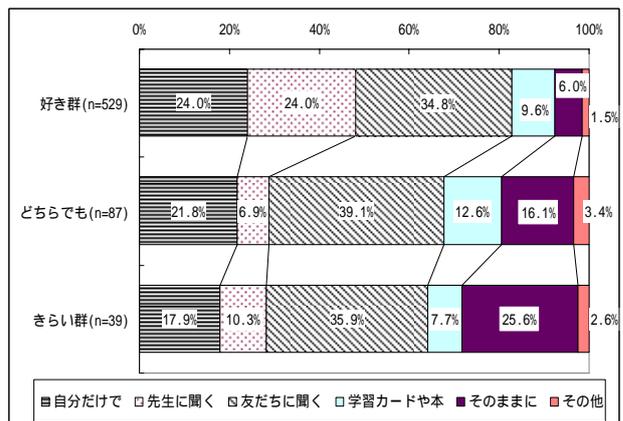
「好き群」の割合が1番低く、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっている項目は、「わからないので、大体そのままにしておく」（以下「そのままに」と言う。）「学習カードや本を見る」であった。

コラム46
 「3群×体育の学習で課題をうまく達成できないときどうするか」
 平成18年度中学生調査との比較【図 - 61～66】



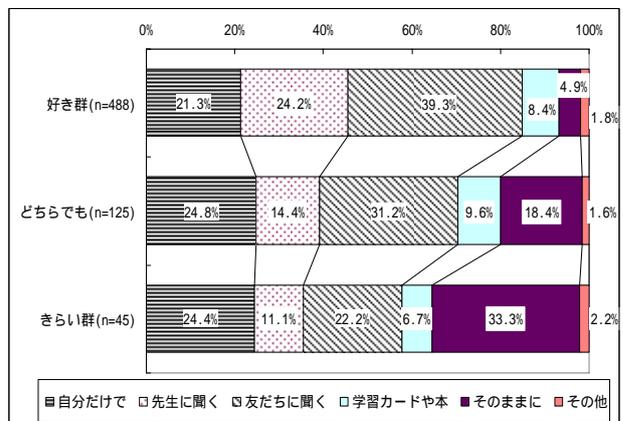
*** p<0.001

図 - 61 (1年男子)



*** p<0.001

図 - 63 (2年男子)

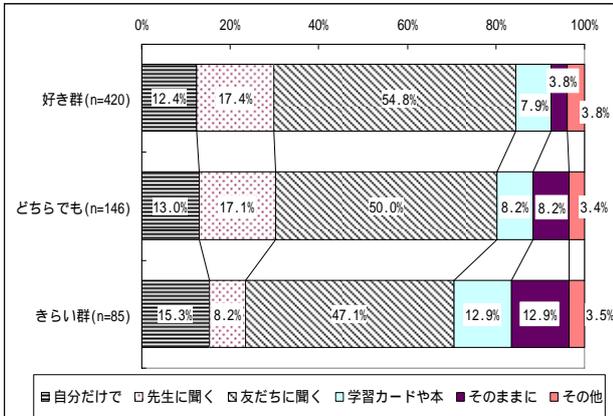


*** p<0.001

図 - 65 (3年男子)

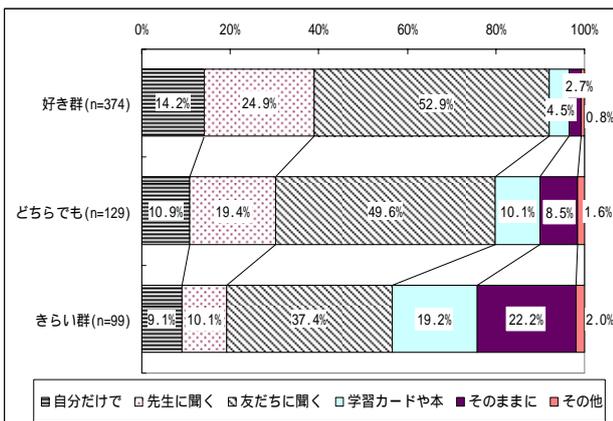
「好き群」の割合が最も高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している項目は、「自分だけで頑張る」「先生に聞く」「友達に聞く」であった。

「好き群」の割合が最も低く、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっている項目は、「そのまま」「学習カードや本を見る」であった。



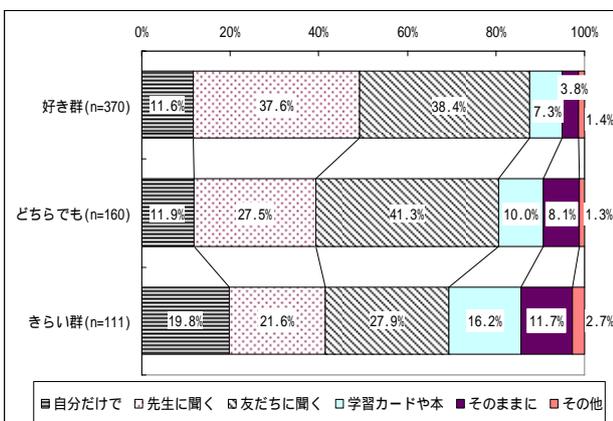
* $p < 0.05$

図 - 62 (1年女子)



*** $p < 0.001$

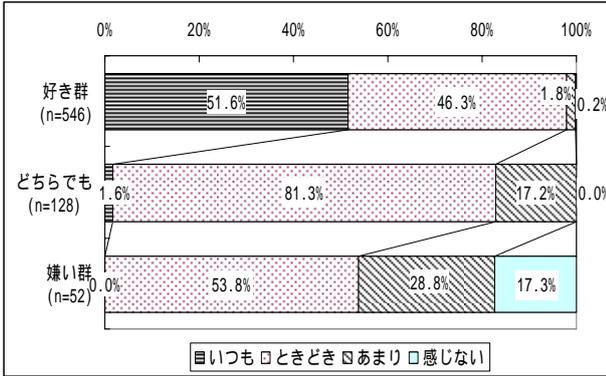
図 - 64 (2年女子)



*** $p < 0.001$

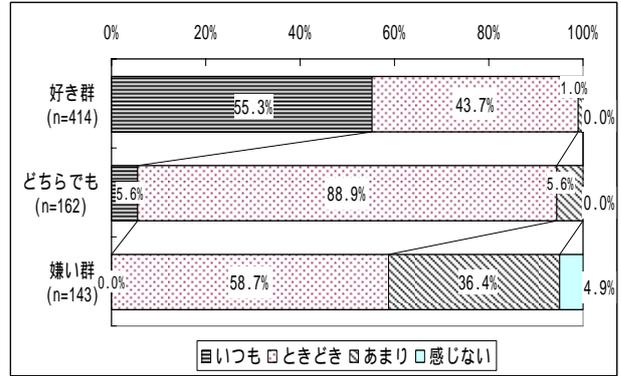
図 - 66 (3年女子)

サ 3群×問11体育の学習が楽しいと感じたことがあるか【図3 - 67～72】



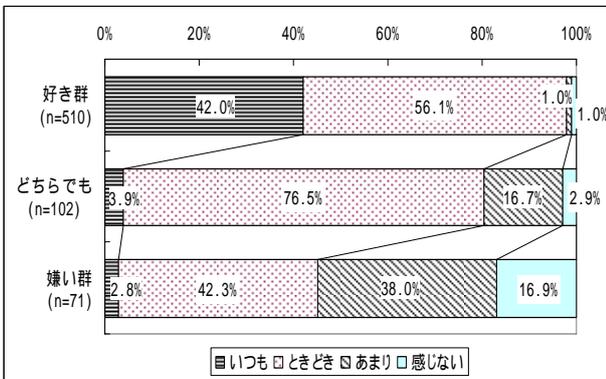
*** p<0.001

図3 - 67 (1年男子)



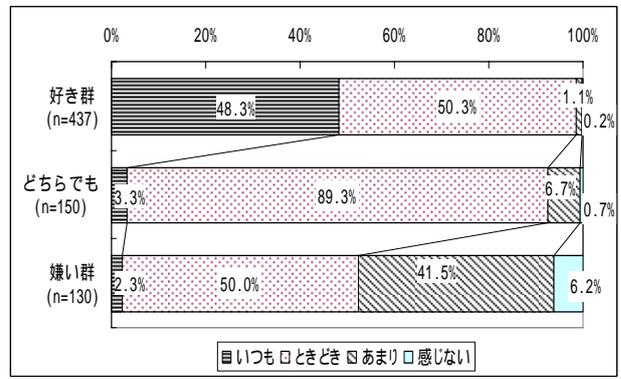
*** p<0.001

図3 - 68 (1年女子)



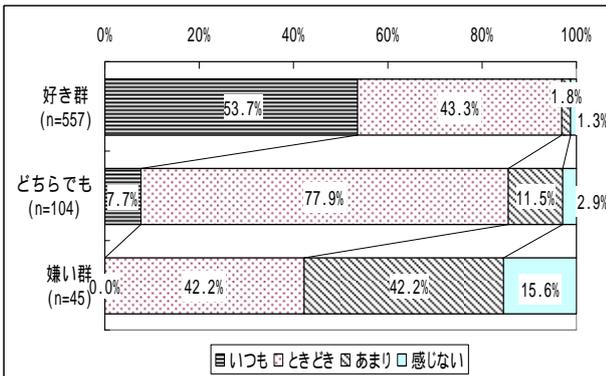
*** p<0.001

図3 - 69 (2年男子)



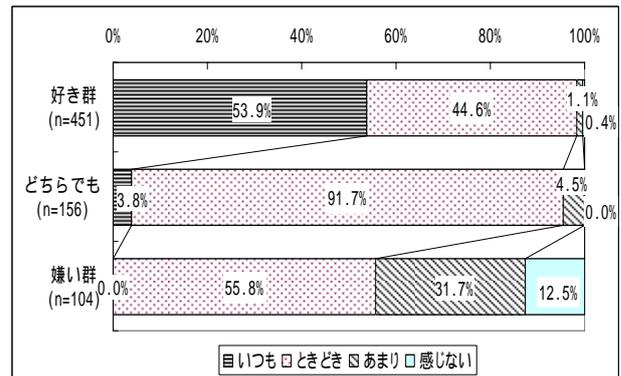
*** p<0.001

図3 - 70 (2年女子)



*** p<0.001

図3 - 71 (3年男子)



*** p<0.001

図3 - 72 (3年女子)

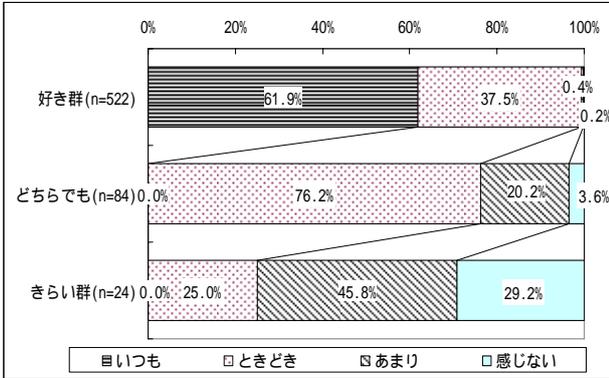
「好き群」の「いつも感じる」と「ときどき感じる」を合わせた（以下「感じる群」と言う。）割合は、97.0%以上で、「どちらでもない」「嫌い群」の順で低下している。

「嫌い群」の「感じる群」は、女子が高く、男子は学年進捗とともに低下している。

コラム47

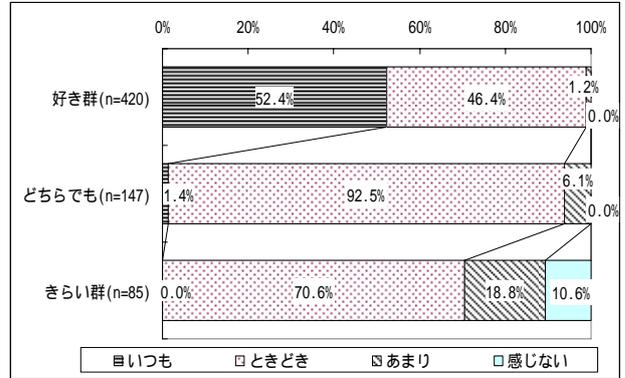
「3群×体育の学習が楽しいと感じたことがあるか」

平成18年度中学生調査との比較【図 - 67~72】



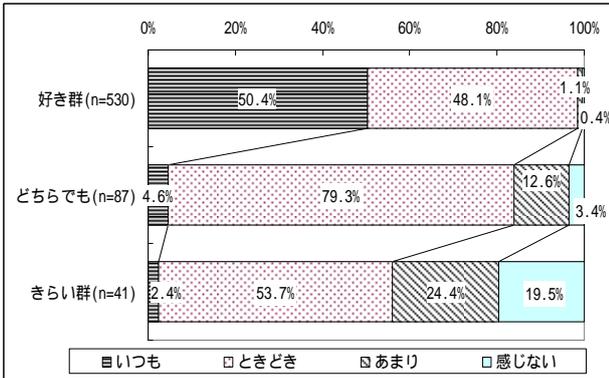
*** p<0.001

図 - 67 (1年男子)



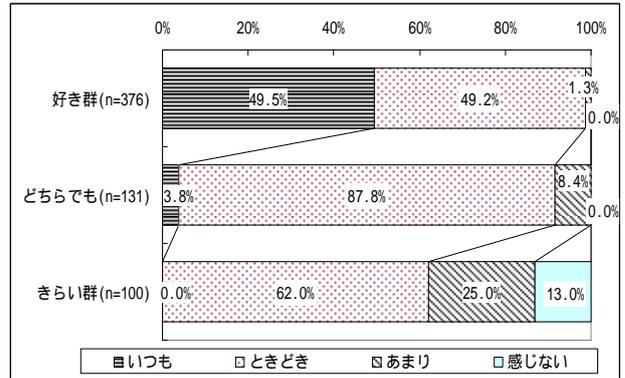
*** p<0.001

図 - 68 (1年女子)



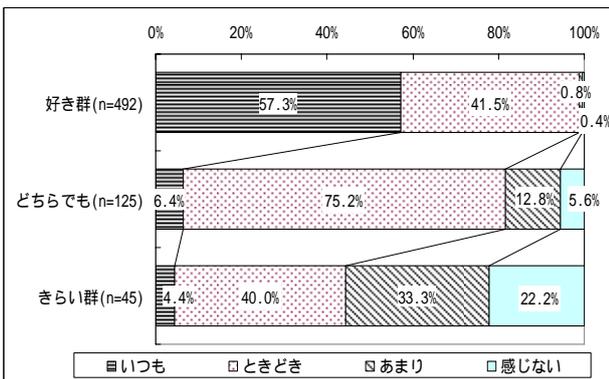
*** p<0.001

図 - 69 (2年男子)



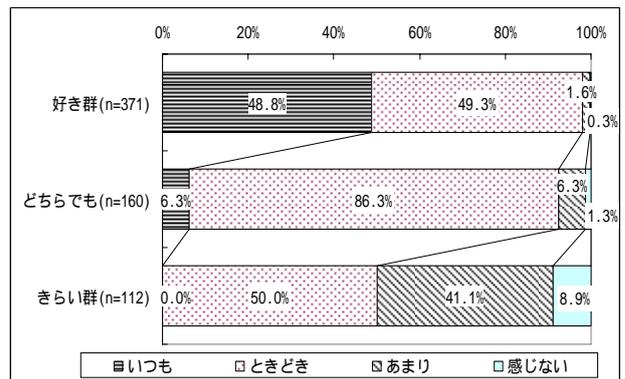
*** p<0.001

図 - 70 (2年女子)



*** p<0.001

図 - 71 (3年男子)



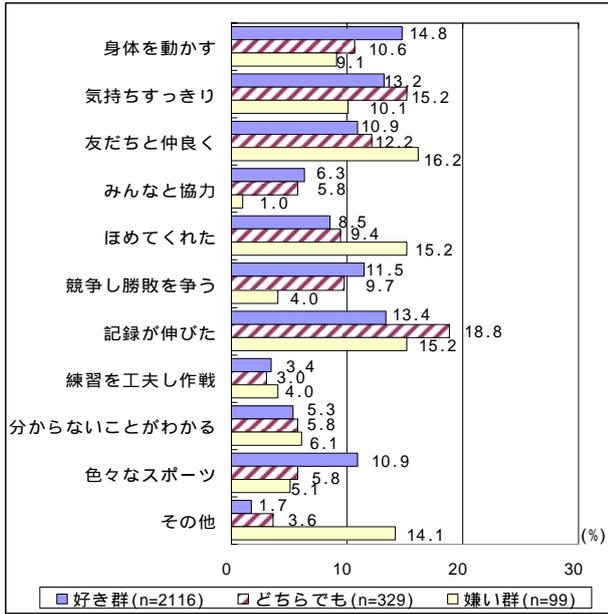
*** p<0.001

図 - 72 (3年女子)

「好き群」の「感じる群」は、98%以上で、「どちらでもない」「嫌い群」の順で低下している。

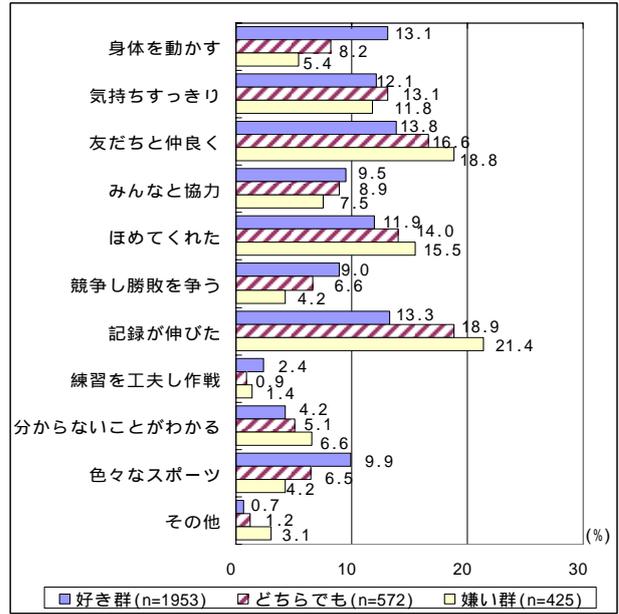
「嫌い群」の「感じる群」は女子が高く、平成19年度高校生調査と同じである。

シ 3群×問12体育の学習で楽しいと感じたのは
 どんときか【図3 - 73~78】



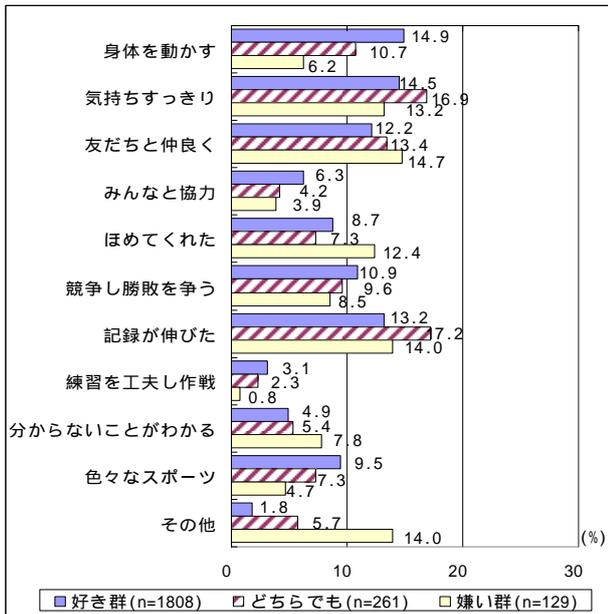
*** p<0.001

図3 - 73 (1年男子)



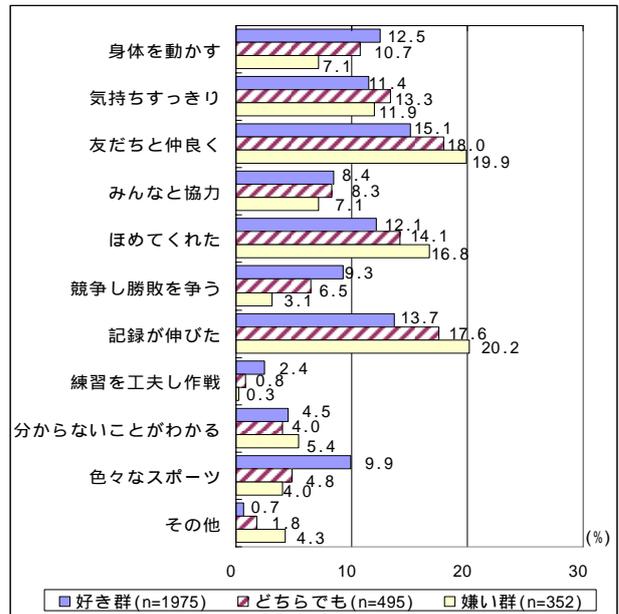
*** p<0.001

図3 - 74 (1年女子)



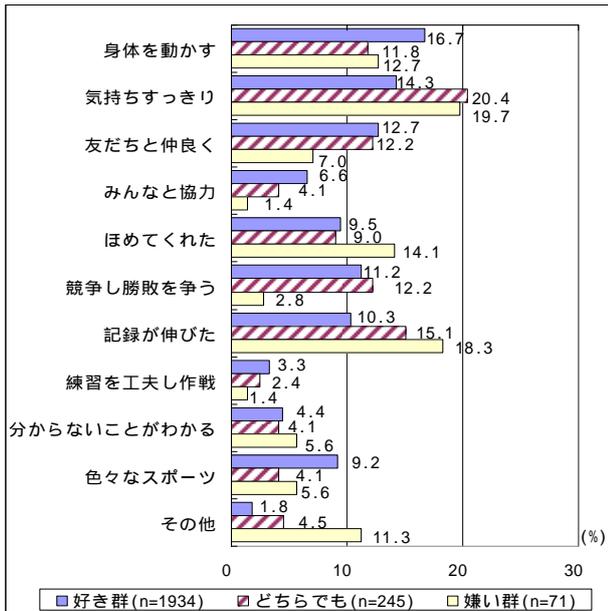
*** p<0.001

図3 - 75 (2年男子)



*** p<0.001

図3 - 76 (2年女子)



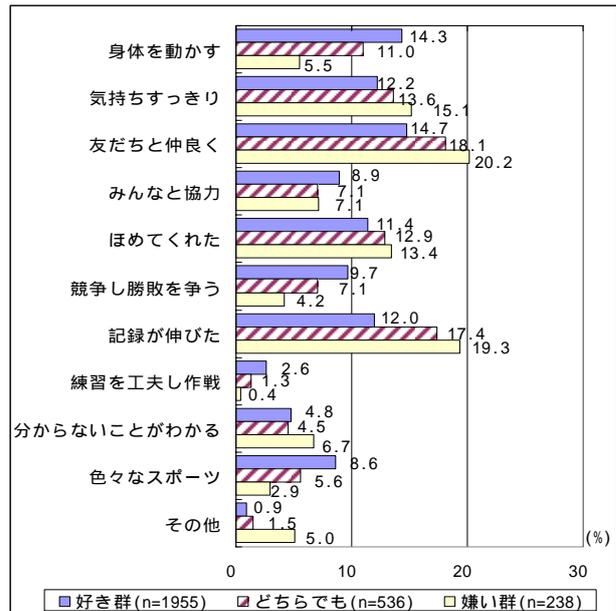
*** p<0.001

図3 - 77 (3年男子)

「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している項目は、「思いやり身体を動かすことができたとき」(以下「身体を動かす」と言う。)
 「みんなと教えあったり、励ましあったり、協力したりしてできたとき」「友達と競争したり、みんなで勝敗を争ったりするゲームができたとき」(以下「競争し勝敗を争う」と言う。)
 「新しい技に挑戦したり、色々なスポーツができたとき」(以下「色々なスポーツ」と言う。)
 「自分たちで練習を工夫したり、作戦を立てたりできたとき」であった。

「好き群」の割合が1番低く、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっている項目は、「友達と仲よく一緒に学習できたとき」(以下「友達と仲良く」と言う。)
 「うまくできたり、頑張ったりしたときに、仲間や先生がほめてくれたとき」「記録が伸びたり、できなかったことができるようになったとき」(以下「記録が伸びた」と言う。)であった。

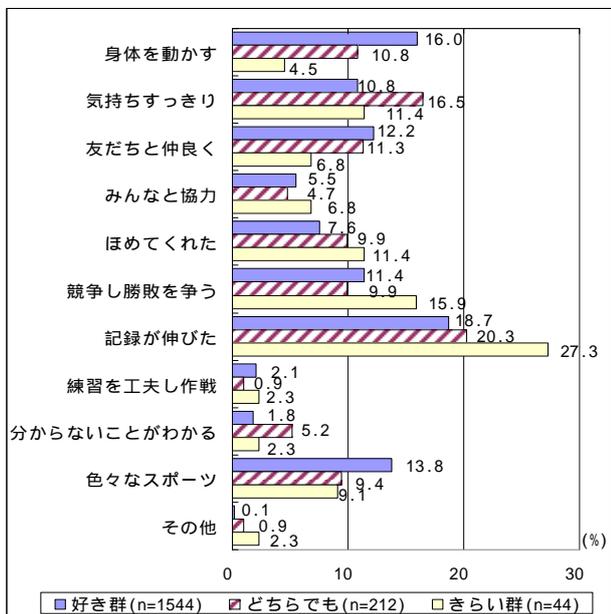
各学年「気持ちがすっきりしたとき」(以下「気持ちすっきり」と言う。)
 「記録が伸びた」、「友達と仲良く」の割合が高い。



*** p<0.001

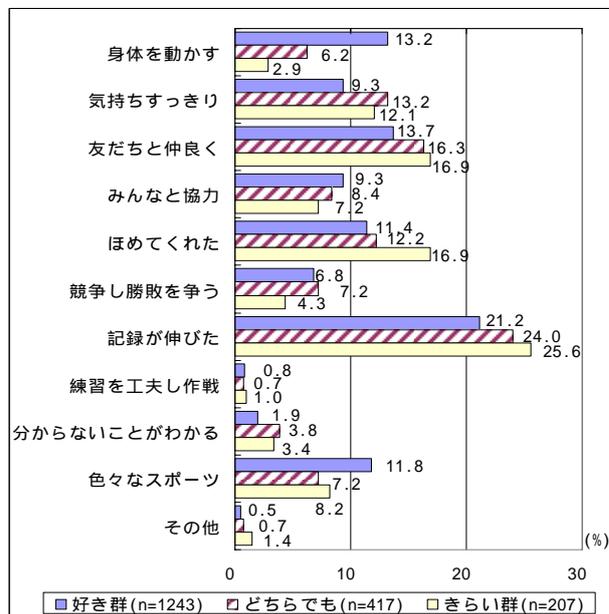
図3 - 78 (3年女子)

コラム48
 「3群×体育の学習で楽しいと感じたのはどんなときか」
 平成18年度中学生調査との比較【図 -73~78】



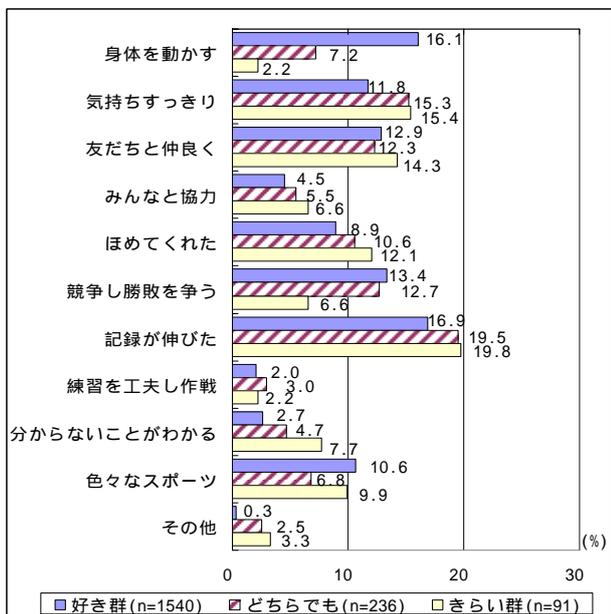
** p<0.01

図 - 73 (1年男子)



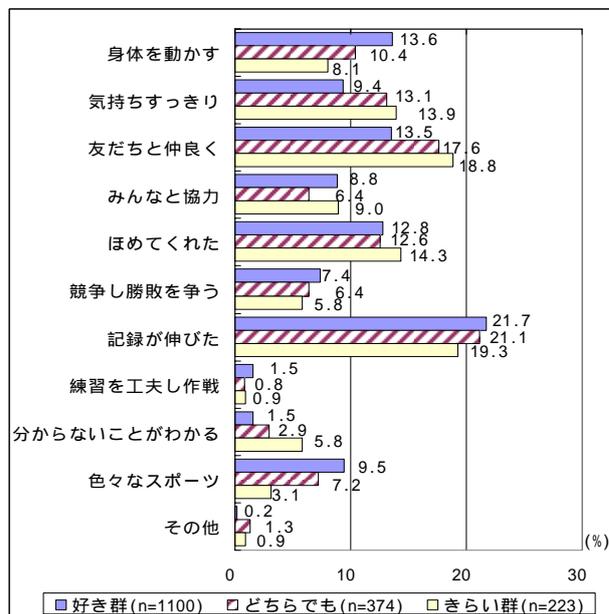
*** p<0.001

図 - 74 (1年女子)



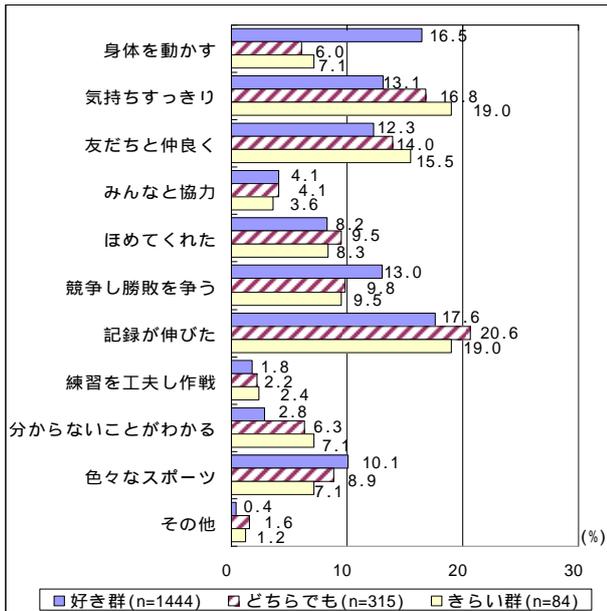
*** p<0.001

図 - 75 (2年男子)



*** p<0.001

図 - 76 (2年女子)



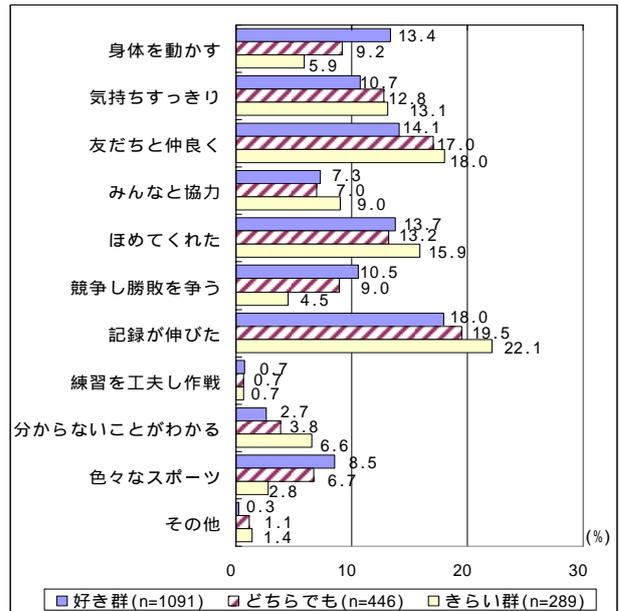
*** p<0.001

図 - 77 (3年男子)

「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している項目は、「身体を動かす」「競争し勝敗を争う」「色々なスポーツ」であった。

「好き群」の割合が1番低く、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっている項目は、「気持ちすっきり」「友達と仲良く」「ほめてくれた」「記録が伸びた」「運動の仕方など、分からないことがわかるようになったとき」であった。

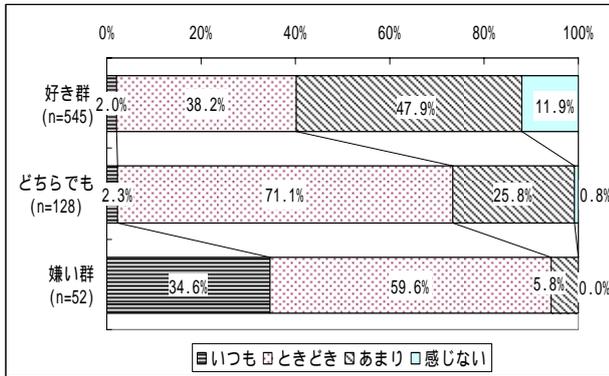
平成18年度中学生調査では、各学年「記録が伸びた」が1位であるが、平成19年度高校生調査では、「記録が伸びた」「気持ちすっきり」「友達と仲良く」が分け合っていた。



*** p<0.001

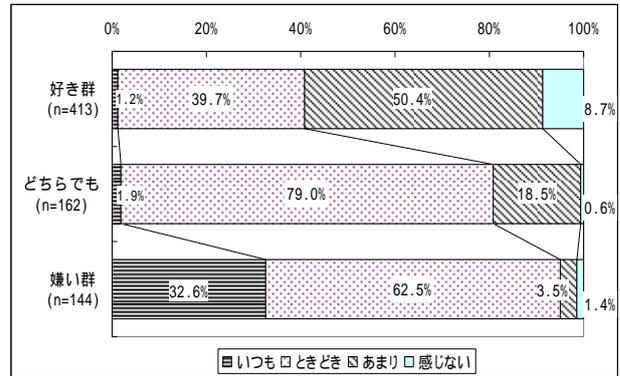
図 - 78 (3年女子)

ス 3群×問13体育の学習がつまらないと感じたことがあるか【図3 - 79~84】



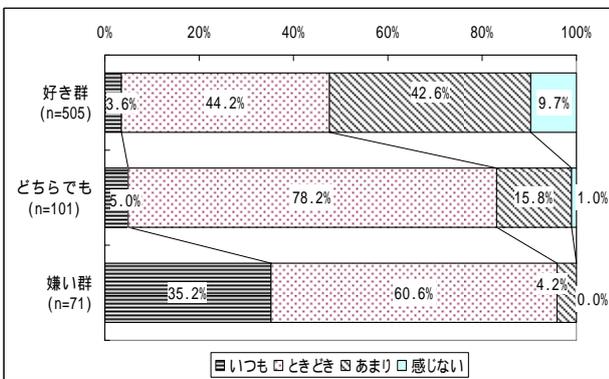
*** p<0.001

図3 - 79 (1年男子)



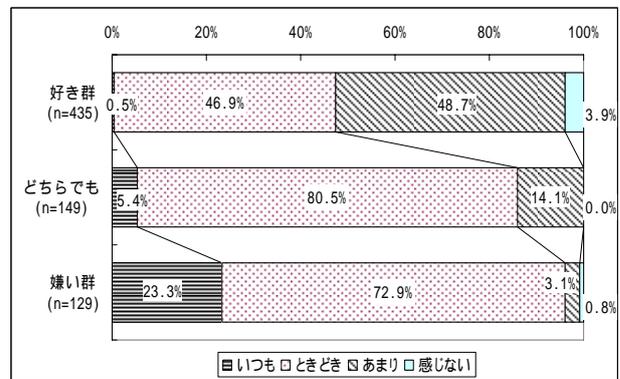
*** p<0.001

図3 - 80 (1年女子)



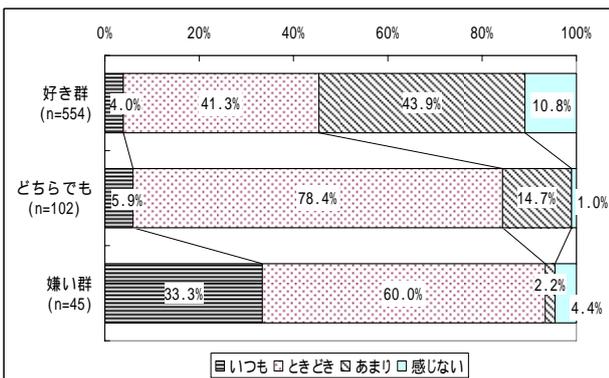
*** p<0.001

図3 - 81 (2年男子)



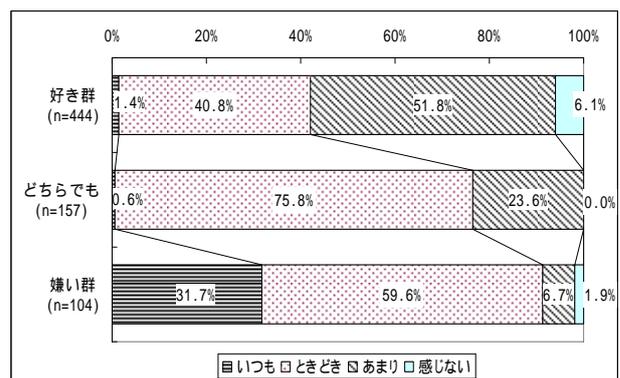
*** p<0.001

図3 - 82 (2年女子)



*** p<0.001

図3 - 83 (3年男子)



*** p<0.001

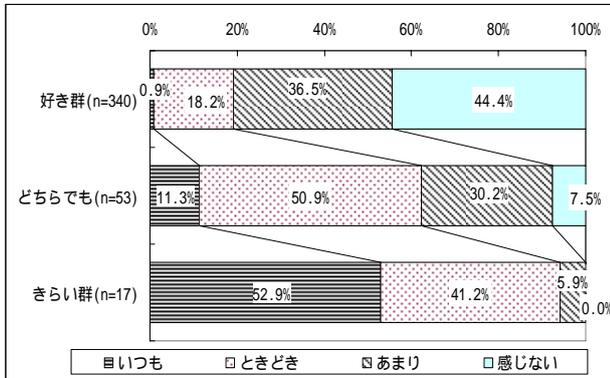
図3 - 84 (3年女子)

「感じる群」は、「好き群」の割合が1番低く、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっている。
 「嫌い群」のほとんどの生徒が、つまらないと感じたことがあり、「好き群」でも半数近い生徒がつまらないと感じたことがある。

コラム49

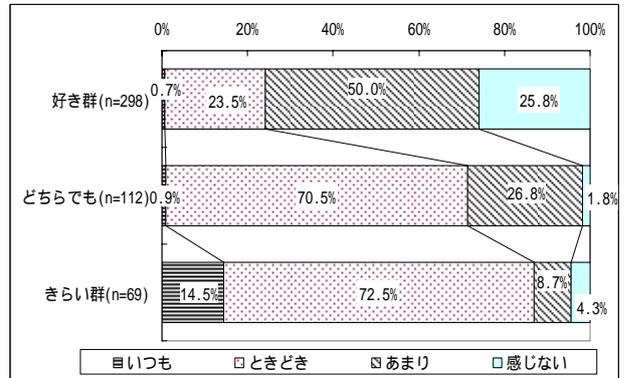
「3群×体育の学習がつまらないと感じたことがあるか」

平成18年度中学生調査との比較【図 -79~84】



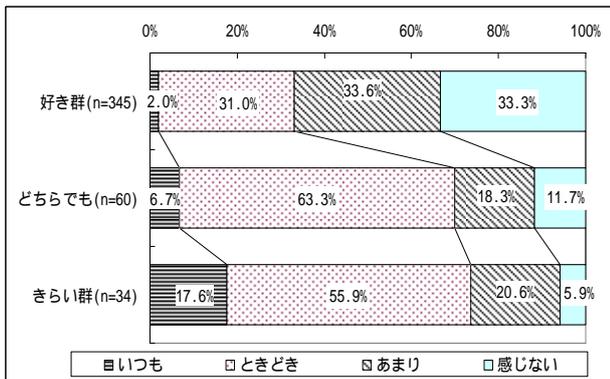
*** p<0.001

図 -79 (1年男子)



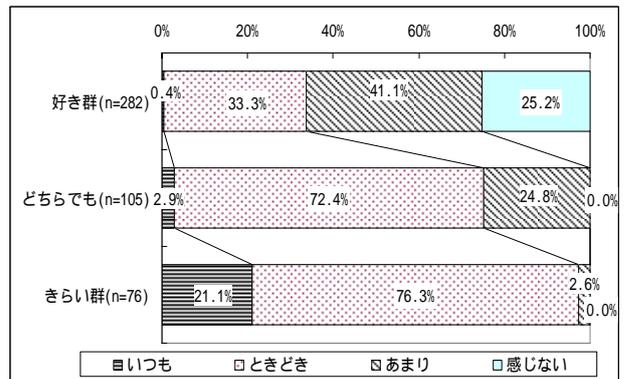
*** p<0.001

図 -80 (1年女子)



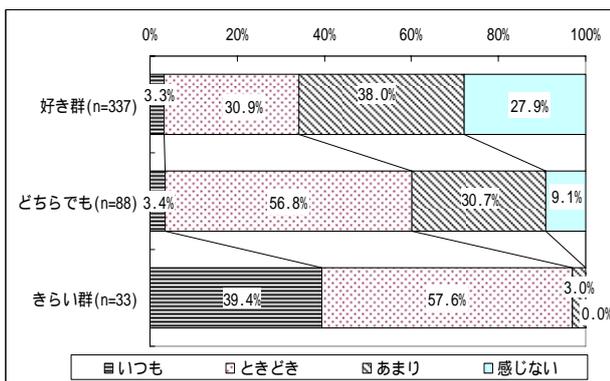
*** p<0.001

図 -81 (2年男子)



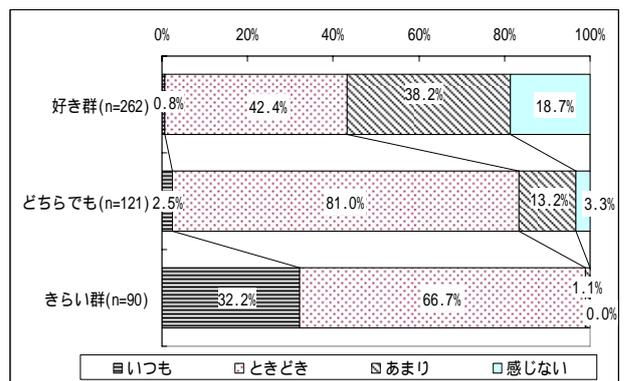
*** p<0.001

図 -82 (2年女子)



*** p<0.001

図 -83 (3年男子)

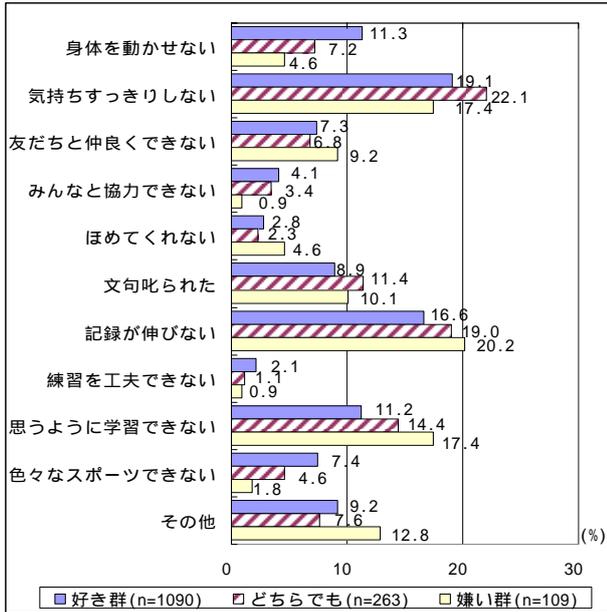


*** p<0.001

図 -84 (3年女子)

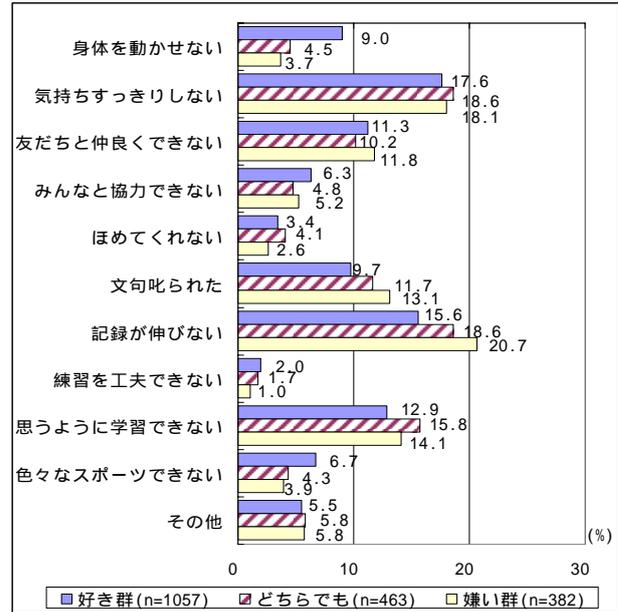
「感じる群」は、「好き群」の割合が1番低く、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっており、平成19年度高校生調査と同じである。「好き群」の「感じる群」は、学年進行とともに高くなっている。

セ 3群×問14体育の学習でつまらないと感じたのはどんなときか【図3 - 85~90】



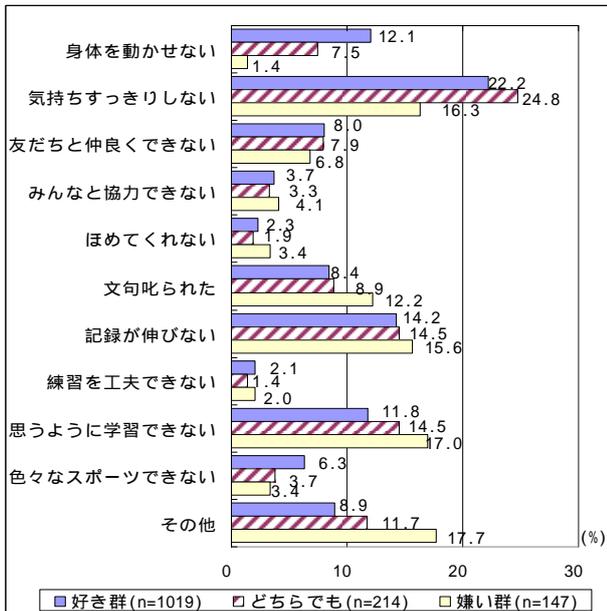
ns

図3 - 85 (1年男子)



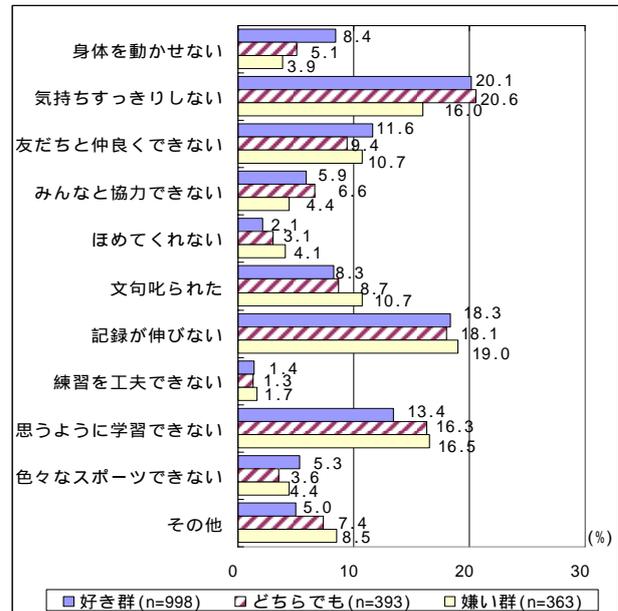
* p< 0.05

図3 - 86 (1年女子)



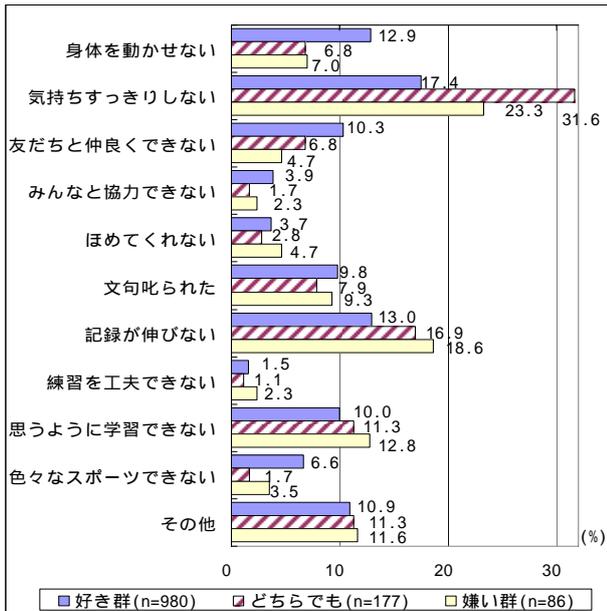
** p<0.01

図3 - 87 (2年男子)



* p< 0.05

図3 - 88 (2年女子)



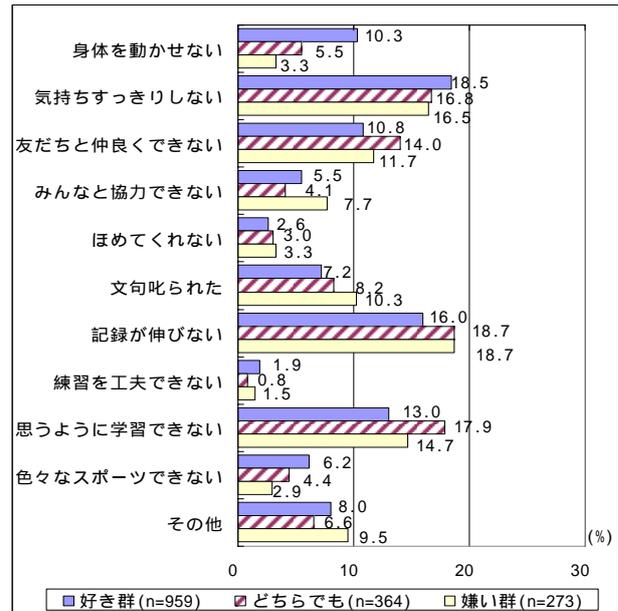
** p<0.01

図3 - 89 (3年男子)

「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している項目は、「思いやり身体を動かせなかったとき」(以下「身体を動かせない」と言う。)
「新しい技に挑戦できなかつたり、色々なスポーツができなかつたりしたとき」(以下「色々スポーツできない」と言う。)であった。

「好き群」の割合が1番低く、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっている項目は、「うまくできなかったときなどに、友達から文句を言われたり、先生に叱られたりしたとき」(以下「文句叱られた」と言う。)
「練習しても記録が伸びなかつたり、練習してもうまくならなかつたりしたとき」(以下「記録が伸びない」と言う。)
「運動の仕方がわからなかつたり、思うように学習できなかつたりしたとき」(以下「思うように学習できない」と言う。)であった。

各学年「気持ちがすっきりしないとき」、「記録が伸びない」「思うように学習できない」の割合が高い。



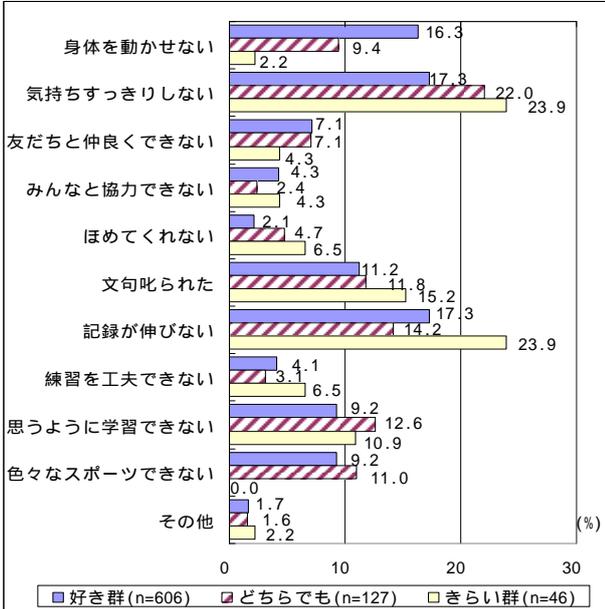
** p<0.01

図3 - 90 (3年女子)

コラム50

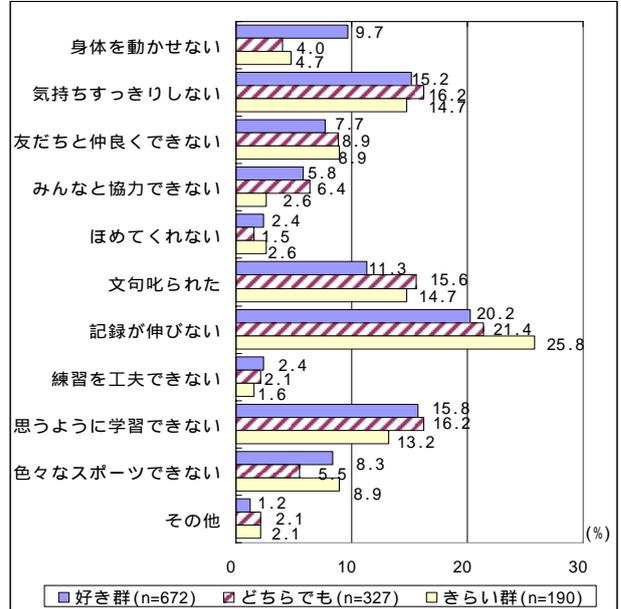
「3群×体育の学習でつまらないと感じたのはどんなときか」

平成18年度中学生調査との比較【図 - 85～90】



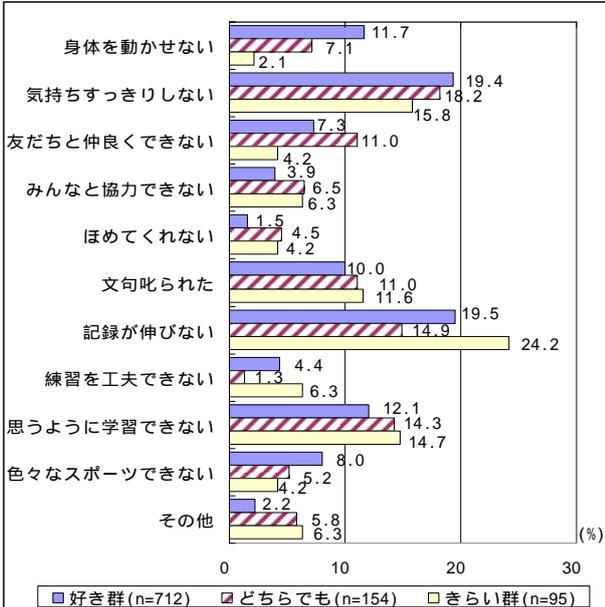
ns

図 - 85 (1年男子)



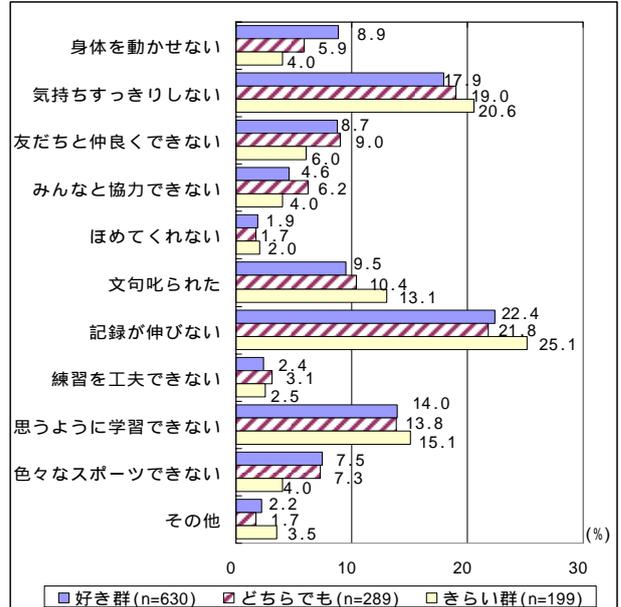
ns

図 - 86 (1年女子)



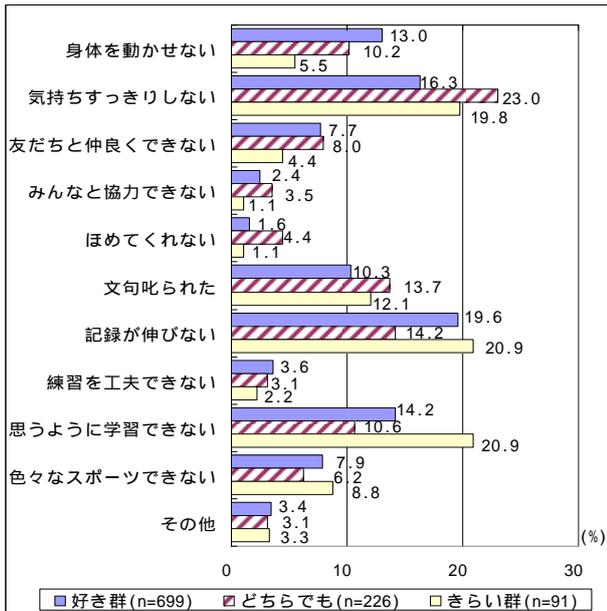
** p<0.01

図 - 87 (2年男子)



ns

図 - 88 (2年女子)



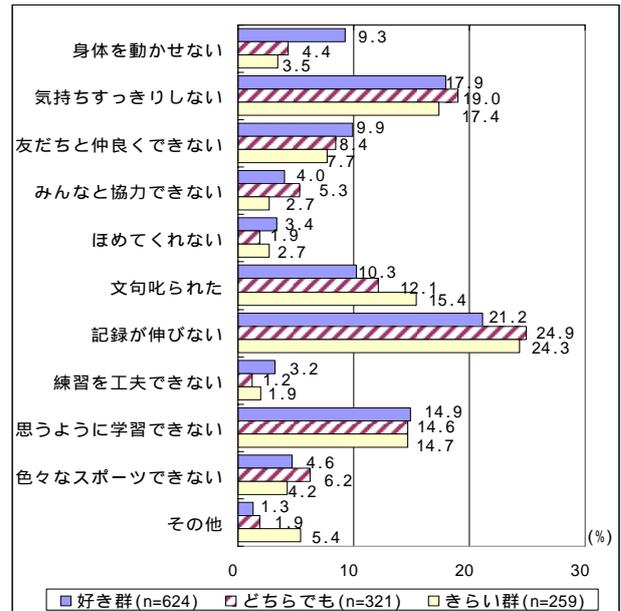
ns

図 - 89 (3年男子)

「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している項目は、「身体を動かせない」「気持ちがすっきりせずに、疲れたとき」「友達と仲良く一緒に学習できなかったとき」「色々スポーツできない」であった。

「好き群」の割合が1番低く、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっている項目は、「文句叱られた」「思うように学習できない」であった。

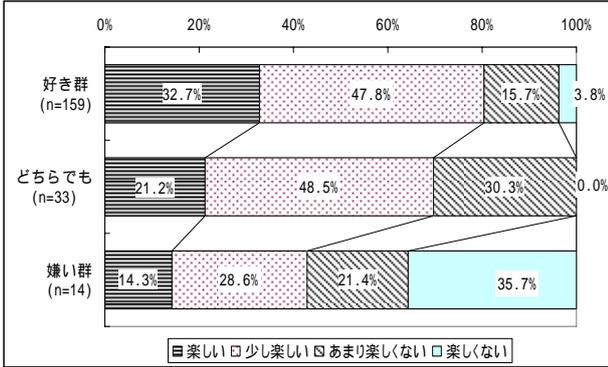
平成18年度中学生調査では、各学年とも「記録が伸びない」、「気持ちがすっきりしないとき」「思うように学習できない」の割合が高く、平成19年度高校生調査と同じであった。



** p<0.01

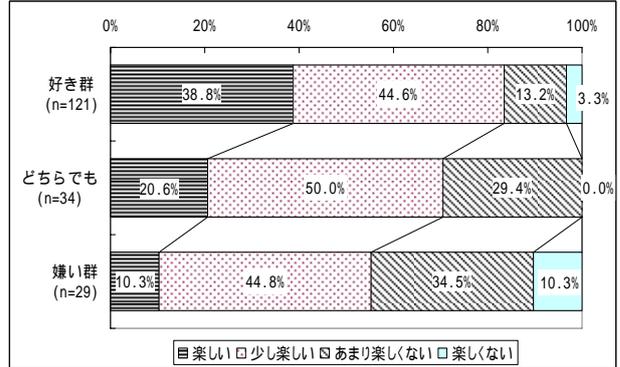
図 - 90 (3年女子)

ソ 3群×問18男女共習についてどのように思ったか【図3 - 91~96】



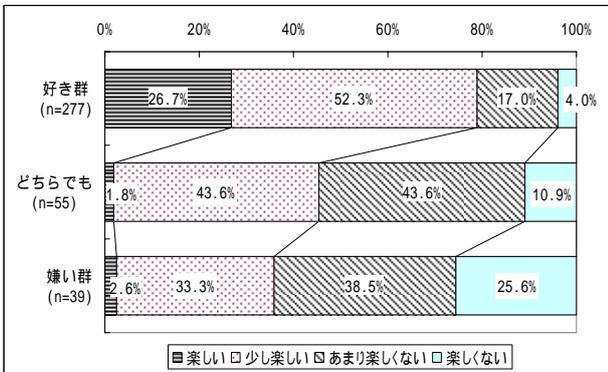
*** p<0.001

図3 - 91 (1年男子)



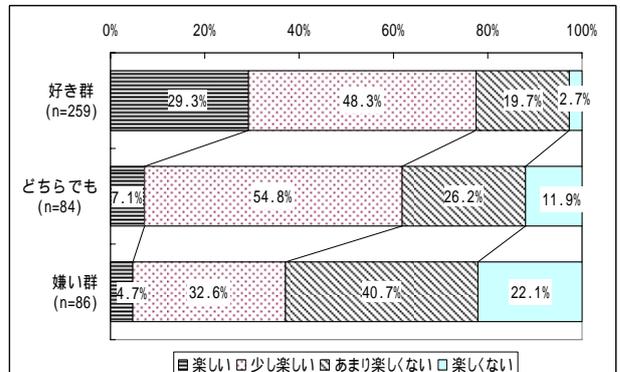
*** p<0.001

図3 - 92 (1年女子)



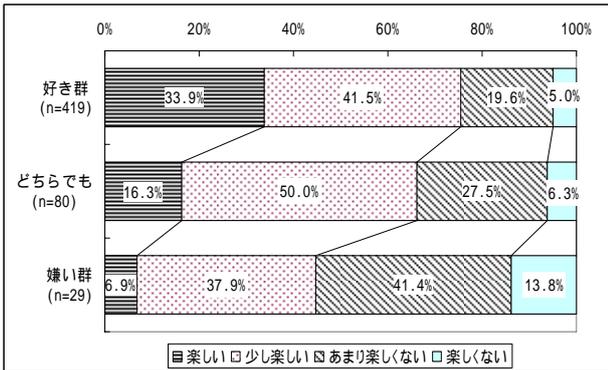
*** p<0.001

図3 - 93 (2年男子)



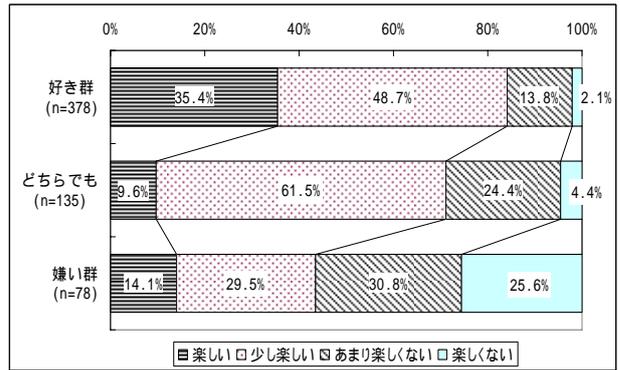
*** p<0.001

図3 - 94 (2年女子)



*** p<0.001

図3 - 95 (3年男子)



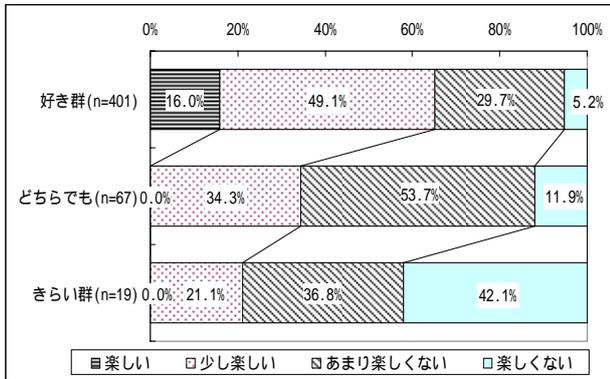
*** p<0.001

図3 - 96 (3年女子)

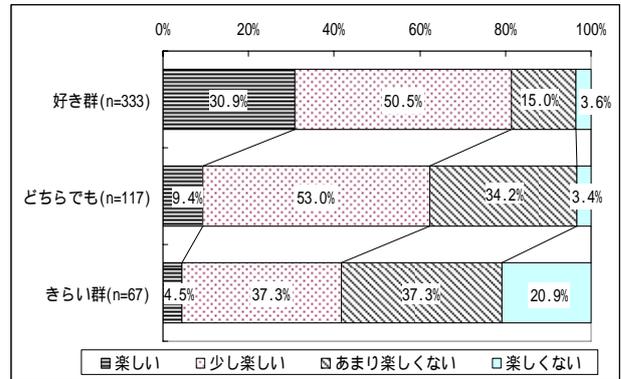
「楽しい」と「どちらかという楽しい」を合わせたもの(以下「楽しい群」と言う。)は、「好き群」が高く、「どちらでもない」「嫌い群」になるにしたがって、低下している。

コラム51

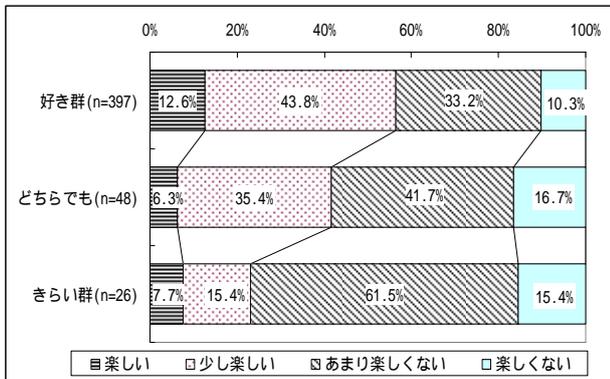
「3群×男女共習についてどのように思ったか」
平成18年度中学生調査との比較【図 - 91～96】



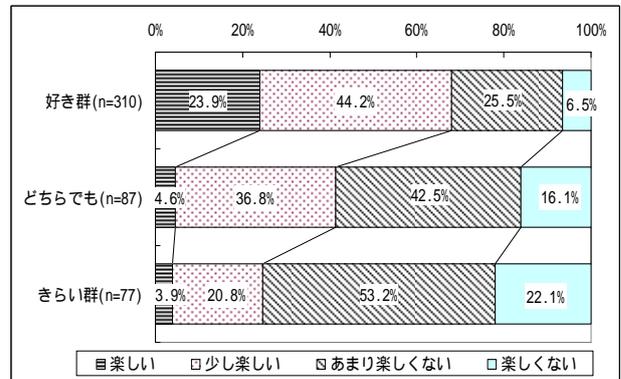
*** p<0.001
図 - 91 (1年男子)



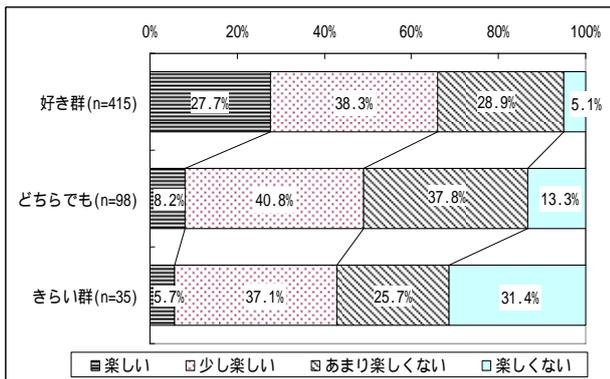
*** p<0.001
図 - 92 (1年女子)



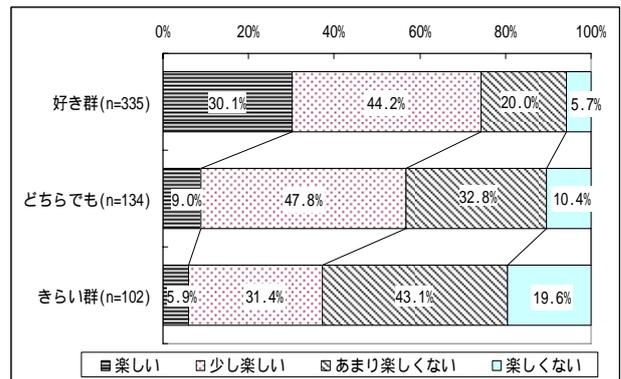
* p<0.05
図 - 93 (2年男子)



*** p<0.001
図 - 94 (2年女子)



*** p<0.001
図 - 95 (3年男子)



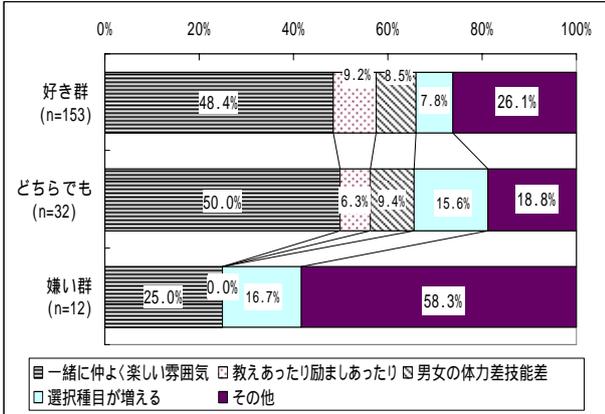
*** p<0.001
図 - 96 (3年女子)

平成18年度中学生調査、平成19年度高校生調査とも、「楽しい群」は、「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」になるにしたがって、低下している。

平成18年度中学生調査よりも、平成19年度高校生

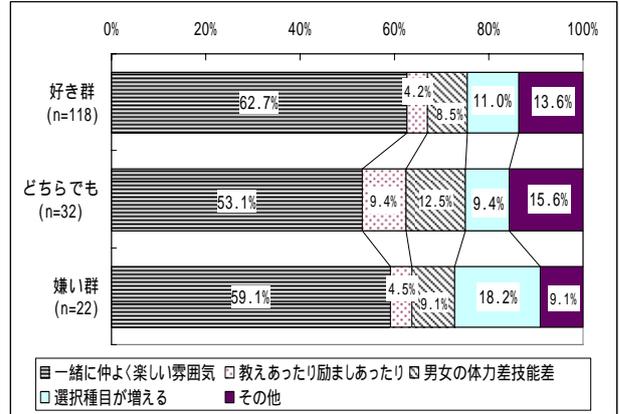
調査の方が、楽しい群が高い。

タ 3群×問19男女共習が楽しいと思う理由は何か【図3-97~102】



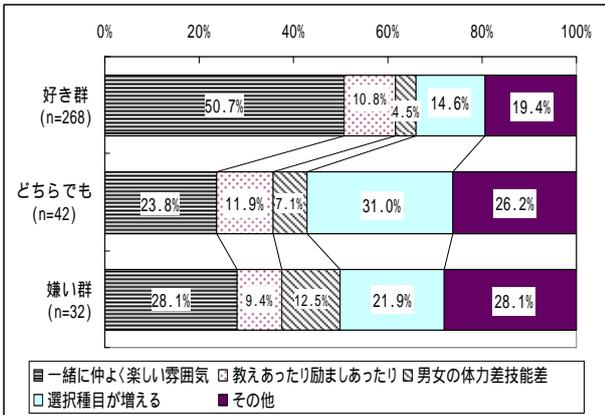
ns

図3-97 (1年男子)



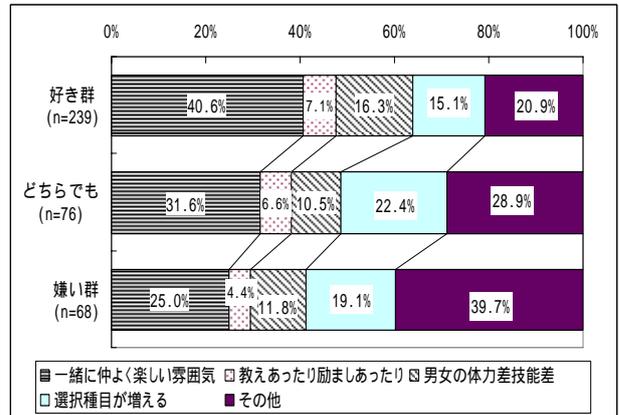
ns

図3-98 (1年女子)



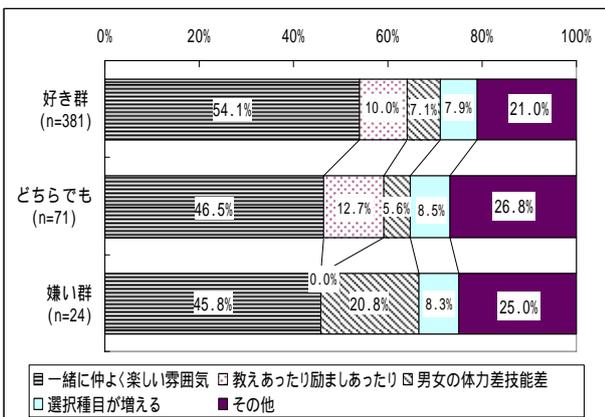
* p< 0.05

図3-99 (2年男子)



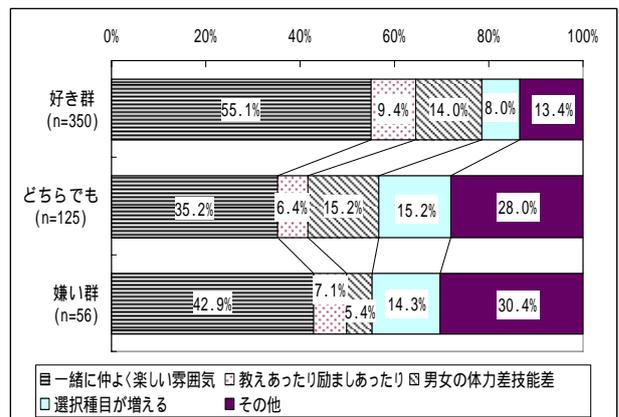
* p< 0.05

図3-100 (2年女子)



ns

図3-101 (3年男子)



*** p<0.001

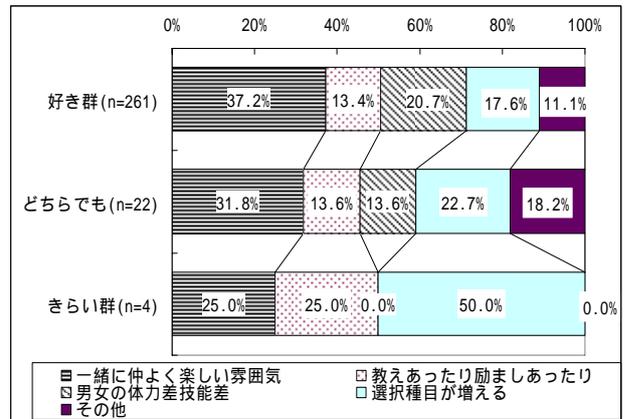
図3-102 (3年女子)

「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下しているのは、「男女一緒に仲良く、楽しい雰囲気で活動できるから」（以下「一緒に仲良く」と言う。）「男女がお互いに教えあったり、励ましあったりできるから」（以下「教えあい励ましあい」と言う。）であった。

「好き群」の割合が1番低く、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっているのは、「男女の体力差、技能差などを克服する工夫が協力してできるから」であった。

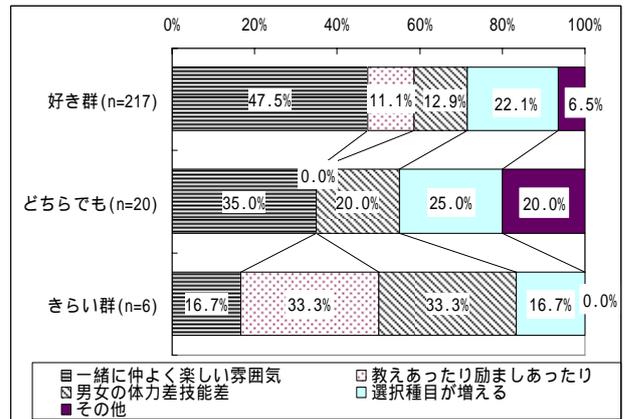
各学年「一緒に仲良く」が高い。

コラム52
「3群×男女共習が楽しいと思う理由は何か」
平成18年度中学生調査との比較【図 - 97~102】



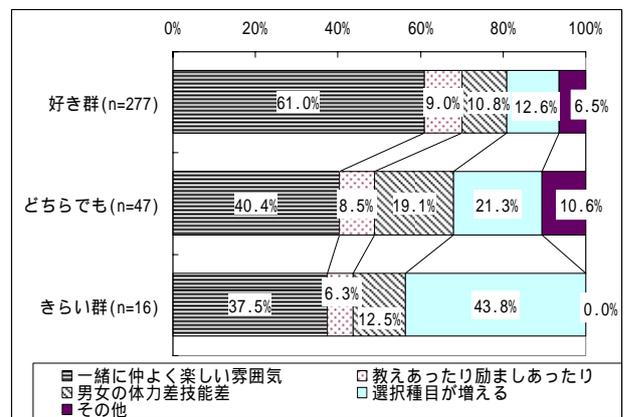
ns

図 - 97 (1年男子)



ns

図 - 99 (2年男子)



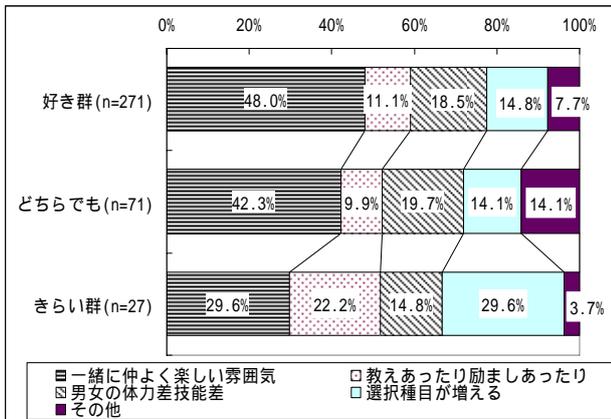
* p<0.05

図 - 101 (3年男子)

「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している項目は、「一緒に仲良く」「教えあい、励ましあい」であった。

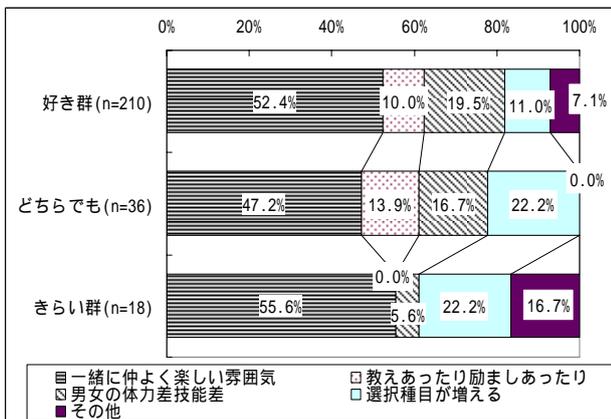
「好き群」の割合が1番低く、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっている項目は、「男女共習の場合、選択できる種目が増えるから」であった。

平成19年度高校生調査では、各学年「一緒に仲良く」が好き群・嫌い群ともに高かったが、平成18年度中学生調査では、嫌い群で「一緒に仲良く」に加え、「教えあい、励ましあい」「選択種目が増える」が高い学年がある。



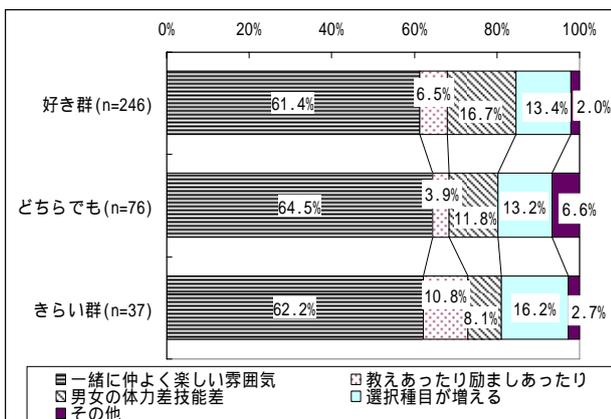
ns

図 - 98 (1年女子)



ns

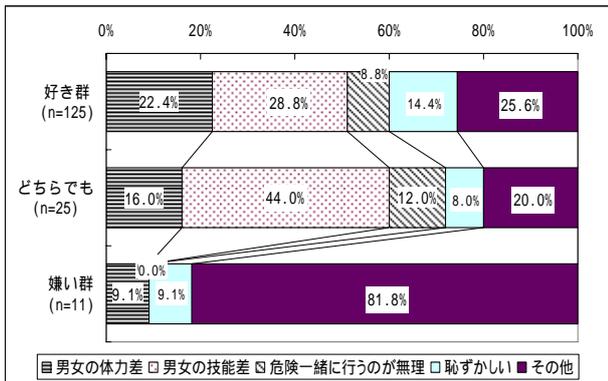
図 - 100 (2年女子)



ns

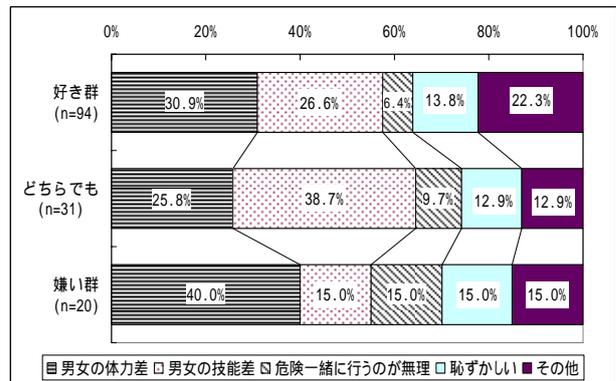
図 - 102 (3年女子)

チ 3群×問20男女共習が楽しくないと思う理由
は何か【図3 - 103~108】



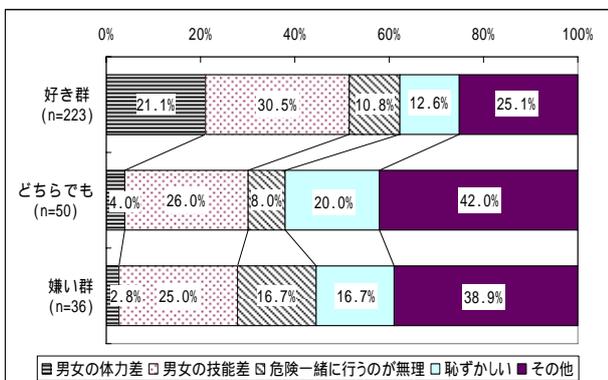
** p<0.01

図3 - 103 (1年男子)



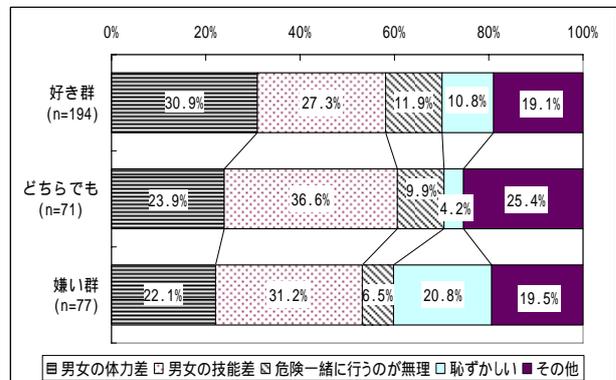
ns

図3 - 104 (1年女子)



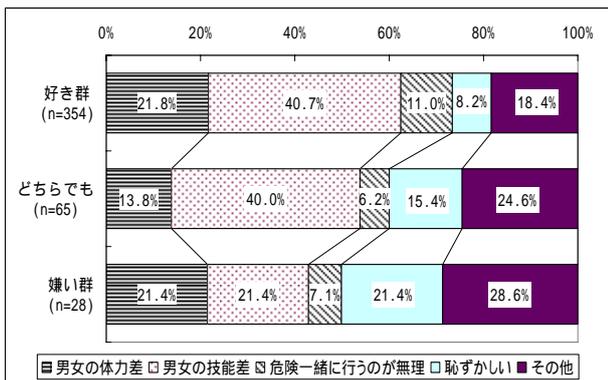
** p<0.01

図3 - 105 (2年男子)



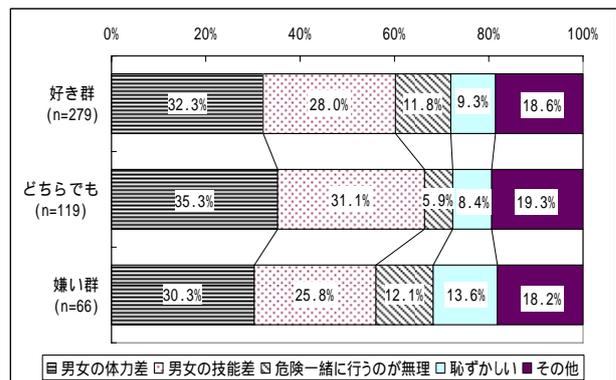
ns

図3 - 106 (2年女子)



ns

図3 - 107 (3年男子)



ns

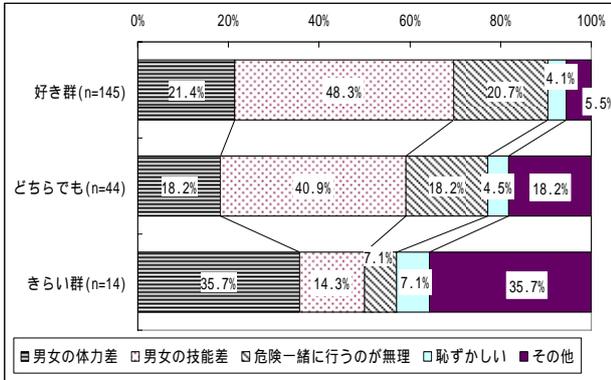
図3 - 108 (3年女子)

「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している項目は、「男女の体力差がはっきりしてしまうから」（以下「男女の体力差」と言う。）「男女の技能差などがあり、思い切り活動できないから」（以下「男女の技能差」と言う。）であった。

コラム53

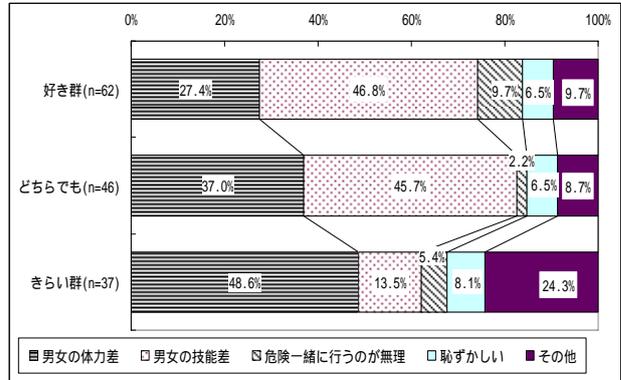
「3群×男女共習が楽しくないと思う理由は何か」

平成18年度中学生調査との比較【図 - 103～108】



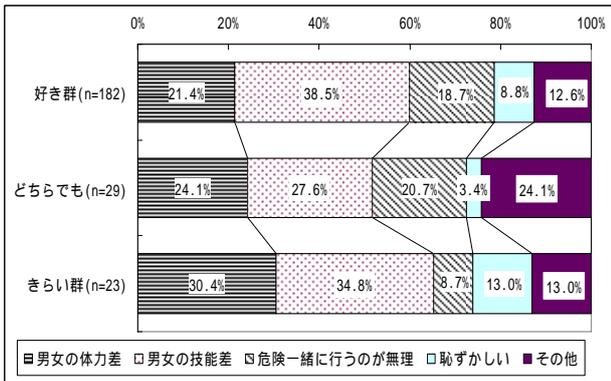
ns

図 - 103 (1年男子)



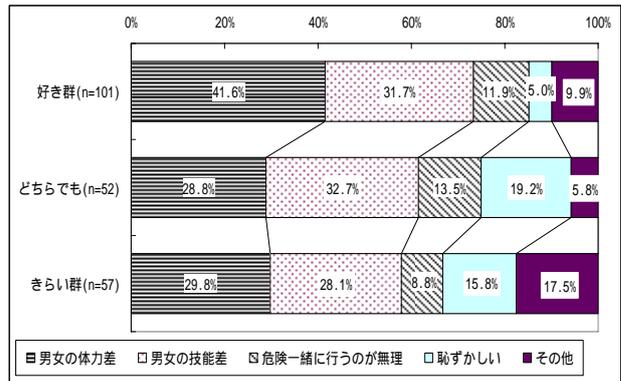
* p<0.05

図 - 104 (1年女子)



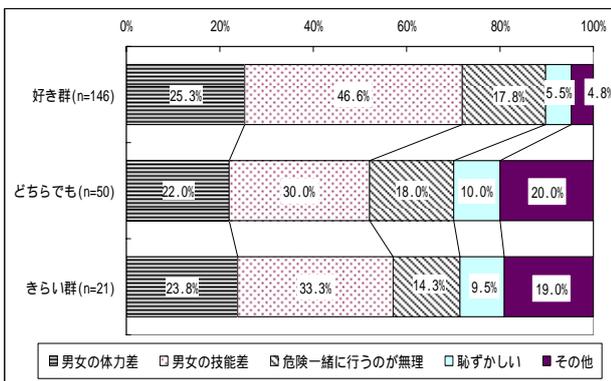
ns

図 - 105 (2年男子)



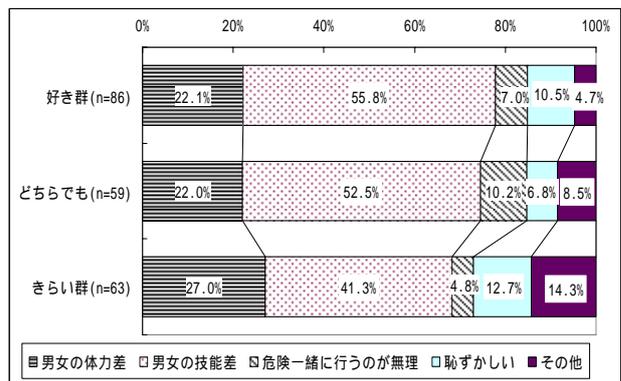
ns

図 - 106 (2年女子)



ns

図 - 107 (3年男子)



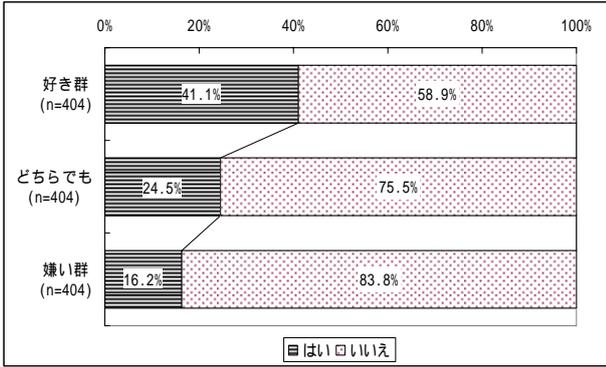
ns

図 - 108 (3年女子)

「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している項目は、「男女の技能差」であった。

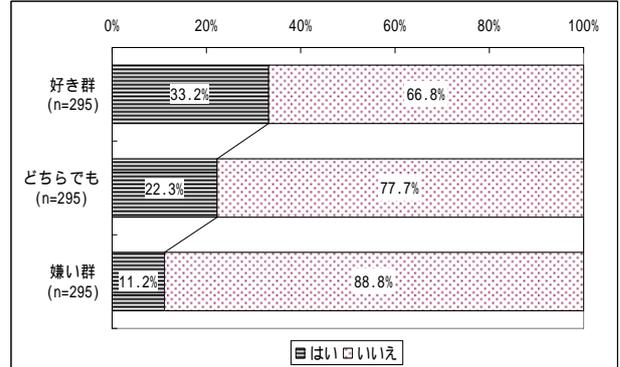
「好き群」の割合が1番低く、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっている項目は、「男女の体力差」「異性があると恥ずかしいから」であった。

ツ 3群×問21男女共習を行ってみたいと思いま
すか【図3 - 109~114】



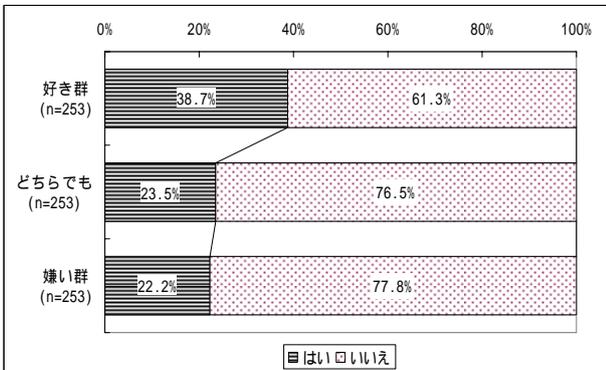
*** p<0.001

図3 - 109 (1年男子)



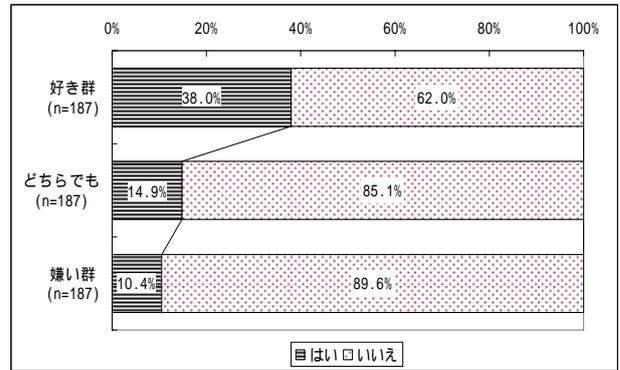
*** p<0.001

図3 - 110 (1年女子)



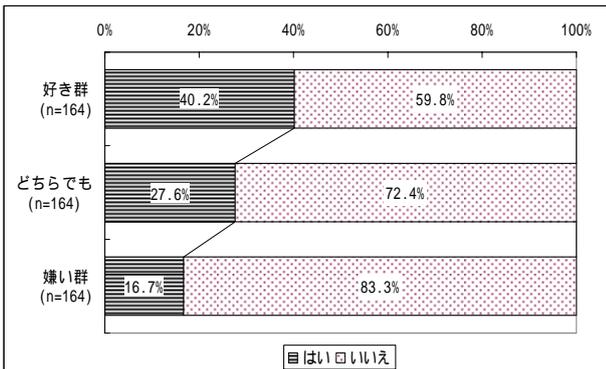
* p< 0.05

図3 - 111 (2年男子)



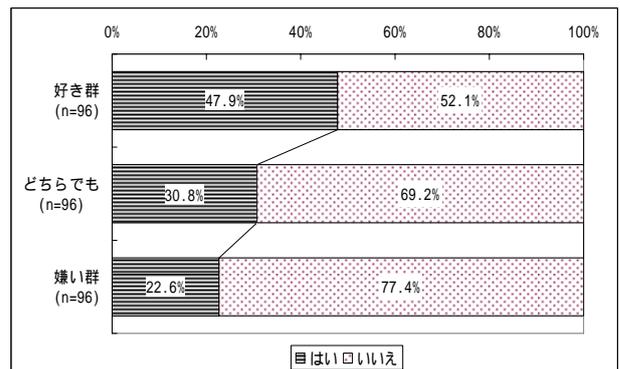
*** p<0.001

図3 - 112 (2年女子)



ns

図3 - 113 (3年男子)



* p< 0.05

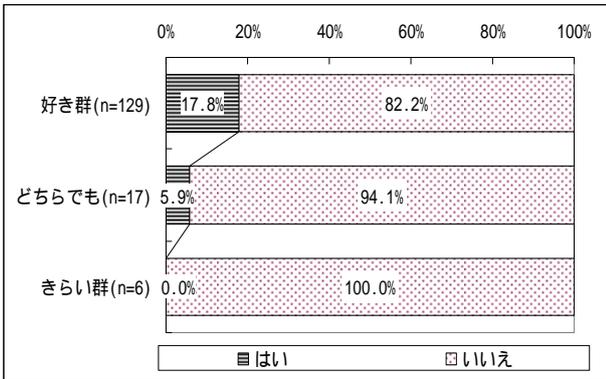
図3 - 114 (3年女子)

行ってみたいと回答した生徒は、「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している。

コラム54

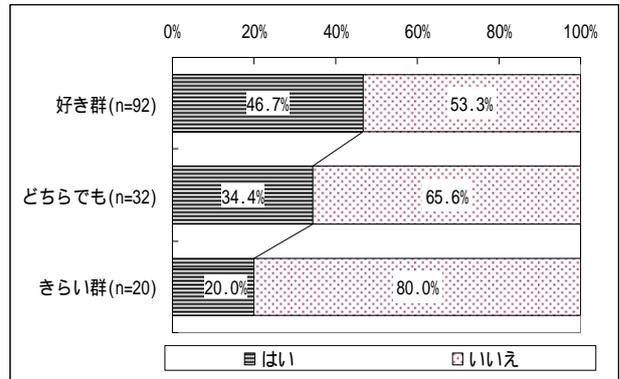
「3群×男女共習を行ってみたいと思いますか」

平成18年度中学生調査との比較【図 - 109~114】



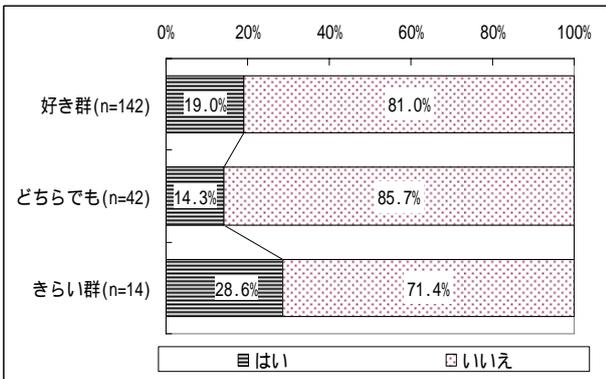
ns

図 - 109 (1年男子)



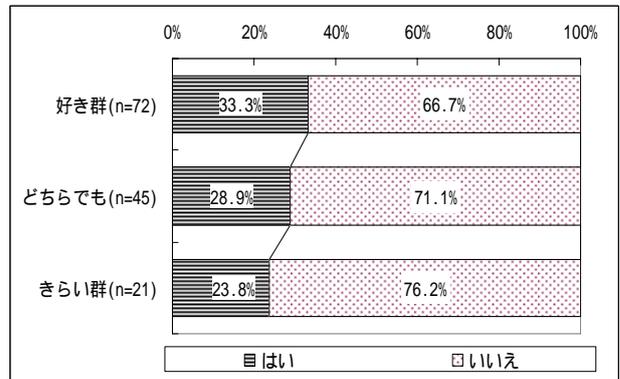
ns

図 - 110 (1年女子)



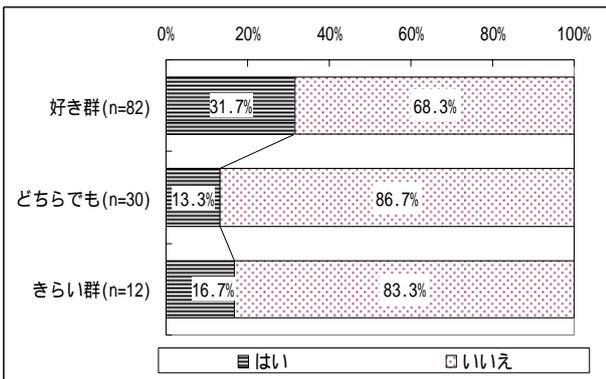
ns

図 - 111 (2年男子)



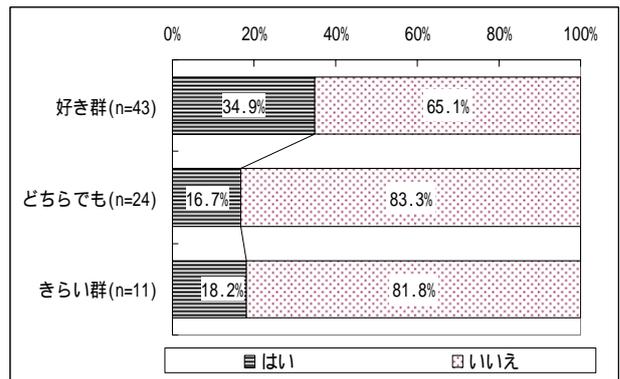
ns

図 - 112 (2年女子)



ns

図 - 113 (3年男子)

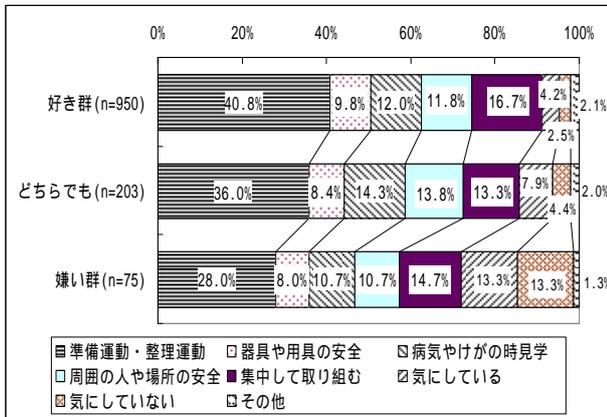


ns

図 - 114 (3年女子)

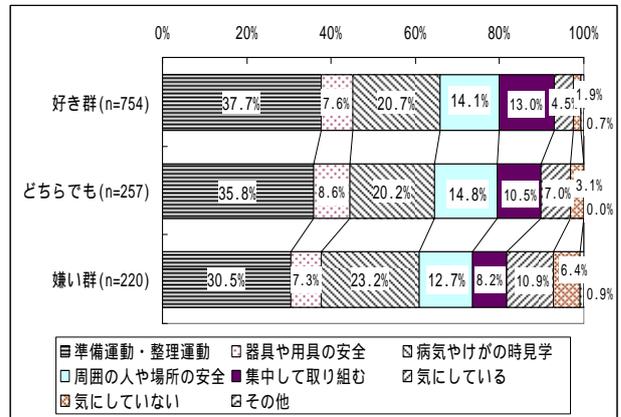
テ 3群×問22体育の学習でけがをしないうために
どんなことを心がけているか

【図3 - 115~120】



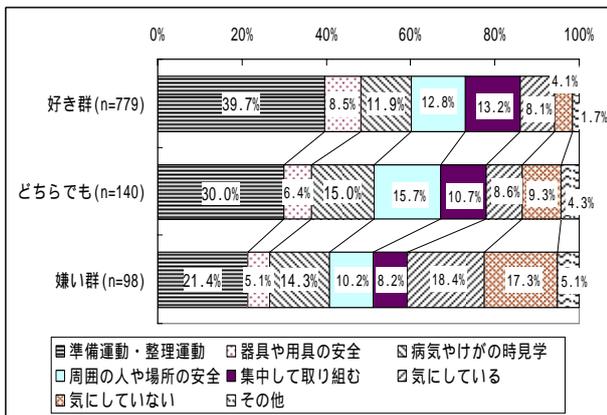
*** p<0.001

図3 - 115 (1年男子)



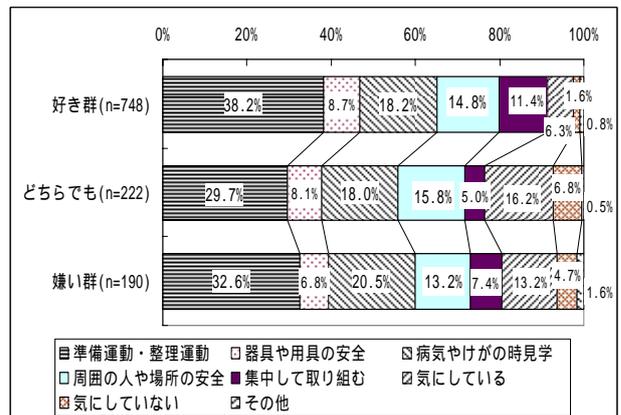
** p<0.01

図3 - 116 (1年女子)



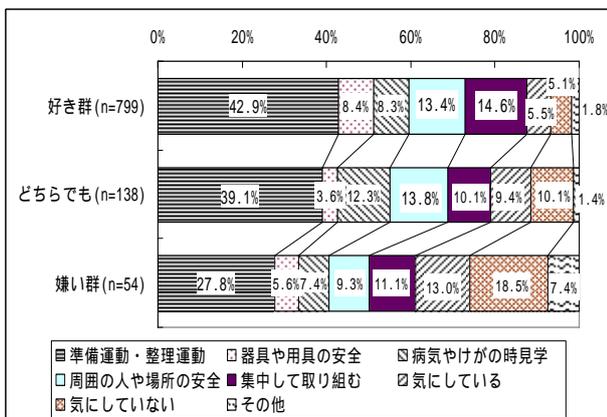
*** p<0.001

図3 - 117 (2年男子)



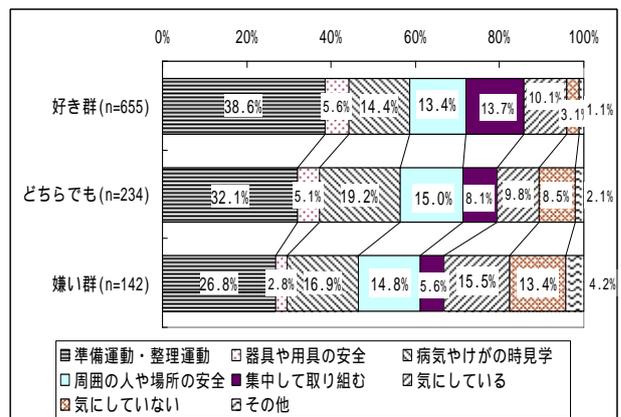
*** p<0.001

図3 - 118 (2年女子)



*** p<0.001

図3 - 119 (3年男子)



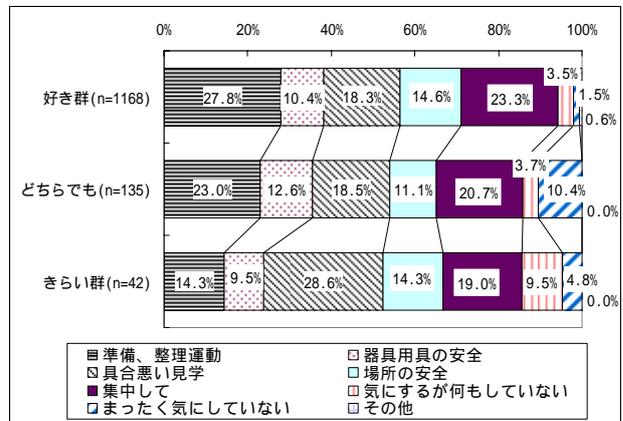
*** p<0.001

図3 - 120 (3年女子)

「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している項目は、「準備運動や整理運動を十分している」(以下「準備整理運動」と言う。)
「使用する器具や用具の安全を確かめている」(以下「器具用具の安全」と言う。)であった。

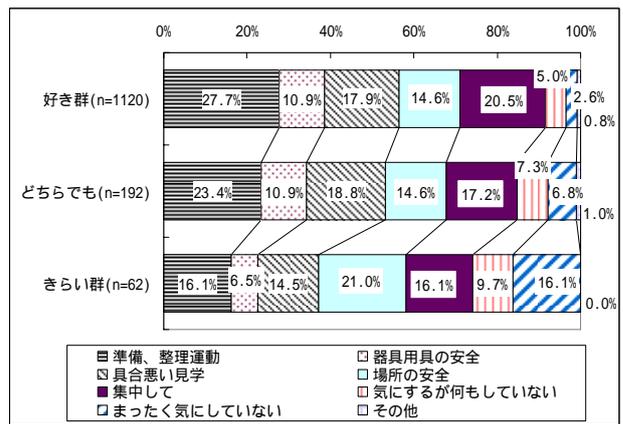
「好き群」の割合が1番低く、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっている項目は、「気にはしているが、何もしていない」「まったく気にしていない」であった。

コラム55
「3群×体育の学習で何がをしないためにどんなことを心がけているか」
平成18年度中学生調査との比較【図 - 115~120】



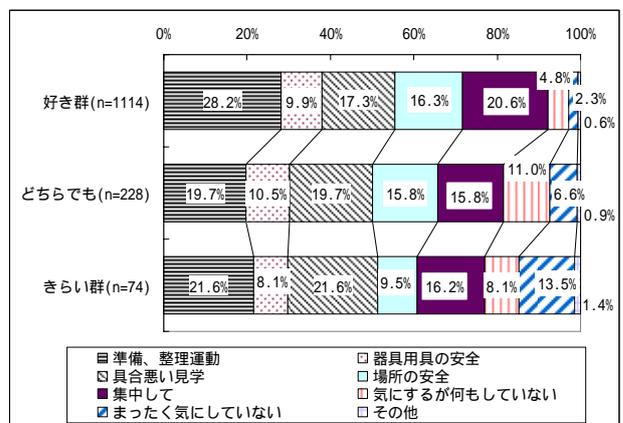
*** p<0.001

図 - 115 (1年男子)



*** p<0.001

図 - 117 (2年男子)

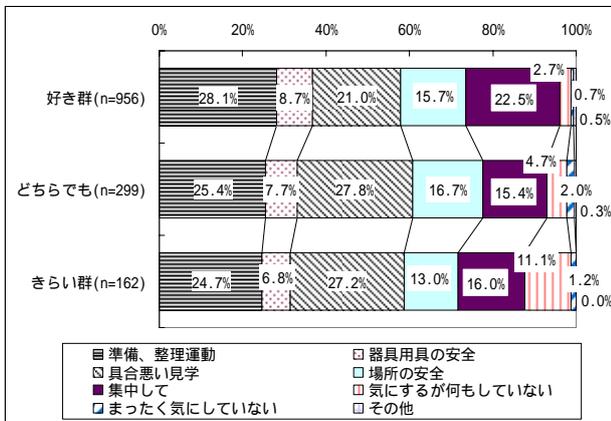


*** p<0.001

図 - 119 (3年男子)

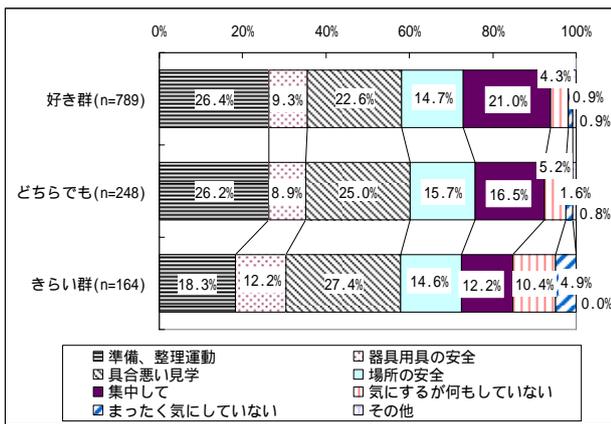
「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している項目は、「準備整理運動」「気を抜かないで、集中して取り組むようにしている」であった。

「好き群」の割合が1番低く、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっている項目は、「具合が悪かったり、病気やけがのときは見学するようになりしている」「気にするが何もしていない」であった。



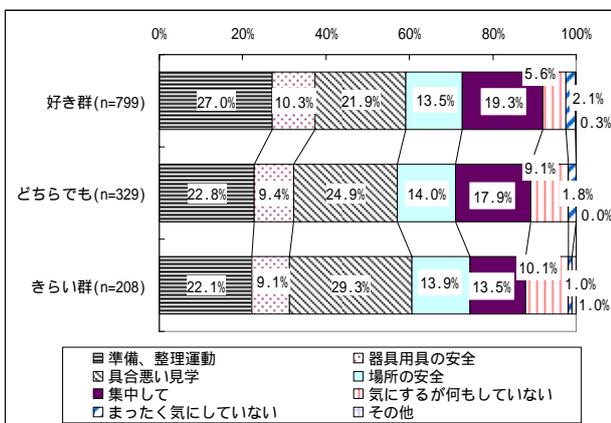
*** p<0.001

図 - 116 (1年女子)



*** p<0.001

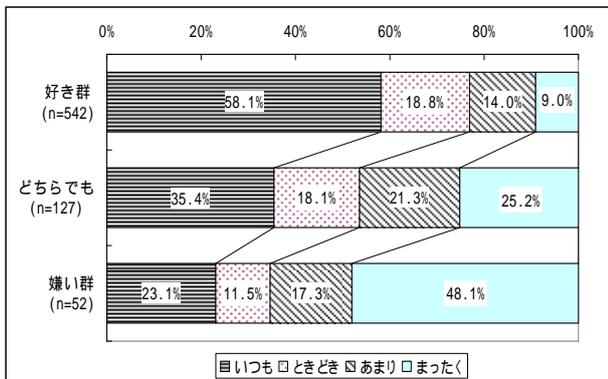
図 - 118 (2年女子)



*** p<0.001

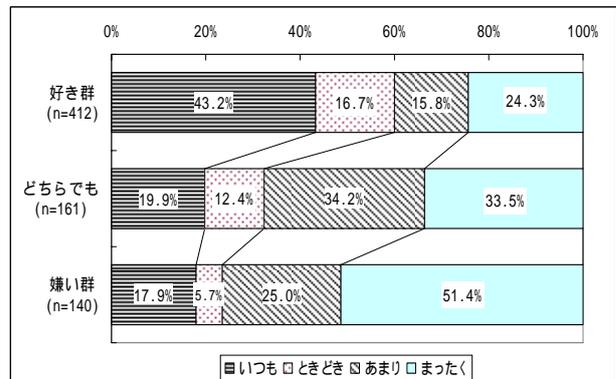
図 - 120 (3年女子)

(3) 体育の学習以外の運動への取り組みについて
 ア 3群×問23学校で休み時間や放課後に運動を
 しているか【図3 - 121 ~ 126】



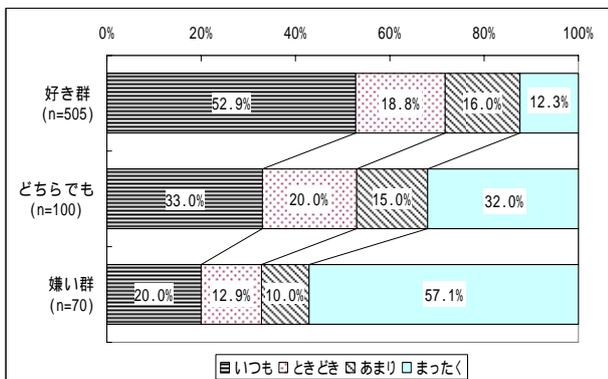
*** p<0.001

図3 - 121 (1年男子)



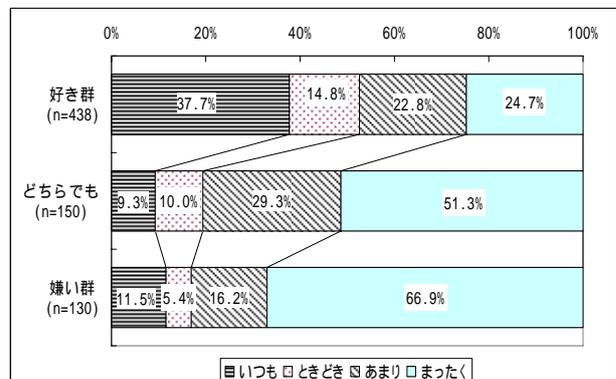
*** p<0.001

図3 - 122 (1年女子)



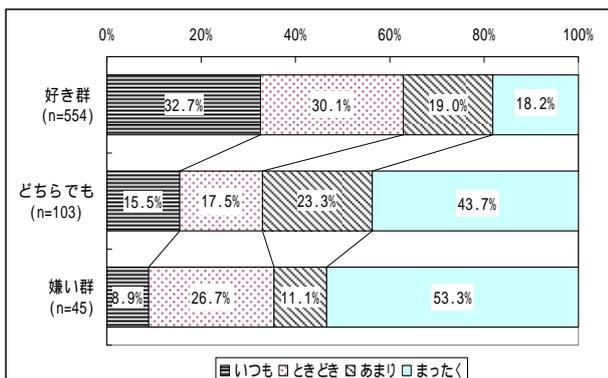
*** p<0.001

図3 - 123 (2年男子)



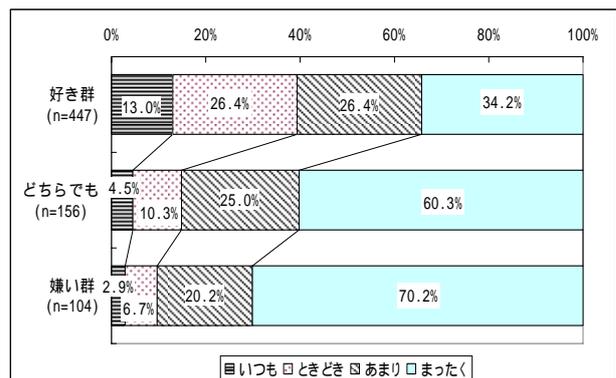
*** p<0.001

図3 - 124 (2年女子)



*** p<0.001

図3 - 125 (3年男子)

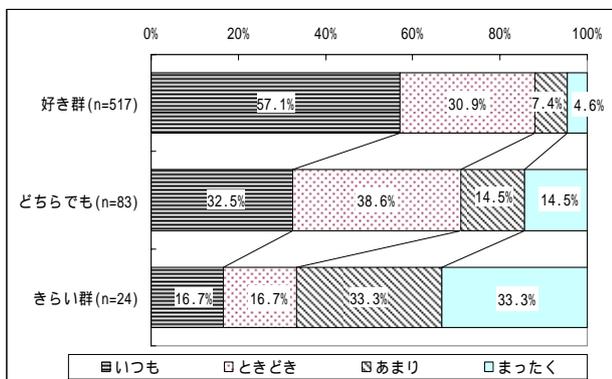


*** p<0.001

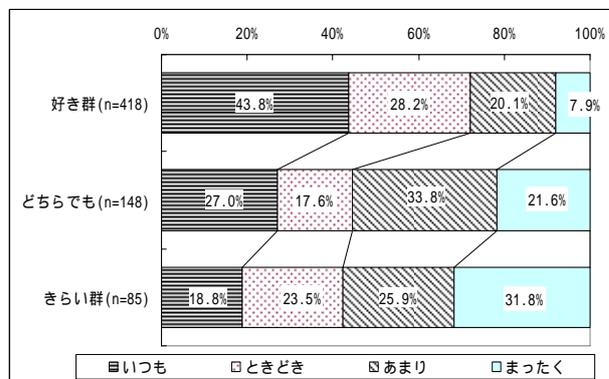
図3 - 126 (3年女子)

「している群」は、「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」になるにしたがって、低下している。また、3学年とも女子のほうが低い。好き群・嫌い群ともに学年進行とともに、低下している。

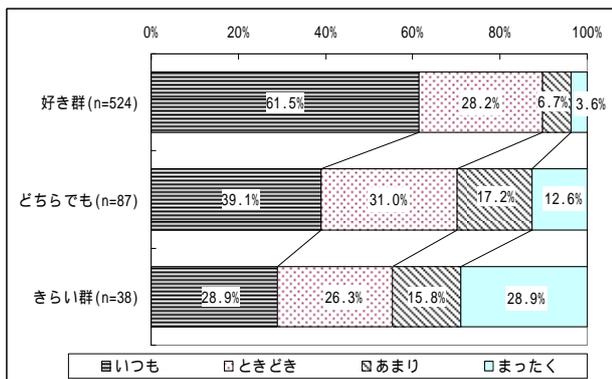
コラム56
 「3群×学校で休み時間や放課後に運動をしているか」
 平成18年度中学生調査との比較【図 - 121～126】



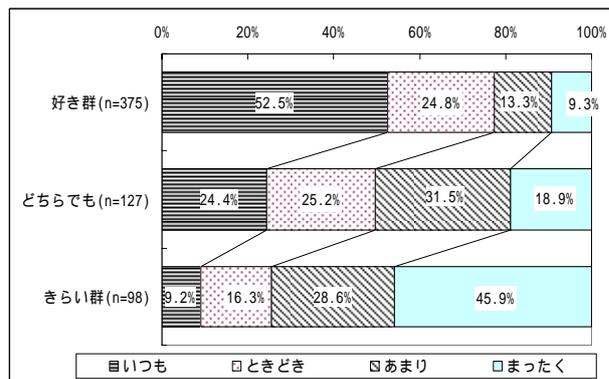
*** p<0.001
 図 - 121 (1年男子)



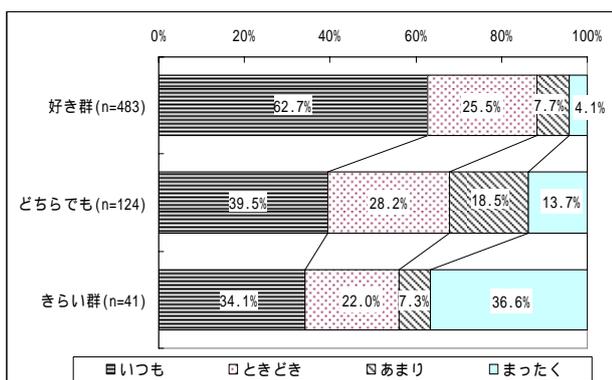
*** p<0.001
 図 - 122 (1年女子)



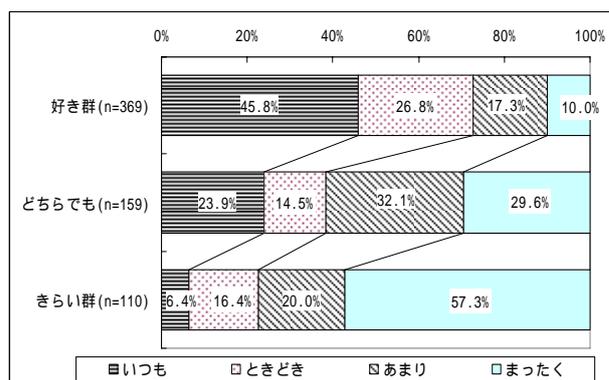
*** p<0.001
 図 - 123 (2年男子)



*** p<0.001
 図 - 124 (2年女子)



*** p<0.001
 図 - 125 (3年男子)

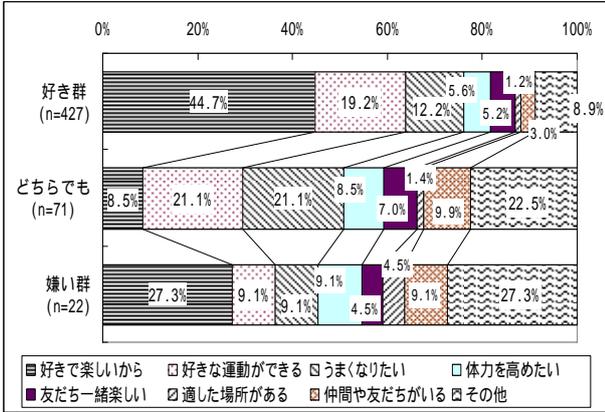


*** p<0.001
 図 - 126 (3年女子)

平成18年度中学生調査の「している群」は、「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」になるにしたがって低下しており、平成19年度高校生調査と同じである。

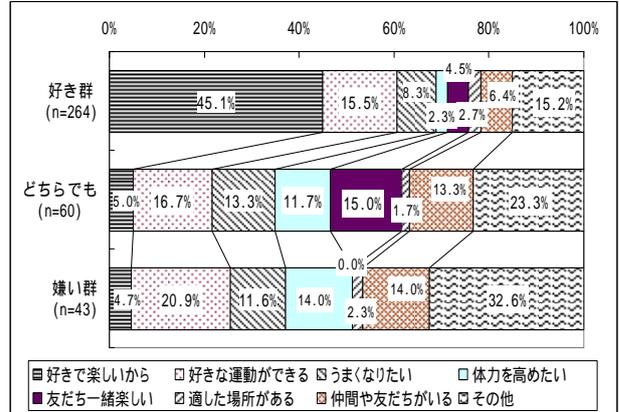
嫌い群の女子は、学年進行とともに低下しているが、嫌い群の男子は、増加している。

イ 3群×問24なぜ休み時間や放課後に運動をしているのか【図3 - 127 ~ 132】



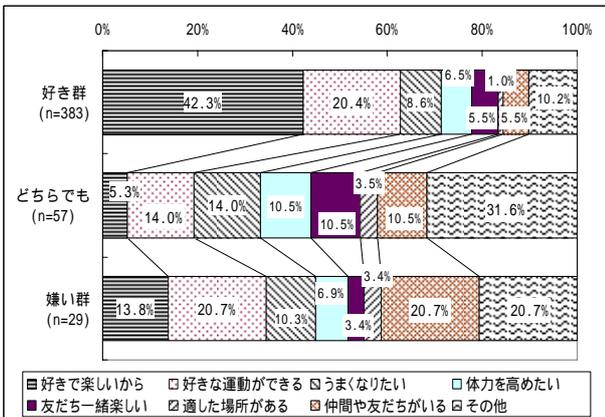
*** p<0.001

図3 - 127 (1年男子)



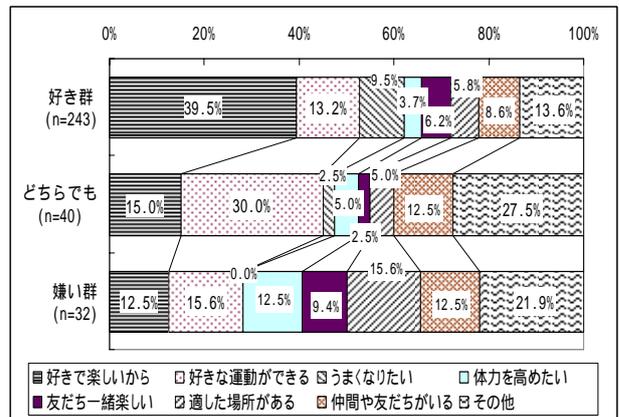
*** p<0.001

図3 - 128 (1年女子)



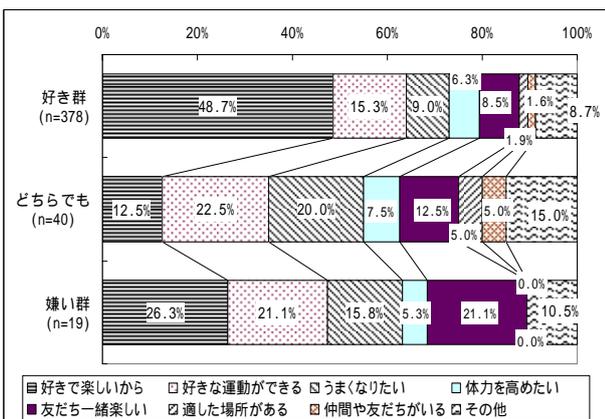
*** p<0.001

図3 - 129 (2年男子)



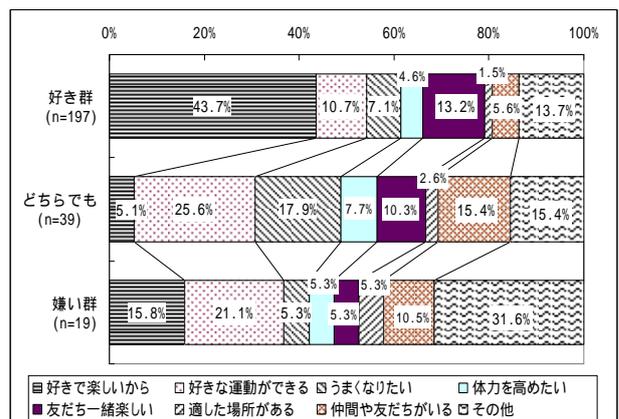
*** p<0.001

図3 - 130 (2年女子)



* p< 0.05

図3 - 131 (3年男子)



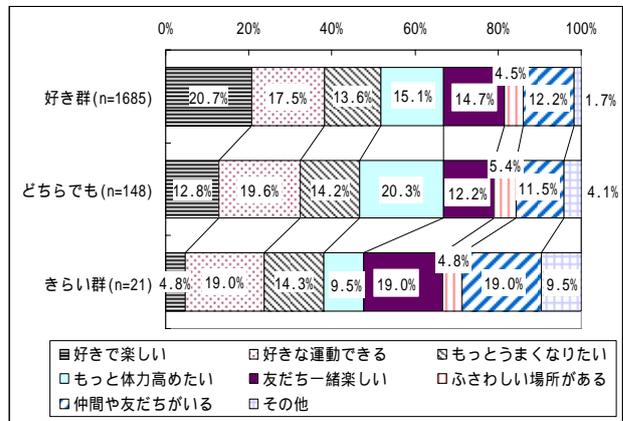
*** p<0.001

図3 - 132 (3年女子)

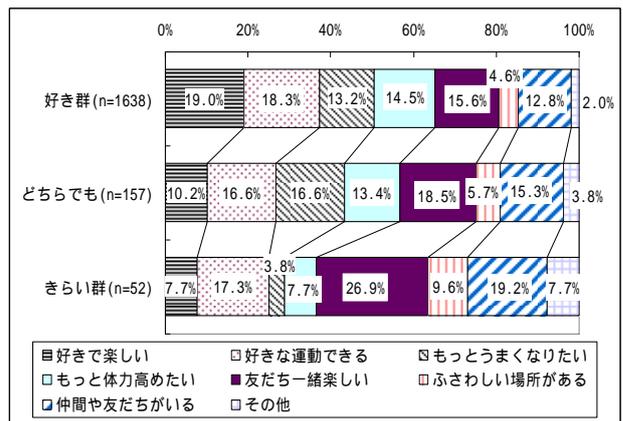
「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している項目は、「運動することが好きで楽しいから」（以下「好きで楽しい」と言う。）「運動がもっとうまくなりたいから」（以下「もっとうまくなりたい」と言う。）「友達と一緒にゲームや運動をすると楽しいから」（以下「友達一緒楽しい」と言う。）であった。

「好き群」の割合が1番低く、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっている項目は、「もっと体力高めたいから」「運動をする仲間や友達がいるから」（以下「仲間や友達がいる」と言う。）「運動するのにふさわしい場所があるから」（以下「ふさわしい場所」と言う。）「友達一緒楽しい」であった。

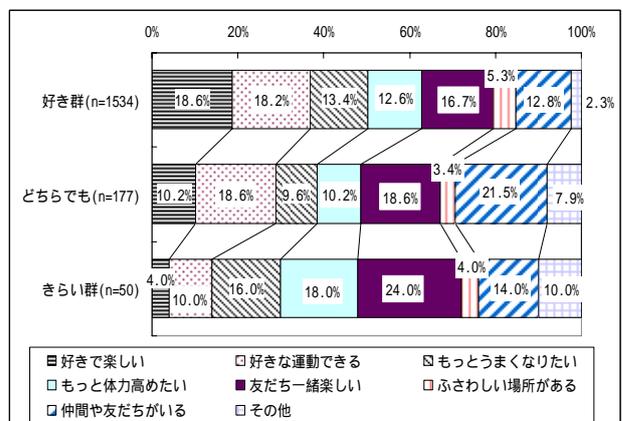
コラム57
 「3群×なぜ休み時間や放課後に運動をしているのか」
 平成18年度中学生調査との比較【図 - 127～132】



ns
 図 - 127 (1年男子)



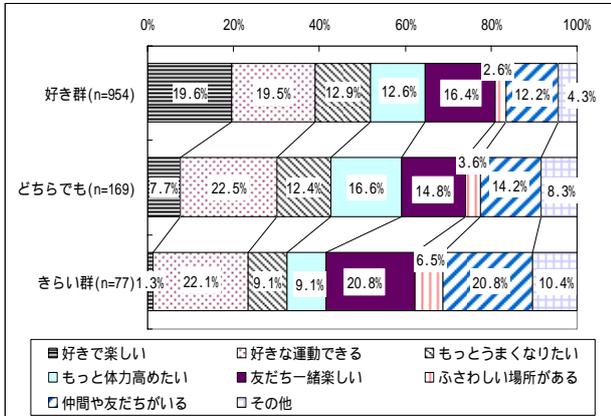
** p<0.01
 図 - 129 (2年男子)



*** p<0.001
 図 - 131 (3年男子)

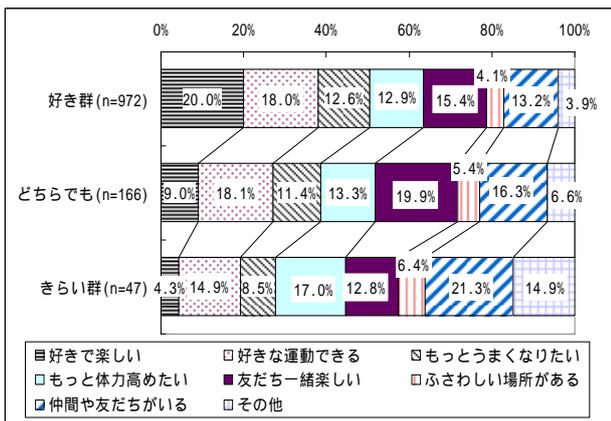
「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している項目は、「好きで楽しい」「もっとうまくなりたい」であった。

「好き群」の割合が1番低く、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっている項目は、「友達一緒に楽しい」「ふさわしい場所」「仲間や友達がいる」であった。



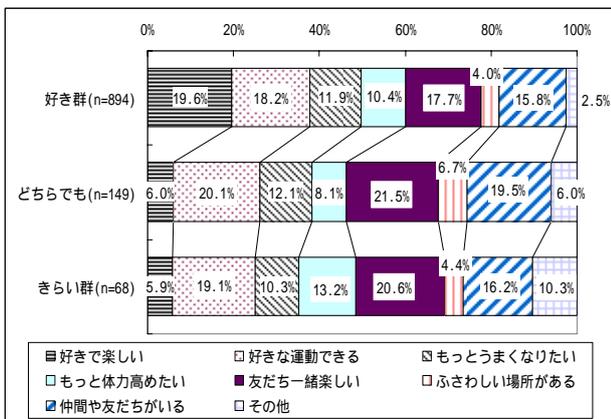
*** p<0.001

図 - 128 (1年女子)



** p<0.01

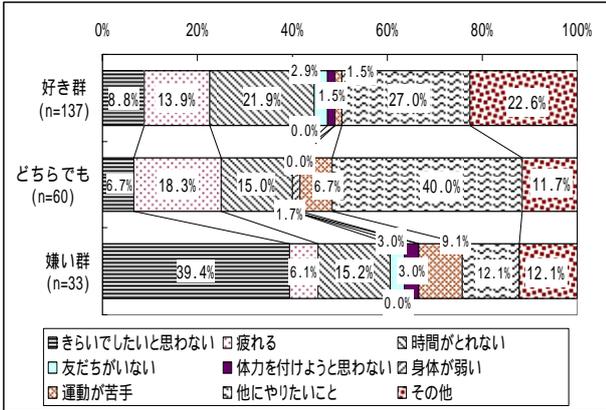
図 - 130 (2年女子)



*** p<0.001

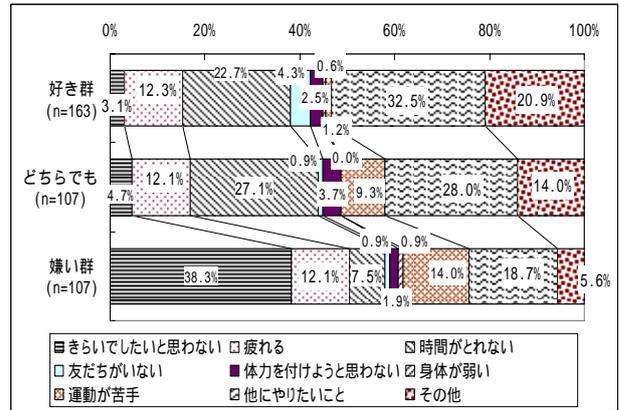
図 - 132 (3年女子)

ウ 3群×問25なぜ休み時間や放課後に運動をしていないのか【図3 - 133~138】



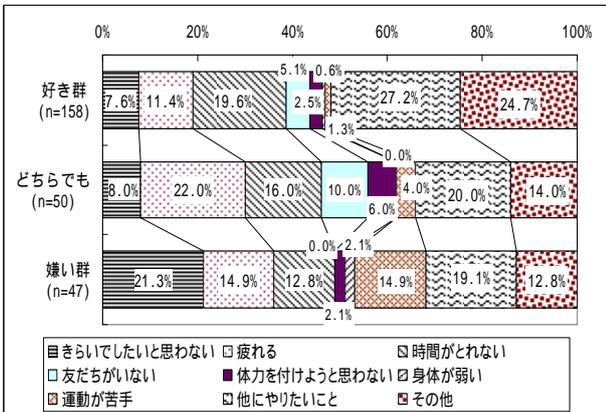
*** p<0.001

図3 - 133 (1年男子)



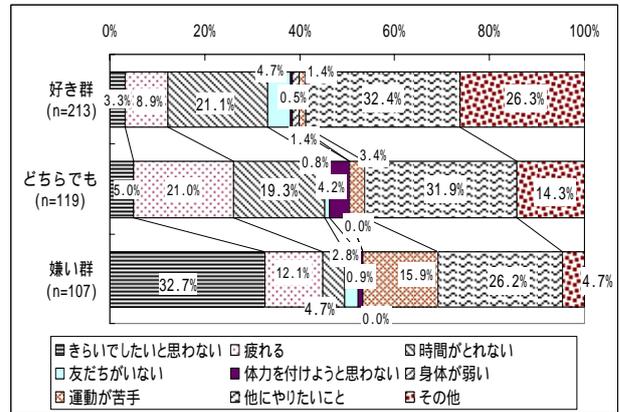
*** p<0.001

図3 - 134 (1年女子)



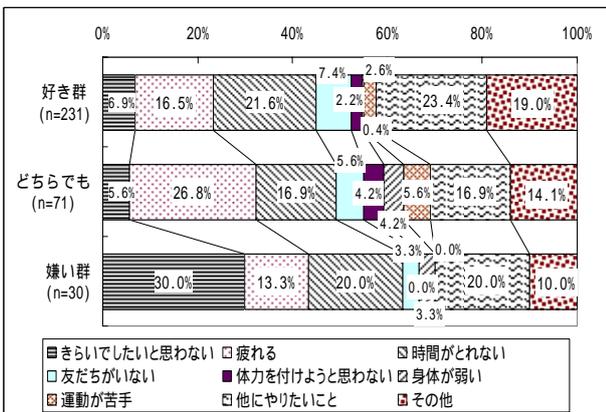
*** p<0.001

図3 - 135 (2年男子)



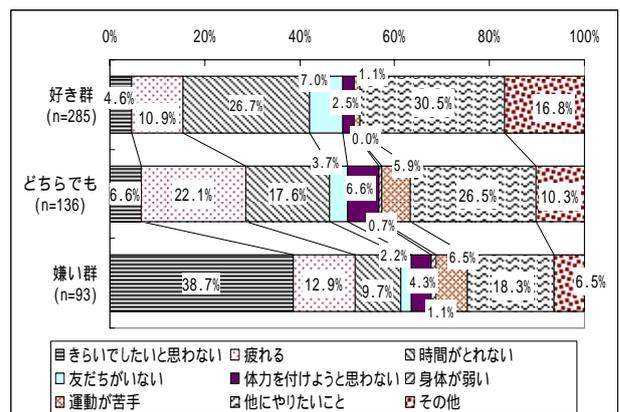
*** p<0.001

図3 - 136 (2年女子)



** p<0.01

図3 - 137 (3年男子)



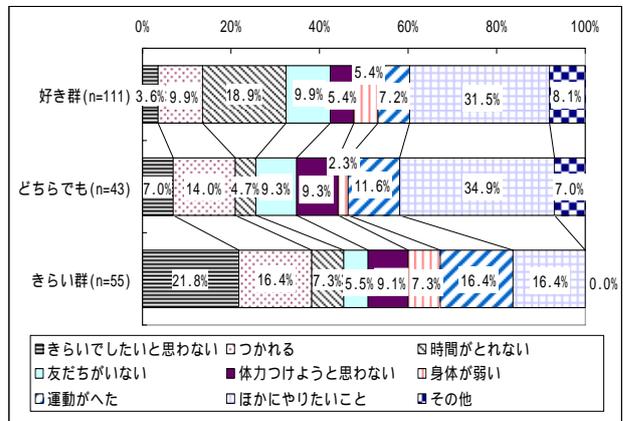
*** p<0.001

図3 - 138 (3年女子)

「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している項目は、「勉強や次の準備で時間が取れない」（以下「時間が取れない」と言う。）「他にやりたいことがあるから」であった。

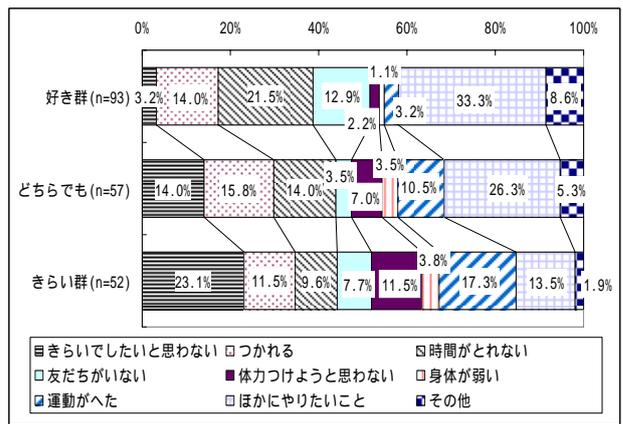
「好き群」の割合が1番低く、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっている項目は、「運動が嫌い、したいと思わないから」「運動が下手でうまくできないから」（以下「運動が下手」と言う。）であった。

コラム58
 「3群×なぜ休み時間や放課後に運動をしていないのか」
 平成18年度中学生調査との比較【図 - 133～138】



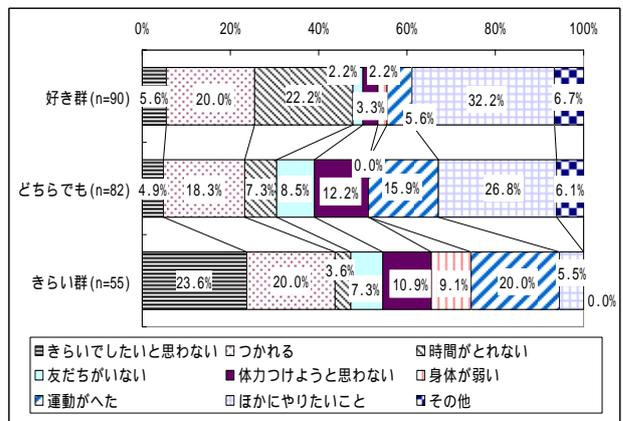
** p<0.01

図 - 133 (1年男子)



*** p<0.001

図 - 135 (2年男子)

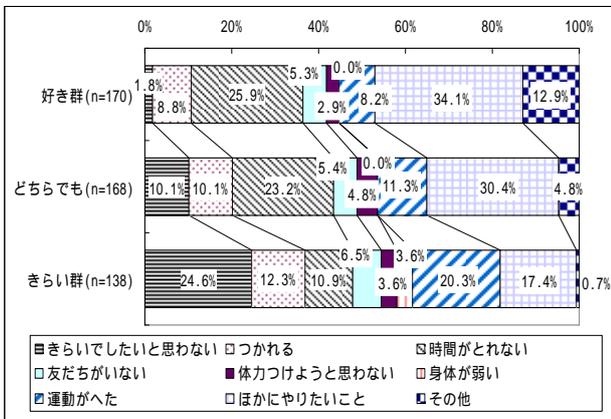


*** p<0.001

図 - 137 (3年男子)

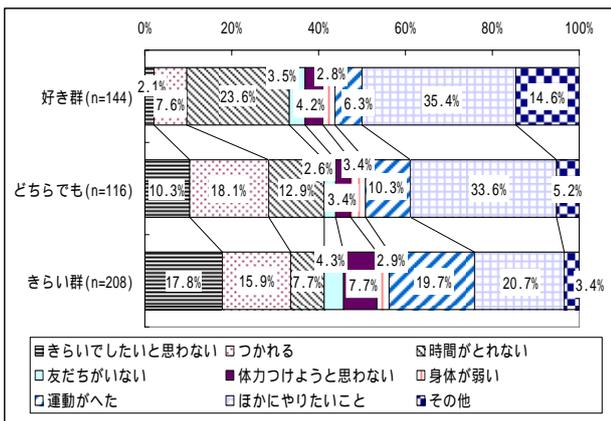
両調査とも、「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している項目は、「時間が取れない」「他にやりたいことがあるから」であった。

両調査とも、「好き群」の割合が1番低く、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっている項目は、「嫌いでしたと思わない」「運動が下手」であった。



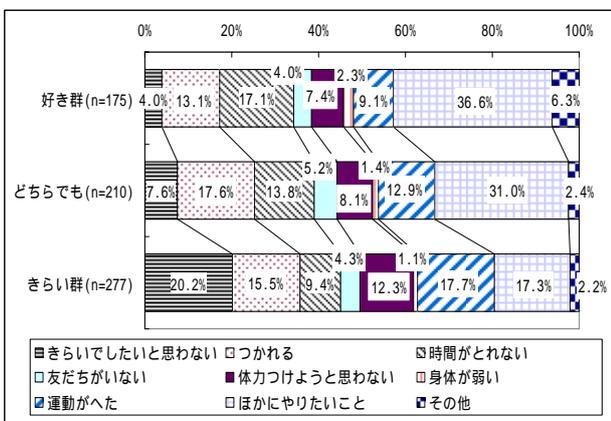
*** p<0.001

図 - 134 (1年女子)



*** p<0.001

図 - 136 (2年女子)

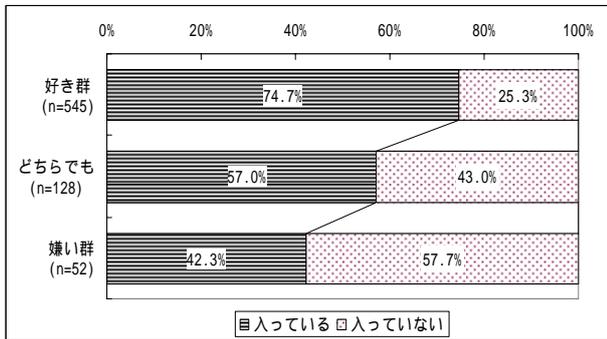


*** p<0.001

図 - 138 (3年女子)

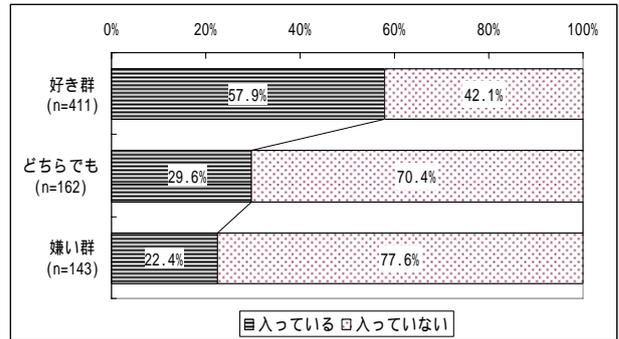
工 3群×問26運動部活動に入っているか

【図3 - 139 ~ 144】



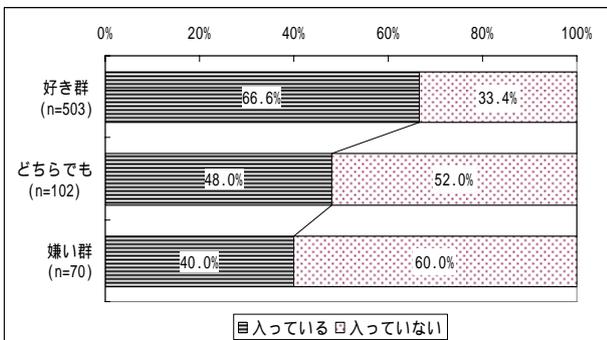
*** p<0.001

図3 - 139 (1年男子)



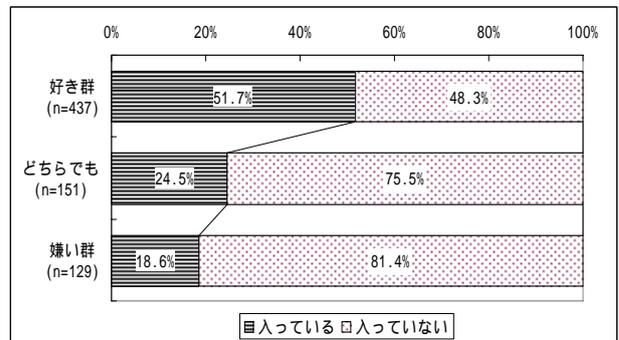
*** p<0.001

図3 - 140 (1年女子)



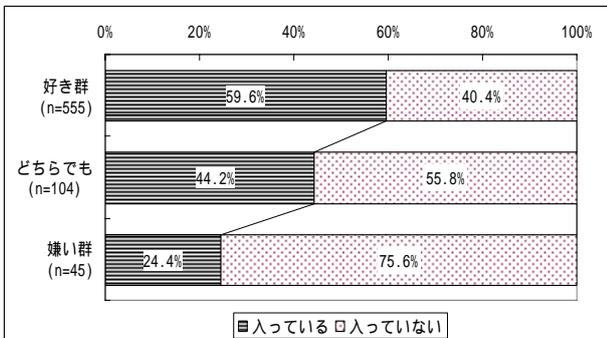
*** p<0.001

図3 - 141 (2年男子)



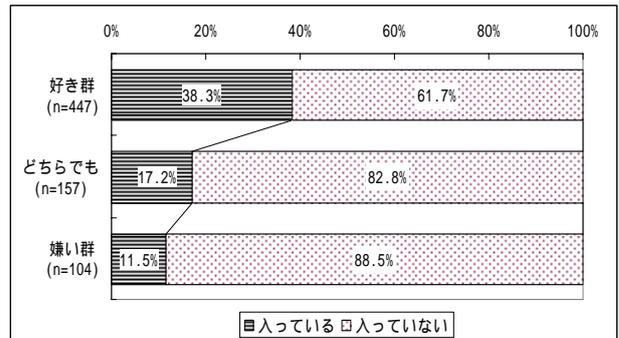
*** p<0.001

図3 - 142 (2年女子)



*** p<0.001

図3 - 143 (3年男子)



*** p<0.001

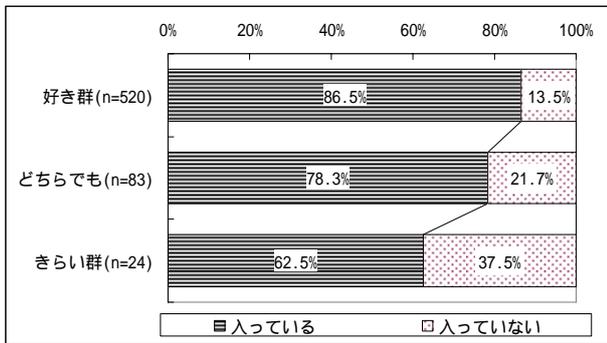
図3 - 144 (3年女子)

入部率は、「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している。また、男子のほうが女子よりも高く、男女各群とも学年進捗とともに低下している。

コラム59

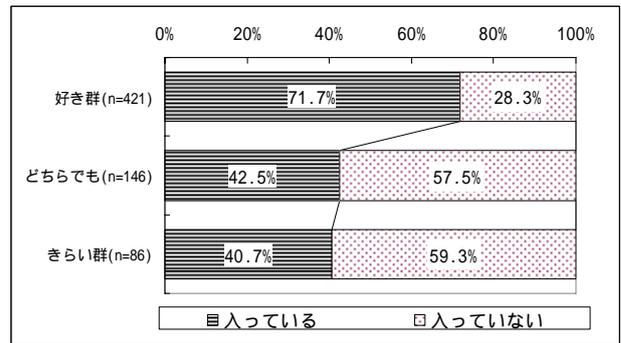
「3群×運動部活動に入っているか」

平成18年度中学生調査との比較【図 - 139～144】



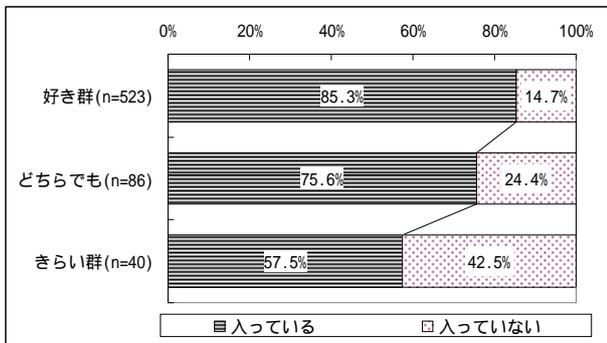
*** p<0.001

図 - 139 (1年男子)



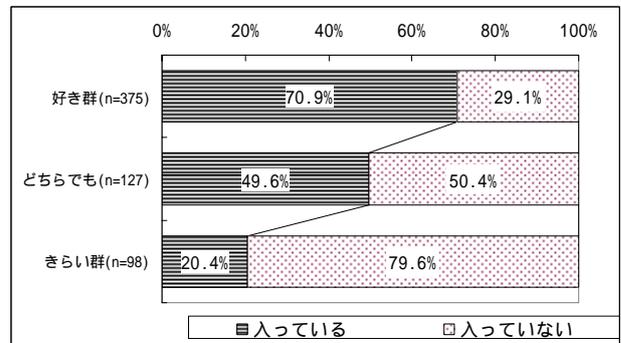
*** p<0.001

図 - 140 (1年女子)



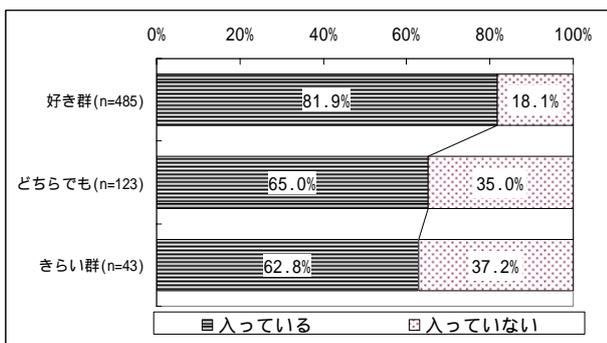
*** p<0.001

図 - 141 (2年男子)



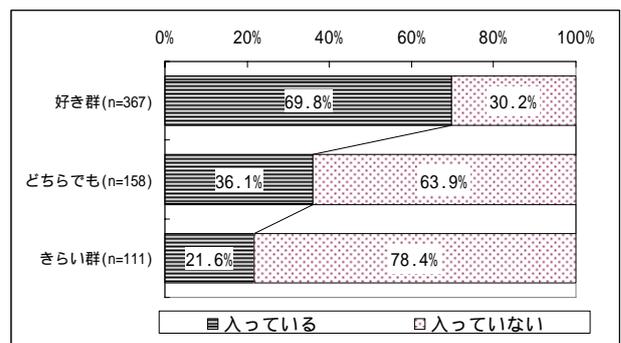
*** p<0.001

図 - 142 (2年女子)



*** p<0.001

図 - 143 (3年男子)



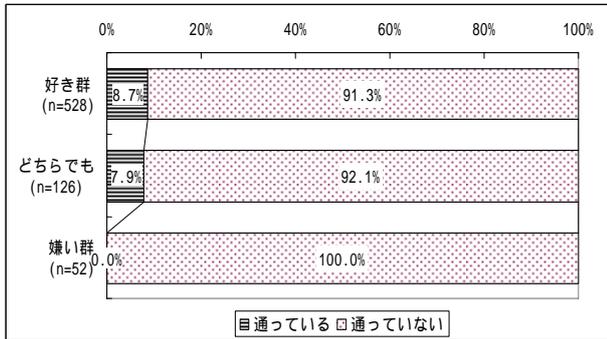
*** p<0.001

図 - 144 (3年女子)

平成18年度中学生調査の入部率は、「好き群」の割合が高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している。男子は「嫌い群」でも57%を超える入部率である。

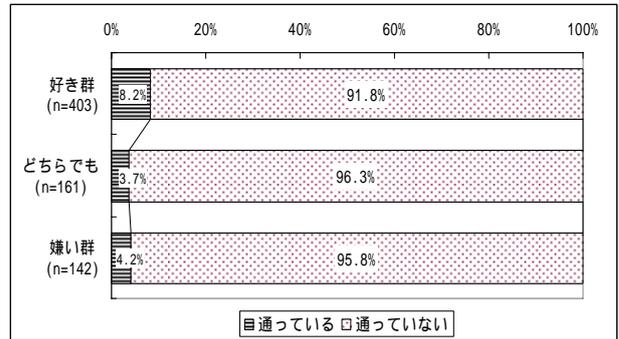
平成18年度中学生調査よりも、平成19年度高校生調査のほうが、入部率が低下している。

オ 3群×問27学校外のスポーツクラブに入っているか【図3 - 145~150】



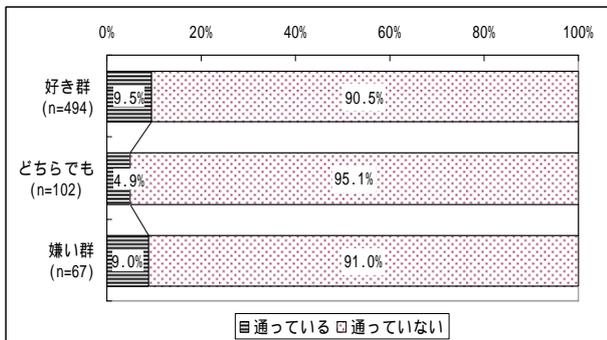
ns

図3 - 145 (1年男子)



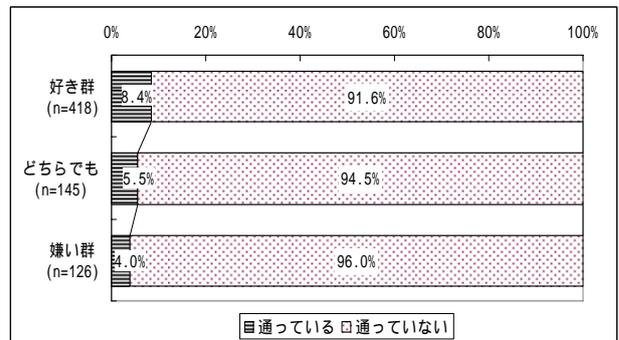
ns

図3 - 146 (1年女子)



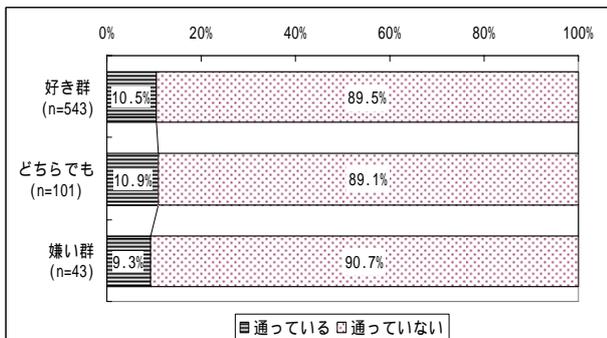
ns

図3 - 147 (2年男子)



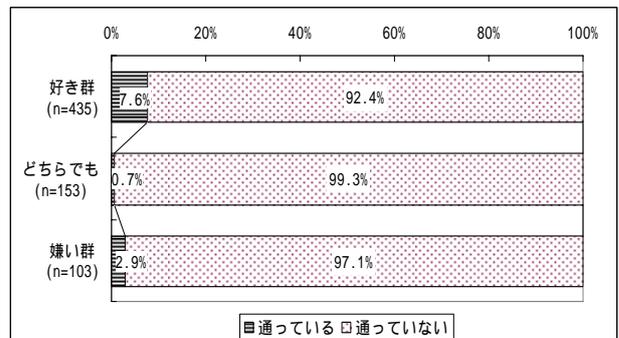
ns

図3 - 148 (2年女子)



ns

図3 - 149 (3年男子)



** p<0.01

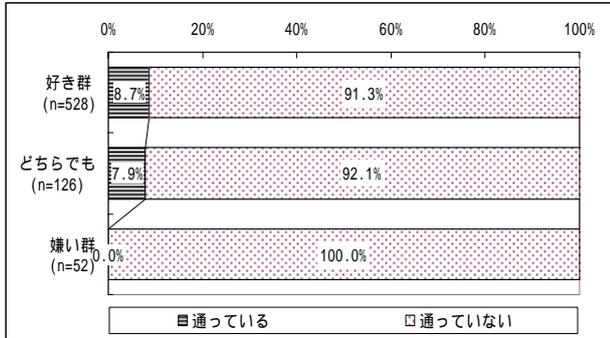
図3 - 150 (3年女子)

各学年男女ともに、好き群のほうが嫌い群よりも加入率が高い。

コラム60

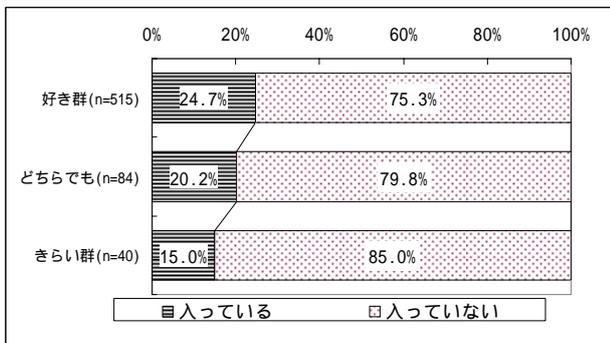
「3群×学校外のスポーツクラブに入っているか」

平成18年度中学生調査との比較【図 - 145～150】



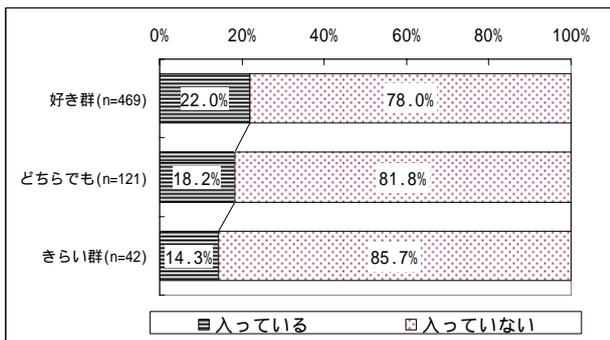
* $p < 0.05$

図 - 145 (1年男子)



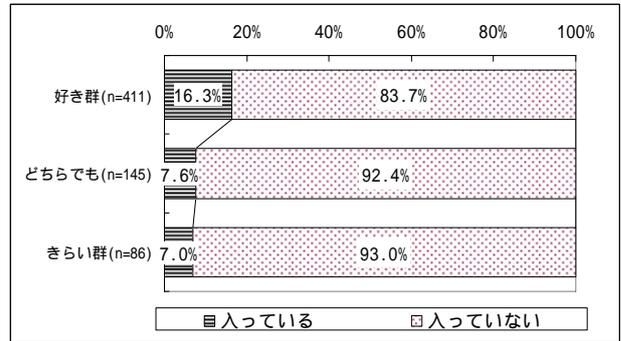
ns

図 - 147 (2年男子)



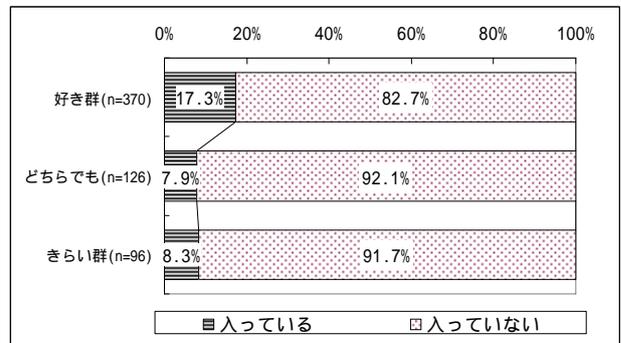
ns

図 - 149 (3年男子)



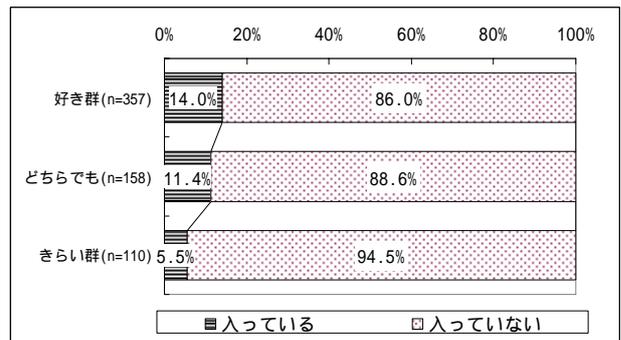
** $p < 0.01$

図 - 146 (1年女子)



** $p < 0.01$

図 - 148 (2年女子)

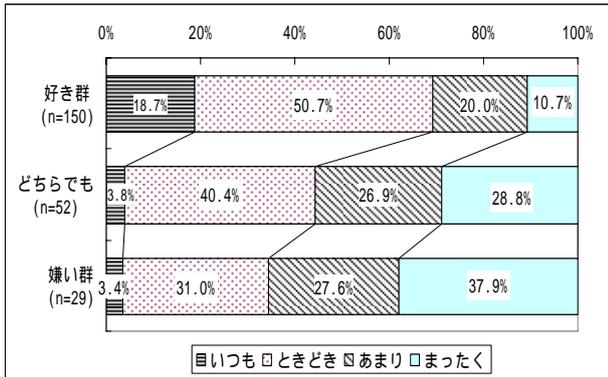


ns

図 - 150 (3年女子)

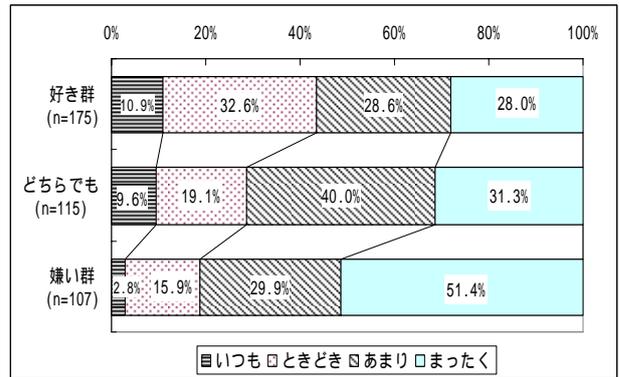
両調査とも、好き群のほうが嫌い群よりも加入率が高い。

カ 3群×問28放課後や帰宅後また休みの日に運動やスポーツをしているか【図3 - 151～156】



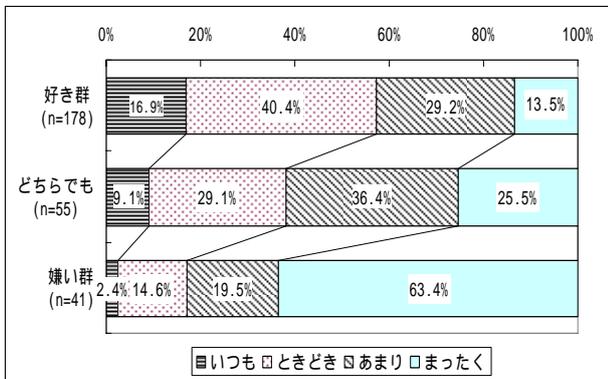
*** p<0.001

図3 - 151 (1年男子)



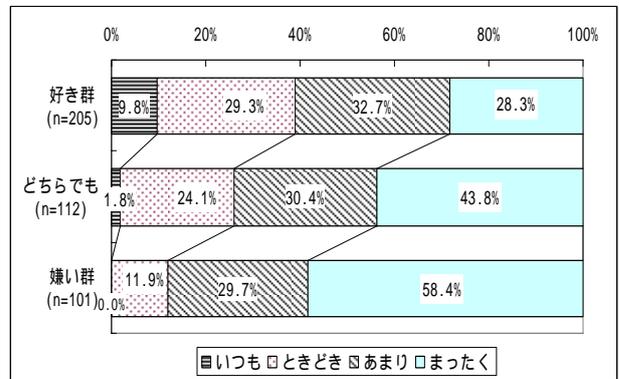
*** p<0.001

図3 - 152 (1年女子)



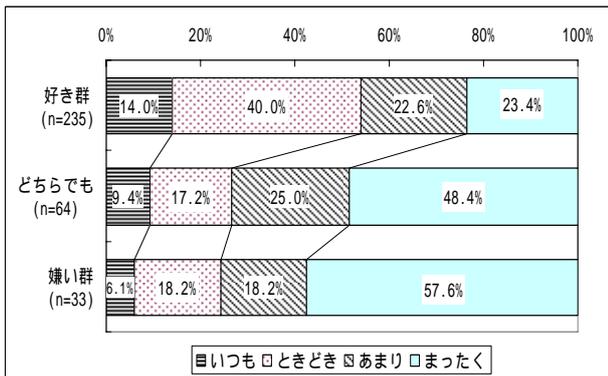
*** p<0.001

図3 - 153 (2年男子)



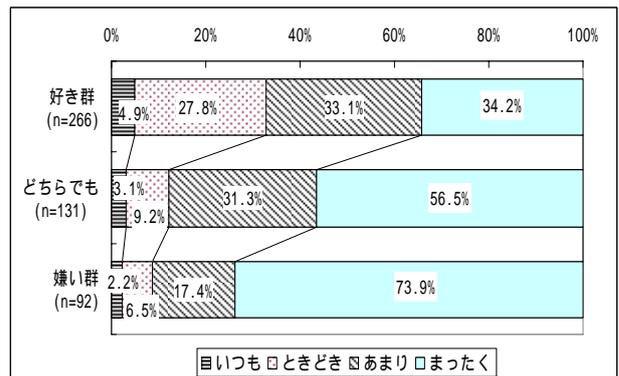
*** p<0.001

図3 - 154 (2年女子)



*** p<0.001

図3 - 155 (3年男子)



*** p<0.001

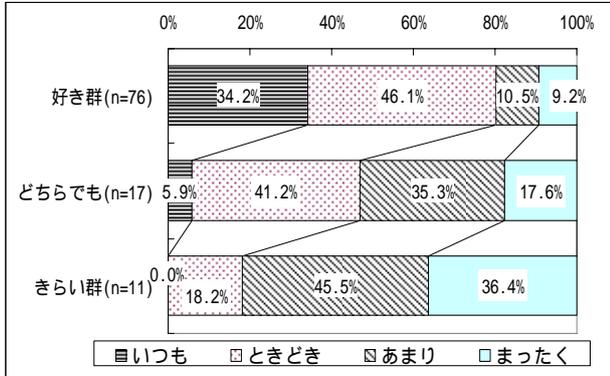
図3 - 156 (3年女子)

「している群」は、「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している。また「している群」は、女子よりも男子が高い。

コラム61

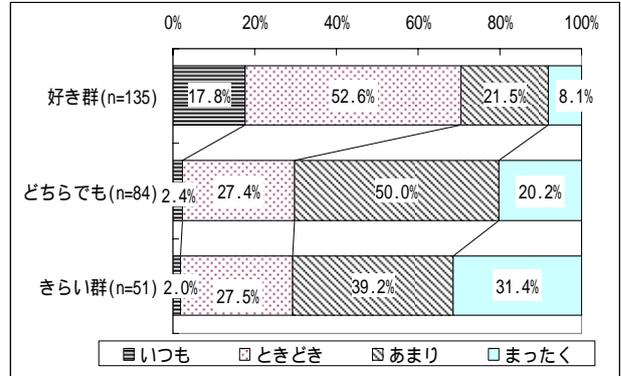
「3群×放課後や帰宅後また休みの日に運動やスポーツをしているか」

平成18年度中学生調査との比較【図 - 151～156】



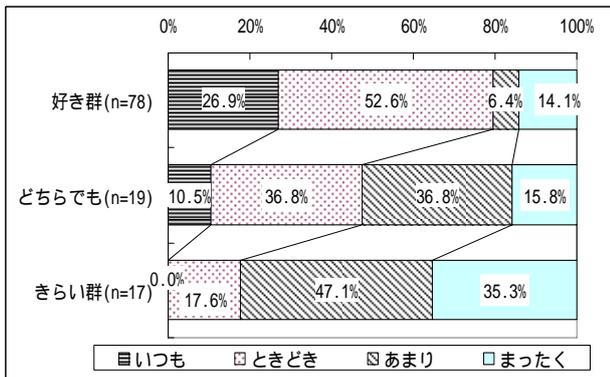
*** p<0.001

図 - 151 (1年男子)



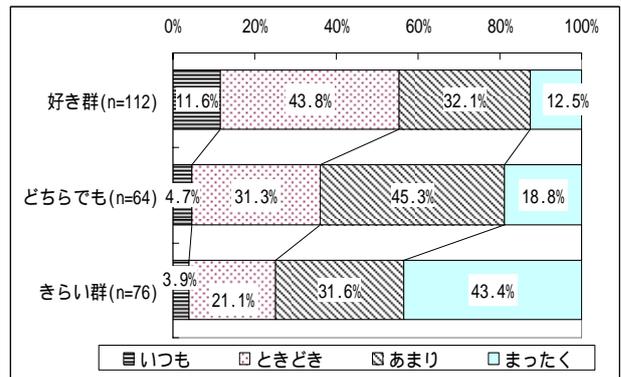
*** p<0.001

図 - 152 (1年女子)



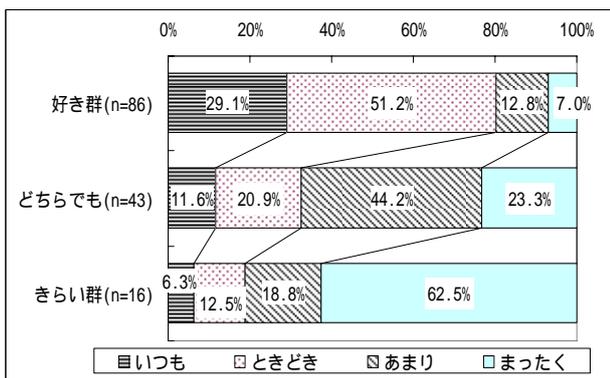
*** p<0.001

図 - 153 (2年男子)



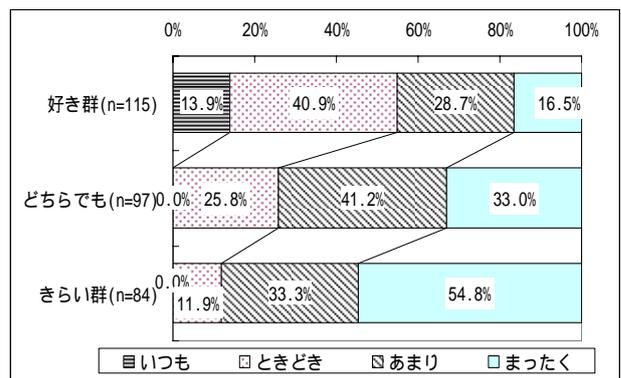
*** p<0.001

図 - 154 (2年女子)



*** p<0.001

図 - 155 (3年男子)



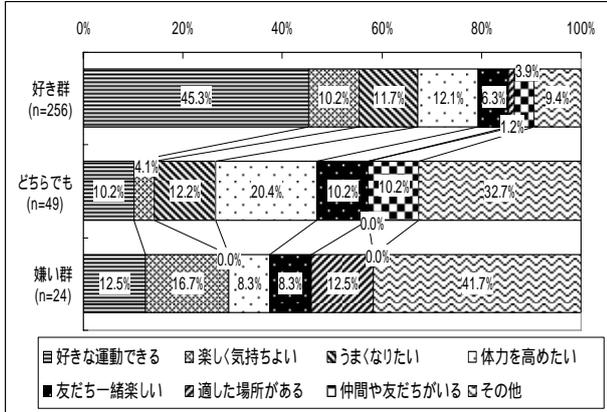
*** p<0.001

図 - 156 (3年女子)

平成18年度中学生調査の「している群」は、「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している。また「している群」は、平成19年度高校生調査よりも平成18年度中学生調査の

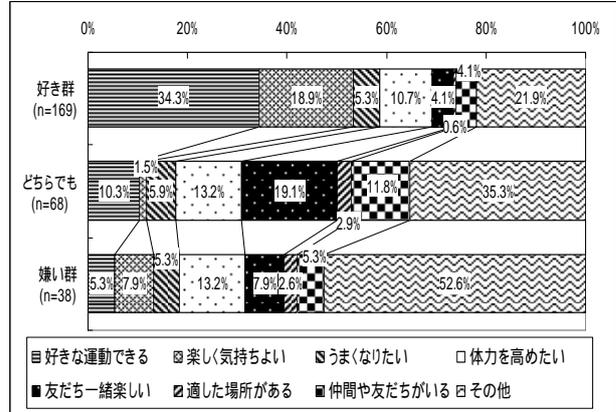
方が高い。

キ 3群×問29なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをしているのか【図3 - 157~162】



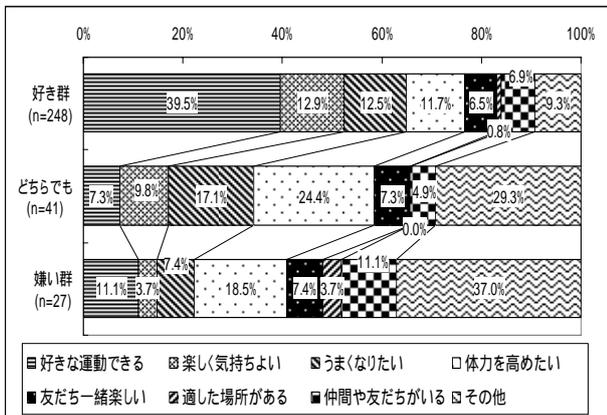
*** p<0.001

図3 - 157 (1年男子)



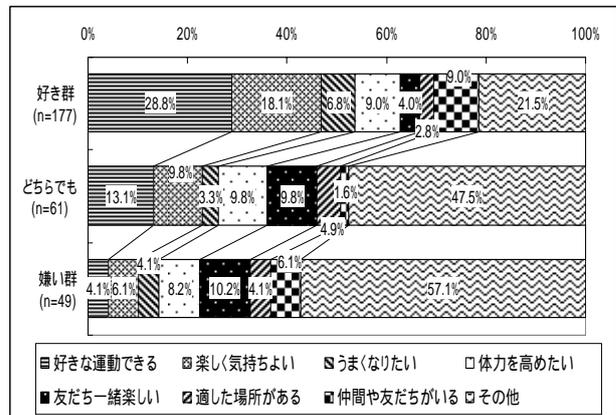
*** p<0.001

図3 - 158 (1年女子)



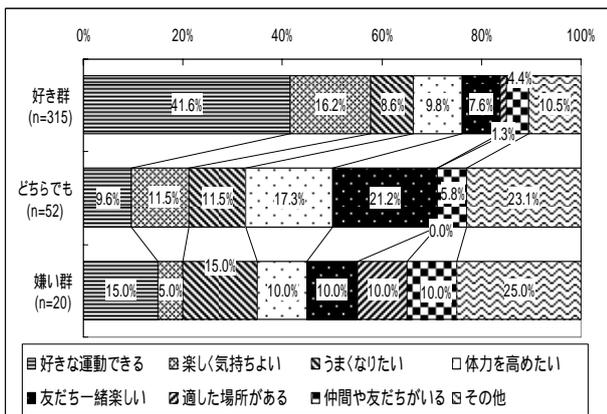
*** p<0.001

図3 - 159 (2年男子)



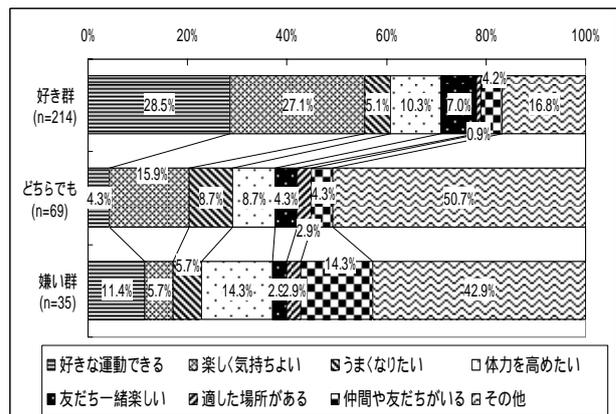
*** p<0.001

図3 - 160 (2年女子)



*** p<0.001

図3 - 161 (3年男子)



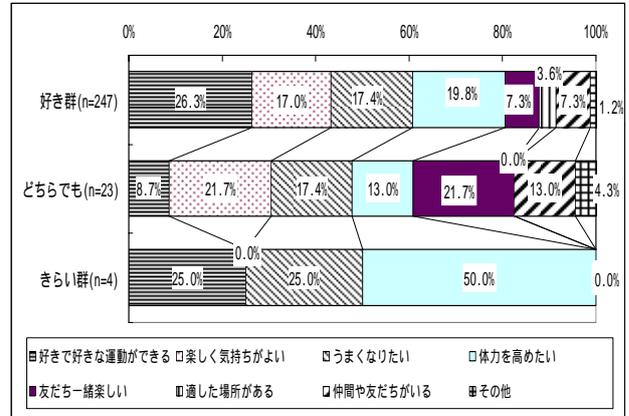
*** p<0.001

図3 - 162 (3年女子)

「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している項目は、「楽しく、気持ちが良い」「運動が好きで、好きな運動ができるから」（以下「好きな運動できる」と言う。）であった。

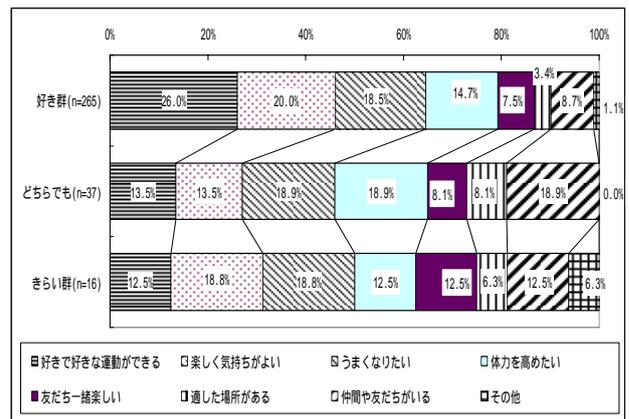
「好き群」の割合が1番低く、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっている項目は、「友達と一緒に運動すると楽しい」（以下「友達一緒に楽しい」と言う。）であった。

コラム62
 「3群×なぜ放課後や帰宅後に運動やスポーツをしているのか」
 平成18年度中学生調査との比較【図 - 157～162】



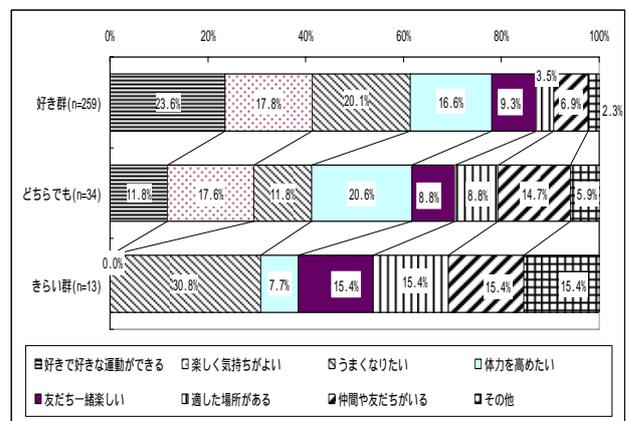
ns

図 - 157 (1年男子)



ns

図 - 159 (2年男子)

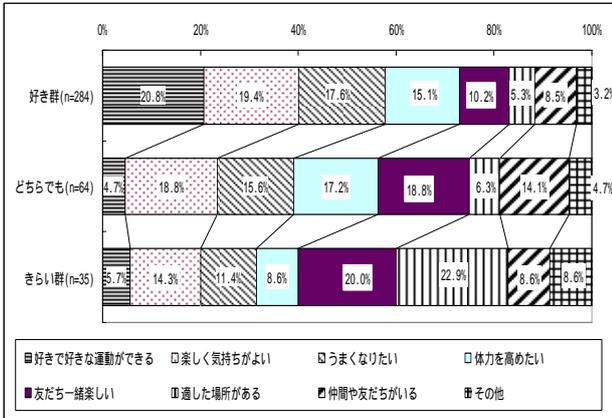


* p<0.05

図 - 161 (3年男子)

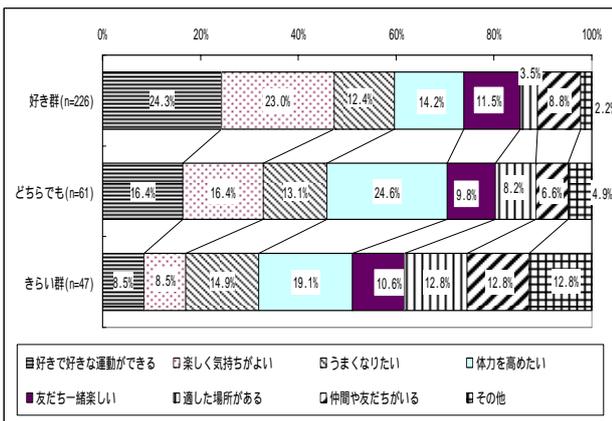
平成18年度中学生調査で、「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している項目は、「好きな運動ができる」「楽しく、気持ちがいい」で、平成19年度高校生調査と同じであった。

「好き群」の割合が1番低く、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっている項目は、「運動に適した場所がある」「友達一緒に楽しい」などであった



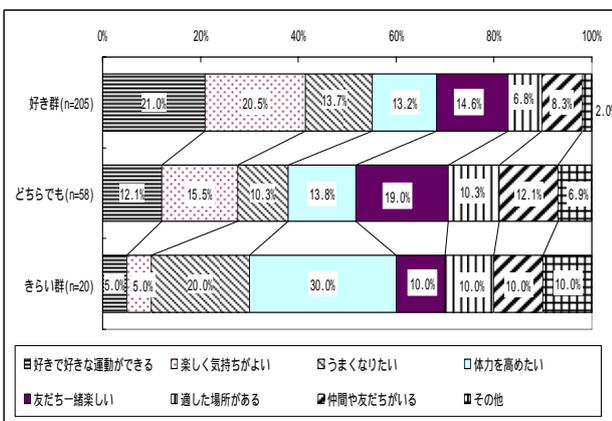
** p<0.01

図 - 158 (1年女子)



** p<0.01

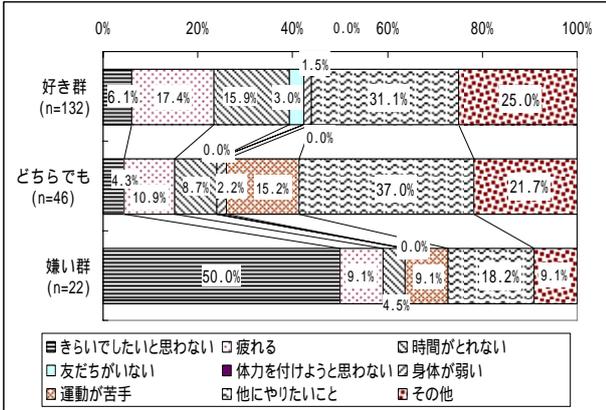
図 - 160 (2年女子)



ns

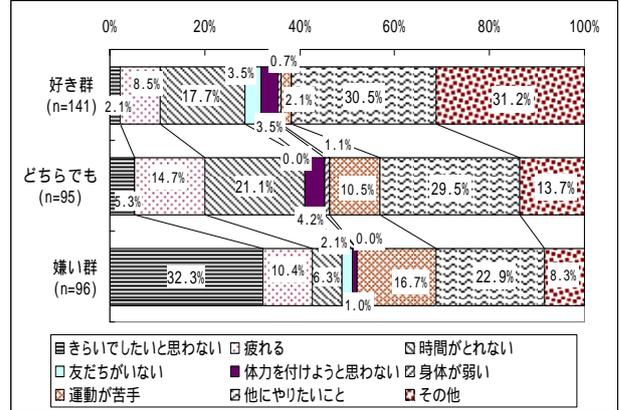
図 - 162 (3年女子)

ク 3群×問30なぜ放課後や帰宅後に運動をしていないのか【図3 - 163 ~ 168】



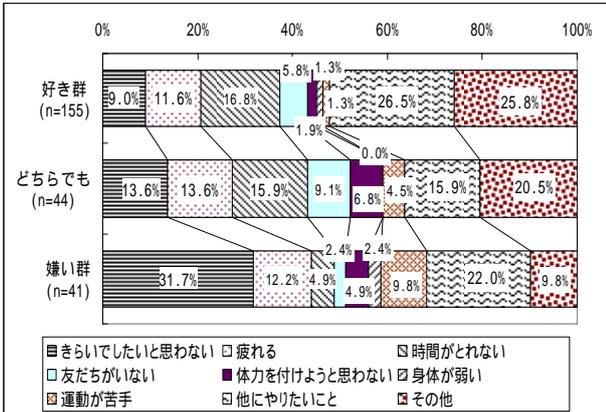
*** p<0.001

図3 - 163 (1年男子)



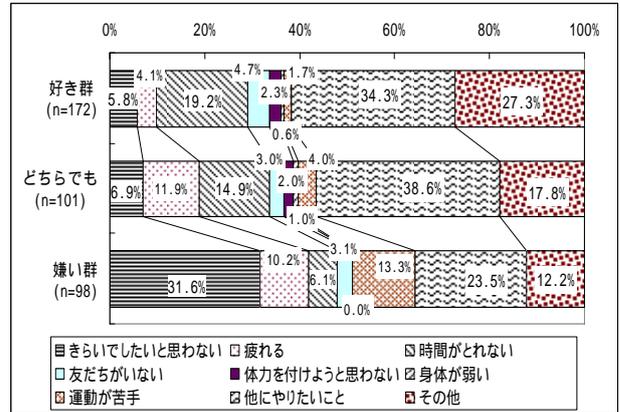
*** p<0.001

図3 - 164 (1年女子)



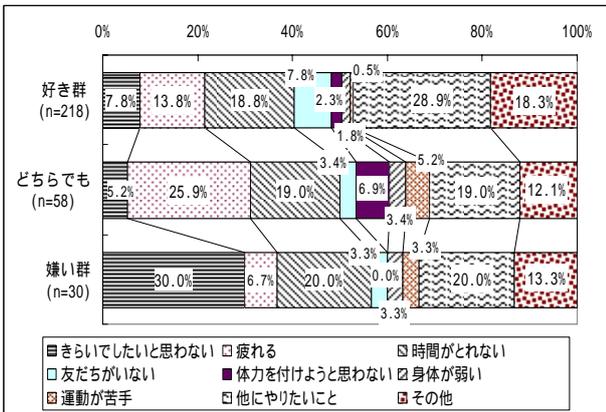
** p<0.01

図3 - 164 (2年男子)



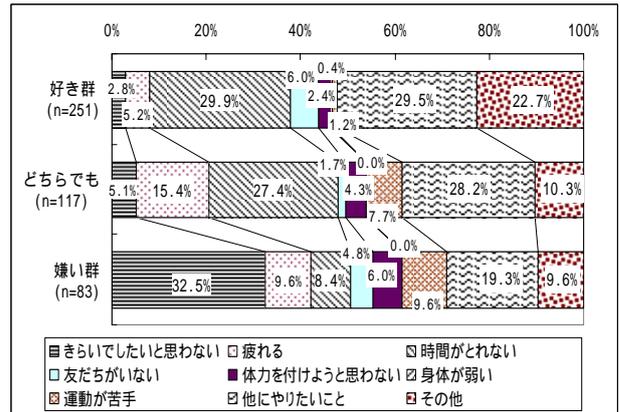
*** p<0.001

図3 - 166 (2年女子)



** p<0.01

図3 - 167 (3年男子)



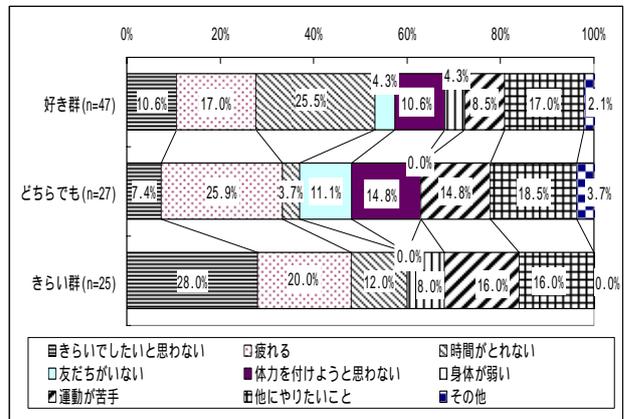
*** p<0.001

図3 - 168 (3年女子)

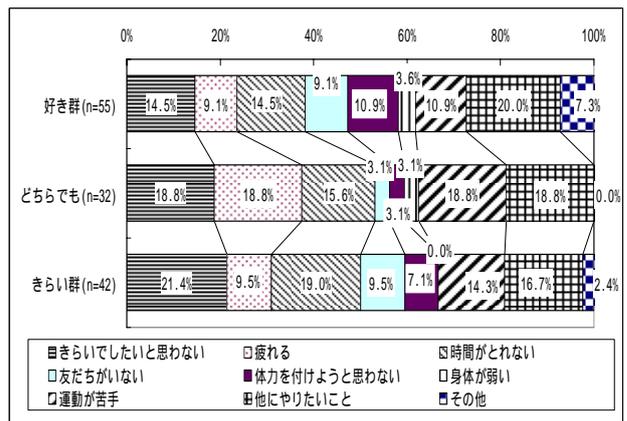
「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している項目は、「塾や勉強、習い事で時間が取れないから」（以下「時間が取れない」と言う。）「他にやりたいことがあるから」（以下「他にやりたいこと」と言う。）などであった。

「好き群」の割合が1番低く、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっている項目は、「運動が嫌い、し たいと思わないから」（以下「嫌いでしたいと思わない」と言う。）「運動が苦手で、うまくできないから」（以下「運動が苦手」と言う。）などであった。

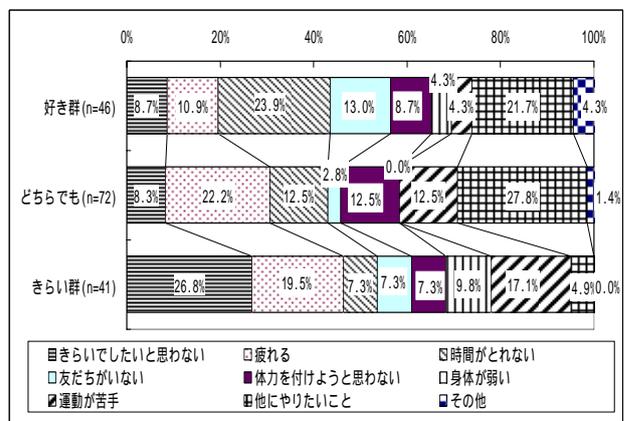
コラム63
「3群×なぜ放課後や帰宅後に運動をしていないのか」
平成18年度中学生調査との比較【図 - 163～168】



ns
図 - 163 (1年男子)



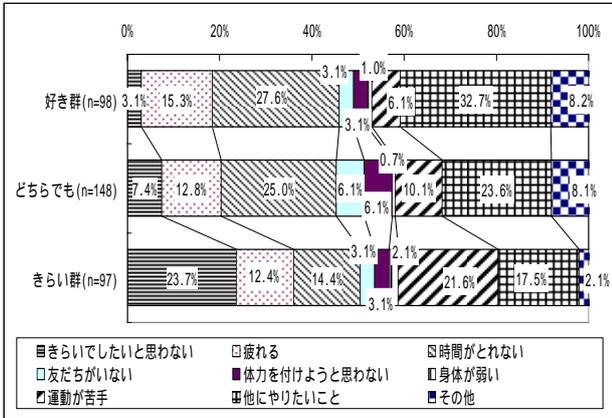
ns
図 - 165 (2年男子)



** p<0.01
図 - 167 (3年男子)

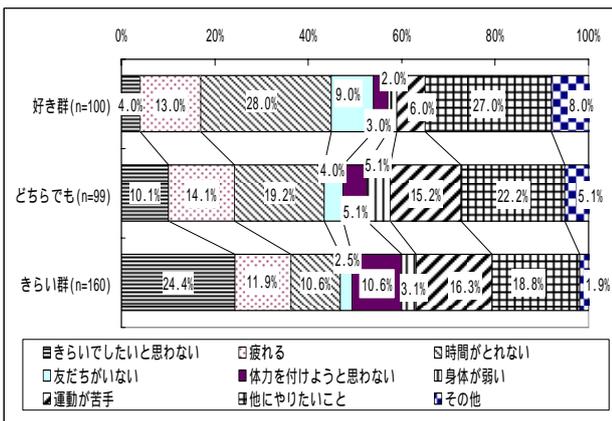
平成18年度中学生調査で、「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している項目は、「ほかにやりたいこと」「時間がとれない」などで、平成19年度高校生調査と同じだった。

平成18年度中学生調査で、「好き群」の割合が1番低く、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっている項目は、「嫌いでしたと思わない」「運動が苦手」などで、平成19年度高校生調査と同じであった。



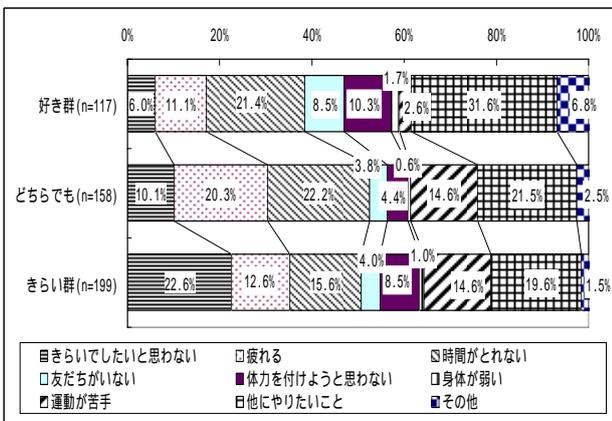
*** p<0.001

図 - 164 (1年女子)



*** p<0.001

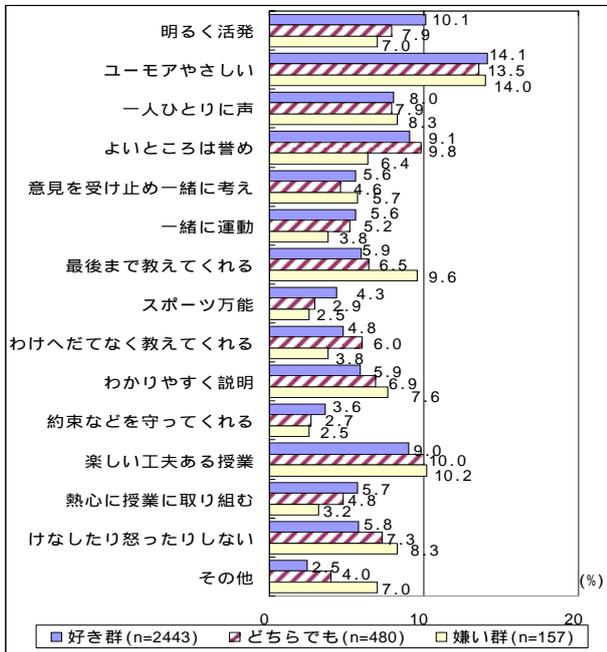
図 - 166 (2年女子)



*** p<0.001

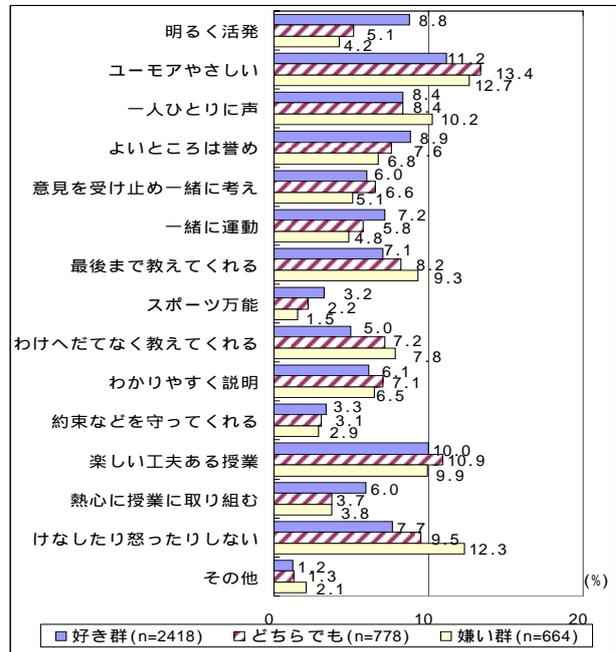
図 - 168 (3年女子)

(4) 体育を指導してくれる理想的な教師像について
 ア 3群×問31体育の学習をどんな先生に教えて
 もらいたい【図3 - 169~174】



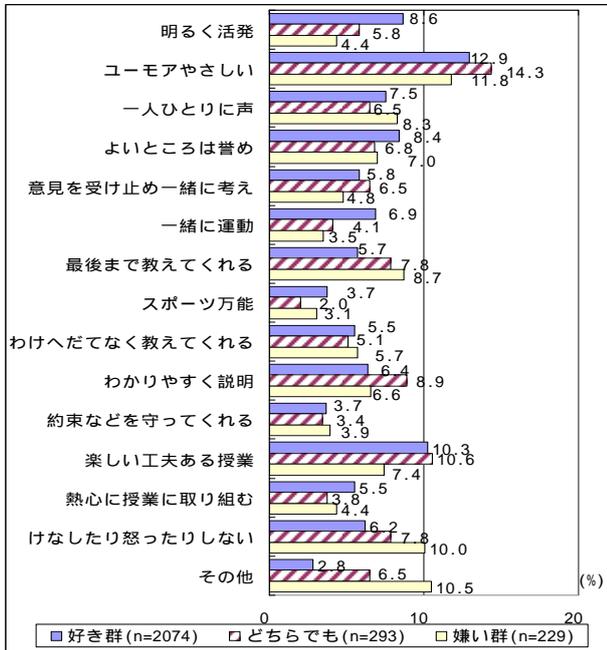
ns

図3 - 169 (1年男子)



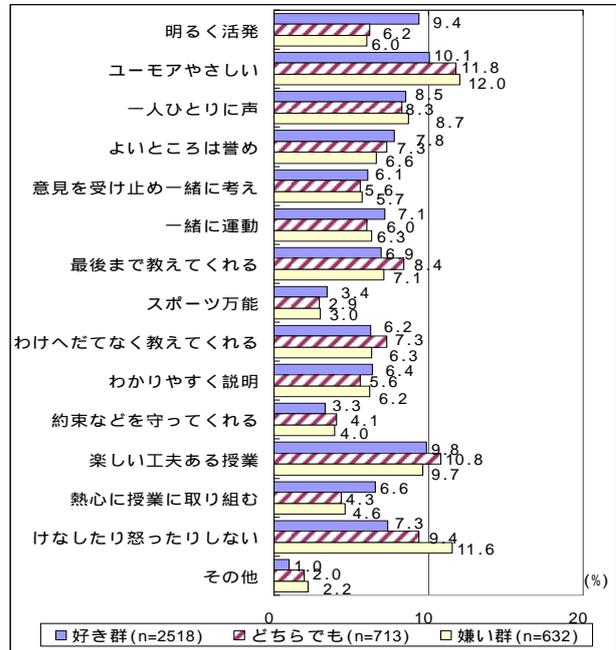
*** p<0.001

図3 - 170 (1年女子)



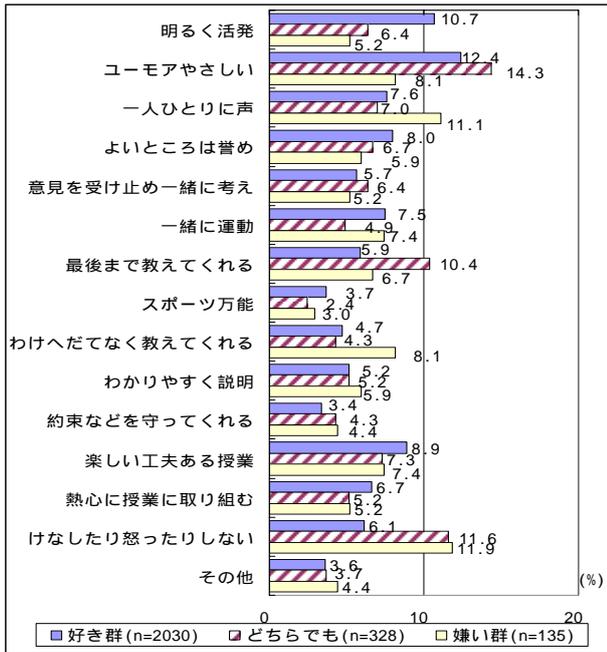
*** p<0.001

図3 - 171 (2年男子)



** p<0.01

図3 - 172 (2年女子)

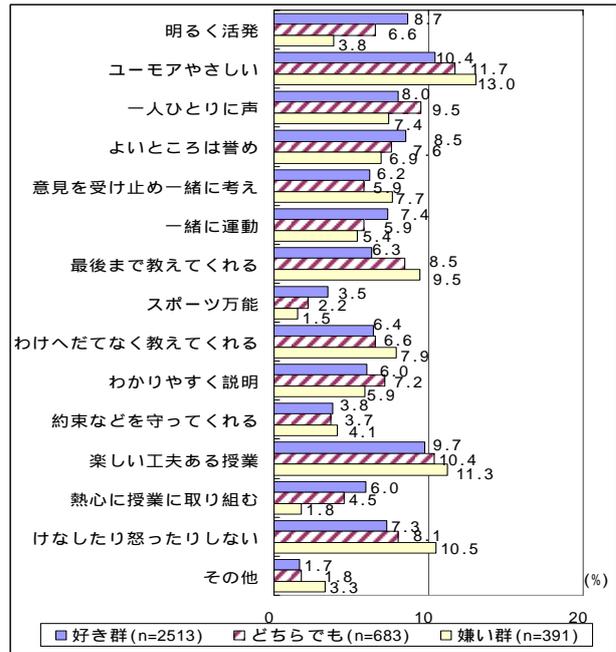


** p<0.01

図3 - 173 (3年男子)

「好き群」の割合が1番高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下している項目は、「明るく活発できびきびした先生」（以下「明るく活発」と言う。）「よいところは誉め、悪いところは注意してくれる先生」（以下「よいところは誉め」と言う。）「一緒に運動してくれる先生」「どんな運動でもできるスポーツ万能な先生」（以下「スポーツ万能」と言う。）「熱心に授業に取り組んでくれる先生」（以下「熱心に授業」と言う。）であった。

「好き群」の割合が1番低く、「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっている項目は、「できない人をけなしたり、怒ったりしない先生」（以下「けなしたり怒ったりしない」と言う。）「できない人、わからない人に最後まで教えてくれる先生」（以下「最後まで教えてくれる」と言う。）「わけへだてなく教えてくれる先生」「運動の方法などわかりやすく説明してくれる先生」であった。



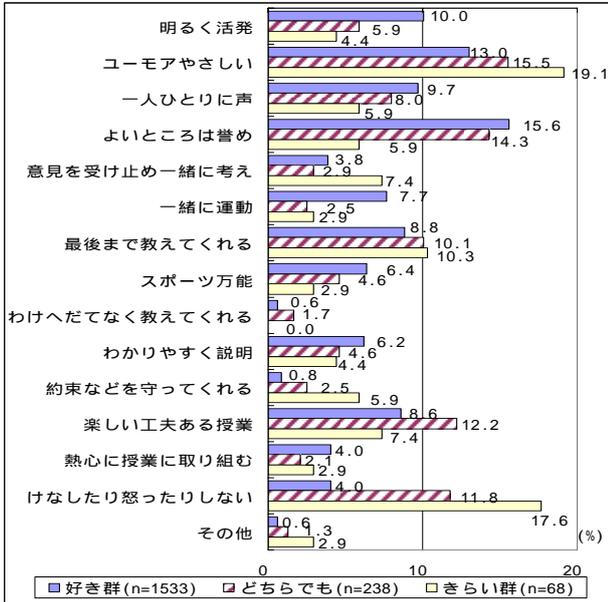
*** p<0.001

図3 - 174 (3年女子)

コラム64

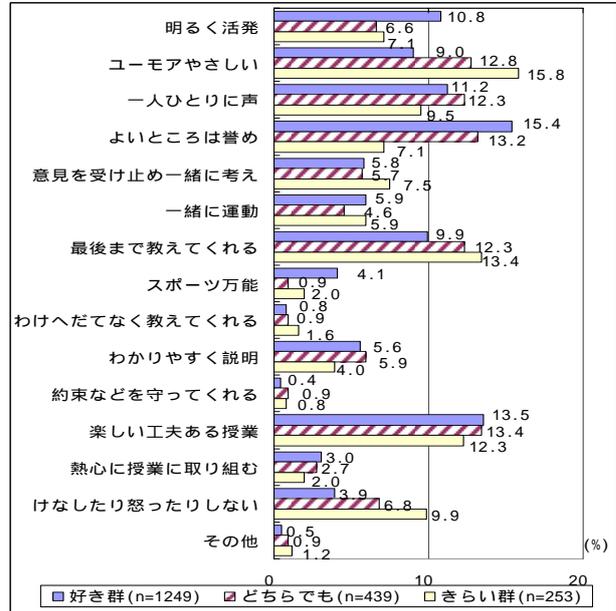
「3群×体育の学習をどんな先生に教えてもらいたいか」

平成18年度中学生調査との比較【図 - 169~174】



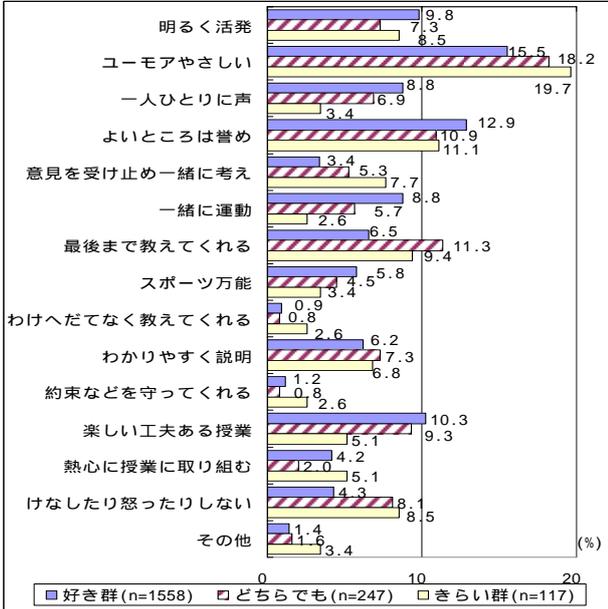
*** p<0.001

図 - 169 (1年男子)



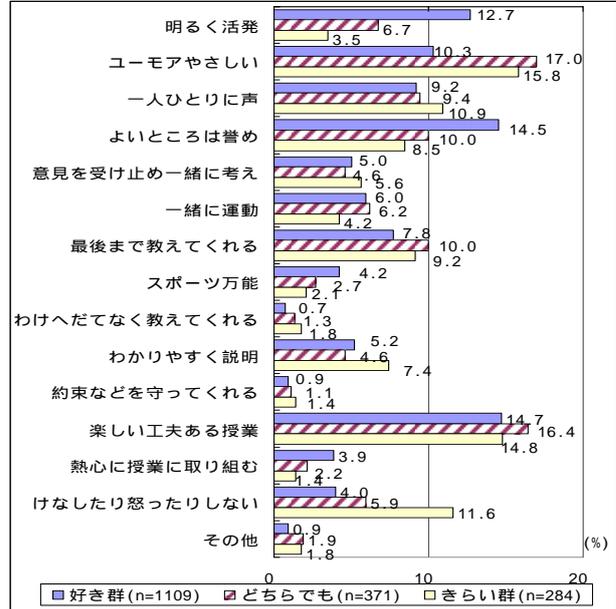
*** p<0.001

図 - 170 (1年女子)



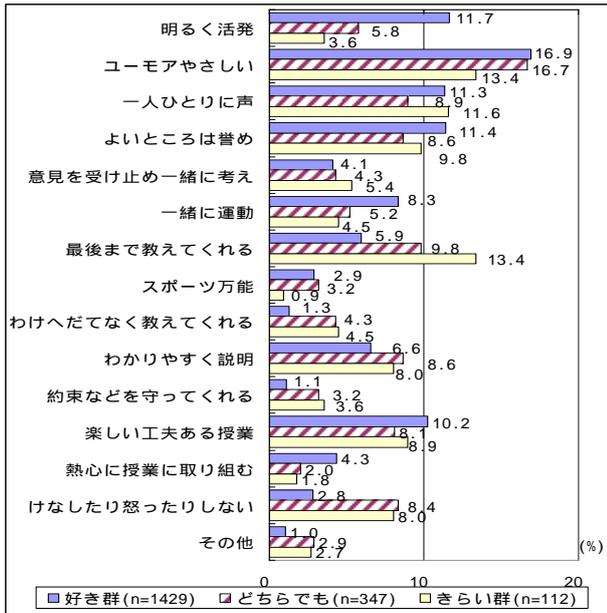
** p<0.01

図 - 171 (2年男子)



*** p<0.001

図 - 172 (2年女子)

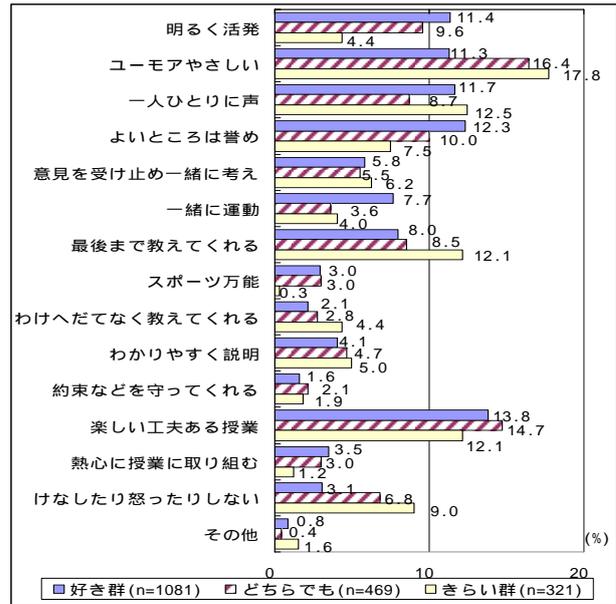


*** p<0.001

図 - 173 (3年男子)

平成18年度中学生調査で、「好き群」の割合が1番高く「どちらでもない」「嫌い群」と低下している項目は、「明るく活発」「よいところは誉め」「スポーツ万能」「熱心に授業」で、平成19年度高校生調査と同じ傾向であった。

平成18年度中学生調査で、「好き群」の割合が1番低く「どちらでもない」「嫌い群」と高くなっている項目は、「けなしたり怒ったりしない」「最後まで教えてくれる」「分け隔てなく教えてくれる先生」で、平成19年度高校生調査と同じ傾向であった。



*** p<0.001

図 - 174 (3年女子)

【考察】

1 運動やスポーツをすることが「好き」か「嫌い」かについて

運動やスポーツをすることが「とても好き」と「どちらかというとき」を合わせた（以下「運動好き群」と言う。）生徒の割合は、男子81.1%以上、女子69.0%以上で、多くの生徒が運動やスポーツをすることが好きであることがわかった。

次に、運動やスポーツの好き嫌いとは体育の学習の好き嫌いとの関連についてみてみると、体育の学習が「どちらかというとき」と「とても嫌い」を合わせた生徒（以下「体育嫌い群」と言う。）のうち、「運動好き群」の生徒の割合は、男子1年生2.9%、2年生2.5%、3年生2.4%、女子1年生4.5%、2年生4.3%、3年生1.4%しかおらず、体育が嫌いでは運動が好きで、いわゆる「運動好きの体育嫌い」の生徒は、平成19年度高校生調査からは認められなかった。

2 体育の学習が好きか嫌いについて

体育の学習が「とても好き」と「どちらかというとき」を合わせた生徒（以下「体育好き群」と言う。）の割合は、最低でも男子74.8%、女子57.5%を超えており、大半が体育の学習が好きであることがわかった。

「体育好き」群の割合を平成8年度高校生調査と比べてみると、男女ともに増加していた。

また、平成17年度小学生調査で男子84%以上、女子73%以上あった「体育好き群」が、平成18年度中学生調査では学年の進行とともに減少してきていたが、男子は高校2年生、女子は高校1年生を境に、上昇に転じてきていることがわかった。

これらは、先生方の努力により、体育の学習が改善されてきている結果ではないかと思われる。

体育の学習の好き嫌いとは運動やスポーツの好き嫌いとの関連についてみてみると、「体育好き群」の生徒のうち、94%以上が「運動好き群」であることがわかった。また、「体育嫌い群」の生徒のうち、運動やスポーツをすることが「とても嫌い」と「どちらかというとき」を合わせた（以下「運動嫌い群」と言う。）生徒の割合は、最低でも男子45.7%、女子55.4%を超えており、体育好きの生徒は、大半が運動好きであり、体育嫌いの生徒は、ほぼ半分が運動嫌いであることがわかった。

体育の学習が好き理由は、活動の欲求が充足されることに加え、男子は、色々な運動ができて面白いからといった様々な運動の特性に触れる喜びをあげており、女子は、友達と一緒に仲よくゲームや運

動ができるからといった友達の間で互いに認め合い、良好な人間関係を築きながら活動することをあげている。この傾向は、平成8年度高校生調査にも表れており、男女の特性といえるかもしれない。

体育の学習が嫌いな理由は、身体を動かすことが好きでなく面倒くさいという理由に加え、男子は、運動すると疲れる・苦しいといった体力面を表すものが、女子は、練習してもうまくならないといった技能面を表すものが上位にあげられている。

体育好きの生徒を減らさないようにするためには、生徒の活動欲求を満たし、友達との教えあい、学びあいの場を提供し、一人ひとりの体力や運動能力を高め、運動技能が向上するような学習を展開して行く必要がある。

3 体育の時間の取り組みについて

(1) 評価の観点別に見た取り組み

P10～16のE～コは、体育の時間の取り組みについて、指導要録が示す観点との関連を考慮した設問である。「関心・意欲・態度」については、E・キ・ケ・コで、「思考・判断」については、オ・カ・クでたずねている。

男女ともに多くの生徒が、自分なりの目標や課題をもち、準備や片付けに進んで取り組み、自分の役割を果たそうとしながら、友達と教えあったり協力し合ったりして、最後まで精一杯全力で取り組んでいることがわかった。

設問の仕方の違いから、すべての項目を比較することはできなかったが、自分なりの目標や課題をもって活動する生徒は、平成8年度高校生調査よりも増加しており、体育の学習が改善されている結果ではないかと思われる。しかし、平成18年度中学生調査と比較すると、すべての項目において、授業に対する取り組みが低下しており、生徒の発達段階に応じたきめの細かい指導をする必要がある。

全体的に、男子の取り組みが高い中で、友達と教えあったり協力し合ったりする活動や、準備や片付けに進んで取り組んだり自分の役割を果たそうとする活動では、女子の取り組みが高いことから、友達との係わり合いや人間関係については、男子よりも女子の方が重視している。

観点別の取り組み状況は、「思考・判断」の取り組みの方が「関心・意欲・態度」の取り組みよりも低いことから、適切な課題の設定や、仲間との学びあい、学習を反省する場の工夫をする必要がある。

体育の学習の好き嫌いとの関連については、好き群の取り組みの方が嫌い群よりも高く、体育の学習が好きでないと取り組み状況には、高い相関関係が

あるといえる。

また、「嫌い群」の男子は、体育の学習に対する取り組みが低いが、「嫌い群」の女子は、友達と教えあったり協力し合ったりする活動では、男子に比べて取り組みが高く、体育の学習の好き嫌い、取り組み状況には、男女差が出ている。女子の体育好きを増やすには、このような取り組みに関する意識の差をしっかりと把握する必要がある。

(2) 課題学習への取り組み

体育の学習で、個人の課題の決め方については、3学年男女ともに1位は、「先生に言われたこと」であった。平成18年度中学生調査では、男女差があり、女子は学び方が身に付いていたが、今回調査では、男女ともに教師への依存が高いことがわかった。

グループの課題の決め方では、「リーダーを中心にして話し合い、みんなで相談してみんなで決めている」が1位で、平成18年度中学生調査と同じであった。次は、「先生に言われたこと」であり、主体的にかかわっていくことができない生徒がいることもわかる。そのような生徒に対しては、教師が課題解決の手がかりを示すなどの学習支援への配慮が必要である。

課題がうまく達成できないときには、3学年男女ともに1位は、「友達に聞く」であった。次は、女子は3学年「先生に聞く」であったが、男子は2・3年生が「自分だけで頑張る」で、解決方法にも男女差が出ていた。

中高を通じて、課題学習に対しての取り組みの定着が見られる一方で、課題の設定がわからずにそのままにしたり、他人任せにしたりするなど、学び方が身につけていない生徒もあり、教師は、生徒が主体性をもって積極的に学習に取り組むことができるような指導をする必要がある。

4 体育の学習の「楽しさ」と「つまらなさ」について

(1) 楽しいと感じるとき

体育の学習が楽しいと感じたことがある生徒の割合は、男女とも約90%で、平成18年度中学生調査と同様に、多くの生徒が体育の学習を楽しんでいることがわかった。

どんな時に楽しいと感じたのかを見てみると、1年生は、男女ともに、記録が伸びたりできないことができるようになったりしたときで、運動有能感の「身体的有能さの認知」をあげている。また、2・3年生の男子は、気持ちがすっきりしたときや、思

いきり身体を動かすことができたときといった、活動の欲求が充足されたときをあげ、2・3年生の女子は、友達と仲よく一緒に学習できたときといった、運動有能感の「受容感」をあげており、学年差や男女差が出ている。

体育の学習の好き嫌いとの連関について見てみると、「好き群」の男子97%以上、女子98%以上で、ほとんどの生徒が楽しいと感じたことがある。

「好き群」が最も高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下するものは、思いきり身体を動かしたり、教えあいや協力し合うこと、競争したり勝敗を争ったりすること、練習を工夫し作戦を立てること、新しい技に挑戦したり色々なスポーツができたりしたときで、逆に「好き群」が最も低く、「どちらでもない」「嫌い群」と上昇するものは、友達と仲よく一緒に学習できたり、仲間や先生がほめてくれたり、記録が伸びたり、わからないことがわかるようになったりしたときであった。

体育の学習においては、成功経験を与え、運動有能感を高めてあげられるような取り組みが必要である。

(2) つまらないと感じるとき

体育の学習がつまらないと感じたことのある生徒は、男子1年生50.0%、2年生58.2%、3年生54.2%、女子1年生60.5%、2年生64.4%、3年生57.1%で、女子の方が高く、男子は、平成18年度中学生調査よりも増えていた。

つまらないと感じる理由は、3学年男女ともに、気持ちがすっきりせず疲れたとき、練習しても記録が伸びなかったりうまくならなかったりしたとき、運動の仕方がわからずに思うように学習できないときの順であった。これらは、楽しいと感じるときと表裏の関係にあり、運動の欲求を充足してあげるとともに、個々にあった課題や目標の設定をし、記録や技能の向上を図ることが大切である。

体育の学習の好き嫌いとの連関について見てみると、「嫌い群」では、男子93%以上、女子91%以上の生徒が、また、「好き群」の生徒でも男子44.4%、女子43.5%の生徒がつまらないと感じたことがある。

「好き群」の割合が最も高く、「どちらでもない」「嫌い群」と低下するものは、思いきり身体を動かすことができなかったとき、新しい技に挑戦できなかったり色々なスポーツができなかったりしたときで、逆に「好き群」の割合が最も低く、「どちらでもない」「嫌い群」と上昇するものは、友達から文句を言われたり先生から叱られたりしたとき、練習しても記録が伸びなかったりうまくならなかつ

たりしたとき、運動の仕方がわからずに思うように学習できないときであった。

授業では、運動の欲求を充足してあげるとともに、個々にあった課題や目標の設定をし、記録や技能の向上を図ることが大切である。

5 好きな運動種目について

高校の体育で行っている好きな運動種目は、男子は、バスケットボール・サッカー・バレーボールとソフトボールが上位3つを占め、バドミントン・テニス・卓球が続いている。女子は、バレーボール・バドミントンが上位2つを占め、バスケットボール・テニス・卓球が続いている。この結果は、平成18年度中学生調査とほぼ同様であった。

領域別に見ると、男女共通で球技が上位で、以下水泳・器械運動・陸上・体づくり(男子)・ダンス(女子)となる。

球技の人気は、小中と慣れ親しんだ種目であり、ルールや学び方を知っているということと、技能上達のどの段階においてもゲームを実施することが可能であり、また技能の発達も早いといったこと、さらに、課題解決の段階で、仲間同士で励ましあったり教えあったりすることが、比較的しやすいことなどが考えられる。

6 男女共習について

高校生になって男女共習を行ったことがある生徒は、1年生25.6%、2年生55.6%、3年生76.9%であった。平成18年度中学生調査の中学3年生で86%あった実施率が、高校1年生で1/3以下に落ち込み、高校2・3年生で増加している。

男女共習をどのように思ったかを見てみると、「楽しい」と「どちらかという楽しい」を合わせた生徒の割合は、平成18年度中学生調査から平成19年度高校生調査にかけて、増加している。

男女共習の楽しい理由を見てみると、男女とも1位は、男女一緒に仲よく楽しく活動できることで、次は、選択種目が増えることであった。続いて、男女がお互いに教え合い励まし合いをすること、男女の体力差技能差を克服することがあげられている。

楽しくない理由を見てみると、1位が男女の技能差や体力差をあげ、次に、異性に対する恥ずかしさ、危険で一緒に行うのが無理となっている。

指導の際は、このような男女差も個人差として吸収し、男女共習を通してスポーツのよさや楽しさを味わわせることができるように、場の設定やルール等の工夫が必要である。

7 安全面で心がけていること

体育の学習で、けがをしないために心がけていることは、男女ともに1位は、準備運動や整理運動を十分に行うことであった。続いて男子は、集中して取り組むこと、具合が悪いときは見学すること、場所・器具用具の安全を確認することをあげている。女子は、具合が悪いときは見学すること、集中して取り組むこと、場所・器具用具の安全を確認することとなっている。集中せずに気を抜いていると、事故やけがにつながることを生徒がしっかりと意識できていることは、とても評価できることである。

体育の学習の好き嫌いとの連関を見ると、「好き群」は、全体の傾向と変わらなかったが、「嫌い群」は、学年進行とともに、集中して取り組むことが落ちてきており、また、気にするが何もしていない生徒や、まったく気にしていない生徒が増えている。このような生徒に対しては、安全意識を高める指導を十分に行なう必要がある。

8 体育の学習以外の運動実践について

学校で休み時間や放課後に運動をしている生徒の割合は、男子1年生69.6%、2年生65.0%、3年生56.7%、女子1年生46.8%、2年生39.1%、3年生29.4%で、平成18年度中学生調査の中学2年生を境に、学年進行とともに低下しており、また男子の方が女子よりも高い。

運動をする理由は、男女ともに運動をすること自体の楽しさや、好きな運動をする喜びが1位で、以下、運動がもっとうまくなりたいといった技能の向上、友達や仲間と一緒に運動する楽しさがあげられている。

運動をしない理由を見てみると、男女ともに、他にやりたいことがあるからが1位で、以下、勉強等で時間がとれないから、運動すると疲れるからと続いている。

このような生徒には、まず運動やスポーツに興味関心を持ってもらえるような工夫が必要であり、その1つとして、体育の授業も重要な役割を持っている。さらに、体育の授業だけでなく、学校の教育活動全体の中で、運動を実践できるような取り組みを考える必要がある。

体育の学習の好き嫌い、なぜ休み時間や放課後に運動をするのかとの連関を見ると、「好き群」「嫌い群」とともに運動をする楽しさ・喜びが1位で、以下、運動の技能向上、友達との関係の中での運動する喜びとなっている。

なぜ休み時間や放課後に運動をしないのかとの連関を見ると、「好き群」は、他にやりたいことが1

位で、以下、時間がとれない、疲れるの順になっている。「嫌い群」は、嫌いでしたいと思わないが1位で、以下、時間がとれない、運動がへたなどが混在している。

「嫌い群」の生徒は、運動が苦手な生徒が多く、苦手意識を持っている。そのような意識を変えるため、まず体育に興味関心を持たせるような工夫が必要である。さらに、個々の生徒に適切な課題設定をして、体育の学習を通して運動の楽しさや喜びを体験させ、運動を実践していく習慣を身につけさせることが必要である。

9 運動部活動について

学校の運動部活動の入部率は、男子1年生74.7%、2年生66.6%、3年生59.6%、女子1年生42.3%、2年生40.0%、3年生24.4%で、多くの生徒が放課後熱心に運動部活動に取り組んでいることがわかった。

最近の傾向として、中学や高校において、部活離れが進んでいるが、今回の調査では、ある程度の高い入部率を示した。保健体育課による平成19年度県立高校（全日制課程）部活導入部率の調査においても、運動部活動入部率が調査以来最高値となっている。（全体43.3%、男子54.1%、女子32.6%）

文部科学省「平成18年度 体力・運動能力調査報告書」に、「中学校、高等学校、大学のいずれかでの運動部（クラブ）活動での経験が、その後の運動・スポーツ習慣に繋がり、生涯にわたって高い水準の体力を維持する要因の一つになっていると考えられる。」とあり、体育の学習と同様に、生涯スポーツにつながる教育の一環として運動部活動を捉えて、活性化を図る必要がある。

10 スポーツクラブについて

学校外のスポーツクラブへの加入率は、男子1年生7.9%、2年生8.7%、3年生10.4%、女子1年生6.3%、2年生6.9%、3年生5.3%であり、平成18年度中学生調査よりも減少していることがわかった。

体育の学習の好き嫌いとの連関をみると、「好き群」のほうが「嫌い群」よりも加入率が高い。

文部科学省「平成18年度 体力・運動能力調査報告書」に、「運動部やスポーツクラブへの所属と体力水準の高さとの関係は、8歳ごろから明確になり、その傾向は79歳に至るまで認められる。したがって、運動部やスポーツクラブでの活動は、生涯にわたって高い体力水準を維持するための重要な役割を果たしていることがうかがえる。」と言っている。また、少ない人数だが、スポーツクラブが、学校で運動を

しない生徒の唯一の活動場所になるといった側面もあるので、学校とスポーツクラブの連携協力といった面も、視野に入れる必要がある。

11 学校外で運動をする生徒としない生徒について

運動部活動とスポーツクラブ等のどちらにも加入していない生徒に対して、放課後や休みの日に運動やスポーツをしているかたずねたところ、「いつもしている」と「時々している」を合わせた（以下「している群」と言う。）生徒の割合は、男子1年生59.0%、2年生47.7%、3年生45.9%で、女子1年生32.6%、2年生28.9%、3年生22.8%であった。

運動やスポーツをしている理由は、運動することが好きで好きな運動ができる、運動することが楽しく気持ちがよいなどの運動自体への興味関心が上位にあった。

この生徒たちは、自主的に運動を実践している生徒であり、生涯にわたって積極的に運動に親しむことが期待できるので、運動を継続して行けるように支援が必要である。

学校で休み時間や放課後に運動をせずに、部活動やスポーツクラブにも加入せず、帰宅後や休みの日にもまったく運動をしない生徒たちは、男子1年生6.0%、2年生9.2%、3年生14.7%、女子1年生19.4%、2年生23.1%、3年生32.9%おり、男子よりも女子に多く、学年進行とともに増えていることがわかった。

平成18年度中学生調査男子は、1年生0.3%、2年生0.3%、3年生0.4%、女子1年生1.0%、2年生1.2%、3年生2.1%であり、平成19年度高校生調査の方が大きく増加していた。また、平成8年度高校生調査男子は、1年生11.4%、2年生14.3%、3年生19.5%で、女子は、1年生22.3%、2年生22.2%、3年生22.9%であり、女子の2・3年生において、平成19年度調査の方が増加していた。

なぜ運動やスポーツをしないのか理由を見てみると、他にやりたいこと、時間がないが上位であった。

このような生徒たちが、唯一運動を行なっている場合は、学校における体育の授業だけであるので、生徒たちに運動に対する興味関心をもってもらうために、体育の授業において、個々の生徒達へのきめの細かい指導をすることでがとても重要である。

12 好きな、または行きたい運動やスポーツについて

男子は、サッカー・バスケットボール・野球が上

位3つを占め、テニス・バドミントンが続いている。

平成18年度中学生調査では、全学年1位サッカー、2位野球、3位バスケットボールであった。

サッカー・野球は、Jリーグやプロ野球といったプロリーグが国内にあり、海外でプレーする日本人選手の活躍や、オリンピックやワールドカップでは、地域予選から大々的に報道されている影響が少なくないと思われる。

女子は、全学年1位がバドミントンで、バレー・テニス・スケート・バスケットボールが続いている。

平成18年度中学生調査でも、全学年1位は、バドミントンであった。このバドミントンは、どの技能レベルにおいても、それぞれに楽しむことができる種目であるということが考えられる。

このような運動場面における失敗体験や、それによって生じたマイナスの経験からくる感情を抱かせないように、生徒一人ひとりの運動やスポーツ、体育の学習に対する意識を把握し、きめ細やかな指導をする必要がある。

13 体育をどんな先生に教えてもらいたいのか、望む先生のタイプについて

生徒が理想としている教師像をたずねたところ、全体傾向としては、ユーモアがありやさしくて、明るく活発で、一人ひとりによく声をかけながら、よいところは誉め、悪いところは注意してくれて、できない人をけなしたり怒ったりしない、楽しい工夫のある授業をしてくれる先生を求めていることがわかった。

男女で分けてみると、男子は、明るく活発で、よいところを誉め、悪いところは注意してくれる先生を望み、女子は、楽しい工夫のある授業をして、一人ひとりによく声をかけ、できない人をけなしたり怒ったりしない先生を望んでいることがわかる。

体育の学習の好き嫌いとの連関についてしてみると、「好き群」は、全体傾向とほぼ同じであるが、「嫌い群」は、いくつかの違いが見られた。

「嫌い群」で、「好き群」よりも上位にあげられているものは、できない人をけなしたり怒ったりしない、できない人わからない人に最後まで教えてくれる、わけへだてなく教えてくれる、一人ひとりによく声をかけてくれるなどである。「好き群」よりも下位にあげられているものは、明るく活発、よいところは誉め悪いところは注意してくれるなどであった。

この特徴を見ると、両群の生徒たちの授業の様子が浮かんでくる。「嫌い群」の生徒は、できないときや、わからないときに、声をかけてもらえず、教えてもらえなかったり、時には友達にけなされたり、先生に怒られたりすることがあったのではないだろうか。また、先生に誉められる機会が少なく、上手な生徒を先生がひいきしているようにも感じたのかもしれない。

【まとめ】

今回の調査結果から、明らかになったことを要約すると概ね次のようになる。

平成17年度小学生調査から平成18年度中学生調査にかけて、学年進行とともに減少してきていた、運動やスポーツをすることが好きな生徒（以下「運動スポーツ好き群」と言う。）や体育の学習が好きな生徒（以下「体育好き群」と言う。）が、「運動スポーツ好き群」の減少は、中学3年生を境にして、また「体育好き群」の減少は、男子中学3年生、女子高校1年生を境にして、いずれも上昇傾向に転じ、また、平成8年度高校生調査よりも、「体育好き群」の生徒が大きく増加していることがわかった。

しかし、体育の学習への取り組み状況を見ると、平成8年度調査よりも取り組みが高くなってはいるものの、平成18年度中学生調査と比較すると、全体的に取り組みが低下していた。

体育の学習が楽しいとき、つまらないときを見てみると、平成18年度中学生調査では、各学年男女ともに、記録が伸びたりできないことができるようになったりしたときが楽しく、練習しても記録が伸びなかったりうまくならなかったりしたときにつまらなく感じていたのが、今回調査では、男子では身体を動かすことができたり気持ちやすっきりしたりしたときであった。女子では、友達と仲よく学習できたときであり、男女の差が出ている。

次に、体育の学習で人気の種目や、好きな、または行いたいスポーツを見てみると、人気の種目は球技であり、行いたいスポーツは、男子が、サッカー・野球・バスケットボールで、女子は、バドミントンであった。

体育の学習における安全に対する意識を見ると、準備運動や整理運動を十分に行い、活動場所の安全確認をし、自分の体調を把握しながら、集中して取り組む様子がうかがえる。

体育の学習以外の活動状況は、休み時間や放課後、休日に運動部活動やスポーツクラブ、その他運動やスポーツを実施している生徒が、平成18年度中学生調査よりも低下していることがわかった。逆に、体育の授業以外に、まったく運動をしていない生徒の割合は、大きく増えていた。

理想の教師像は、ユーモアのある優しい先生が1位であったが、生徒の学校体育に対する好き嫌いの意識によって、それぞれ求める教師像が違っていった。「好き群」においては、楽しい工夫のある授業をしてくれる先生、「嫌い群」では、けなしたり怒ったりしない先生をあげている。

以上の結果を見ると、体育の学習の好き嫌い、運

動スポーツの実践、体育の学習への取り組み、体育の学習以外の運動スポーツ活動への取り組み等には連関があり、「体育好き群」のほうが「体育嫌い群」よりも取り組み状況が高かった。

高等学校においては、学習指導要領の体育の目標である「明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる」ことを目指しており、生涯にわたって運動やスポーツを実践するための資質や能力、健康で安全な生活を営む実践力及びたくましい心身を育てることが求められている。そのためには、体育好きや運動スポーツ好きを増やし、体育嫌いや運動スポーツ嫌いを減らしていくことが課題となる。

については、次の5点が考えられる。

1 生徒一人ひとりの意識や実態を把握した指導

高校生は、学習経験の差が大きい上に、興味関心が多様化しており、体力、運動能力、意欲の個人差が大変大きい。ため、生徒一人ひとりに目を向けたきめの細かい指導を行う必要がある。具体的には、次の4つが挙げられる。

- (1) 体格や体力差に応じた指導
- (2) 能力差に応じた指導
- (3) 男女差に応じた指導
- (4) 体育の学習に対する意識に応じた指導

2 技能の習得と向上を保障する

努力をして繰り返し練習をした結果、記録が伸びたり、できなかった事ができるようになったりという体験をしたときに生徒は楽しいと感じており、そのような経験を数多くさせることで、自分はこの自信（身体的有能さの認知）や、努力したり練習したりすればできるようになるという自信（統制感）を持たせることができるようになる。

3 良好な人間関係を育む

体育においては、個人的な運動や集団的な運動があるが、いずれの運動においても、教え合い・学び合い・励まし合いの場を設定することにより、一人ひとりのコミュニケーション能力が高まるとともに、信頼に基づくよりよい人間関係が築かれ、一緒に活動する楽しさにつながっていく。

4 校種間の連携・協力を行う

生徒の発育・発達の特長や異校種の教育内容を知ることが、学習過程を作成したり、指導の内容や方法を考えたりする上での大きな資料となる。校種間での学校見学や、研究授業、情報交換の機会を積極的に設ける必要がある。

5 地域との連携・協力を行う

体育の学習が、生徒の運動スポーツの好き嫌いに大きく影響することは明らかだが、体育の授業だけで、運動やスポーツが嫌いな生徒を減らしていくことは難しい。そこで、学校の教育活動における取り組みに加え、家庭・生徒を取り巻く地域社会がそれぞれの役割を果たしながら、連携・協力し、いわゆる三間（時間・空間・仲間）を保障するための支援も大切なことである。

最後に、本調査にご協力をいただいた県内各地区の高等学校、関係機関、そして研究アドバイザーの横浜国立大学教育人間科学部の落合優教授、プログラマーの村瀬浩一氏にこの場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

【参考文献】

- 1) 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」東山書房(1999)
- 2) 文部科学省「中学校学習指導要領解説 保健体育編」東山書房(1998)
- 3) 文部科学省「小学校学習指導要領解説 保健体育編」東山書房(1988)
- 4) 文部科学省「平成18年度体力・運動能力調査報告書」(2007)
- 5) 神奈川県立体育センター「平成8年度指導研究部調査研究室事業報告書」(1996)
- 6) 神奈川県立体育センター「体育センターレポート第23号」(1996)
- 7) 神奈川県立体育センター「体育センターレポート第24号」(1997)
- 8) 神奈川県立体育センター「体育センターレポート第25号」(1998)
- 9) ぎょうせい「中等教育資料」(2007・7月号)
- 10) 東洋館出版社「初等教育資料」(2007・8月号)
- 11) 東洋館出版社「初等教育資料」(2007・10月号)